2 藤沢市教育振興基本計画の進捗状況

事 教育部 教育指導課	変更(ある場合) これまで年次計画に記載のあった「研究権 進校発表会(3校)」は予算費目が異なるこ とから記載を外すこととした。(H28)		<u>†</u>			次年度 継続	評価の理由			学習指導要領の趣旨を踏まえ、今後においても 「学校教育ふじさわピジョン・の理念に沿った教育活	元 ご ご ご	
況報告書 	変更(ある場 計画に記載で 3枚) JIよ予算 外すこととした	П	1			事 B	平価の理由	負り行われた。	± 4 %	する路まれ、小いでは、	事業の継続を	H28年度事業計画 だ援
			<u> </u>			H27年度の 総合評価	ilida	執行が計画通	4	音楽できる 音楽にさわだ。	まするために事	H28年度事業計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
反興基本 計 業	7実態を踏ま 課程を編成 日標の具現 できる。 					課程推進の Fった。			197	•		
沢市教育排	等校や地域の 特色ある教育 った学校教育 を行うことがて との支援を行った学校教育	業務委託事業	1	11,832		:実施 業研究や教育 :具の整備を行	果·成果)	進のために必	究実践を小学 施した。 導を小学校74	学校3年生へ	中学生の希望 た。 人)を対象に3	新については に向けた、学
平成27年度 藤 事業名 数章	事業目的 、各字板において、 浮まとうの理念に治 どまとうの理念に治 事業内容 りある教育の実践 りある教育の実践 ジョン」の理念に治	●学校運営推進業務委託事業 	実施	11,998	11,773	市立55校(全校)で 指導主事による授う でのに必要な教材教	歩状況(今年度の効	施 研究や教育課程推 -	Tつだ。 捉えた先進的な研: 別支援学校1校で実 物診察及び飼育指	5わ」を作成し、全小	び、小学校6年生と5ム学習投影を実施した中国投票を実施に1年の児童(計3,222間またった。	#かと11・21-0 でいる。 7につら、での教科化 生進が必要である。
平成. 事業コード 事業名 111 事業名	事業目的 ・学習指導要領に削り、各学校において、学校や地域の実態を踏ま オた。 イン・大会の表す言課程実施のため、特色ある教育課程を編成 オる。 ・「学校教育 ふじさわビジョン」の理念に沿った学校教育目標の具現 化を図ることにより、実りある教育の実践を行うことができる。 事業内容 ・「学校教育 ふじさわビジョン」の理念に沿った学校教育目標の具現 ・「学校教育 ふじさわビジョン」の理念に沿った学校教育目標の具現 化への支援を行う。			予算額(千円)	決算額(千円) 執行率(%)	年次ごとの取得計・市立55校(全校)で実施画(年次ごとの取得計・市立55校(全校)で実施画(年次ごとの目標・指導主事による授業研究や教育課程推進の値)に対するH27年・ために必要な教材教具の整備を行った。	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)	・市立55校(全校)で実施 ・指導主事による授業研究や教育課程推進のために必要	/4教付教具/0益偏を行う/2。 /学校の特色や課題を捉え上先進的な研究実践を小学校 /1校、中学校/校、特別支援学校/校で実施/た。 ·獣医師による飼育動物診察及び飼育指導を小学校7校7	実施した。 ・社会科資料集「ふじさわ」を作成し、全小学校3年生へ配	付した。 ・小学校4年生全員及び、小学校6年生と中学生の希望者 を対象にプラネタリウム学習投影を実施した。 ・各小学校の一つの学年の児童(計3,222人)を対象に新 ・7・1 e. 水粧命の利田浦町を行った	エアコバ床品のイボー 11 フェットが近上プラネタリウムへの補助については一部の学年に限られている。 ・道徳や小学校外国語についての教科化に向けた、学における授業研究の推進が必要である。

		H31年度	1		次年度 維続	活用方法に関し ある。 情報を共有した あるため、担当者	今年度同様とす り、得られた情 ざ情報を共有した ちるため、担当者	H28年度事業計画 ・FLTの派遣(小・中学校) ・ 国際理解協力員の派遣(小・特別支援学校) ・小学校外国話指導員の派遣(小・特別支援学校) ・ 国際教育指導員の派遣(小・中・特別支援学校) ・ 小学校外国語活動担当者会の実施(小・中校) ・ 中学校国語活動担当者会の実施(小・学校) ・ 中学校国語活動担当者会の実施(小・学校) ・ 中学校国語活動担当者会の実施(中学校) ・ 中学校国語活動担当者会の実施(中学校) ・ 中学校国語諸企の実施(小・中・特別支援学校希) ・ 理者)
		130年度	1		型 B	価の理由 概ね良いが、 記直す必要が、 小・中学校で 5場が必要では 要がある。	(後の)万回 に関しては、 密に連絡を取 法を探る。 ハ・中学校で は場が必要でる	年度事業計画 校) (八・特別) (八・特別) (イ・特別) (イ・特別) 実施(イ・特別) 当者会の実計 当者会の実計 語表の実計
			1		H27年度の 総合評価	評 電に関しては 中学校ともに 育に関しては、 ちまえたりする 方を考える必	4 幾の活用方法 蜂の市町とも。 り効果的な方 育に関しては、 を考えたりする。	H28年度事業計画 -FLTの派遣(小・中学校) ・国際理解協力員の派遣(小・特別支援学校) ・小学校外国語活動支援員の派遣(小・特) ・国本語指導自の派遣(小・中学校) ・国際教育担当者会の実施(小・中学校) ・小学校外国語活動担当者会の実施(小・中学校) ・中学校国際教育・外国語教育担当者会の実施(小学校) ・中学校国際教育・外国語教育担当者会の実施(小学校) ・「草校」
生徒の育	回語 や異 の授業を 童生徒に (小・中・	H29 5援学校) 小学校) 支援学校)			で級へ各2に。 (温・ 教育担当 容が薄い。			· 旧工师(0)3 · 田鄉爾爾· 日本韓爾田· 日本韓國中 · 日本韓國中 · 田鄉鄉郡 · 一日縣鄉鄉郡 · 一日本韓國 · 古本韓國 · 古本韓國 · 古本韓國 · 古本韓國 · 古本 · 古
ででの児里 を派遣し、小学材の授業を支援す	1員を派遣し、外回 ~4・特) 学校外国語活動 学校外国籍活動 必要な外国籍児 適応を支援する。(高配を支援する。(H28年度 H28年e H2	79,145		沙派遣日数3,040日一小4と特別支援等学校は各1時間派遣学校は各1時間派遣支援員は220時間派替時間配置。は、中学校は、英語は、中学校は、英語が、小学校に、大部様には、大学校には、大学校には、大学校に比べ内、	の補助や、児童 た。 当者会で周知を 活参表るだけでな		手意識がまだ強 身が学校で伝達 りが学校教員が中 するだけでなく、 がある。 を低くする手だて
. つ C 物事を考え、 計動の指導の充実 事業内容 指導講師 (F L T) 校外国語 (英語))に国際理解協力 実を図る。(小1・ 援員を派遣し、小 の要請) 、、日本語指導の 、、日本語指導の 、学校生活への道	H27年度 ●FLTの派遣(小 ●国際理解協力員 ●小学校外国語: ●日本語指導員の	実施 79,423	78,893 99.3	LTの小中学校への 際理解協力員小1 間派遣、特別支援、 学校外国語活動5 本語指導員4,343 際教育担当者会に 会と同時に行うたが	、担任への授業 いち支援ができ 引きを再確認し、担 では、単に日本語 るテゲキナもの当	しとなった。	照
ルく国际が4を投ずに立た 外国語教育・外国語活 業務委託により外国語 生動(5・6年)及び中学り	祭理解を深めるためであるない。 に触れる体験の充学校外国語活動支 する。(小学校からするで、)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	kごとの取組計画 次ごとの目標値)	$\overline{\mathbb{H}}$	(千円)	rC Cごとの取組計・原 手次ごとの目標・ロー こ対するH27年・1 要末の成果・16	の配置を適切に行いるの学校生活に表しているの学校生活に表しての活用方法を業実た。 たっぱん おおおり はいい はいいい はいい はいいい はいいい はまおり はいいい は国につながいのあ	などを解決する一切ない。	
コン・サンター ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・	が、国際はできれまれてようとの手をつれて、リカンとものとまたにの目成りを開教育・外国語活動の指導の充実・外国語教育・外国語指導議師(FLT)を派遣し、小学校外国語・業務委託により外国語指導議師(FLT)を派遣し、小学校外国語・活動(5・6年)及び中学校外国語(英語)の授業を支援する。(小・中)	7. 歌文であた皇上にひ月 必派遣に、小学校外国語 の授業を支援する。(小・ 員を派遣し、外国語や異 4. 特) 学校外国語活動の授業を 必要な外国籍活動の授業を 必要な外国籍視覚生徒に 16. 6. 7. 10. 中・ 調整・研修等を行う。	ルトロルは19.02年により、日本の主人の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の	### ### ### ### ### #################	######################################	(活動の指導の充実 事業内容 事業内容 事業内容 事業内容 (小・ 学校外国語 事業内容 (小・ 学校外国語 (英語)の授業を支援する。(小・ - 6の要請) (小・ - 4年) (小・	ルン国際が19年20年31年21年21年21年21年21年21年21年21年21年21年21年21年21	活動の指導の充実 事業内容 事業内容

事業コード 事業名 113/214/		学校ICT機器整備事業(情報教育)	(担当部 由北韓	数	教育部学坛教育企画理
5.0147 事業目的 数育情報機器の活用による情報教育(情報モラル教育、パソコン技能の習得等)の推進	事業目的:よる情報教育(情	報モラル教育、パ		15 当時 (仮称)教育情報 (年次ごとの取	ナス状 変更(ある場合 情報機器整備3 化推進計画に 組計画に「情報	1戸312
事業内容 学校における情報モラル教育やパンコン技能の習得が求められていることに伴い、藤沢市教育情報化推進計画に基づき、教育情報環境及び機器の整備を図るとともに、児童生徒の学習の多くの場面において教育情報機器を活用した学習の充実を図る。	事業内容 ル教育やパンコンオ教育情報化推進 教育情報化推進 図るとともに、児島 器を活用した学習	支能の習得が求め 計画に基づき、教育 直生徒の学習の多 の充実を図る。		の授業支援・6	F修对応」を通。	加した。(H28)
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 ●教育情報機器 ●小・特別支援学 ●中学校情報教 ●小・中・特別支援 ●小・中・特別支援 ●小・中・特別支援	H27年度 H28年度 H29年度 教育情報機器利用核討委員会(年1回) 小·特別支援学校情報教育担当者会(年2回) 小·中·特別支援学校教員指導者研修 情報モラル教育の授業支援·研修対応	H294 年4回) 替余(年2 回) 野参		H30年度	H31年度
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)	実施 386,998 383,076	376,811	1		1	1
ボバルキペの 年次ごとの取組計 画(年次ごとの取組計 各会議を予定どおり開催した。 画(本文ごとの目標 研修については、年間5回 参加者90名。 値)に対する447年 情報モラルについては、年間30日 のベバロ 度来のホ里	会議を予定どおり 修については、年 報モラルについて	開催した。 間5回 参加者90名 は、年間30日 のへ	7710.	H27年度の 総合評価	上 即 B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・一藤沢市教育情報化推進計画1を策定に、平成27年度2 ・1号後の教育の信報化に対する基本計画が策定されたことにより、より計画的15情報教育の推進を図ることができるようになった。 ・各種金銭を予定型明開催、情報教育の推進を図ることができるようになった。	状況(今年度の效 進計画」を策定し された。 こ対する基本計画 情報教育の推進を		・予定通い ・研修の ・情報モラ	計 会議・研修を が加着が、各校 ル教育に取り	評価の理由 ・予定通り会議・研修を開催できた。 ・研修の参加者が、各校1名以上確保できた。 ・情報モラル教育に取り組む学校が増えた。	できた。 えた。
米町でのようなことが、そのできがより授業での活用イメー・研修の内容を工夫し、研修者がより授業での活用イメージを持ちやすくなる構成とした。 ・情報モラル教育に関する研修会の開催や、授業支援等に取り組んだ。	・ 研修者がより授業 だした。 でる研修会の開催 でる研修会の開催		·情報教育 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	着に限らず、IC 向上に資する 8業で活用した 形修の充実と 3	Tを活かずこと 取組を計画してくなる状況をイ ではの促進の記 とはのに進の記	・情報教育に限らず、iOTを活かすことで、様々な教育の質の向上に資する取組を計画していく。・教員が授業で活用したくなる状況を作りだしていくために、研修の充実と整備の促進の両面で取り組んでいく。
課題・問題点・い一部を内容については、より授業で活用しやすい実践的な「人」の存金とすることで、参加人数を増やし、授業での活用がよりに発達してきたの活用がよりに発展でした。	課題・問題点 より授業で活用し 人数を増やし、授 改善に努める。 では、学校によっ がない学校への支	やすい実践的な 業での活用がよ での活用がよ で取組の差があ 援を進める必要	・各種会議を計 知及び検討をE く。 ・情報モラル教 り揺めるように 組を推進する。	H28年 農を計画通り開 討を図ってい、 で活用しやす にうに、情報に する。	H28年度事業計画・各種会議を計画通り開催し、情報教育に関する周 ・AD及検討を図っていく、 より授業で活用しやすい内容の研修に改善していく。 ・情報モラル教育が、全ての市立学校で積極的に取組を推進する。	H28年度事業計画 ・各種会議を計画通り開催し、情報教育に関する周 知及び検討を図っていく。 より授業で活用しやすい内容の研修に改善してい 、。 ・情報モラル教育が、全ての市立学校で積極的に取 組を推進する。

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書

事 教員の資質と教育の質の向上	事業目的			7	亦 囯 (
教員の貞真と教育の頃			Ŧ	m.	1 (2) (2) X X	,
	구도 					
事業内容 ・各学校校内研究会、研究推進校教育研究会、市小中教育研究会 における教育研究の充実を図るための支援を行う。 ・藤沢市教職員人材育成基本方針に基づき、新規採用教員及び教職1、2、3、4、12年経験者の研修会を開催する。	事業内容 研究推進校教育研 た実を図るための支 が基本方針に基プ 登録者の研修会を得	究会、市小中教育 援を行う。 き、新規採用教員 引催する。	研究会及び教			
年次ごとの取組計画(年次ごとの明組計画)	H27年度 ●教育研究委託 ●教育研究権権移 ●経験者研修	H28年度 陸託(小6校·中	H29年度 3校)		H30年度	H31年度
	実施	1	1		1	1
予算額(千円)	17,993	19,129				
決算額(千円)	17,987					
数/14~(%) 93.9 44/14~(%)	93.9 泰沢市教職員人材章 86年巻 1- ホーム	 放充宝地 セ		H27年度の ※今評価	計 型 日	次年度
度末の成果 H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・・各学校、各研究会において年間計画に沿って研究を実施した。地たた。・研究を実施した。・研究を実施した。・研究を実施なって研究を実施の表表の表現を	渉状況(今年度の効 おいて年間計画に) :事が訪問し、授業		・各研究会、 教育の質のF	評価 計修会を計 可上に努め		
の推進を図った。 ・勿任者研修4日間、1年経験者研修3日間、2年経験者研 修1日、3年経験者研修2日、4年経験者研修1日を実施し、 各研修の目的を達成することができた。 ・20年経験者研修12番カリ、新規に、デドルリーダー研修 (12年経験者研修12番カリ、新規に、デドルリーダー研修 (12年経験者研修12番カリ、新規に、平型教員の育成を図っ た。 ・小・国際教育担当者会、校内研究推進担当者会、小学校 児童指導担当者会、校内研究推進担当者会、小学校 児童指導担当者会、校内研究推進担当者会、が保ル甲 課権担当者会、いじめ防止担当者会、支持事故防止担当 会、人権・環境・平和担当者会、食育担当者会、対保小中 連携担当者会、いじめ防止担当者会、学校事故防止担当 者会など各種担当者会において研修を行った。	年経験者研修3日間 82日 4 年経験者研 7名ことができた。 7わり、新規に、ミバ 日実施し、中堅教 会、校内研究推進担 学校安全担当者会、 日当者会、食育担当 の止担当者会、学		藤沢市立学 経験の法に 終める。 後ので、 をいて、 かに、 かに、 ので、 ので、	- 4 	今後の方向・勝沢市立学校教職員人材育成基本方針に基づき、経験の浅い職員の耐修な実上中空職員の育成推進を図る。特に、ミドルリーダー研修(12年経験者研修)については、学校運営への参画意識を高めるために、内容の充実と検討を行う。	万針に基づき 河の育成権に 年経験者研 (職を高めるけ
課題・問題点 ・授業時間数増や業務多忙に伴い、研修時間の確保が課題である。引き続き研修の方法等、工夫改善を図る必要がある。・新規に実施したミドルリーダー研修(12年経験者研修)について「は、28年度以降、対象者が急増するので、研修内容も含め、研修会の持ち方を検討する必要がある。	課題・問題点 5多代に伴い、研修 修の方法等、工夫の リーダー研修 (124 、対象者が通増す た 対象者が通増す		· 各学校校内 小中学校教行 究を行う。 · 初任者研修 を開催する。 · 各担当者会	H28年 明究会、可 可究会、研 及び教職1 等で研修者	H28年度事業計画 ・各学校校内研究会、研究推進校教育研究会、市立 小中学校教育研究会等において教育研究事業の研究を持てう。 初化者研修及び教職1,2,34,12年経験者の研修会 を開催する。 ・各担当者会等で研修を行い意識の向上に努める。	等研究会、市研究事業の3 研究事業の3 検者の研修会 向上に努める

100(010) 事業名				判	茶	教育部	_
7710177	2 牧司人にも	教育文化センター研究研修事業		担当課	华校教	学校教育企画課	1
李	事業目的	1 女後のお話みが株	H		変更(ある場合	(ДП	H
教職員の負負能力や指導力の向上を目指し、 育活動の充実を図る。 	帯刀の向上を目指	こ、ラ伎の指導	A ろ ろ				
事業内容 本市の教育及びこれに係る文化の振興に関する専門的、技術的事 店の歴史部本を行う	事業内容 系る文化の振興に	関する専門的、技	(術的事				
項の切れ調宜で行う。 藤沢市教職員人材育成。 研修講座及び授業研究・	基本方針に基づき セミナー等を企画・	、教育関係職員 実施する。	としない				
(研究部会の開催・研究: 提供)	紀要の発刊・研修	講座の開催・教育	情報の				
	H27年度 無沿主新職員	H28年度	H29年度 1 単くご 4 田	H. H.	10年度 事業	H31年度	TI
		(何 月 成 奉 本 万 到	一一一一一一一一	三	光	ı	
十次しての3次配司 目 (年次ごとの目標値)	参加者数	1	1	L	1	2,300人以上	
	約2,300人 滿足度 亚拉4㎡	1	1		1	平均4以上	
予算額(千円)	39.259	37.757					
決算額(千円)	38,706						
執行率(%)	98.6				-	1	
年次ごとの取組計・参画(年かごとの正確)・日	加者総数3,326人的主义	i.	761	一 中 サイクロ	計	次年度	
回、十次にこの可能 面 (単)に対するH27年 ・ 研	· 切死即去;6 因疾꺤 • 研修講座84本開催 • 研究紀要 • 教育情報誌祭刊	禁 禁	(3) (4)	総合評価	ω	希迷糸売	
H27年度 淮栎;	進株状況(今年度の効果・成果)			1 1 1 1	り 単甲		T
·研究部会(全110回)			・本年度の事業	内容は概ね	滞りなく進ん。	źη,	
教育課題研究部会 12回 国語科研究部会 13回	12回 研究紀要発刊 回		教育の今日的な課題に対応した研修講座の充実を図った ことにより、教職員の専門性を高め、視野を広げることが	課題に対し	むした研修講が まを高め、視里	室の充実を図っ チを広げることが	4
社会科研究部会 13回 研究紀 算数·数学科研究部会 12回	13回 研究紀要発刊 2部会 12回		できた。 各 部会の研究を通し、研究員の指導力の向上につながつ	通し、研究	員の指導力の	り向上につなが	0
理科研究部会 12回 研究紀要発刊 外国語活動·英語科研究部会 11回	吃給要発刊 部余 11回		£.,	今	きの方向		1
防災と自然研究部会 12回情報教育研究部会 14回 研究教育研究部会 14回 研究教育 25回	回 1 研究紀要発刊 11回 研究約曹参刊		・教育の今日的な課題への対応や、学校現場のニーズにこたえるため、教育委員会各課等と連携を深め	りな課題~ :め、教育	、の対応や、 委員会各課	学校現場の二 等と連携を深め	٦٢
			ر در °				
一般が修 / 講座 - 専門が修 96講座 ・土曜研修講座 11回 ・第11回学習意識調査の実施、集計・分析	析修 00誦座 ミ施、集計・分析						
・教育情報の提供 「ふじさわ教育」編集員会	30						
ふしさわ教員 第168号、169号、1/0号発刊 ・教育文化講演会	1695、1/05宪刊			1000	里下条甲中		
脳がやる気をだす錯覚の心理学 日本女子大学・教授 竹内 龍人月 #17 = #200 12 12 13 13 13 13 13 13	D心理学」 カ 龍人氏 8/5	_	148年後日的課題について検討を行い、その現状や実工の本語を打工し、非常について検討を行い、その現状や実工に対し、第二年を記されていません。	HZ84 課題につい 調覧する	及事来計画 て検討を行い	、その現状や	Full (
・勝沢巾総合かかく展運営委員会 3回 開催には 十件 112年 4年 112年 4年 112年 4年 112年 4年 112年 4日	開催10/15~10/20 入賞者表彰式	10/	弱か調質サ光し ・年修講座では、 ナ	、課題や別で業人へ	らかい。 に重点を置い	た内容を増や	
児里·生徒研究果録(第33集)発刊 ·研究報告会 開催 3/28	3集)発刊		9。 - 日々の教育実	践に必要な	教職専門者と	しての甲修を作	1
課題・問題点・今日的な教育課題や現場のニーズの把握に努め、 る研究・研修の充実を図るとともに、研究成果のより	はははははいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	さ い 同	い、教師の力量を高めて、教育の関的に上を図る。また研 元…修の一環として、学校がらの要望により、学校支援を行う ど ととして、経験の少ない、教職員を対象に、実践的指導力を 直かストルの主辞的な行品体の ネキモをのえ	か画めた。 ・手核から() う少ない数 騒発な音を	数音の質的同 り要望により、 戦員を対象に、 ななのか事。	上を図る。また4 学校支援を行う 実践的指導力 を図え	サ う を
の活用も検討してしていく。 ・ふじさわ教育や教育文化講演会の内容の更なる充実・ ・、できわ教育や教育文化講演会の内容の更なる充実し、 ・、藤沢市総合かが〈展のより効果的な運営に向けて、	く。 化講演会の内容0 のより効果的な運	-	同びらんがまます。 手校の教職員、自上や組織的な・経験的な・経験の活動を	大村育成の大村育成の、学校運営の課金を	別報を支援しては、大学の構築等を支援し、大学の構造を支援して、大学の対象を対して、大学の対象を対して、大学を対している。	CIPTの、 、個々の指導7 援する。 修講座の開催が	ъ.
討する。 ・研究活動が部会ごとに	とどまらず、9つの	研究部会が、互	増やす。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	教材、調査	の結果等を広	(木内外の教職	
いの課題を共有したり、授業セミナーに参加したりし合うな ど、相互に研究を深める。	受業セミナーに参) ゜	加したりし合うな	員等に発信する。 ・事業内容について、教育委員会各課等との連携を深め 2	。 ハて、教育	奏員会各課等	との連携を深め	

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 事業名 教育指導事務事業 日担当部 日前画師・表講訪問 田当部 物育品の計画・表講訪問 知当課 物

事業名

事業目的 ・指導主事の学校訪問により、学校の教育力や教員の指導技術・ 指導力の向上を図る。 ・学校が抱える諸課題について、支援を図り、学校とともに諸課題	事業目的 こより、学校の教育	育力や教員の指導] F年度、3年	変更(ある場合) 昨年度、3年計画で全校を訪問する最終 年度で本ったため、新一時間計画を並成3	合) を訪問する最終
・指導工事の子校訪問指導力の向上を図る。・学校が抱える諸課題にの解決を図る。の解決を図る。	ニニより、平校の教師	ゴカヤ教員の指導		十万、以十二	計画で用校がず 単一帯	と 記しゅ 化 肥 教
	について、支援を図	1り、学校とともに計		度であった F度まで立案	+1g とめンにため、利にも別 1年度まで立案した。(H28)	間計画を平成の
事業内容 ・学校教育の円滑な運営のため学校教育指導計画を作成し、指導 主事による教育指導と学校問題解決支援員による学校支援を行う。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業内容 宮のため学校教育 学校問題解決支援 訪問と要請訪問を	指導計画を作成じ 負による学校支援 デラ。	、指導 5を行			
	H27年度 ●計画訪問	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	小学校 12校 中特学校 7校 ●学校問題解決	小学校 12校 小学校 12校 小学校 13校 小学校 1年 中特学校 7校 中学校 6校 中学校 6校 中・特別支援 ●学校問題解決支援員、いじめ防止対策SCの学校訪問(適宜)	小学校 13校 中学校 6校 L対策SCの学	校 小学 5 中·特 学校訪問(3	9.校 校7.校	小学校 12校 中学校 7校
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(0%)	実施 13,613 13,040 05.8	13,443	1		1	1
#M11年/初) 年次ごとの取組計 学校の教育力・教員の指導力の向上が図ら 画(年次ごとの目標 れた。 値)に対するH27年 学校が抱える諸課題について、学校とともに 度末の成果 効果的な解決が図られた。	 学校の教育力・教員 いた。 学校が抱える諸課! 学校が抱える諸課!	 の指導力の向上; 週について、学校と れた。		H27年度の 総合評価	型 田 田	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・指導主事による計画訪問の実施(小学校12校 中学校6校 特別支援学校1校) ・学校からの要請に基づく訪問の実施(小・中・特別支援学校 適宜) ・指導主事による学校訪問の実施(小・中・特別支援学校 適宜)	参状況(今年度の効 訪問の実施 (小学科) (大訪問の実施 (小 がま問の実施 (小・ 訪問の実施 (小・中		・学校問題解決支めったが、対応すめったが、対応す間が増加し、個々難しく個々難になっている。	評 な決支援員に お応するケー 、個々のケー いる。	断の理由の対応は非常スの複雑化・スの複雑化-スに丁寧に	評価の理由・学校問題解決支援員の対応は非常に効果的ではあったが、対応するケースの複雑化により、対応時間が増加し、個々のケースに丁寧に対応することが難しなっている。
全校) ・学校問題解決支援員が保護者相談や学校が抱える諸問題に対応し、学校とともに効果的な解決を図った。	が保護者相談や学らに効果的な解決を		- 各学校にま ともに、初期 特に学校問 を訪問し、支	今(Sいては、諸 対応を丁寧 国解決支援 援を行って	今後の方向 、諸問題の米然 丁寧に行う必要 を援員が指導主 っていく。	今後の方向・各学校においては、諸問題の未然防止に努めるとともに、初期対応を丁寧に行う必要があることから、特に学校問題解決支援員が指導主事とともに学校を訪問し、支援を行っていく。
課題・問題点 ・問題発生時における学校の初期対応。	謀題・問題点 や、対応アースの報 学校の初期対応。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	計画訪問 小学校12校、 安請訪問 適宜 適宜 20校程度	H28年度 	H28年度事業計画 計画訪問 小学校12校、中学校7校 受請訪問 適商 30校程度 20校程度	

事業名 人権・環境・平和教育関係事業 担当部 教育指導課 和当課 教育指導課	変更(ある	事業内容 児童生徒及び教職員を対象にして、人権教育・環境教育・平和教育 の啓発と研修を行う。	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 H31年度	大	567 100.0	年次ごとの取組計 評価 次年度 評価 次年度 画 (年次ごとの取組計 全児童生徒に実施し、人権・環境・平和につい H27年度の (他)に対するH27年 ての意識の啓発を行った。 総統 総合評価 B 継続 度未の攻果	H27年度 進捗状況/今年度の効果・成果) ・人権・環境・平和教育担当者会を2回実施し、その中で、計画通りの事業を行うことができた。人権担当者会環境教育については、出前授業、モビリティ・マネジメント を通して人権意識を高めることができた。教育の紹介を行った。また、人権教育についてが、体験型アクティビティを通して、担当者がファシリテーターとなれる	トラ文族した。 ・セクシャルマイソリティに関する講演会を行った。 ・セクハン防止のリーフレットの配付 (55校) ・子ともの権利条約啓発リーフレットの配付 (55校) ・子ャレンジ「かわせみ」実践状況の報告 (55校) ・ナイを教育移動教室を実施した(3校 のペ4回) ・上記の取組を通して、人権教育・環境教育等の推進を図っ といるよう書式等の検討を引き続き行う。	128年度事業計画 ・入権・環境・平和教育担当者会の実施(2回) ・セクハラ防止のリーフレットの配付(55校) ・セクハラ防止のリーフレットの配付(55校) ・大権・環境・平和の研修により、担当者に意識の啓発を ・大権教室移動教室の実施(4校) がたちった。 等採用職員も多いため、今後も一定期間、研修については継続して行う必要がある。
事業コード 事業 141	人権・環境・平和につい 育成を図る。	児童生徒及び教職員? の啓発と研修を行う。	年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計画	予算額(千円)	決算額(千円) 執行率(%)	年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 全値)に対するH27年 で 度末の成果	H27年度 進 ・人権・環境・平和教育 環境教育については、 教育の紹介を行った。 アクティビティを通して、	よつ女様した。 ・セケン・レスイノリテ・セケン・ライン・ロン・ロン・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・	・人権・環境・平和の研 おこなった。新採用職 修については雑続して

 平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書事業名

 事業名
 担当部 書類
 事業コード 142

					끄크床	ĸ	3X FI	狄月狙等床
事業目的		事業目的				揪	更(ある場合	<u>्</u>
市内小・中・特別支担	瀬 李	!児童生徒の健	全育成を図る。		平成274 め、児童 校から12	羊度は 支援担 2校に3	、県の追加暦 当教諭配置 芝更。	平成27年度は、県の追加配当があったため、児童支援担当教諭配置の試行校を11校から12校に変更。
事業内容 ・学校、保護者、警察、各種関係団体の連携協力をすすめ、児童生 ・住指導上の情報交換や対応についての検討協議を行う。 ・いじめ、不登校等の児童生徒指導上の諸問題については、上記 関係機関との連携を深め、研修等を通じ相談機能の充実を図ることにより、未然防止・早期を現・早期を現・早期は適に一努める。 ・小学校に児童支援担当教諭を配置し、児童支援・指導体制の構築と充実を図る。	8、各集 の児童 い児童 に いる に いる 、 世期多	事業内容事業内容重関係団体の選派ローン・スの対策についての対性徒指導上の同様等を通じ、研修等を通じ、発見・早期指導を設定を見いる。	関携協力をすすめ、 強計協議を行う。 諸問題については 相談機能の充実を に努める。 Ri童支援・指導体制		平成28年度 予定の11核: 正した。(H28)	≠ 度は 1 校か: H28)	ででに 対 で 1 9 核 / で 1 9 k を	平成28年度は、さらに拡充させるため当初 予定の11校から、19校へと配置校数を修 正した。(H28)
		H27年度 ●担当者会議	H28年度	H29年度		윋	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画	•	実施サポート会議(実施 → → + + + + + + + + + + + + + + + + +			ш	1	1
(年次ごとの目標値)	_	実施 → → → → → → → → → → → → → → → → → →	教諭の配置	Ľ			1	1
		12校で試行 (県加配校含む)	19校に配置 (県加配校含む)	23校に配置 (県加配校含む)	-配置 校含む)	35杉(県加)	35校に配置 (県加配校含む)	
予算額(千円) 法等額(イ田)	\vdash	233	233					
次昇徴(十円) 執行率(%)	+	46.8						
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 児童支援担当教諭については、H27年度は、 値)に対するH27年 12校で試行。 度末の成果	児童 12校 ⁻	支援担当教諭(で試行。	こついては、H27年	度は、	H27年度の 総合評価	の 単	計 A	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・児童生徒指導対策支援会議を開催した。(1回) ・支援サポート会議を開催した。(中学校2校で合同開催1 回) ・児童生徒指導の手引き(改訂版)」を新規採用及び市外からの転任採用教職員に配付した。	<u>能</u> 排状 支援3 を開催 手引き は員に	、況(今年度の交 会議を開催した した。(中学校2 (改訂版)」を新 配付した。	5集・成果) 。(1回) (校で合同開催1 機探用及び市外	・いじめ、 発見、早 ・「児童生 で市外か	暴力行為期対応を開対応を保持環境である。	部、不 協図 の手引に 関係 の 手引に 対 手引に 本田 素	の理由 ・校等の問題 ・報題解決にう ・を(改訂版)」 を職員に配付	評価の理由・いじめ、暴力行為、不登校等の問題に対して、早期発表、不登校等の問題に対して、早期発表、早期対応を図り、課題解決に努めた。・「児童生徒指導の手引き(改訂版)」を新規採用及び市外からの転任採用教職員に配付した。
・児童支援担当教諭配置校を12校で試行。協議会を7回・ 研修会を5回開催し情報交換や危機管理などの研修を 行った。特に、保護者対応については外部講師を招聘し研 修を実施するなどした。	記録を を対数の でなる でなる	校を12校で試行換や危機管理:については外!	。協議会を7回・などの研修を などの研修を 部講師を招聘し研	今後の方 ・児童生徒の健全育成を図り、 ・児童女提出が減少に努める。 ・児童女援出場前の配置を より、全市的に小学校における 力を強化し、児童一人ひとりのしたきの細かな教育を推進す	走の健全・数の減少 ・数の減少 ・数の減少 ・数にい。 をいこい。 をあった。	か かに残る が いに数を で が が で で が が に が が に が に が に が に が が に が で が で	にの方向 図り、いじめ かる。 に置をさらに注 はけるチーム とりの教育的 進する。	今後の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
課題のある児童生徒の家庭環境等に対する支援を、効果的に行っていくこと。	議の課金	題·問題点 ?庭環境等厂分		1.児童生徒指導に者、警察、各種関めるために別事を別し、日本会議の場合をのよりに関連が、明確工作を実施を実施する。1.中学校19枚19枚15円。1.十学校19枚15円。1.十学校19枚15円。1.1十学校19枚15円。1.1十学校19枚15円。1.1十学校19枚15円。1.1十学校19枚15円。1.1十号校19	、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	128年 第 28年 第 38年 第 38年 第 48年 18年 18年	支事業計画 抱える学校 の連携協力 が策支援会 いスキルアップ 担当教諭を	H28年度事業計画 ・児童生徒指導に課題を抱える学校に対して、保護者、警察、各種関係団体の連携協力を積極的に進めるために児童生徒指導対策支援会議、支援サポー単生住籍導加ていい。 ・リー単生徒は導担当名のスキルアップに向けた研修会等を実施する。 ・リー学校19校に関重支援出教諭を配置し、児童支・リー学教19校に関重支援出当教諭を配置し、児童支・リー学会はのは、原産を実施する。
				来 - 上 - 上 - 上 - 上 - 上 - 上 - 上 - 上 - 上 - 上	本制の梅	業 と 氏	実 を	

	<u>'</u>	秦八二次 三坂 末郎 三城 本語 二十零 十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	 	4		教育部	Г
143 事業名	名 ハケ缶野外	八ケ缶野外体闕教室の九美事案	事 美	担当課	学校	学校教育企画課	П
事業目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業目的 の中で各学校が行・	う教育活動の充実	を変え		変更(ある場合)	(日)	
ことで、児童生徒の個性や自主性・創造性を伸ばし、心豊かに育てる。 あ。 ・市民等の野外体験施設としての利用に供することで自然環境に触れ、たいる場を提供する。	生や自主性・創造性 設としての利用に他	を伸ばし、心豊か tすることで自然現	に育る環境に触				
事業内容 ・学校教育施設として、ハケ岳周辺の大自然の中で各学校が行う自 主的・創造的な教育活動を展開しまた、市民団体等の野外体験	事業内容 八ヶ岳周辺の大自 動を展開し、また、「	然の中で各学校/ 市民団体等の野9	が行う自な体験				
施設として活用する。 ・保全計画に基づいて加	危設の老朽化に対)	おしていく。					
	H27年度	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度	П
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)				\exists			
	乗	î	1		î	 ↑	`
予算額(千円)	227,260	226,871					
メ 章 徴 (十 円) 執 行 率 (%)	99.1						T
年次ごとの取組計・	本験活動を行うこときばいる。	により心豊かな児	童生徒	中の一世の	計価	次年度	
回へな、COD HR、DIRAD/BAUL。 値)に対するH27年:市民等に自然環境に触れられる場を提供で 度末の成果 きた。	月水が凶れだ。 万民等に自然環境 た。	11.1	提供で	800年度 総合評価	ω	維続	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・指定管理者と連携しながら、学校利用、市民等の利用を 進めることができた。	b状況(今年度の効 tがら、学校利用、T	果・成果) 有民等の利用を	指定管理 利用を進	評 !者と連携した か、平成27年	価の理由 がら、学校科 度の目標は)	評価の理由・指定管理者と連携しながら、学校利用や市民等の利用を進め、平成27年度の目標は達成できたと考え、11で	٥١٢
・藤沢巾ユ子校55校の34人の日主性・創造性を伸には冬季利用で冬の大自は冬季利用で多の大自	子校利用かめり、デ ばすことができた。「 「然を体験し、厳しい	5.里年徒の個性 中でも中学校7校 7.自然の中で藤	526.				
沢では得られない体験をした。 ・指定管理者の自主事業「子どもだけのわいわいキャン ブ」では藤沢市の子どもたちだけでなく、茅ヶ崎市 寒川町 +±	をした。 業「子どもだけのわ ったちだけでなく、茅	いわいキャンケーが新一番	・児童生役も増して高	今の体験活動にまってきてい	後の方向 施設としての える。	今後の方向・児童生徒の体験活動施設としての重要性は以前に ・場して高まってきている。	Ü
に在任・在学の小・中学生も一緒に自然体験や仲間との、れ合いを行うことができた。 ・施設管理の面では、本館、宿泊棟の暖房等経年劣化に ・件う修繕を行うことができた。	:生も一緒に自然体 た。 た。注む。 きた。	、験や仲間とのふ 『等経年劣化に	・ 藤沢市 も も を 佐 佐 佐 佐	3の手校利用 30手の回体 2十月の回体 べ。	買り外につい の利用に向い	・藤沢市内の学校利用日以外については、広域利用も含め、他市町の団体の利用に向け積極的に情報提供していく。	E E
	米題・問題点		・指定管理 かるととも ・ 藤沢市ゴ や事前打	H28年 国者と連携した に市民等の別 で学校の学校 ち合わせを締ち	F度事業計画 ながら、学校和 門用の促進に 利用に関して 利用に関して 経費の十ポーポーポーポーポーポー	H28年度事業計画 ・指定管理者と連携しながら、学校利用の充実をは かるとともに市民等の利用の促進に努める。 ・藤沢市立学校の学校利用に関しては、全体説明会 や専制打ち合わせを綿密に行い、各校の自主活動 ・コーズにあった体験活動の中ボートを行う	₩ 4K=
・藤沢市の児童生徒の体験活動施設としてたけでなく、近隣他市町の児童生徒が団体利用できる体験活動施設として設切してもらうために、施設に関しての関係者への周知が必要。 ・一般市民利用者の拡大へ向けた取組が必要である。	体験活動施設とし、 (団体利用できる体、施設に関しての情 大へ向けた取組が	Cたけでなく、近 験活動施設とし 関係者への周知 必要である。	大人 では利用 ・ おこで 本的な を ・ を を を の の の の の の の の の の の の の	・広場の「不満権的に、 ・広場が利用に関して、積権的に、 ・指定管理者と連携し一般利用・ 体的な取組を行う。 ・・施設の修繕計画をもとに、施問をローナシの修繕計画をもとに、施問	情報の	が広域利用に関して、精極的に情報提供していく。 ・指定管理者と連携し一般利用者の拡大へ向けた具体的な取組を行う。 ・施的な取組を行う。 ・施設の修繕計画をもとに、施設の長寿命化、安全 施品のナメの格雑を介って、ソ	mk Au
・体験施設も開設から2 が課題となっている。 	0年以上が乾過し、	施設のあわた		7 1	,		
							1

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業コード | 専業名 | 学校給食をとおしての食育推進事業 | 担当部 | 教育部 | 教育部 | 対322

・日常生活における食事について正しい理解を深める。 ・望ましい食習慣を養う。 ・望ましい食習慣を養う。 ・望ましい食習慣を養う。 ・学校給食や「食に関する年間指導計画」に基づいた授業をとおした食育により、児童に正しい食習慣を身に付けさせる。 ・食物プレルギーがある児童が年々増加していることから「藤沢市学校・特別支援学校で実施する。 また、藤沢市母子健康推進協議会アレルギー専門部会(医師・関係者・関係各課)において、「藤沢市食物アレルギー対応連月手引き」を作成し、その中で食物アレルギー対応をする児童・生徒は、必ず「食物除去の指示書」の提出をすることとした。 H23年度 H27年度 H28年度 H23・1/1-2-1/1-2	(て正しい理解を注)(業内容指導計画」に基つで無す。	深める。 (1) 大 坪 華 女	ر پ			
事業内容 ・学校給食や「食に関する年間指導計画」に基づいた授業をとおした食育により、児童に正しい食習慣を身に付けさせる。 ・食物アレルギーがある児童が年々増加していることから「藤沢市学校給食における後かアレルギーの対応について」に従って市立学校・特別支援学校で実施する。 また、藤沢市母子健康推進協議会アレルギー専門部会(医師、関係者・関係各課)において、「藤沢市食がアレルギー対応をする児童・生徒は、必ず「食物除去の指示書」の提出をすることとした。 H27年度 H28年度 H27年度 H27年度 H28年度 H29	ない はまれる おりまり はまり はいまい はいしょう はいき はいしょう はいき はいい はいき はいい はいい はいいい はいいい はいいいい はいいいいいいいい	ごな哲学な	おし たおし			
	は (年々増加している (年々増加している (年の対応につい (有する) (加議会アレルギー (で) 藤沢市食物7 (で) 藤沢市食物7 (の提出をするにたりの提出をするにたり	str 2。 5 に 2から 「藤 5 に 2から 「藤 1 に 1 に 徐 っ て 」 7 に 1 に 徐 っ た が で フ か ボー 対 が で か が で か が で と か だ し が た と か に た む に た 。	八字 计分分 (DE 计分类) (DE 计分类			
	H27年度 H28年度 H29年度 ●「食に関する年間指導計画」に基づいた授業実施	28年度 計画川二基7	H29年度 いた授業実		H30年度	H31年度
	36校 → → → → → → → → → → → → → → → → → → →	●	1	L	1	1
*	李 李	1	1		1	I ↑
- (田士)競貨金	+ 0	0				
	0					
執行率(%)	0.0	-	****		#/ E1	÷ †
年次~との34組訂 * 1 夏に関9 6年間指導訂画』に巻うい75指導 画 (年次ごとの目標 36校 値)に対するAR2年 - 「藤沢市学校給食における食物アレルギーの 度来の成果 - 対応についてに基づくアレルギー対応の筆施	9 6年间指導計画学校総食におけるごと に基づくアレ	回 こん 棒 しいりる 食物 ガアンド・ディー 対応 アンドー 対応		H27年度の 総合評価	<u> </u>	※ 株
H27年度 進捗状況(今	う年度の効果・成	_		計	時間の理由	
・毎日の学校給食と、各校で作う過ぎ事ニー 其づこれ 全巻の事物	成した「食に関す fi		・課題はある† きた	5のの、計	画通りの事業:	を行うことが.
・「藤沢市学校総食における食物アレルギーの対応について」に従い、食物アレルギーの申し出の手続きや除去食、一部代替食の取り扱いについて、全小学校および白浜養	物アレルギーの対 申し出の手続きたて、全小学校およ		,			
護学校で統一して実施 ・学校給食におけるアレルギー対応は、27年度から全学年 において「食物除去の指示書」の使用をもって宝饰する。	-対応は、27年度が の体目をもって事		学校給食を	今後 生きた教材	をの方向 オ」として活用	し、授業等を
25-CE			、A、日常生活 Eにわたって E力を養うよ	舌において健康的なst 健康的なst 5食育の推	して、日常生活において望ましい食習慣を養い、生涯にわたって健康的な生活を送るための自己管理能力を養うよう食育の推進を行う。	慣を養い、生りの自己管理
		:· #s	「食に関する	H28年 年間指導	H28年度事業計画 「食に関する年間指導計画」に基づいた食育の実 施	小た食育の実
・食・ ・除去食および一部代替食の取り扱いについては、統一し、 で実施を始めたが、学校の状況(対応数、食数、人員、設 備学により、対称に違いが出てきてしまっている。	題点 XU扱いについてI R(対応数、食数、 Cきてしまっている	は、統一し 人員、設・社	食物アレル学食物除去の受物除去の受性、養護教団、養護教活団、養護教に国際を行い、国際を行い	ボー児~の 照り 開い 乗1の3 で 米	・食物アレルギー児への対応は、医師が記入をした「食物除去の指示書」の提出を受け、管理職、学級担任、養護教諭、栄養教諭または栄養職員と保護者が面談を行い、対応についてを確認する。	5が記入をし <i>1</i> 管理職、学総 養職員と保護 「る。
・・・(食に関する年間指導計画」は業等を通して学年に応じた食育年で指導する内容の基本は統ちるる。	t、字校ことにイトテルタの指導を行って(ーする必要がある	xxと、液 いる。各学 5と考え				

事業コート 1.4.5. 事業名		環境教育推進事業		担当部	11年中11日	環境部四時事業人
43 事業目的 保育園・幼稚園児の幼年期や小学校4年生の学童期から環境教育を実施することにより、循環型社会に対する意識の向上を図る。	事業目的 年期や小学校4年 循環型社会に対す	生の学童期から環 る意識の向上を図	(境教育 18。		境場事条 変更(ある場合)	* (5 (5 (5 (5 (5 (5 (5 (5 (5 (5 (5 (5 (5
事業内容 こみの排出抑制や減量、再使用、再生利用の推進を図るため、小 学校4年生や保育園・幼稚園児を対象としたごみの減量・資源化の ため、実際に塵芥収集車を持込み啓発教育事業を行う。 ・小学校36校(私立小学校1校を含む)、保育園・幼稚園	事業内容 1、再使用、再生利 的稚園児を対象と1 車を持込み啓発教 学校1校を含む)、	用の推進を図るた たこみの減量・資 行事業を行う。 R育園・幼稚園	め、小瀬化の			
	H27年度 ●小学校、保育	H27年度 H28年度 H29年度 ●小学校、保育園・幼稚園啓発教育事業	H29年 1事業		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	小学校(36校)、(9 実施		↑ (##		1	1
予算額(千円)	81	81				
決算額(千円) 執行率(%)	0					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標・小学校 36校 3 値)に対するH27年 保育園・幼稚園 度末の成果	、	780人、24國·1,696人		H27年度の 総合評価	型型 B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・ごみの減量・資源化の啓発活動を幼少期から実施することで、こみの分別等の意識の向上が図られた。 ・採育園・幼稚園の啓発事業として、わかりやすく・楽しい	歩状況(今年度の数) り啓発活動を幼少り 意識の向上が図ら 発事業として、わか		・計画どお・事業実施・事業実施充実してお	評。 りの事業を行 1参加数も昨4 3り、事業が後	評価の理由・計画どおりの事業を行うことができた。 ・事業実施参加数も昨年度に比べて増加し、内容充実しており、事業が進展していると考えられる。	評価の理由・計画どおりの事業を行うことができた。 ・事業実施参加数も昨年度に比べて増加し、内容も 充実しており、事業が進展していると考えられる。
・ サネセネリーンョンロボット 「バルロ」を3圏で使用。 ② 着ぐるみを使用した寸劇での説明。 ・学校や保育圏・幼稚園での先生との意見交換を実施し、 効果的な啓発事業を実施。	コポット【パパレコ】3 とす劇での説明。 国での先生との意見 記施。		・中学校・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	今:高校・大学にいる要性を繰りいら質問の多にで配布に一層	後の方向 事業を拡大し、 返し啓発する。 で内容を、【ご。	今後の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
課題・問題点 ・ごみの減量・資源化は、資源品目の拡大など毎年変化が あるため、事業内容の精査が必要。	課題 問題点 计 資源品目の拡大 精査が必要。		 	H2.84 ションロボ なぜ」のテキン	H28年度事業計画 - コミュニケーションロボットを活用した事る。 よいごみのなぜ」のテキスト化を実施する。 ごみのなぜ」のテキスト化を実施する。	H28年度事業計画 コミュニケーションロボッで活用した事業展開を図る。 ・「ごみのなぜ」のテキスト化を実施する。

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 - 事業コード 事業名 いじめ暴力防止対策事業 担当部 教育部

事業目的 いじめや体罰に対する未然防止や早期発見・対応を図り、児童生 徒が安心して安全な学校生活を送ることを目指す。 事業内容 ・平成27年4月施行の「藤沢市子ともをいじめから守る条例」に基 ・いじめ防止対策を推進する。	事業目的 :然防止や早期発見・対応を図り、		 	変更(ある場合)	
・平成27年4月施行の「 き、いじめ防止対策を推 ・「いじめ防止プログラム 然昨十を図ス	校生活を送ることを目指す。		藤沢市子ども Tされたため、	藤沢市子どもをいじめから守る条例が施行されたため、(仮称)を削除した。(H28)	:る条例が揃 ナと。(H28)
(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	事業内容 ・				
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 H30年度 H31年 H31年 H31年 H31年 H31年 H31年 H31年 H31年	H294 止教室 ウンセラー(止啓発リー	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1	H30年度 例解説リーフレッ → 日章生徒に配付	上配件 上面付
		↑ 		<u> </u>	↑
予算額(千円)	15,184 14,296				
大昇観(十円) 執行率(%)	13,473				
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 ログ 値)に対するH27年 度表の時里 体	年次ごとの取組計 ・小学校5校、中学校9校で実施(いじめ防止ブ 画(年次ごとの目標 ログラム) 値)に対するH2か対 がままでは、全校で実施。 作業のホま	め防止プ	H27年度の 総合評価	評価 B	次年度継続
H27年度 進捗: 「藤沢市子どもをいじめ 祐行! 6目30日に14多0	H27年度、進捗状況(今年度の効果・成果) ・藤沢市子ども老いじめから守る条例」を平成27年4月1日 梅行1、6月30日に14条編制で記令書簿金多閣権17-		評(エプログラム) コ学的活動と	評価の理由・いじめ防止プログラム実施校においては、児童生 作による当め活動と、不完善しており、創章工業	に、児童生し言語
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	"5年の、ファンス・アルイ・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・		が展開されているの実施により。	ある取組が展開されている。 ・体罰調査の実施により、年々体罰の報告件数は減 少している。	で 高が 一大級 生物 仕が
11回、研修会 22回、生; ・「いじめ問題調査委員を ・いじめ相談ホットライン! ・いじの相談ホットライン! ・いじめ所止プログラムを ・いじめ防止プログラムを 防止教室を小学校9校、・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11回、研修会 22回、生徒会訪問3枚、等の活動を1た。 「いどの相観調査委員会」を立ち上げ、3回開催した。 いじめ相談ホットラインは24時間365日本制でいじめの相談を受け付け、いじめ相談メールと併せて開設している。 いじめ防止ブログラムを小学校5枚、中学校3枚、いじめ 防止教室を1月23日に1 stool、Uの)中央学の集にいる、 ・平成28年1月23日に1 stool、Uの)中学生の集じい。じさ		今 こおいては、U 生徒会を中心 いることから、、 、各校の取組 こ対して提供	今後の方向・各学校においては、いじめ防止プログラムの他に 児童条や生徒をを中心に対すのいじめ防止対策を 実施していることから、本プログラムの実施にこだか ることなく、各校の取組を尊重する上で、実施を希望 する学校に対して提供していく。	ラムの他に 9防止対策を 実施にこだれ 実施を希望、実施を希望
わ」を開催した。 ・小学校1年生保護者向1 生向けにいじめ防止の啓 ・「藤沢市・いじめ問題対解 のいじめ防止が接の方で ・体罰の実態を把握する	わ」を開催した。 ・小学校1年生保護者向け、小学校4年生向け、中学校1年生向けにいじめ防止の各彩リーフレットを作成配付した。 「藤沢市いじめ問題対策連絡協議会1を4回開催し、本市のいため問題対策連絡協議会1を4回開催し、本市のいため防止対策の方向性を検討した。 体罰の実態を把握するとともに、未然防止の目的で体罰額を表実施した。		H289年にプログラム ルプログラム ついては、8材 P発光リーフレ	H28年度事業計画・いじめ防止プログラムについては、14枚、いじめ防止労労を受けるでは、200万は、8枚で実施予定。いいじめの啓発リーフレットはこれまで同様の3種の・いじめの啓発リーフレットはこれまで同様の3種の	校、いじめID 1様の3種の
課いじめ防止プログラムの 教育課程を編成する上て いじぬ財談ホットライン しく、特定できた際にも られない場合がある。ま	課題・問題点・いじめ防止プログラムの実施には全5時間かかるため、教育課程を編成する上で実施時間の確保が難しい。いじめ相談ホットラインにつかってくる相談者の特定が難しく、特定できた際にも相談者の思いを上手く学校に伝えられない場合がある。また、目的外利用と思われる相談者もいる。		駅ホ子どもをトを作成配付 トを作成配付	作成と、藤沢市子どもをいじめから守る(リーフレットを作成配付し啓発に努める。	条甸啓発

小小・秋 口 音部 企画政策部課 人権男女共同参画課	- ※ 画		H30年度 H31年度 H3		政の と	評価の理由 ・人権数室出前授業は、2校での実施と、例年より少なかったが、土成27年度に初めて私立の小学校で をかったが、土成27年度に初めて私立の小学校で 実施することができた。 ・「藤沢市子どもをいじめから守る条例」を2015年4 月に施行し、条例制定記念講演会を実施したほか、 条例解説のリーフル・ホブキー等を作成し、条例の周 ・知・いじめ防止の啓発を行った。	今後の方向 ・2016年3月に改定した「藤沢市人権施策推進指針」 に基づき、多岐にわたる人権に関する値別課題について、地域や教育委員会、藤沢市人権権護委員会 等と連携して啓発活動を行い、市民に対する意識啓 発の機会の充実を図る。	H28年度事業計画 ・「藤沢市子どもをいしめから守る条例」周知のため ・第31回藤沢市人権啓発講演会 ・1四回藤沢市人権啓発講演会 ・個別課題をテーマとした講座等 ・職場体験型職員人権研修 ・一時に 1 大きの	・サイエスを正式を表する。 ・大権譲獲委員の日事業(特設人権相談の開設、啓 ・大権強動・の設置) ・大権密発出前講座(人権教室出前授業、企業等の 可修) ・ 一部舎施設での啓発活動(人権啓発活動、特設人 権相談) ・ 人権週間事業(街頭での啓発キャンペーン、特設 相談の開設、人権メロージパネル展、積断幕の設 ・ 当年、 第二、 第一、 第一 ・ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
際小川 牧 月 恢 宍 蚕 午 川 国 圧 沙 小 人権施策推進事業 日当部 日当課		・理解を深めることができるよい、 ・で人権相談機関や啓発事業 ・び人権制談機関や啓発事業 人権意識の普及・啓発を図る ・全体への意識啓発に努める おいて、重大事態が発生した 附属機関として藤沢市いじめ	H27年度 H28年度 H29年度 H30年] ●市人権啓発講演会まが啓発事業の実施 ●子どものいじめ防止に関する意識啓発、及びいじめ問題再調査委	7,468	・市人権啓発講演会ほか、地域・企業等と連携した啓発事業を実施した。 た啓発事業を実施した。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	効果・成果) ・人権教室出前移 ・・人権教室出前移 ・・人権教室出前移 ・・人を連携して実施 なかったが、平成 ・・中学校と連携して実験がすることがで ・・「藤沢市子どもを 月に施行し、条例 ・・条例解説のリール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、湘南学園小 3月4 都子園小 3月4 ※沢市人権啓発講演	式 () 幸 () 幸 () 幸	
〒ガムノ・十1文 版 事業コード 事業名 本 1 47 (722) 事業名 人	事業目的 「藤沢市人権施策推進指針」の基本理念である「人権を大切にし、「人権文化」を育むまちづくり」に向けて、人権尊重の精神が社会や生活の中に定着し、一人ひとりの市民が尊重され、あらゆる人が共に生きる社会の実現を目指す。	市民が、多岐にわたる人権課題について理解を深めることができるよう、様々な機関と連携し講演会等の発等事業を実施するとともに、人権啓発リーフレッドを作成し、公共施設及び人権相談機関や啓発事業等を通じて配布するなど、市民に向けて人権意識の普及・啓発を図るまた、子どものいじめ防止について、社会全体への意識啓発に努めるとともに、市立の小・中・特別支援学校において、重大事態が発生した場合の市長部局による再調査を目的に、附属機関として藤沢市いじめ問義和者を島をお浄着「運食を図る	H27年度 年次ごとの取組計画 ●市人権啓発講 (年次ごとの目標値) ●子どものいじか	予算額(千円) 6,883 決算額(千円) 6,177 執行率(%) 89.7	 	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・人権の花運動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、作数室出前授業 鵠沼小 一部者施設「人権啓発活動・特計・大学が発見を発送し、特別の場合を表現の特別を構造のできません。 はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいい はいいい はいいい はいいい はいい はいいい はいいいいいい	会ー 12月5日 **ネーズルんな地域に生きるひと」講師:77*ス、チャン氏 **講演会のなかで中学生人権作文コンテスト入賞者(湘南地 区3人)の朗読を行った。 ・地域人権啓発講演会 1月30日 総合市民図書館 ・藤沢市子ともたいじめから守る啓発事業 ・森列制定記念講演会 6月30日 **中2連講演会 12月19日 **明治地区いじめ防止講座 1月23日	・いじめ防止啓発リーフレット・ボスターの作成、配布 ・高等学校を生徒及び市内公共施設等に配付した。 ・いじめ問題再調査委員会 2月16日 ・まま 事態が起きた場合に備え、教育委員会との連携が必要であることを確認した。 ・その他 職員研修等 ・セヴュアル・マイリティの人権で解責研修 1月22日(市教職員を対象 に、セヴュアル・マイリティの人権で修を実施した。) 課題・問題点

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 - 事業コード 事業名 特別支援教育権進事業 担当部 教育部

を改	・特別な教育的支援を必 善し、特別支援教育の3	事業目的 3要とする児童生1 充実を図る。	徒に対する教育環	17 17	anı.	炎更(ある場合	5)
#菓内容				点 タ み			
### ### #############################	・特別支援学級、通級指・特別な教育的支援を必 ・特別な教育的支援を必 護介助員を派遣する。	事業内容 音導教室を運営す 3要とする児童生1		学校看			
	年次ごとの取組計画	H27年度 ●特別な教育的] ●特別支援学級	H28年度 支援を必要とする! 、通級指導教室の:	H29年月 児童生徒へ0 運営	度 代 0介助員及7	30年度 	H31年度 助員の派遣
	(十分~20日标画)	来	1	1	_	1	1
	予算額(千円)	76,630	75,336				
(国) (本文ごとの理想計 か助員の派遣を市立55校全校)で実施した。 (本文ごとの理想計 か助員の派遣を市立55校全校)で実施した。 (本文ごとの目標 また、学校看護介助員の派遣範囲を通常の学 (本会) (本会) (本会) (本会) (本会) (本会) (本会) (本会)	決算額(千円) 執行率(%)	73,341					
画 (年次ごとの目標 また。学校看護小助員の派遣範囲を通常の学 H27年度 (株) 4分 5 A17年度 進移状況 (今年度の2根を行った。 度末の成果 月 18 直生徒への支援を行った。 (本) 4	年次ごとの取組計	助員の派遣を市立	1 255校(全校)で実別			計価	次年度
### ### #############################	画(年次ごとの目標 ま) 値)に対するH27年 級 度末の成果 児	た、学校看護介助 にも広げ、特別な 童生徒への支援を	員の派遣範囲を通 教育的支援を必要 を行った。		27年度の 総合評価	Δ	維続
かた場合には、担任の指示のもと、児童生徒の学習の補 助を行った。 ・通常の学級に在籍する支援や小助を要する児童生徒 (小学校248名、中学校172名、中学校1442名の ・福泊の計画派遣の執行状況調査を行い、介助員派 ・韓間2回介助員派遣した。 ・特別支援学級では、全ての学級に介助員を派遣した。 ・特別支援学級では、全ての学級に介助員を派遣した。 ・特別支援学級では、全ての学級に介助員を派遣した。 ・特別支援学級では、全ての学級172名、中学校1442名の ・学校看護介助員を派遣した。 ・学校看護が副の外派遣師報を通さい、分助員派 ・登での学校に表いて、学校看護が助員の派遣を行うとは、一名学校を ・全ての学校において、外助員派遣を行い、大、医療的ケンとは、大会検討する。 ・全ての学校において、外助員派遣を行い、大、医療的ケンとは、大会検討する。 ・全ての学校において、外助員派遣を行い、大、医療的ケン学校指表の別できるよう、有 で学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・海内の支援が必要な児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・一学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・一学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・一学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・一学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・一学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・一学校生活を発うの別の支援の時間数を ・一学校生活に対して、支援を行うた ・本校や児童生徒の実施に会かせて、一学校生活において、医療的ケアを必要とす。 ・一学校生活に対して、医療的ケアを必要とす。 ・一生に対していることから、学校が申請する介助員派 ・学校生活に対して、学校看護が助員の派遣を行う ・本様に対していることから、学校が申請する介助員派 ・学校生活に対して、医療的ケアを必要とす。 ・本に対していることか。学校が申請する介助員派 ・学校生活に対して、学校看護が助員の派遣を行う ・本様に対して、学校看護が関連が表	H27年度 進物・全55校で、教育活動のた。教育活動のた。教育活動の	5状況(今年度の対)支援のために介 有する介助自は∵	- 1	・特別な教育を図ることか	評価 育的支援を必 ベアサケ。	面の理由 ◇要とする児童	賃生徒への支 拝
(小学校248名、中学校57名)に、介助員を派遣した。 ・特別支援学級では、全ての学級に介助員を派遣した。 ・特別支援学級では、全ての学級に行り員を派遣した。 ・作用2回介助員派遣の執行状況調査を行い、介助員派 ・特別を派遣した。 ・年間2回介助員派遣の執行状況調査を行い、介助員派 ・全校看護外助員の派遣範囲を、通常の学級にも広げた ・全で学校生活を送ることができた。 ・全校学校において、介助員派遣を行い、文 医療的ケアを検討する。 ・学校生活を送ることができた。 ・学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・「通常の学級に在籍するが即を必要とする児 や特別支援が必要な児童生徒が、安心して学校看護の制員の派遣を 行うことにより、特別の支援が必要な児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう支援を図った。 ・通常の学級に在籍するが即を必要とする児 や特別支援が必要な児童生徒が、安心して学校を請求したいて、実験を行うた ・「通常の学級に在籍するが即を必要とする児 とができるよう 有効な方法を検討する必要がある。 ・広く支援を必要としている児童生徒が増えていることから、学校が申請を ・広く支援を必要としている児童生徒や手厚い小助が必要 ・「広く支援を必要としている児童生徒や手厚い小助が必要 ・「広く支援を必要としている児童生徒や手厚い小助が必要 ・「本校生活において、医療的ケアを必要とす。 ・「本校生活において、医療的ケアを必要とす。 ・「本校生活をあるとから、学校が申請する介助員派 ・「本校生活に対して、学校看護が関立である。」	めた場合には、担任の 助を行った。 ・通常の学級に在籍する	指示のもと、児童、 る支援や介助を要	生徒の学習の補 する児童生徒	・通常の学絡よって、保護	吸にも学校看 養者の負担を	青護介助員を :減らすことが	派遣することに できた。
が助員を派遣した。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(小学校248名、中学校・特別支援学級では、金元の治・年間では、1012年)	57名)に、介助員3 5ての学級に介助 小学校は72名 ロ	を派遣した。 員を派遣した。 ロ学校は42名の	広く支援を	今を必要としてい	後の方向 \る児童生徒	や手厚い介助
は事業を表現のお出の配のコンパ。 ことによって、保護者の負担が軽減され、対象児童生徒が、法を検討する。 ことによって、保護者の負担が軽減され、対象児童生徒が、安心して学校生活を送ることができる。 つまりを状にまいて、介助員派遣を行い、又医療的ケアが必要な児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう支援を図った。 第一年 中学校会要学者のおりを表別に生徒が要をする。 1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (があるができた。 小町員を派遣した。 ・年間2回介助員派遣の ・事業を発のす数がに	対行状況調査を	行い、介助員派	が必要な児 や学校看護 確保を行う	童生徒が増 介助員を充 L共に、各学	加しているこ 分に派遣する 校や児童生(とから、介助員 ための予算の 走の実態に合え
・全ての学校において、介助員派遣を行い、又、医療的ケアが必要な児童生徒に対して、学校看護介助員の派遣を行うとにより、特別の支援が必要な児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう支援を図った。 議職の理職に応じて、支援を行うた、選題・問題点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	国事業で異の有効な治・学校看護介助員の派うによって、保護者の安心に守って、保護者の安心して学校生活を送	THで図った。 遺範囲を、通常の 負担が軽減され、 ることができた。	学級にも広げた 対象児童生徒が	せて、必要が 法を検討す	な支援を行うる。	ことができる	よう、有効な方
17ンCにより、特別の又抜か必要ないままでか、安いして学校生活を送ることができるよう支援を図った。	全ての学校において、 アが必要な児童生徒に ニューニー 特別の	介助員派遣を行い対して、学校看護士垣が、事が旧る	ハ、又、医療的ケ 介助員の派遣を サイギ		•		
課題・問題点 ・様々な支援が必要な児童生徒が増えていることがら、名 学校や児童生徒の実態に合わせて、必要な支援を行うことがら、名 とかできるよう、有効な方法を検討する必要がある。 ・広く支援を必要としている児童生徒や手厚い介助が必要 支に適が増加していることが、学校が申請する介助員派 遺時間数は予算を上回る状況である。	11つにこより、特別のスマ学校生活を送ることが	ス体パンタルル単げできるよう支援を	■ エ	・通常の学総 や特別支援 治行事や学	H28年 政に在籍する 学級在籍の 校の課題に	(関事業計画2分別を必要)児童生徒に対応じて、支援	とする児童生行 対して、又、宿を行うためにが
こいできるより、相対ルイルででは引するが安かいのの。 ・広く支援を必要としている[理生徒や手厚い小助が必要・学校生活において、医療的ケアを必要とすそ な児童が増加していることから、学校が申請する介助員派 遺時間数は予算を上回る状況である。	・様々な支援が必要なリ 学校や児童生徒の実施 しばホェミトラーサル	(表現・問題点) 日間 (記事・問題を) 日間 (記事) 生徒が増えて (記事) に合わせて、必要 カナス・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン・ジャン	いることから、各要な支援を行うこ	助員派遣を・中学校長会校に配当すた。	行う。 会要望により る教育的活	、子算措置を 動の支援のB	でいて、中学 ではな、中学 特別数を増加し
・今時間の割れ条600円/時の余額について、 4イア 11	とかできるよう、有効は、 ・広く支援を必要としていな用値が増加しているこ 違時間数は予算を上回・ ・か明自の勤利条のの円・	カズを検討 9 の必いる児童生徒 や手にたい、必見童生徒 や手にたから、学校が年になが、19 な状況である。17時の余鐘につい	・安かめる。 ・厚い介助が必要 1請する介助員派 ンケ 他とド誌!	・学校生活の生徒に対して	cおいて、医て、学校看話 で、学校看話	療的ケアを必 養介助員の派	・要とする児童 遺を行う。

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業コード | 相当新 | 報音

1	I	字校教育相談センター事業	**	担当課	教育	教育指導課
炎の必要な児童 きる環境を整備 相談体制の労	事業目的 支援相談の必要な児童生徒や保護者が必要な時に相談を受ける ことができる環境を整備し、一人ひとりが楽しく学校へ通うことができるよう、相談体制の充実を図る。	メ要な時に相談を 変しく学校へ通うこ	受ける * 平 とがで クー * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	変 成28年度よ ルカウンセラ クールカウン	更(ある場合 :リ、特別支 :一を配置。 ・セラー配置	変更(ある場合) * 平成28年度より、特別支援学校にスクールカウンセラーを配置。 * スクールカウンセラー配置人数・スケール
きの学校生活~ ・セラーの配置・ 及び相談支援	事業内容 児童生徒の学校生活への適応を図るため、各小中学校へのスク- ルカウンセラーの配置や、学校教育相談センターでの教育相談・ 学相談、及び相談支援教室における不登校児童生徒への相談支	、各小中学校へのスクー 2ンターでの教育相談・就校児童生徒への相談支	ン Dスクー 旧談・就 目談支	ンォルワーナ)一配電人券	섯を変更。(H28
(後を1178) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	放を11つ。 ・ス会校1道生徒、保護者への相談支援 ・スクールカウンセラーを全小中学校へ週1日配置 ・次年度就学予定児に対する就学相談活動 ・相談支援教室での不登校児童生徒への集団適応指導及び保護	1日配置 動 集団適応指導及0	び 保護			
者相談 ・スクールソーシャルワーカーの ・特別支援教育専門カウンセラ・ ・関係条課と連集 ナ・相談活動	ーカーの学校への派遣 カンセレーによる学校巡回 18活動	派遣校巡回				
	H27年度 H28年度 ●相談体制の充実		H29年度	_	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	スクールカウンセラー 20人 スクールソーシャルワ 2人 (※1 人増員) ●相談窓口のワンスト	配置人数 21人 21人	25人 数 3人		1 1	1 1
	検討・準備	1	実施	Ŀ	 	1
予算額(千円)	148,359	153,725				
決算額(千円) 執行率(%)	142,077					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) ス に対するH27年度末 の成果	「相談体制の充実 スクールカウンセラー スクールソーシャルワ	20人 —カ— 2人	—————————————————————————————————————	H27年度の 総合評価	計 B B	次年度 継続
H27年度 推捗状況(今年度 援相談の必要な児童生徒や保護 長な場所で支援が受けられるよう での相談活動の充実を図った。 クールカウンセラーの配置を、小 いて代土日、移校について(は1.6 ウールソーシャルワーカーを1名。 が活動の充実を図った。 学相談員による相談活動、就学 等相談員による相談活力。 談支援教室において、韓国適応 情報談を行い、不登校児童生徒	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・支援網数の必要な児童生徒や保護者が、必要な時期に必要な場所で支援が受けられるよう、学校及び相談センターでの相談活動の充実を図った。 スクールカウンセラーの配置を、小学校の大規模校5校についてはた日、移ばこいで代生13年の設置とした。 スクールカウンセラーの配置を、小学校の大規模校5校はフレッピナスカールカウンセラーの配置を、小学校の大規模校5校はフレップ・カールフーカーを1名増員し、2名体制により相談活動の充実を図った。 ・就学相談員による相談活動、就学支援委員会を通して、きか補やかな就学相談を行った。 ・・相談支援教室において、集団適応指導及び児童生徒保護者相談を行い、不登校児童生徒の支援の充実を図った。	-	評価の理由 ・各相談支援活動の活用が進み卓 ・とのである。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価 活動の活用 、相談活動 、相談活動 を対した、相談 セラーセスグ ・ できない場 ・ できない場 ・ できない場 ・ できない場 ・ できない場 ・ できない場 ・ できない場 ・ できない場	の理由 の選み早期 の充実につい を件数の増打 合もある。 の方向 が応日数、、	評価の理由・各相談支援活動の活用が進み早期の対応により、改善が図られ、相談活動の活果につながった。 改善が図られ、相談活動の充実につながった。 中部数内容の複雑化、相談件数の増加等に伴い、ス クールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの 対応が十分にできない場合もある。 今後の方向 ・スクールカウンセラーの対応日数、スクールソー ・スクールカウンセラーの対応日数、スクールソー ・スクールカウンセラーの対応日数、スクールソー ・スクールカーの人員の増員について検討をしてい、 く。
・	課題・問題点 ・児童生徒が家庭や地域等目分の力だけでは解決できな い課題を抱え、学校だけでは対応が困難なケースが増加 しており、福祉的支援を含めた実際環境への支援を行うス ケールソーシャルワーカーの増真が急務である。 ・特別支援学校、特別支援学級の児童生徒の相談が増加 していることから、より専門的に環境を整えるような特別支援専門のスケールカウンセラーの配置が必要である。		H28年度事業計画 1.20 ールカウンセラーの全が中特別支援学校 配置(週1.5日以上の記置小学が中移7校 (特別支援教育専任スクールカウンセラーを (特別支援教育専任スクールカウンセラーを ・ 就学支援を員会の別解権 ・ 部誌支援教室の不登校児童生徒の集団 指導及び保護者相談 ・ オカーの学校への派遣 ・ スクールソーシャルワーカーの学校への派遣 ・ オカリ支援教育関係の講演会	H28年度 (電人) (17) (17) (17) (17) (17) (17) (17) (17	「事業計画 小学校17枚) 小学校17枚) する就学相談活 可電話相談・歌交児童生徒への カーの学校への 資会、研修会の	H28年度事業計画 スクールカウンセラーの全小中特別支援学校への 配置(週15日以上の配置小学校打放) (特別支援教育専任スクールカウンセラーを配置) ・次年度就学予定児に対する就学相談活動 ・就文長養身の開催 ・相談支援教室での不登校児童生徒への集団適応 指談支援教室での不登校児童生徒へ集団適応 指導及び保護者相談 ・スクールソーシャルフーカーの学校への派遣 ・スクールソーシャルアーカーの学校への派遣 ・特別支援教育関係の講演会、研修会の開催

 平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書

 事業名
 児童生徒指導関係事業
 担当部
 教育部

 153
 申当課
 教育指導課

事業目的 市内小・中・特別支援学校児童生徒の健全育成を図る 事業内容 ・不登校児童生徒及びその保護者を対象に各種の取線	事業目的 2校児童生徒の健	全育成を図る。	* : 松子:	変更(ある場合) * 不登校児童生徒を持つ親の会「おしゃべ	3合) 類の今「む」かる
市内小・中・特別支援学工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	⁵校児童生徒の健	全育成を図る。	* = 物量	校児童生徒を持つ	グルーゲータラ目
・不登校児童生徒及びす			ツムる	り広場」実施回数の変更。(不登校児童生徒を持つ保護者を対象とした県教委主催の	税の云! あつつ: (不登校児童生 た県教委主催の
・関係機関との連携協力発見、早期指導に努め、・学校教育相談センター・	事業内容 その保護者を対象 り、相談機能の充 る。 -での相談支援を:	事業内容 ・不登校児童生徒及びその保護者を対象に各種の取組を行う。 ・関係機関との連携協力、相談機能の充実を図り、未然防止、早期 発見、早期指導に努める。 ・学校教育相談センターでの相談支援を行う。		月と2月に開催され	,ているため)
	H27年度 ●不登校児童生	H27年度 H28年度 H29年度 ●不登校児童生徒を持つ親の会『おしゃべり広場』	H29年度 おしゃべり広場』	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	年4回実施	1	<u> </u>	1	<u></u>
予算額(千円)	0	0			
決算額(千円)	0				
執行率(%)	0.0		1	F Fi	i
年次ことの取組計 不登校児童生徒を持つ親の会 [おしゃべり広 画 (年次ごとの目標 場別 値)に対するHZ7年 4回臭施 度末の成果 参加者総数(28人)	登校児童生徒を持』 』 回実施 加者総数(28人)	寺つ親の会[おしゃ)	ベリ広 H27年度の 総合評価	度の 野価 B	次年度 継続
H27年度 准挑	(本株状況(今年度の効果・成果)			事価の 連価の 連一の 連一の 連一の 連一の 連一の 連一の 連一の 連一	
第1回7月22日(6名) 第2回9月28日(4名) 第3回12月1日(12名) 第4回2月19日(6名) 回数を4回に増やしたこ	ことで、1回の参加		・計画通りの事業 参加している保護 増えていることに ながっているとま	・計画通りの事業を行うことができた。また、継続して参加している保護者がいることや、年々参加人数が増えていることは、本事業が保護者の負担軽減につながっていると考えられる。	こ。また、継続して年々参加人数が 年々参加人数が 5の負担軽減にて
り、本来の目的である保護者が「おしゃべり」をしやすい雰囲気が生まれた。 田気が生まれた。 12月は進路を考える時期になるからか参加者が多いと感じた。	R護者が「おしゃべ 期になるからか参	:り」をしやすい雰が加者が多いと感	・幅広い対象年 応えられるよう、 継続していく。	今後の方向・幅広い対象年齢及び多岐にわたる保護者ニーズに 応えられるよう、内容・形式の工夫改善を図りながら 継続していく。	る保護者ニーズ 改善を図りながら
			- 年4回7月、9月	H28年度事業計画 - 年4回(7月、9月、12月、2月)開催予定。	明
課題・問題点 ・内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	課題・問題点 17-3保護者のニー ある。 はないため当日ま にない、一方で、自 らない。一方で、自 ある。 ある。 もの必要性感じる。 にしてともあり、課題	ーズが高い。参加 ・分、共通の話題 ・で参加人数や子 5まり構えずに、 場合が多いが、 「である。			

154 事業名	名 (学習指述	(学習指導員による補修授業)	(秦	計	教育	がた 記事 数字 は 道理
-			È	出川計	2	71 THE
	事業目的		ì	Ĭ	変更(ある場合)	(1
学校が抱える諸課題について、支援を図り、学校とともに諸課題の 解決を図る。	ついて、支援を図	り、学校とともに諸	課題の		3	
事業内容 生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図るため、「学習指導員」に よる補習授業を行う。	事業内容な学力の定着を図	るため、「学習指導	三一直			
	H27年度 ●中学校学習支	H27年度 H28年度 ●中学校学習支援事業	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施	1	Ī		1	1
予算額(千円)	3,211	3,211				
次昇徴(十円) 執行率(%)	91.2					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標・中値)に対するH27年 ・総 度末の成果	- 雲・中学校全19校で実施 - 総時間数、2,698時間	相詞		H27年度の 総合評価	脚 B B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・市立中学校全19校で実施 ・終時間数、2,698時間	s状況(今年度の効 実施	b果·成果)	・年次計 の基礎学	評画どおり全校7 カの定着の配	評価の理由 ・年次計画どおり全校で実施することができた。生徒 の基礎学力の定着の面で成果をあげている。	ができた。生徒 ざている。
・学校が生徒のニーズに応じ、 用できるよう要綱を改正した。	一ズに応じて学習指導員をより有効に活 を改正した。	員をより有効に活				
・全中学校での実施が3年間続き、補習授業の指導体制が整ってきた。放課後、定期的1二学習できる場があることで、基礎的な学力を定着させる機会となった。	3年間続き、補習払定期的に学習で言言させる機会となっ	受業の指導体制 きる場があること oた。	- 各学校(徒の基礎	今 の状況にあわ 学力の確実な	今後の方向・各学校の状況にあわせ、楽教に対応しながら、生徒の基礎学力の確実な定着につなげていきたい。	さしながら、生 っていきたい。
課題・問題点 ・年間を通して計画的な支援ができるように、学習指導員 を確保する。 ・学習会について生徒に周知し、希望する生徒が参加でき るように運営する。	楽題・問題点 支援ができるよう ご選ができるよう	に、学習指導員 5生徒が参加でき	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	H284 真の選任 真しよる放信	H28年度事業計画 ・学習指導員の選任・学校長) ・学習指導員による放課後、長期休業中の学習支援	(作中の学習支持 (作の学習支持

関係機関の連携が図られることにより、障がい、児等がライフステージに応じた適切な支援を受けることができる。 事業内容 障がい、児や発達障がい児等が、ライフステージに応じた一貫した支援を受けられるようにするため、ティフターーグの形成や情報を共有接をよれるようにするため、ルットワークの形成や情報を共有	れることにより、障 を受けることができ	がい児等がライフ 2	7ステー 計	画策定品	は、新規対象者	# ンドンセクラ
障がい児や発達障がい 援を受けられるようにす オネナルのこどませポ		ô	<u> </u>	な支援か る予定で	\必要な子ども全 、年次ごとの目∤	1000 1000
- いって ロンエン ひこの ラクル・	事業内容 児等が、ライフス・ るため、ネットワー トファイルの普及	ゲージに応じた一ゴ プロ形成や情報 ・活用の推進を行	買した支 を を い の の の の の の の の の の の の の の の の の	したものだ。 ついては、 配布が行き みに配布す みに配布す の。(H28)	したものだが、「子どもサポートファイル」に 変」ついては、支援が必要な子どもに対しては 配布が行き届いたことから、新規対象者の みに配布することとし、配布数を変更したも の。(H28)	ートファイル」に どもに対しては 、新規対象者の 3数を変更したも 5数を変更したも
	H27年度 ●子どもサポート	H28年度 	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) i	配付数 120冊	1	1		†	1
予算額(千円)	1,686	1,616				
決算額(千円)	1,615					
#/11年(70) 50.0 年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 ユアキ サポートファイルの配 (村数120)冊	20:00 アイン・オード・オード・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・	ルの西社数120-		 H27年度の 	ifila	次年度
値)に対するH27年 ' 、 度末の成果		- XX		然 和 計	<u>m</u>	維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・ ・障がいのある、または特別な支援が必要な子どもに対し て、ライフステージの変わり目となる年長児のタイミングや 就学相談の中で、子どもサポートファイルを配付した。	状況(今年度の効 特別な支援が必要 わり目となる年長) 5サポートファイル	果・成果) !な子どもに対し !Eのタイミングや を配付した。	・特別な支持ポートファイ	爰を必要 ゚ル配付⁻	評価の理由・・特別な支援を必要とする子ども等に対して子どもサポートファイル配付することができたため。	c対して子ども ため。
・子ともサポートファイルの内容について検討をおこない、記載内容やサイズ等の見直しを図った。また、新たに携帯版の作成を行った。	の内容についても見直しを図った。ま	剣討をおこない、 ミた、新たに携帯	・特別な支払ポートファイ	景を必要、アを広く	今後の方向 ・特別な支援を必要とする子ども等に対して子どもサ ポートファイルを広くいきわたらせる。	こ対して子ども。
課題・問題点・子どもサポートファイルの必要性について、保護者のみでなく、支援者や協力者にも広く周知する。	紫題・問題点 ・の必要性につい ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	こ、保護者のみ	・子どもサイ ・子がる。 ・・携帯版にて、 ・ 128年度 たカについ	H2 マートファップ フいては 英以前に ては希望	H28年度事業計画 ・子どもサポートファイルの必要性について広く周知 する。 ・携帯版については、H28年度からの配付となるの で、H28年度以前に子どもサポートファイルを配付し た方については希望者に配付を行う。	:ついて広ぐ間美 の配付 <i>と</i> なるの ファイルを配付 5。

事業3一ド 事業名 161 事業名 161 161 161 161 161 161 161 161 161 16	(24) 数育課程推 事業目的	が表現を表現を表現である。 教育課程推進事業 (キャリア教育 事業目的		担当部	1 (%	教育部 教育指導課 5場合)
・学習指導要領に則り、各学校において、学校や地域の実態を踏ま えた創意工夫ある教育課程実施のため、特色ある教育課程を編成 する。 するなおしておけい、実りある教育の実践を行うことができる。 他を図ることにより、実りある教育の実践を行うことができる。 事業内容 小、中学校それぞれの発達段階に応じたキャリア教育を推進す	各学校において、、 課程実施のため、 ジョン」の理念に沿ー りある教育の実践を 事業内容 発達段階に応じた	学校や地域の実態 特色ある教育課程 った学校教育目標 を行うことができる キャリア教育を推	度を踏ま 音を編成 (の 具現 確す			
る。 ・中学校において、職場体験を実施する。 ・小・中学校において、職業調ベ学習・職場見学学習・職業講演等 を実施する。	は験を実施する。 職業調ベ学習・職場	易見学学習・職業	無海			
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)	H27年度 ●職場 <u>見学学習</u> ●職業講演等 ●職業調べ・職業体験学習	H28年度 体験学習	H29年	1 日本	H30年度	H31年度
子質縮(千円)	海上	1 0	1		1	1
決算額(千円) 執行率(%)	0.0					
年次ごとの取組計 :市立全中学校(19校)で職業調べを行った。 画(年次ごとの目標 :市立全中学校(19校)で職場体験学習を行った。 値)に対するH27年 :小学校でも職業調べを行い、職業に関する意識を 度末の成果 高めた。	5立全中学校(19校)-1立全中学校(19校)-7学校でも職業調べをかた。	で職業調べを行ったで職場体験学習を行びで職場体験学習を行び、職業に関す	:。 Toた。 る意識を	H27年度の 総合評価	B B B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・小・中学校それぞれの発達段階に応じたキャリア教育を実施し、児童生徒の職業に対する意識を高めることができた。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	状況(今年度の効 発達段階に応じた 業に対する意識を記 業労働課が「職人」; 職人の技名児童生	ıle.	・どの学校も、計画 ・キャリア教育を踏ま 内容を深めている。 ・学校・家庭・地域カ 進していけるよう、 3 ・キャリア教育に関	評価の理 ・どの学校も、計画とおりに事 ・キャリア教育を踏まえた教科 内容を深めている。 ・学校・家庭・地域が連携協力 進していけるよう、支援していく ・キャリア教育に関する情報提	評価の理由 ・との学校も、計画とおりに事業を進めてし、 ・キャリア教育を踏まえた教科機断的な学 内容を深めている。 今後の方向 ・学校・家庭・地域が連携協力してキャリア 進していけるよう、支援していく。 ・キャリア教育に関する情報提供に努める	評価の理由 ・どの学校も、計画とおりに事業を進めている。 ・キャリア教育を踏まえた教科機断的な学習を行い、 内容を深めている。 今後の方向 ・学校・家庭・地域が運機協力にてキャリア教育を推進していけるよう、支援していく。 ・キャリア教育に関する情報提供に努める。
課題・問題点 ・職場体験学習の体験先の確保。 ・体験先が食品・介護・保育関係のとき、衛生 事前の検査はどこまでするべきか。その費用	深題・問題点 光の確保のとき、 保育関係 するペきか。その費 するペきか。	衛生面における費用。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年] ボル・中学校でれぞれの3 育を推進する。 小・中学校において、印 の事、講演者を実施す ・中学校において、職場。 希望する学校には、産 派遣依頼し、職業教育に 派遣佐頼し、職業教育に 重生徒の意識を高める。	H28年度事業計画・小・中学校ぞれぞれの発達段階に応じたキャリア育を推進する。 1小・中学校において、職業調ベ学習・職場見学学・・ハ・中学校において、職場体験学習を実施する。 ・・中学校において、職場体験学習を実施する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年度事業計画・小・中学校ぞれぞれの発達段階に応じたキャリア教育を推進する。・小・中学校において、職業調ベ学習・職場見学学・日・職業請演等を実施する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業コード | | 持能職体酪事業 | 担当新 |

#業目的 小学生を含めた若年者に対して、銀練された技能を披露し、寒際に 体験してもらうことで、技能職への理解を深めるとともに、職業意識 の形成を図る。 事業内容 ・学校訪問事業・小中学校に職人が訪問し、働べことや仕事内容の 説明、実技披露を行い、実際に小中学生体験をする。 ・職場体験:体験先の職場の確保に難航している小中学校に対して、 教行事(4次ごとの取組計画 実施 H27年度 H28年度 H29 年次ごとの取組計画 実施 ー 127年度 H28年度 H28年度 H29 年次ごとの取組計画 実施 ー 500 500 500 500 (年次ごとの取組計画 実施 - 142年度 H27年度 建棒状況(今年度の効果・成果) 前間学校・生徒数 (4次ごとの時間 (4次ごとの取組計	た技能を披露し、実際に ためるとともに、職業意識 、働くことや仕事内容の が験をする。 てたる小中学校に対し て確保に努める。 1,128年度 H29年度 サ27年 様への訪問実施 総合言 乗・成果) :計開学移数 対	T S E MAR	変更(ある場合) 30年度 H31 評価 次 B * # ### ### ########################	
体験してもらったで、技能職への連絡を深めるの形成を図る。	たともに、職業意識 (ことや仕事内容の (ことや仕事内容の (ことがする。 (ことがする。 (ことがする。) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		上版 上版 上版 上版 上版 上版 上版 上版	H3.1年度
	28年度 H295 (200 (2乗) (2乗) (2乗) (2乗) (2乗) (3乗) (3乗) (3乗) (3乗) (3乗) (3乗) (3乗) (3		F度 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下	八十年度 ※ 株
## H27年度 H2 H27年度 H2 H27年度 H27年度 H2 H2 H27年度 H2 H2 H2 H2 H2 H2 H2 H	10000000000000000000000000000000000000		計算	H31年度
年次ごとの取組計画 実施 (年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) (年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計画 (年次ごとの別組計画 (東大の東京) (東東東京) (東東東東東東東東東東	00000000000000000000000000000000000000	H27年度の 総合評価	評価 B 開田 H体数ともに	
予算額(干円) 500 決算額(干円) 400 動行率(%) 0.8 年本ごとの取組計 個(年次ごとの用標 1 原末の成果 10学校別開業業 ・6月校長会での事業周知 ・6月校長会での事業周知 ・8合の時間におけるキャリア教育や社会の授診 ・1・一学校 27年度訪問学校・生徒数・1・1・学校 3校、体験生徒数317人・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・	5問実施	H27年度の 総合評価	評価 B 理曲 HK数とも[:3]	次年度継続
決算額(干円) 400 動行率(%) 0.8 年次ごとの取組計	加州	H27年度の 総合評価	評価 B 理由 Ri体数とも[CB	次年度継続
執行率(%) 0.8 4 本文上との取組計画 (本文ごとの取組計画 (本文ごとの即組制度大文ごとの目標 1 小学校3校、中学校5校へ(値)に対するh27年度 進捗状況(今年度の効果・成一学校別問事業・6月校長会での事業間知・総合の時間におけるキャリア教育や社会の授うして藤沢市内の小、中学校で技能職体験事業をた。 3校、体験生徒数317人・中学校 3校、体験生徒数317人・中学校 3校、体験生徒数317人・中学校 3校、体験生徒数317人・和学校 3校、体験生徒数317人・和学校 3校、体験生徒数317人・和学校 3校、体験生徒数317人・和学校 3位、体。4、年後数 34、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、4、	5周実施	H27年度の 総合評価	評価 B 理由 H体数ともCB	次年度 継続
年次ごとの取船計画(年次ごとの取船計画(年次ごとの取船計画)に対する1427年度 進捗状況(今年度の効果・成 1427年度 進捗状況(今年度の効果・成 (1)学校訪問事業 ・6月校長全での事業圏知・総合の時間におけるキャリア教育や社会の授当・小学校 で、一で藤沢市内の小、中学校で技能職体験事業をたって、 ・1・一学校 3校、体験生徒数317人・中学校 3校、体験生徒数317人・中学校 3校、体験生徒数317人・中学校 3校、体験生徒数317人・和学校 3校、体験生徒数317人・和学校 3が、体験生徒数317人・和学校 3が、体験生徒数317人・和学校 3が、体験生徒数317人・和学校 3が、体験生徒数317人・和学校 3が間団体数 計10団体 40分	5周実施	H27年度の 総合評価	計画	※ 機
H27年度 連捗状況(今年度の効果・成. ①学校訪問事業 ・6月校長会での事業周別 ・6月校長会での事業周別 ・26会の時間におけるキャリア教育や社会の授3 して藤沢市内の小、中学校で技能職体験事業を た。 平成27年度訪問学校・生徒数 ・小学校 ・3校、体験生徒数317人 ・中学校 ・110団体 ・110 ・110 ・110 ・110 ・110 ・110 ・110 ・11			理由 n体数ともにB	
①学校訪問事業・6月校長金での事業 16月校長金での事業 16月校長金での事業 18分 17 教育や社会の授3 12 5 17 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		評価の	A体数ともにB	
平成27年度訪問学校·生徒数 ・ル学校 3校、体験生徒数317人 ・中学校 5校、体験生徒数831人 5校、体験生徒数831人 訪問団体数 計10団体 (湘南卣技会,藤沢菓子組合,洋裁組合、神奈) 般労働組合,湘南建設組合,建加合地市,電気	0 脚と 摘し	・訪問学校数、および訪問団体数ともに昨年度より 増加した。また、昨年度訪問実績のなかった小学校 へ訪問を実施した。	実績のなか	昨年度よりった小学を
3校、体験生徒数317人 ・中学校 ・中学校 5校、体験生徒数831人 訪問団体数 計10団体 (湘南庖技会、藤沢菓子組合、洋裁組合、神奈川 級労働組合、湘南建設組合、建和合湘南、電気 組合、地名・布金十業組合、地南心	·校長会	今後の方向 ・校長会での事業周知。	方向	
訪問団体数 計10団体 (湘南庖技会、藤沢菓子組合、洋裁組合、神奈川 機労「뤫相合、湘南運設組合、連盟伯子相)電気 紹合、布金工業組合、地南地等、電気	・技能職を 子の活用 ・体験内容	・技能職団体連絡協議会が作成した技能職紹介冊子の活用。 子の活用。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	作成した技能 能団体の増力	能職絡介 加を図る。
5日1、10日十千6日、6日15枚次六甲47.十5 回組合)		H28年度事業計画 学校訪問事業を実施する。		
②職場体験の受け入れ エルフカ体語がたかったよか、宝姑サギ				
<u>非題・问題品</u> ・実施希望時期の偏り。 ・複数団体での訪問する際の実施時間のばらつき調整。 ・職場体験の受け入れ周知。	つき調整。			

	担当課 産業労働課 変更(ある場合)		H29年度 H30年度 H31年度	† †		-	. H27年度の 総合評価 B 継続	評価の理由 H27年度から新たにひなたやま養護学校の受け入れを開始。	今後の方向 今後は庁内障が、者雇用の促進を目的に設置して いる「JOBチャレふじさわ」と連携し、より実践度の高 い実習を実施する。	H28年度事業計画 養護学校の実習受入を実施する。
はままる	験) とにより、	内の特別					習の受入	L-:	•	πV
障がい者就労支援事業	支援学校就労体 〔等を実施するこ	提供するため、 第する。	H28年度	<u> </u>	0		らの職場体験実	复の効果・成果) 3人 3人 4人 16人(6月の受入生徒と	の業務提供もおい	受入場所の確認 を確保する予 いただくよう声か
ì	(特別] 事業目的 向けた支援事業 促進を図る。	事業内容 5体験の機会を 職場実習を実ご 職場	H27年度 ●職場実習	米	0	0.0	227年度は3校か ∵った。	大況(今年度の交 13人 3人 援学校 4人 16人(5の校内実習へ	題・問題点 に伴い、生徒の 務室にスペース 積極的に行って
事業コード	163 14・10 (特別支援学校就労体験) 事業目的 事業目的	事業内容 社会的自立に向けた就労体験の機会を提供するため、県内の特別 支援学校の生徒を対象に職場実習を実施する。		年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	予算額(千円) 決算額(千円)	執行率(%) 年次ごとの取組計	画(年次ごとの目標 平成27年度は3校からの職場体験実習の受入値)に対するH27年 を行った。 度末の成果	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 27年度受入生徒数 13人 13人 14表護学校 13人 10月 横浜ひなたやま支援学校 4人 藤沢養護学校 4人 藤沢養護学校 4人 藤沢養護学校 4人 16人(6月の受入・	重複有) このほかに白浜養護学校の校内実習への業務提供もおこなった。	課題・問題点 ・労働会館が閉館したことに伴い、生徒の受入場所の確保 が課題である。 ・今年度は産業労働課執務室にスペースを確保する予 定。また他課での受入も積極的に行っていただくよう声か けをする。

 事業コード 事業名 (若者しごと応援塾:コーバラーがふじさわ) 相当群 重業目的 事業目的 事業目的 変更(ある場こートやひきこもり等、困難を抱える若年者の目立・就労に向けて 変更(ある場本のきこもり等、困難を抱える若年者の目立・就労に向けて

	や学校教育相談 記録や支援プログラ	中学校在籍中に不登校等で卒業後においても進路が未決定の子 どもたちに対して、学校や学校教育相談センターと連携し、当該生徒やその保護者への相談や支援プログラムを実施する。	定の子 当該生			
	H27年度 ●若年者就労支持	H27年度 H28年度 ●若年者就労支援事業	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	東海	1	1		1	↑
予算額(千円)	25,497	25,428				
決算額(千円) 劫行率(%)	25,497					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの即組計 値)に対するH27年 若年者就労支援事業を実施した。 度末の成果	年者就労支援事		H274 総合	H27年度の 総合評価	型 田 田 田	次年度継続
·若年者就労支援事業受付数(199人) ·若年者就労支援事業利用者延ペ人数(3,539人) ·進路決定者数(99人) ·市の4地区(長後・華行・湖南大府・縄辺)ア地域出現相談	受付数(199人) 利用者延べ人数((:・湘南大麻・穏(2)	日曜日	評価の理由 受付者数、利用者数ともに昨年度に比べて増加した。また、地域出張相談会については、昨年度1回の実施だったが、4地区に拡大し、計12回(各地区3回ずつ)実施した。	評価 者数とも 出張相談会 \、4地区に と。	の理由 CIFF年度に さについて 拡大し、計	比べて増加U は、昨年度10 12回(各地区
会を3回ずつ実施。 ・ハローワーク等との地域連絡会議を開催。 ・保護者セミナー・個別相談会を開催。	施。		今後の方向 ・事業周知のため、広報紙、ホームページ、地域の 回覧板などで発信を行う。 ・地域出張相談会については、実施地区を変えて行うなと試行実施を維続して行い、まらなる潜在的ひき こもり者の掘り起こしを図る。 ・地域連携会議を定期的に行い、関係機関等と連携 を図る。	今後 公司を行る。 会になった。 を経続して を経続して をといる をできまする	の方向 1、ホーム、 には、実施 では、実施 でい、さら る。	ページ、地域の地区を変えている。 地区を変えている。 かる潜在的し、 条機関等と連
			H28年度事業計画 若年者就労支援事業を実施する。	H28年度	5事業計画 施する。	
禁題・問題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中 7	*************************************				

立支援推進事業 相当課 変更(ある4) を育成と将来に向けた自立 中成27年度から生活困済 電流保護受給世帯に対し、 上で、(中28) 日28年度 H30年度 日30年度 日		4 十 7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	趴	Ŕ	本司 国		神
1月的 10億全育成と将来に向ける 10億全育成と将来に向ける 10億全育成と将来に向ける生活保護受給世帯 10十一と共に関係機関と選び 10十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	165(243) 事業		立支援推進事業	<u> </u>	相示計	生活持	を言葉
10位 (10位 全 育成 と 将来 10 10 10 10 10 10 10 1	(2.4)	事業目的			188	三(ある場合)	ZHZ HV
内容	生活保護受給世帯の子 助長	Fども・若者の健全	育成と将来に向け		F成27年度か テに基づき、対 ナでなく生活困	ら生活困窮者 象者を生活保 窮世帯に拡大	自立支援法施 護受給世帯た し支援を実施
1	O歳から概ね20歳の子 子ども支援員を加置に、 がら日常生活支援、養 り添い型の支援を行う。	事業内容 ども、若者のいる。 、ケースワーカーと 育支援、教育支援	活保護受給世帯 共に関係機関と連 、就労支援等、個!		<i>,†</i> ≥。(H28)		
44 5,030 44 5,030 6世帯77人 5世帯77人 5世帯77人 47世帯 7月 7日 1日	年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)	H27年度 ●支援を要する受	H28年度 2約世帯への個別	H294 支援			H31年度
5世帯77人 142年 142年 143年 143年 143年 143年 143年 143年 143年 143	予算額(干円) 決算額(干円) 執行率(%)	4,654 4,654 100.0	5,030				
:度 進捗状況(今年度の効果・成果) 活保護受給世帯 43世帯 3世帯 3世帯 3世帯 3世帯 3世帯 3世帯 3世帯 3世帯 50支援)16人 2000 2000 2000 2000 2000 2000 2000 20	年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果	接件数 65世帯77			H27年度の 総合評価	事 B	次年度継続
会性が乏しく就職活動が困難な若者に対す 821回 81回 81回 81回 80回 80回 80回 80回 80回 80回 81回 14回 14回 14回 14回 14回 12目 14回 12目 12目 12目 12目 13回 14回 14回 14回 14回 14回 15回 15回 16回 16回 16回 17回 17回 17回 17回 17回 17回 17回 17	H27年度 進物 ・支援件数 生活保護等 生活保護等 ・日常生活支援(子ども につけるための支援) 1 ・養育支援(ひきこもり	歩状況(今年度の数 受給世帯 43世帯 1帯 3世帯 1よその親が日常的 6人	果・成果) な生活習慣を身 ?に関する支援)	・支援世帯関係の構のながった	評価 第はもとより児童 築により相談や こ。	5の理由 産相談所・関係 F数が増加し、	機関との信頼支援の拡充に支援の拡充に
81回 10回 80回 80回 63回 33回 108回 14回 14回 14回 10のみならず、カンファレンス等の間接的な 10しているため、学校やスクールゾージャル にめとした関係者の理解を深め、連携強化	43人 ・就労支援(社会性が乏 る就労準備支援と保護 ※1人に対し他の支援	5しく就職活動が医 者に対する就労支 長との重複もあり。	難な若者に対す 援) 10人	・関係機関れるよう、	今後 引との連携協力 十分な情報交	6の方向 により支援の 換、意見交換を	充実拡充が図 を行っていく。
	家庭訪問 81回 電話相談 218回 来所面談 80回 同行支援 63回 カンファレンス 33回 関係者調整 108回 研修 14回 研修 14回 で・支援件数の増加に伴 援助時間も増加してい でーカー等をはじめとし を図っていく。	課題・問題点 連携する関係すい、 に、 にな、 かんか、 学校やスペ をため、 学校やスペ と関係者の理解者		・活動の選 で毒業説 ・関係機関 (CSW・子	H28年 開発を深める7 別を実施。 別を実施。 1との役割確認 こども健康課等	度事業計画 め、バ・中学校 のため交流研)	(合同校長会) 参の実施。

事業内容 ・15歳から64歳までの稼働年齢層で就労阻害要因のない生活保護 受給者に対し、就労支援相談員を配置し、ケースワーカーと共に、 ハローク・等関係機関と連携しながら就労支援を行い、就労による も自立を図る。 ・プェだちに就労に結びつくことが困難な受給者に対しては、ユース ワークふじさわ等を活用し、社会性を身につける等の就労準備支援 を行う。	事業内容 事業内容 表別	旧害要因のない生 、ケースワーカーと 就労支援を行い、 就者に対しては、: ************************************	: 活保護 (
サンジャー	H27年度 ●支援を要する受	H27年度 H28年度 H29年度 ●支援を要する受給者に対する個別支援 H29年度 H29年度	H29年度 引支援		H30年度	H31年度
(年次にたの目標値)						
予算額(千円)	4,326	4,235				
次昇報(十円) 執行率(%)	3,020					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 支援総数293人 値)に対するH27年 度末の成果	援総数293人			H27年度の 総合評価	型 B B	次年度 継続
H27年度 進捗	き状況(今年度の対)果·成果)		評価	の理由	野畑の亜甲
平成26年12月に生活接護親に隣接する場所に設置したハ・個ローワークの常設窓口である「ショフオペルシルごさわ」や就 果犬 お子をおおり である アカイル・プライル まん アカース フーカーが社会環境 発験やスキル等を終ら的に考慮するなど、個別の寄り添い型の就労支援。就労準備支援を実	護襲に隣接するがである「ジョブスポートのある「ジョブスポートのをを発しておりを発しているを発いなどのできたのできたがある。これでは、ションの対対を援います。	場所に設置したハ ットふじさわ」や就 日・連携し、ケース 総合的に考慮す だ労準備支援を実	・個別に寄り添い 果が認められた。	が違った。	景を行ったこ	ことで、一定の数
施した。 1 就労支援プログラム (①ハローワーク連携事業支援数 194人 (②ケースワーカー・就労支援相談員個別支援数 ※①②重複支援あり。	業支援数 194人 [支援相談員個別]]。	支援数 172人	今後の ・関係機関との連携協力を に支援を展開していく。	今後 連携協力3 ていく。	の方向 を一層強化	今後の方向 第7老一層強化し、より積極的 、。
就職転職等による増収に至った件数 うち生活保護廃止に至った件数 23/ っ 計労獲権も遅重業注田者数 14人	,	83.7				
			·アウトリーチに 困難な受給者を 各種社会資源	H28年月 より、ただ にユースワ	を事業計画 ちに就労に 一クふじさ 労準備支援	H28年度事業計画・アウトリーチにより、ただちに就労に結びつくことが 困難な受給者をユースワークふしさわるはじめとした 各種社会資源につなぎ就労準備支援を実施する。
課題・問題点・事業の周知・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	深趣 離 離 離					

4	, - -	を		加当部	Π	福祉部
167	- (就	:労準備支援)		相当課		福祉総務課
事業目的生活的第一の一個主義目的	事業目的	7			変更(ある場合	(回
・そこのがつ はいけん		ŝ				
64歳までの稼働年齢層で直占に一般就労することが困難な生活困窮者に対し、就労に必要な基礎能力の形成と就労意欲の喚起を図るため、計画的かつ一貫した支援を行う。	事業内容 で置ちに一般就労 な基礎能力の形 した支援を行う。	ずることが困難な成と就労意欲の頃	生活困 起を図			
	H27年度 H28年度 H29年度 ●支援を要する対象者に対する個別支援	H28年度 象者に対する個別	H29年 引支援		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	著	1	<u> </u> †		1	1
予算額(千円) 计答约(千円)	14,436	14,436				
大字戗(十円) 執行率(%)	100.0					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 生活困窮者就労準備支援事業 値)に対するH27年 支援対象者数(25名) 度末の成果	BB窮者就労準備 爱対象者数(25名)			H27年度の 総合評価	型 田 田	次年度継続
H27年度 進捗	状況(今年度の効 短か会:一郎対屈		・平暦ブガニ	記り 単単分子	(価の単田	
プロでは、次へ、で、ででもない。 数な出い スペン・アンプレン シャット かながみ 共同事業体に、業務を素託し、就労に必要な基礎能力の形成と就労意欲の喚起を図った。 ※相談対応件数 延べ1,073回 (米所:221回、電話・678回、同行:77回、訪問:87回) 、 本書・221回、電話・678回、	情性 五・一般 化四体 「大学 一般 化二 業務を委託し 意欲の喚起を図っ 073回 678回、同行:77回 コギ・カカー カカーカー カーカーカー カーカー カーカー カーカー カーカー カ		・計画とある・ ・支援につなを行うことが を行うことが・ ・就労体験う ことで地域と	の事業を11 がった対象: できた。 5を増やすた: の連携が進	がたらができた。 者を着実に自立 めに企業や事う んできていると	・支援につながった対象者を着実に自立に向けての支援を行うことができた。 を行うことができた。 ・説労体験化を増やすために企業や事業所と話を行った ことで地域との連携が進んできていると考えられる。
※祝労1、結び、プライクタ 2名 ※就労体験を行ったケース数 9名 ※職場開拓・就労体験先開拓数 8団体11事業所	- 人数 2台 - 入数 9名 E開拓数 8団体1・	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・就労に必を図ることでを図ることでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、これが、一般のでは、これが、一般のでは、これが、一般のでは、これが、一般のでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	9 労に必要な基礎能 ることが必要な方 福祉窓口などとの :・: 意見交換をして を積極的に行う。 労権権を引きる場	後の方向 力の形成と影 への支援をす い連携等につい パとともにア の確保をする	今後の方向 ・説労に必要な基礎能力の形成と説労意欲の喚起 ・図のることが必要な方への支援をするため、民生委 自や福祉窓口などとの連携等について十分な情報 交換・意見交換をしていくとともにアウトリーチによる 介入を積極的に行う。
			・社会福祉デージョを引	H28: H28: 法人いきい かながわす	アン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・くったののでは、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
課題・問題点・支援対象者の早期発見をするために事業の周知の方法を検討する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	題・問題点 芝するために事う そずなために事う そず拡充。	-	vô			

者とその家族を対象に、	「五生ねを口消に、若者一人ひとりの	ニート・ひきこもり等の社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者とその家族を対象に、若者一人ひとりの自立を支援する。	する若			
事業内容 「湘南・横浜若者サポートステーション」及び「若者しごと応援塾: ユースワークふじさわ」と連携し、面談 (カウンセリング)をはじめ、福祉や保健・医療など、個別の相談内容に応じた支援を継続的に実施する。	事業内容 トステーション」及 と連携し、面談 (カ 別の相談内容に	CV「若者しこと応せ ウンセリング)をは 応じた支援を継続	援撃: (ごめ、福 的に実			
	H27年度	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	支援実施者数 100人	支援実施者数 100人	支援実施者数100人		支援実施者数 100人	支援実施者数100人
予算額(千円)	10,917	10,917				
決算額(千円) 執行率(%)	10,916					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 支援実施者数99人	援実施者数99人			H27年度の 総合評価	型型 B	次年度継続
177年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・困難を有する若者やその家族に対して、適切な支援を受けられるよう、福祉や保健等といった機関への引き継ぎを行うなど、社会的自立に向けた支援としての第一歩につなげることができた。	s状況(今年度の容 Fの家族に対して、 健等といった機関 I向I†た支援とし	り果・成果) ・適切な支援を受 引への引き継ぎを ての第一歩につな		まぼ近い、	 評価の理由 ・目標値にほほ近い人数まで、困難を有する若者へ の支援を実施できた。	
			・義務教育 能となるケ 始するため 学中からの	終了後の一人力が多く、 学校教・ 学校教・ 支援を進	今後の方向・義務教育終了後の進路未決定者等がひきこもり状態となるケースが多くなる状況から、早期支援を開助するため、学校教育相談センター等と連携して就学中からの支援を進めていく。	等がひきこもり 、早期支援を身 等と連携して記
			・引き続き関支援の充実	H28 関係諸機関 ミを図って	H28年度事業計画 ・引き続き関係諸機関との連携を図りながら個別の 支援の充実を図っていく。	1 リながら個別の
課題・問題点・自立に向けた体験等の場の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	課題・問題点 と体験等の場の確保 ート・ひきこもりの若者やその家族に対しての な人に対する訪問支援等の体制の整備)家族に対しての				

本計画連歩状次報	- 育て支援センター事業	1-24	事業内容 地域の子育で支援拠点として、子育でに関する相談や情報提供、「「事業を行う「子育で支援センター」を運営す 子育でサークルの育成、支援などの様々な子育て支援事業を行う」る。(H28) 「子育で支援センター」を運営する。	H28年度 H29年度 H30年度 H31年度 H30年度 H31年度 H31年度 H31年度 H31年度 H31年度 H30年度 H31年度 H31年度 H30年度 H31年度 H30年度 H30年度 H30年度 H31年度 H30年度 H3	営 4か所の運営 →	66,140	年次ごとの取組計	P効果・成果) 1	H28年度事業計画
2/平度	事業名 地域子育て支	事業目的 安心して子育てできるよう支援体制の充実を図り、 等を軽減し、子どもの健やかな育ちを支援する。	事業内容 !点として、子育でに関す。 成、支援などの様々な子 1を運営する。	H27年度 H28年度 ●子育で支援センターの運営	3か所の運営	52,783 52,365		H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・藤沢・湘南台・辻堂子育で支援センターの3が所の延べ年 間利用者数は61,907人、相談件数は9,322件、巡回子育て ひろば(6か所で開催)の延べ補削用用者数は3,805人 ・子育でひろはの開催・相談・情報提供。諸留等により、安 心して子育でができる支援体制の充実が図れた。	
1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	211(232)	安心して子育てでき、等を軽減し、子どもの	地域の子育で支援拠 子育でサークルの育 「子育で支援センター		年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)	年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)に対するH27年度まの成果	H27年度 <u>後</u> ・藤沢・湘南台・江堂・ 間利用者数は61,907 ひろば(6か所で開催 ・子育でひろはの開催 心して子育でができ?	・孤立懸を持つ母親 ・女・の後能強化に までのかわまないま 南・北保健センダーと 利用拡大にも努める

事業日的 安心して子育でできるよう支援体制の充実を図り、 等を軽減し、子どもの健やかな育ちを支援する。	事来日的 よう支援体制の充身	きを図り 子音アの不安感			※ 円 (のの)を回	ī
	重やかな育ちを文形	14 % 14 % 15 %	A A B B B B B B B B B B B B B B B B B B			
事業内容 子育で中の親子の交流やつどいの場の提供、子育でアドバイザーによる子育で相談、子育で情報の提供などを行う「つどいの広場」 を運営する。また、地域において「つどいの広場」に準する活動を実施している団体等に対して支援する。	事業内容 記やつどいの場の対 育で情報の提供ない において「つどい して支援する。	是供、子育てアドバビを行う「つどいの どを行う「つどいの か広場」に準ずるぶ	バイザー 0広場」 5動を実			
	H27年度 ●つどいの広場の	H27年度 H28年度 ●つどいの広場の運営	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	4か所の運営	1	<u> </u>	H	†	1
予算額(千円)	17,152	17,580				
決算額(千円) 執行率(%)	16,663					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 鵠沼・善行・藤が岡・中里つどいの広場の4か 値)に対するH27年 所の運営 度末の成果	沿・善行・藤が岡・	中里つどいの広場	易の4か	H27年度の 総合評価	事 B B	次年度継続
H27年度 推构	*状況(今年度の効	果·成果)			価の理由	
- 鵠沼・善行・藤が岡・中里つどいの広場の4か所の延く年・「「 間利用者数は20、932人、相談件数は1,655件 でで、藤沢⑮つどいの広場の開催は かたせ・にこにこ広場 片瀬 月3回 フリースペース "にこにこ、明治 月6回	P里つどいの広場の人、相談件数は1.65の開催は の開催は 片瀬 月3回 に"明治 月6回	04か所の延べ年 55件	·「日頃の て、ほっと せる」等、 や不安等	悩みや後ろば する」「親子」 利用者にとっ が軽減されて	Jきな感情も受けるといったりとして安心できるて安心できるこいるため。	・「日頃の悩みや後ろ向きな感情も受け止めてもらえて、ほっとする」親子でゆったりとした気持ちで過ごせる」等、利用者にとって安いできる場であり、悩みや不安等が軽減されているため。
遠藤子育てさろんのびのび、遠藤 月1回 子音でひろばなシボボ、長後 月3回 大庭子育でさろんびよびよ広場 湘南大庭 月1回 子音でプレイルーム 藤沢 月1回 むらっこひろば 村岡 月2回 むものこひろば 村岡 月2回 提供し、子育でに関する相談・情報の提供・講習等を行う ことで、子育での不安等が軽減された。	のび、遠藤 月1回 長後 月3回 びよ広場 湘南大原 ※沢 月1回 月2回 月20日 月20日 月20日 月20日 月20日 月20日 月20日 月20日	至 月1回 な流できる場を t・講習等を行う	・身近な地 ぞれの地 せる。	今 3域における。 域の特徴を4	後の方向 子育で支援の Eかした子育で	今後の方向 ・身近な地域における子育で支援の場として、それ それの地域の特徴を生かした子育で支援を充実さ せる。
課題・問題点 ・子育で支援センターとの連携を図り、栄養士・保健師・保 育士などによる巡回相談を充実させる。	課題 · 問題点 の運携を図り、栄養 談を充実させる。	養士・保健師・保	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H283 第子の交流の 域の情報提(- 一人にあり 事業内をあり よる情報を対 作をの充実	R度事業計画 場の提供 (株の) 株等の実施 た子育で女援 で実を図るたる はのう実施	H28年度事業計画 ・子育で親子の交流の場の提供 ・相談・地域の情報提供等の実施 ・地域の一一ズにあった子育で支援講習等の実施 ・ 4 が所の事業内容の充実を図るため、実施状況の ・ 職員の研修の充実

本 13 事業目的 保護者が就労等の理由により、放課後不在となる家庭の児童の安全・安心な生活の場を提供し、児童の健全育成と保護者の就労支援・子育で支援を図る。事業内容 年 2 (大き 15 で 大き 2 で 10 で	目的 環後不在となる家庭の児 の健全育成と保護者の別 対容 特容 報義では一般である。 対容 は一般である。 は関係を表している。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、		カラボ 変更(ある) 変更(ある) ケゲブンの取組計画を[1	月: (更(ある場合) (計画を「児童	月岁牛踩場合) 場合) 日華7三十1 路日
事業 事業 事業 事業 事業 長を図る放課後 119.7年	内容 課後不在となる家庭の児 * ま業/ 壮調% 旧辛 4 三ゴ		- ころが から「児童 1標値(人)	クラブ定員 数)を修正し	年次にどの私和計画を「児童クラノ人所児 童数」から「児童クラブ定員数」に変更。併 せて目標値(人数)を修正した。
(1974年 1974年 197	、争米、灰球夜近里ソフノ				
(年次ごとの取組計画 児童クラブ (年次ごとの取組計画 児童クラブ (年次ごとの目標値) 第119人 (年次ごとの目標 (日) 570,222 (日本次ごとの目標 (日本次ごとの目標 (日本の定义 (日本の正文	度 H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
予算額(千円) 600.05 決算額(千円) 570.22 執行率(%) 95.0 なことの取組計	定員数 3,352人	3,606人	3,874		4,074 <i>X</i>
	630,891				
ごとの取組計 ※文との目標 :来するH27年 :末するH27年 :末り成果 H27年度 進捗状況(今年 27年3月策定の 藤沢市城課 基づき、10カ所に放課後児童 塩ウラブ (村岡小学校区、中 94月童クラブ (大道小学校区) 学の花児童かラブ(大道小学校区) 学校区)、乗の花児童かラブ(9.				
H27年度 進捗状況(今年 27年3月策定の[藤沢市松課 基づき、10万門に放験後児童 投5カ所・・・ひだまり児童クラブ 度5カ所・・・ひだまり児童クラブ 14年重クラブ(大道小学校区、村 2年のでの花児童からが、東が区、東校区)、東の花児童クラブ(大道小学校区)	祈希望児童の入所率(100	0%) (%) 総:	H27年度の 総合評価	計価 B	次年度 継続
学校区)、菜の花児童クラブ(パー・コー・コー・コー・コー・コー・デー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー	度の効果・成果) 後児童グラブ整備計 グラブを整備した。 (鵠沼小学校区)、キラ 田子どもの家併設)、か 田子どもの家併設)、か	・人所要件を浴であり、目標を	評価 あたす入所 達成してい	の理由 希望児童の るため。	評価の理由 ・入所要件を満たす入所希望児童の入所率は100% であり、目標を達成しているため。
真確保対策5カm…第2lまてへ 3)第2さわ々か児童クラブ(2児童クラブ(天林小学校区) 4小学校区)、第2件の子児童/ 2ぱてんこ児童クラブについて り児童クラブに定員吸収	富士島・小学校区) (富士島・小学校区) (二児童クラブ(鵠沼小 藤沢小学校区) 第2そ (第2小羊児童クラブ フラブ(八松小学校区) (15、平成28年4月からひ	・整備計画によく。	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の方向的な施設整	今後の方向・整備計画に基づき具体的な施設整備を進めていく。
・平成28年度の整備に向け、検討・調整を行った。	調整を行った。				
課題・問題点 前別課後児童グラブ整備計画の計画期間5年間において、みらい 前途財団と十分協議しながら、待機児童の多い小学校区から優 ・特機児童の多い小学校区においては、引き続き借地や借家の ・特権人はしていて、教育委員会や福祉部等と協議・検証を行 題やあり方について、教育委員会や福祉部等と協議・検証を行う ・児童クラブ運営には2人以上の放課後児童支援員の配置が必要であるたか、人員の確保及び資質の向上を図った。	高間を間において、みらい であり、小学校区から優 、、引き続き借地や借家の 対する放課後支援の課 社部等と協議・検証を行 ら児童支援員の配置が必		H 128 年 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	支事業計画 平施設の拡張 明本事業だいでも、検討 いても、検討 る特別な支 設の状況、・ 題を整理し、	H28年度事業計画 ・整備計画に基づき、既存施設の拡充及び新設箇所 の選定等を行うとともに、既存事業者以外の新たな 運営事業者の募集についても、検討を行う。 ・現在試行的に行っている特別な支援が必要な児童 の受け入れについて、施設の状況、介助員の配置、 ウラブまでの移動等の課題を整理し、受け入れに向けた整理を行う。

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 || 事業コード || 担当部 | 子ども青少年部

健全な母性・父性の育成を目指し、思春期保健を推進す	ず来ロピン 成を目指し、思春	10	۰		K K	をとめらずロノ	,
事業内容 原春期における心身の変化や特有な問題について啓発を行い、性 の不安や悩み等に対処できる力を促す。	事業内容 変化や特有な問 できる力を促す。	題について啓発を行	立い、体				
	H27年度 ●思春期講演会	H27年度 H28年度 ●思春期講演会の開催	H29年度		H30年度		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	年1回 年1回 ー ●思春期保健教育の実施	→ → → → → → → → → →	<u> </u>		1		1
	10校	1	<u> </u>		1		1
予算額(千円)	64,682	62,571					
決算額(千円) 執行率(%)	58,349						
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 : 思春期講演会の開催 1位値)に対するH27年 : 思春期保健教育の実施 度末の成果	』春期講演会の開 』春期保健教育の	引催 1回/年 0実施 7校		H27年度の 総合評価	6 н	· · · · ·	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・思春期の子どもたもの特徴や課題を理解するため、思春期の子どもの保護者だけでな、思春期の子どもを支える 学校職員、養護教諭、母子保健従事者なども配寿期の子 どもへの関わり万を学ぶことで、よりよい関係を築くこと 目的として講演会を開催し、参加者から「講演内容が良	は、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	か果・成果) 解するため、思春 の子どもを支える なども思春期の子 はも思春期の子 関係を築くことを 講演内容が良	・講演会については ・思春期保健教育に 校数が少なかった。	ういては 健教育に なかった。	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	軍由 リニ行う: t、当初の	評価の理由 ・講演会については、計画通りに行うことができた。 ・思春期保健教育については、当初の計画より実施 校数が少なかった。
がらに。」 子ともとの風イッカルの参右によった。 JAと な話を答信で、 まらまりかかるうちの子の思春期!」 12月14日 1400~1600	ひらるののをもに、の思春期!」		講演会に 市内南北 検討もして	ういたば あ換 た 枚 1 ご く。	今後の、 (目的に 写に開催	5 かった講 するなど	今後の方向 ・講演会については、目的に各った講師を選ぶこと、 市内南北地域で交互に開催するなど、会場選びの 練討もしていく。
藤沢田珠隆医旅でノダー 3階 町修生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	- 3届 労修金 ちが、自分自身を 特増進を図れるJ した。 講座 き高校1校 計7枚		・思春期保 についての ついて理像 でのスキノ	/健教育に り正しい知 解できるよ アップと!	: ついてに 戦や避り うな略発 事業周知	t、子ども H方法、派 を広める Pを行める Iを行って	・思春期保健教育については、子どもや保護者が性についての正しい知識や避妊方法、病気の予防について理解できるような啓発を広めるために、課内でのスキルアップと事業周知を行っていく。
課題・問題点 ・講演会:・地域でも思春期保健に関する講演会が実施されている現状があり、母子保健で行う思春期健康教育については、保護者や関係者で見守れる関係スくりなど、地域づくりの視で計画できるようエ夫が必要である。・・思春期保健教育学校でと「宇学習目標や依頼内容が異なるため、事前打ち合わせを密にする必要がある。	果題・問題点 期保健に関する 育で見守れる関係 含でユナポが必 るようエ夫が必 ことに学習目標と	講演会が実施され 期健康教育につ ドづくりなど、地域 をである。 や依頼口容が異な がある。	・講演会に、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H2 ついては いら計画に (健教育に 牧艶部会で 保健師が	8年度事 、 内容 : ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	業計画 講師・日時 別知を広く 大、小・中? 比張講座 おわれるよ	H28年度事業計画 ・講演会については、内容・講師・日時・会場などを ・程度明けから計画し、事業周知を広く行いながら実施してい、・ ・因春期保健教育については、小・中校長会や教頭会、養護教諭部会で周知と出張講座依頼を呼びかけ、多くの保健師が事業に携われるようにする。

215(234-724-831) ・・・ 子どもを軸とした連携により子どもを軸とした連携により・・ 中学校区を基本に設置さすちの健やかな成長を支援すし、地域の実情に応じたがたがしたいたがにいたい	本田本田 本田本田 本田本田 本田本田 本田本田 本田 和 和 和 和 和 和 和 和 和		(超下耳	m1	学校教育企画課	
子どもを軸とした連携に 中学校区を基本に設置 ちの健やかな成長を支 し、地域の実情に応じ	車等田内			Ī	,		月正岡煕
・中学校区を基本に設置 ちの健やかな成長を支 し、地域の実情に応じ <i>t</i>	エキリ、地域づくり及	事業目的 、地域づくり及び学校支援を図る	°°		変更(変更(ある場合)	(.
施する。 ・PTA活動を支援するために藤沢市PTA連絡協議会への業務委託 及び研修会等を実施する。	事業内容 ・中学校区を基本に設置された地域協力者会議において、子どもたちの健やかな成長を支援するために、地域の課題について討議し、地域の実情に応じた学校支援や家庭教育に関わる事業等を実施する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 	子どもた 許議 等を実 務委託				
	H27年度 H28年度 H29年度 H29年度 → H29年度 → H20年度 → H20年度 H20年度 + H20年度 → H20年	H28年度	H294 実施(会	丰度 長会、業彩	H30年度 、業務委託の実施)		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	参加者総数 33,100人 ●PTA育成事業の実施(業務委託	33,200人)実施(業務委託、	33,300人 研修会等の開催	人 開催	33,400 <i>A</i>		33,500人
-	州岩	1	1		1	r	1
予算額(千円) 決算額(千円)	5,574 5,460	5,574					
執行率(%) 年次ごとの取組計	0.86					計価	次年度
画 (年次ことの目標)・地域協力有会議」の参加者総数 33.390人値)に対するAP27年 - PTA育成事業で、業務委託、研修会を実施展来の成果の成果	地域協力者会議」 JTA育成事業で、業	D参加有総数 33 務委託、研修会を	5,390人 5,390人	H27年度の 総合評価	6 _用	ш	維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・学校・家庭・地域連携推進会議「会長会」に業務を委託 し、子どもたちの健やかな成長を支援する事業を各地域で	歩状況(今年度の効 推進会議「会長会」 な成長を支援する		評価とおりの事業を行うことができた。	いの事業	評価の3 を行うこ	理由 Ŀができた	٥
*(会 表 と)	した。 会長金」の開催 年4回(5/12 8/25 11/17 2. は情報交換・他団体との意見交換・実績報告等) 地域事業、会議等参加者数 33.390人 30.3390人 30.3390人 30.3390人 30.3390人 30.530分事業を表施。 初下57人連絡協議会に業務を委託し、各校のP7 の7とめの事業を表施。 初にめの発行 年3回(月 11月 3月) 校P7 A7型が光調音の実施。 海級の発行 年3回(月 11月 3月) 校P7 A7型が光調音の実施。 第一次の実施。 第一次の実施。 第一次の実施。 第一次の実施。 第一次の表面を表示を記して 第一次の主題を表示を記して 第一次の主題を表示を記して 第一次の主題を表示を記して 第一次の主題を表示を記して 第一次の主題を表示を記して 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者連携を知ってもらうために関係 第一次の方に三者を表示してものを記事業に、より多く	11/17 2/2) 90ん 381/子どものお がる講演会を実 各校のPTAの 1) 5言葉が(けにつ ジアにして」 ジアに関知の方法 、より多くのPTA	・学校・家庭・地域 最本文語するため を放在している。 技術としていることを広報 でいることを広報 で発信していく、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	歴・地域でしている。 オるため、 ていた。 でいている。 でしている。 でである。 歴・地域談 をとたわる。 でで表すたち でで表すたち でで表すたち でで表すたち でで表すたち でで表すたち でで表すたち でである。	今後の方向 ・今後の方向 ・必、会長会で十分 ・等業に各地域協 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	カ向 (カレてイイン) (カレてイイン) (オーケン) (大一ケン) (大一ケン) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	今後の方向 長を支援するため、会長会で十分な情報交換・意見 交換をしていく。 ・様々な地域の事業に各地域協力者会議が関わっていること在広報紙、ホームページ、教育フォーラム 等で発信していく。 ・藤沢市PTA連絡協議会への委託事業について、 周知を図る。 ・学校・家庭・地域運携推進会議「会長会」に業務を を表記し、子ともため健やかな成長を支援する事業 を各話し、子ともたの健やかな成長を支援する事業 を各話し、子ともため健やかな成長を支援する事業 を各地域で実施する。 ・藤沢市PTA投員研修会の委託事業の実施。 ・藤沢市PTA投員研修会の実施(4コース) ・藤沢市PTA投員研修会の実施(4コース) ・藤沢市アTA投員研修会の実施(4コース) ・ 藤沢市アTA投資研修会の実施(4コース) ・ 藤沢市アTA投資研修会の実施(4コース) ・ 藤沢市フィーラム」を開催する。

争来目的 ・幼稚園及び幼児教育施設の教職員の資質向上 ・幼児教育の充実及び活動支援 事業内容	事来日的 施設の教職員の資 活動支援	質向上			炎更(める場面)	įa
藤沢市私立幼稚園協会 員の研修、研究費及び う。	事業内容 藤沢市私立幼稚園協会及び藤沢市幼児教育協議会に対じ、教職 員の研修、研究費及び私立幼稚園協会等の運営活動に補助を行う。	教育協議会に対じ	、教職を行			
	H27年度 ●運営補助	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施	1	1	-	1	1
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)	4,630 4,630 100.0	4,630				
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標) 幼稚園協会に対する補助金 403値)に対するH27年 幼児教育協議会に対する補助金度を決しる対する相別金額を表示の成果	稚園協会に対する 別見教育協議会に対		£	H27年度の 総合評価	評価 B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・年度当初(4月1日)に補助金交付決定を行い、6月、10 月,2月の年3回に分けて、交付決定額の1/3ずつ補助金を出した。 を対出した。 ・年間3回の補助金交付により、幼稚園協会、幼児教育協議会の安定した運営を支援することができた。	野状況(今年度の数補助金交付決定者補助金交付決定額でて、交付決定額の付決定額の付けにより、幼稚園は対により、女援することができ	県、成果) 行い、6月、10 1/3ずつ補助金 3余 幼児教育協 きた。	・予算の執 助金交付で め。 ・・今後も補	15 行率は100 (あり、もとす 4 10 10 10 10 10 10 10 10	(価の理由 %ではあるが 5と目標という 後の方向 切児教育の	評価の理由 ・予算の執行率は100%ではあるが、事業内容が補助金交付であり、もともと目標という概念が無いため。 め。 今後の方向 ・今後も補助を継続し、幼児教育の推進を図る。
課題・問題点 ・補助金交付を目的とする事業であり、基本的には毎年度 執行率は100%となることから事業としての評価が困難で ある。	課題・問題点 する事業であり。基 とから事業として		・藤沢市和立 金に対し、教 補助を行う。	H28. 改改和權國協 於職員の研	年度事業計画 1会及乙藤沢 究・研修費、	H28年度事業計画 ・藤沢市私立幼稚園協会及び藤沢市幼児教育協議会に対し、教職員の研究・研修費、及び運営活動に 補助を行う。

	名 幼稚園等別	幼稚園等就園樊励賀補助金事業 担当課 担当課	米・米・米・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	開計開		日本語
, cr # 17 ** 6; ~ / * ** -				七二环		不月沫
7 17 14 17 () 17 14 11	事業目的				変更(ある場合	(中)
保護者の終済的負担の 励する。	の軽減を図ることで	、幼稚園等への就	に園を奨			
事業内容 保護者の経済的負担の軽減を図るために、就園している園児の保育料を、園児の世帯の所得状況や兄姉の人数に応じて減免を行った幼稚園等の設置者に対して、減免相当額の補助を行う。	事業内容 7軽減を図るために 所得状況や兄姉の た対して、減免相当	、就園じている園 い人数に応じて減9 額の補助を行う。	児の保 発を行っ			
	H27年度 H28年度 ●設置者への補助	H28年度 功	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	米	1	Î		1	↑
予算額(千円) 決算額(千円)	841,411	811,678				
新行率(%の 193.7 に 193.7 に 国児の保育料を減年次ごとの取組計 保護者の所得状況に応じ、國児の保育料を減固(年次ごとの目標 焼する。 1940を置者に対して、減免額を助値 に対するH27年 (株印金文付対象者:7.469人 1480を入口の表 1480金文付施設:108国		二階免	育料を減 8額を助	 H27年度の 総合評価	型 V	次年度継続
H27年度 連捗状況(今年度の効果・成果) ・保護者の所得状況に応じ、園児の保育料を減免する幼・稚園の設置者に対して、減免額を助成した。 (スケジュール) ・6月中旬・補助金交付申請書受理(当初分) ・1月中旬・補助金交付申請書受理(追加分) ・2月上旬・補助金交付(追加分) ・2月上旬・補助金交付(追加分) ・4間・補助金交付(追加分) ・補助金交付対象者・7.469人 ・補助金交付対象権・7.469人 ・補助金交付対象施設・108園 ・補助金交付額・805,576,745円	歩状況(今年度の効 応じ、園児の保育学 、減免額を即成し 、減免額を即成し ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	果)	・保護者C の就園を られた。 ・今後も和		評価の理由	評価の理由 ・保護者の経済的負担を軽減することで幼稚園等へ の就園を奨励することができ、幼児教育の推進が図 られた。 今後の方向 ・今後も補助を継続していく。
課題・問題点・ ・国庫補助対象事業であり、国が「幼児教育の無償化に向 けた取り組みを段階的に推進する。」としていることから、 国の動向に注視する必要が有る。	課題・問題点 あり、 国が「幼児教 に、推進する。」として シ要が有る。		・本市在行い、東市を記録ので、東京の東京ので、東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東	H28 事業を憲分 資業を憲分 資を補助金と	年度事業計画	H28年度事業計画・本市在性児童が在籍し、その保護者の所得状況にいた、保育財を減免する幼稚園・幼児教育施設に対し、減免額を補助金として助成する。

 事業コード
 平成27年度 藤沢市教育振興助成事業
 日当部 子ども青型と3

事業目的 ・市内幼稚園等の教育環境及び衛生管理事業の充実 ・保護者の経済的負担軽減

年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)						
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 ●市内幼稚園等	H27年度 H28年度 ●市内幼稚園等への補助	H29年度	H30年度		H31年度
	開	†	<u> </u>	1		1
予算額(千円)	20,813	20,627				
決算額(千円)	20,267					
執行率(%)	97.4		•			
年次ごとの取組計画(年次ごとの取組計画)を対していません。 (日本次ごとの日標 市内私立幼稚園(33園)・幼児教育施設(11個)に対すを17年 国)に対する補助金交付度、表の成果	4私立幼稚園(33 こ対する補助金3	園)·幼児教育施訂 交付	及(11 H274	H27年度の 総合評価	申 4	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・10月に補助金交付決定を行い、10月,2月の年2回に分けて、補助金をなけした。 (補助金額の13周):19,057,400円・私立幼稚園(33園):19,057,400円・私立幼稚園(31個):1,209,400円・幼児教育施設(11園):1,209,400円	状況(今年度の効 Eを行い、10月, 2 :。 ,057,400円 1,209,400円	果・成果) 月の年2回に分	評価の理由 ・市内私立幼稚園及び幼児教育施設の教育環境、 衛生管理事業の充実、及び保護者の経済的負担が 軽減された。	評価の理 園及び幼児教 り充実、及び係	自由 (育施設 (護者の)	の教育環境 経済的負担
			今後の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	今後の方 継続していく。	向	
1 #1	 		H28年度事業計画 ・市内私立幼稚園33園と幼児教育施設12園に対し、 園具や教材教具等の職入経費、及び健康管理事業 に要する経費等を助成する。	H28年度事 園30園と約児 等の購入を řを助成する。		2000年 1000年 1000年

1.05.5 1.05.5	7.4点 幼稚	及	林子二, ※	当年 多人	元 款 口 車子ども	宣 子ども青少年部 ^{加支調}
724	H			出まれ	保育 (本スセク	(宋月) (100)
幼稚園が行う預かり保育の人件費等を助成することにより、保育料の軽減や保護者の就労機会の拡大を図る。	ず来日的 「の人件費等を助機会の拡大を図る	成することにより、 5。	保育料		X (8)	,
事業内容 保育を必要とする児童の保護者が、保育所だけでなど幼稚園も選択できるような環境づくりの一つとして、預かり保育(延長保育)を実施した私立幼稚園の設置者に対して、実施に要する人件費及び保育経費の助成を行う。	事業内容 7保護者が、保育 100ーつとして、預 6者に対して、実加	がだけでなる幼稚! かり保育(延長保 他に要する人件費	園も選 育)を実 及び保			
	H27年度 H28年度 ●人件費等の助成	H28年度 龙	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	美	†	1		1	<u></u>
予算額(千円) 決算額(千円) 劫行率(%)	23,710 19,792 83.5	28,049		++		
47.1 (1975) (1975年)	55.5 当教員を配置し、引 が稚園に対し、実 たる。 かり保育実施幼科	負かり保育を実施 施に要する人件費 権園 26園 他	する私等を助	H27年度の 総合評価	- - - - -	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	状況(今年度の効 (実施する預かり) そ付した。また、施 と育に対しては業	果・成果) 、	・平成274 予定を下[評 (度において 回ってしまう)	価の理由 は、預かり保育 さため	評価の理由 ・平成27年度においては、預かり保育の実績が当初 予定を下回ってしまったため
・操水で私立が配回付かり保育性准事業賃伸即並 26國 15.089 000円 ・幼稚園長時間預かり保育支援事業補助金 1國(市外) 1.388,000円 ・幼稚園型一時預かり事業 8園 3.343,720円	い保育推進事業: 育支援事業補助		・保育需要 る保護者/ よう、また け 面となる 間 化を推済	の増加に対 での増加に対 が保育施設 、小規模保育 ったう、幼稚園	後の方向 応するため、ほ ごけでなく幼稚 3事業所等から IIこおける預か	今後の方向 保育需要の増加に対応するため、保育を必要とする保護者が保育施設だけでなく幼稚園も選択できるよう、また、小規模保育事業所等からの卒園児の受け皿となるよう、幼稚園における預かり保育の長時間化を推進する。
課題・問題点・幼稚園におげる預かり保育の長時間化については、施設側の理解と協力が不可欠であるが、制度内容がまだ十分に浸透しておらず、また年度当初は利用者数を見込みで算出せざるを得ないため、年度末に補助金の変更交付や変更契約が必ず必要となる。	題・問題点保育の支持間に関係するあが、制度をであるが、制度をであるが、制度をできまりは利用するを要しままでは、一般をできます。 マイ・ボール・マー・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボー	こついてば、施設 内容がまだ十分 当数を見込みで 全の変更交付や	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年度 に対する従来の による補助制度を 即成を行う。また いてる預かり保育 になる行う。また になるでした。	年度事業計画 の預かり保育 の預かり保育 を見信 育を実施する うた、夏期休業 育を推進し、号	H28年度事業計画 ・幼稚園に対する従来の預かり保育の開設時間・開 設日数による補助制度を見に、年間を通じて継続 的に開園日に預かり保育を実施する場合の人件費 に対して助成を行う。また、夏期休業等の長期休業 説期間における預かり保育を推進し、保護者の多様な 保育ニーズに応えていく。

 平成27年度 藤沢市教育振興基本計 画進捗状況報告書

 事業コード 事業名 | 効構圏 張育所 小学校・中校・特別を提学校選携権通事業 | 担当部 | 教育お・子ども青少年部 | 2.55

	273				担当課	教育相 輪	教月扣导床 体月床
第一条 の	・園児等が小学校の4 活がスムーズに行え、 ・中1ギャップの解消と る。	事業目的 第子を知ることによい る。(小1プロブレム と、義務教育9年間:	人就学後、児童の: の解消) を見通した教育を推	学校生 £進す		変更(ある場合	(ব্য
(年次ごとの取組計画 ●推進協議会・研修会等の実施 H29年度 H29年度 H29年度 H31年度 H31年度 H27年度 H27年度 H27年度 H27年度 H27年度 H27年度 H27年度 M22との取組計画 ●推進協議会・研修会等の実施 H27年度の M23 30 30 30 44年度の M24年度 M24年	・幼稚園・保育所・小・ からなるり、保・小・ 特別支援学校を小学 携の推進を図るため、 ・就学前の園児等の、 ・就学前の園児等の、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	事業内容 中。特別支援学校公 中連構推進協議会 技之中,特別支援学校 協議、研修、改法等 に受校訪問及び小学 種間の道携を図る。 記文換を積極的に行 見の可能性等につい	り関係者、学識経事を設置し、幼児教育を設置し、幼児教育を受験し、幼児教育の充実及行う。 行う。 学校児童と中学校生 学校児童と中学校生	第4番等 A A A A A A A A A A A A A A A A A A A			
 予算額(干円) 30 30 30 30 4本文との目標 (公長・日本) 00 4本文との目標 (公長・日本) 00 4年文との目標 (公長・日本) 00 4年文を入事 (公長・日本) 00 4年文 (公長・日本) 00 4	年次ごとの取組計画 年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	17.7	H28年度 施校30校、小中連 所修会等の実施	H29 ⁴ 携実施校	丰度 ト 55校との連携 		H31年度
			1	1		1	1
(表) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	予算額(千円)	30	30				
年次ごとの取組計画(年次ごとの国標) (1) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	決算額(千円) 執行率(%)	0					
HZ7年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 計画の理由	年次ごとの取組計画(年次ごとの取組計画)年次ごとの目標値)に対するH27年度まの成果	5. 幼保小連携30校、J	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	桕	H27年度の 総合評価	上 国 B	次年度継続
・幼稚園、保育所、小学校、中学校、特別支援学校連携担 ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、特別支援学校運携担 にいる連携を表している連携の必要性や効果については全校で実別にかかる実践の紹介や情報交換を行った。 ・幼、保、小、中、特別支援学校の組造を対象に合同研修 現土体の支援的の指数では、 ・幼、保、小、中、特別支援学校の職員を対象に合同研修 現土体の支援を行った。 ・幼、保、小、中、特別支援学校の職員を対象に合同研修 現土体の支流が行われた。 会を行い、連携の必要性や護島、具体的な実践等について ・の講演を聞き理解を深めた。また、地域協力名会議の ・地域の学校や園の間で、年間計 ・中学校学区を中心とした近隣の学校や園の間で、年間計 ・中学校学区を中心として近隣の学校や園の間で、年間計 ・中学校学区を中心として近隣の学校や園の間で、年間計 ・地域の学校や園の間で、年間計 ・中学校学区を中心として近隣の学校や園の間で、年間計 ・地域の学校や園の間で、年間計 ・中学校学区を中心として近隣の学校や園の間で、年間が ・地域の学校や園の間で、年間計 ・地域の学校や園の間で、年間が ・地域の学校や園の間で、年間が ・地域の学校や園の間で、年間が ・地域の学校や園の間で、年間が ・地域の学校や園の間で、年間計 ・地域の学校や園の間で、年間が ・地域の学校や園の間で、年間が ・地域の学校と園の間で、年間が ・地域の学校と園の制度、大いを表えるが、より ・大を状に、その推開したが、といるを表えること、子どもたっ一人の、 ・お立保育所や私立が推園へ ・和、展覧が高の実験機合を対し、ものであるよること、子ともたっ一人の、 ・私立保育所や私立が推園を表しい、もの間を観点を表して、第 ・が展した。今まで見られなかと新しい試みや、交流の深 ・対様国にも変いなが、地域を表して、私の間でに、 ・幼稚園にも「実践事例集」の原稿執筆を依頼しているが、 ・が展別の主が表して、 ・幼稚園にも「実践事例集」の原稿執筆を依頼しているが、 ・が展別によるを表する。 ・が構画にも「実践事例集」の原稿執筆を依頼しているが、 ・「特別などが中のであるた。 ・が様的な学びという視点で教育活動や指導に生かす とこるまでには至っていない。	H27年度 進	掛状況(今年度の交			盐	価の理甲	
を発の方向 では、一部の必要性を発動し、また、地域協力者会議の 代表の方々を招き、地域・家庭・学校の連携活動を紹介した。 で、一学校学区を中心とした近隣の学校や園の間で、年間計 の在り方を考える視点や意識をもつこか、よりした。 は、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童 生徒に、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童 生徒に、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童 生徒に、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童 生徒に、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童 生徒に、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童 生徒に、そのかかい、支援が機構できるようになった。 全校からの異校種間交流の実験機構を受け、それらを表 とめた冊子「平成27年度が保持を受け、それらを表 とめた冊子「平成27年度が保持を受け、それらを表 とめた冊子「平成27年度が保持を受け、それらを表 とかた冊子「平成27年度が保持を受け、それらを表 とかた冊子「平成27年度が保持を受け、それらを表 とかた冊子「平成27年度が保持できるようになった。 ・私立保育所や私立の推園へ担当者会の開催連絡をする。 ・私立保育所や私立の推園へ担当者会の開催連絡をする。 ・私立保育所や私立の構画、担当者会の開催連絡をする。 ・初様園にも「実践事例集」を ・幼稚園にも「実践事例集」を ・幼稚園にも「実践事例集」を ・幼稚園にも「実践事例集」を ・幼稚園にも「実践事例集」の原稿執筆を依頼しているが、 ・「行事の交流や教職員の情報交換などが中心であるた。 ・ のはないないによるが、 ・ いました。 ・ いました。 ・ おは、はを関か、な流の深 ・ おは、はを図る。 ・ いました。 ・ おは、はを図を ・ おは、はを図を ・ いました。 ・ おは、はを図を ・ いました。 ・ おは、はを図を ・ いました。 ・ おは、はを図を ・ いました。 ・ いました。 ・ いました。 ・ おは、はを関か、な流の深 ・ いました。 ・ いました。 ・ いました。 ・ いました。 ・ いました。 ・ いました。 ・ はいました。 ・ いました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ いました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ いました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ いました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ いました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ いました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にました。 ・ にないました。 ・ にないをした。 ・ にないました。 ・ にないないないないないないないないないないない	・幼稚園、保育所、小当者会を開催した。小当者会を開催した。小担当者1名、幼稚園・にかかる実践の紹介・幼、保、小、中、特別・・幼、保、小、中、特別・・・・	学校、中学校、特別・中学校、特別・中学校担当者53名保育所の担当者28名や情報交換を行っても情報交換を行っては関連を登りませたの職員を	支援学校連携担合との演選等校のでは、連携を対し、連携をが出席し、連携に、対象に合同研修対象に合同研修	・幼保小品・公保小品・公はだい、校、小学材れている。児童生徒	1特連携についる理解が深まなと中学校の実施内容は、実施内容はの交流が行	いての必要性い、幼稚園・砂味園・砂・幼稚園・砂連携について戦員間の情報のかれた。	や効果につい R育所と小学 Iは全校で実施 R交換や幼児と
・中学校学区を中心とした近隣の学校や園の間で、年間計 市学校学区を中心とした近隣の学校や園の間で、年間計 した。地域の学校や園の教員が協力し合う素地ができた。 また、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童 生徒に、きめ部かいと投が継続できなようになった。 を投からの異校種間交流の実展であようになった。 とめた一下子になりが発音を表えること、子どもたちの質質や能力を を校からの異校種間交流の実践では、大いをから、 とめた一下子になりが報告をおよい。 大型工保育所や私立の権圏へはかった新しい試みや、交流の深 まりや広がりが報告された。 ・私工保育所や私立の権圏へ担当者会の開催連絡をする。 ・私工保育所や私立の権圏へ担当者会の開催連絡をする。 の回々の発達段階や教育的ニーズを踏まえた実 を構造していくのかを考えること、子どもたちの、質学を能力 の回々の発達段階や教育的ニーズを踏まえた実 を推進していく。 が展小中特別支援学校間の連携を推進し、校園 の日滑な接続及が別に期の教育を基礎とし、、 ・幼稚園にも「実践事例集」の原稿執筆を依頼しているが、 に役立てる。 ・「事の交流や教職員の情報交換などが中心であるた。 ものには至っていない。 ものには至っていない。 ・「中域の大型なが、本面、表面を ・「中域の大型なが、本面、表面を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域の関係を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型なが、中域を ・「中域の大型などが中が、であるた。 ・「中域の大型なが、中域の大量を ・「中域の大型などが中が、であるた。 ・「中域の大型なが、中域の大量を ・「中域の大型などが中が、であるた。 ・「中域の大型なが、中域の大量を ・「中域の大型などが、中域の大型を ・「中域の大型を ・「中域の大型などが中域の大型なが、中域の大型を ・「中域の大型などが中が、ます。 ・「中域の大型などが中が、ます。 ・「中域の大型などが、中域の大型を ・「中域の大型などが中が、ます。 ・「中域の大型などが、中域の大型を ・「	会を行い、連携の必要 ての講演を聞き理解? 代表の方々を招き、対	e性や課題、具体的を深めた。また、地域を深めた。また、地域がは、家庭・学校の道	な実践等 こつい 対協力者会議の 携活動を紹介し	・幼保小コーナー	今っ特の教員が はアベキニとは	後の方向「義務教育を行って、	終える段階で身間 おおまれ
	た。・中学校学区を中心と・中学校学区を中心と国を基に交流、学校別した。地域の学校や圏また、各学校間の情報	:した近隣の学校や 学などについて調 国の教員が協力し合 &交換により、支援	園の間で、年間計整し、交流を実施で素地が、交流を実施い素地ができた。	である。など、など、など、など、など、など、など、などををはるなどを、は、などを、は、などを、は、などなどなどなどなどなど。	20、CCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCC	な教育、中学社や意識をもつ、を基礎として、 子どもたちの	A M M M M M M M M M M M M M M M M M M M
L	生徒に、きめ細かい3 ・各校からの異校種間 とめた冊子「平成27年	で援が継続できるようで表示の実践報告を まままでは報告を である。 である。		はしていく の個々の を推進し	のかをあえる発達発達段階や考 これ、	ouck、 を を を は と は と は と は と は と は と は と は と と と と	らたち一人ひと を踏まえた実践
	作成した。今まで見ら まりや広がりが報告さ	れなかった新しい記れた。	ばみや、交消の深	・幼保小中	H284 1特別支援学 ## # # # # # # # # # # # # # # # # # #	F度事業計画 校間の連携を 出る 売 売 す	推進し、校種に
リングスに、もの変すりのであるたら、 ・行事の交流や教験員の情報交換などが中心であるため、連続的な学びという視点で教育活動や指導に生かす ところまでには至っていない。	・私立保育所や私立後際の連絡手段に課題際の連絡手段に課題園の参加が少ないこ・幼稚園にも「実践事	課題・問題点 力稚園へ担当者会の があるなど、私立係 と。 例集」の原稿執筆を オ-		の 日 教育 名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	接続及い刻げ 引を見通した に践事例集の る。	5期の教育を記め教育を記め、 教育の推進を「活用を図り、背 活用を図り、背	Bでとして、報が図る。 図る。 教育連携の実践
	ロなカストーもです ・行事の交流や教職。 め、連続的な学びとい ところまでには至って	する。 員の情報交換などか う視点で教育活動 いない。	、中心であるた や指導に生かす				

· ##		; ; !		; -	444	[N	11.14.40
#* 231	事業名		子育てふれあいコーナー事	業無	相開開開	子にもほろ	子とも自少年即子育て企画課
事業目的 地域において、子育で中の親子の交ぶ てに対する不安や悩みの軽減を図る。	子育て中なを含めの	事業目的 の親子の交流や 軽減を図る。	事業目的 子育で中の親子の交流や相談の場を提供し、子育 や悩みの軽減を図る。		変更(ある場合) H28年4月より、六会子育で支援センターが 開設されるため、中部地区で未実施だった 石川児童館においても実施する。(H28)	5更(ある場合 六会子育です 、中部地区で さいても実施す) 5援センターが *未実施だった する。(H28)
地域子供の家米 などによる子育- る。	5児童館会で中の親	事業内容 軒において、保胃 子の交流、情報	事業内容 地域子供の家や児童館等において、保育士や子育でボランティア などによる子育て中の親子の交流、情報提供、育児相談を実施す る。	1			
		H27年度 交流·情報提供	H27年度 H28年度 S交流·情報提供·肯児相談の実施	H29年度 6		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)		21か所で実施	22か所で実施			<u></u>	<u>†</u>
予算額(千円)	д)	486	460				
決算額(千円)	Ē,	342					
一年の一年(28年) 年次 ディータ 日本		4.00				計	次年度
十次にころなが記 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果	3標 7年 地域	子供の家及びリ	1か所	:実施	H27年度の 総合評価	<u>a</u>	継続
H27年5	吏 進捗礼	犬況(今年度の対			評句	5の理由	
.あいあい 地域子供の家17か所、児童館4か所、計21か所で月1回 23.4・8月1は休み)実施 年間187日実施、延へ年間利用者数2.971人 きらきらぼし	7か所、児()実施()実施()産べ年	.童館4か所、計: 引利用者数2.97 ⁻		・H26年度 ピーター。 る場、相談 がされて	・H26年度より利用者数が増加しており、利用者がリ ピーターとなっていることで、親子で安心して過ごせ る場、相談できる場として、子育ての不安等の軽減 がされているため。	が増加しており で、親子で安 C、子育ての4	J、利用者がJ 心して過ごせ r安等の軽減
獭沢・八松・湘南 沲	1台子ども	の家にて、週1	回(8月は休み)実	国乙醇	今後の方向:第三日十八:5、五十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	その方向 みおまの輪を占	7 + 1 + 2
年間99日実施、 ・子育てボランテ 録	延べ年間イア様成	利用者数は1,4, 講座開催への以	年間99日実施、延べ年間利用者数は1,424人 ・子育てボランティア養成講座開催への協力、18人新規登 録	H	T 0.304 (200 T	がまっている。	°0
・子育てボランティア情報交換会及びフォローアップ研修3回実施	イア情報	交換会及びフォ	ローアップ研修				
				・あいあい しと合わ・ ・子育 て・	H28年度事業計画・あいあいは石川児童館でも開催となり、きらきらぼしと台かせて22か所で実施。・子育てボランティア数は60人	度事業計画 3でも開催とな 2施。 160人	り、きらきらぼ
・子育でボランテ 始となると、体調 なり活動可能ない 500円で上限5.00 ティアが少ないは	講 ・イア数は 調関係でク ボランディ の田の見 も域の事。	題・問題点 増加しているが、 (席等もあり、シ アが限定される 直しも検討する 集の周知に努め 集の周知に努め	課題・問題点 ・子育でボランティア数は増加しているが、実際に活動開始となると、体調関係で欠席等もあり、シア制題を的類性とかり活力・アイアが収定される地域もある。1回500円で上版3,000円の見直しも検討するとともに、ボランティアが少ない地域の募集の周知に努める。	· 	てボランティア 養馬 てボランティア 情報 3回実施予定	抗講座開催へC 8交換会及び7 8000000000000000000000000000000000000	の宿力 フォローアップ

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 事業コード 事業コード はきまく 地域 きょうしゅん おきょう はいかん 東第コード 担当部 子ども青少年部

事業目的 安心して子育てできるよう支援体制の充実を図り、 等を軽減し、子どもの健やかな育ちを支援する。	事業目的 よう支援体制の充乳				変更(ある	易合)
女心して十宵てできる。 等を軽減し、子どもの係	よう文版体制の允託			1 1 1	- T - H - M - T - T	+
	建やかな育ちを支₺	表で凶い、十月 C O. 爱する。		地域の子育- センターや基 育てに関する	C 支援拠点と 幹保育所とが 5相談や情報	地域の子育て支援拠点として、南・北保健センターや基幹保育所と相互に連携し、子育てに関する相談や情報提供、子育てサー育でに関する相談や情報提供、子育てサー
事業内容 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	事業内容 記として、子育でに1 た、支援などの様々 を運営する。	関する相談や情報 な子育て支援事業		クルの育成、 事業を行う「: る。(H28)	支援などのA子育て支援も	クルの育成、支援などの様々な子育で支援事業を行う「子育で支援センター」を運営する。(H28)
	H27年度 ●子育で支援セン	H27年度 H28年度 ●子育で支援センターの適当	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	3か所の運営	4か所の運営	<u> </u>	1	1	1
予算額(千円)	52,783	66,140				
決算額(千円) 劫行率(%)	52,365					
************************************		 子育て支援センタ-	3か所	H27年度の 総合評価	型 B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・藤沢・湘南台・辻堂子育で支援センターの3か所の延へ年 間利用者数は61,907人、相談作数は9,332件、巡回子育で ンろば(6か所で開催)の延べ年間利用者数は3,805人 ・子育でひろはの開催・相談・情報提供・講習等により、安 心して子育でができる支援体制の充実が図れた。	歩状況(今年度の窓育で支援センター・ 育で支援センター・ 、相談件数は9,32 り延べ年間利用者 ・相談・情報提供・ き援体制の充実が	5条・成果) の3か所の延べ年 22件、巡回子育て 2数は3,605人 精習等により、安 1図れた。	・「親子で 悩んでい ちが軽ぐ らも、子ョ きたため	によったできる いっぱい はっとできる いるのは自分けなった 近友だ ちかん しょうがん かんじん かんしゃん しゃん しゃん しゃん しゃん しゃん しゃく しゃく しょく しょく しょく しょく しょく しょく しょく しょく しょく しょ	4価の理由 場があり良ん ざけじゃない。 ちができた」。 1本安等の軽	解価の理由 年「親子でほっとできる場があり良かった」「子育でで て 悩んでいるのは自分だけたないのがわかって気持 ちが軽くなった」「友だちができた」等、利用者の声か 良 54、子育ての悩みや不安等の軽減を図ることがで きたため。
			・H28年度 正規職員 たっとに。 ては、関 め着かな ターとの。 する。	を表現のでは、 を表現である。 を表してもましてもな。 を表してもな。 をましてもな。 をもな	がの方向 び六金子育- 各2名配置し 客が必要な困 調整など、3 調整など、3 にか、子育で1	今後の方向 ・H28年度から辻堂及び次会子育で支援センダーに 正規職員の保育士を名名和記書し、体制強化を図っ たことにより、特に支援が必要な困難ケースに対し ては、関係機関等との調整など、さらに迅速かつき め細かな対応を行うほか、子育て世代包括支援セン ターとの連携体制で「利用者支援事業」をさらに充実 する。
課題・問題点・加立総を持つ母親に対する支援策として、子育で支援センターの機能強化に併せ、妊娠期から子育で対限にから、までの切れ目ない支援を図るため、さらなる周知を行い、 資南・北保健センダーとの連携による子育て支援センターの 保利用拡大にも努める。	課題・問題点 対する支援策とい せ、妊娠期から子 	(、子育で支援セ 育で期にわたる isる周知を行い、 支援センターの	・子育で家庭 持って家庭 持っ保護者を ・ 南・保護者 ・ の連携によい ・ 保育サービン ・ 保育サービン ・ 子育でに関い ・ 基幹保育の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	H28年度事業計画 ・子育で家庭の個々のニーズに合った子育で、 業として、出産後の早期支援としてのの-6か 持つ保護者を対象とした子育でひろばを充実 ・南・北保健センター(子育で世代包括支援と、 との連携による産前・産後サポート事業等の身 ・保育サービスに関する情報提供 ・子育でに関する相談の実施、関係機関との ・基幹保育所との連携による子育でひろばの 保育園との交流 ・ 接待予防講座としてBP講座、NP講座を実施	年度事業計 別女権として が子子首でひ オ子で首でひ 子音ででひ の実施、関係 の実施、関係 による子音	H28年度事業計画 ・子育で家庭の個々のニーズに合った子育で支援事業として、出産後の早期支援としての0~6か月児を持つくびの名がおりまた。一時・北保護者を対象とした子育でひろばを充実、中部・北保健センター(子育で世代包括支援センター)との連携による産前・産後サポート事業等の実施・保育では関する相談の実施、関係機関との調整・基幹保育所との連携による子育でひろばの開催、保育圏との交流・信待予防講座としてBP講座、NP講座を実施・信待予防講座としてBP講座、NP講座を実施

事業コード事業を	\ i	探入: ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	# 	加当第7	ルボロ 子ども	子ども青少年部
233(212)	1	米卡尼西尔		担当課	子育	て企画課
事業目的 安心して子育でができるよう支援体制の充実を図り、 感等を軽減し、子どもの健やかな育ちを支援する。	事業目的 5よう支援体制の充 2ほやかな育ちを支	5実を図り、子育て 接する。	子育ての不安		変更(ある場合)	(d a
事業内容 子育で中の親子の交流やつどいの場の提供、子育でアドバイザー による相談、情報提供などを行う「つといの広場」を運営する。また、地域において「つどいの広場」に準ずる活動を実施している団体等に対して支援する。	事業内容 サンドルの場の描えてきての場のはなどを行う「つどいのいの」に挙げる	(拱、子育でアドバ り広場」を運営する 5活動を実施してU	イボー こ。 当 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。			
	H27年度 H28年度 ●つどいの広場の <u>運</u> 営		H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	4か所の運営	1	1		1	<u>†</u>
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)	17,152 16,663	17,580				
年次ごとの取組計画(年次ごとの取組計画) (本次ごとの取組計画) (本次ごとの目標 場沿・善行・藤が岡・中里つどいの広場の4か値) (は)に対するH27年 所の運営度来の成果	沼・善行・藤が岡・I の運営		.004th	- H27年度の 総合評価	計量 B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・1舗沼・番行・藤が岡・中里つどいの広場の4か所の延々年 周利用者数は20,932人 相談件数は1,655件 ・藤沢版つどいの広場の開催は かたせ・にこに広場 片瀬 月3回 フリースペース"にこに、明治 月6回 遠藤子育でさろんのびのび 遠藤 月1回 子育でひろはなシボボ 長後 月3回 子育でカンパケレボト 最後 月3回 子育でカンパケレボ場 湘南大庭 月1回 子育でフレイルーム 藤沢 月1回 子育でフレイルーム 藤沢 月1回 ・地域において、主に乳幼児とその家族が交流できる場を 提供し、子育でに関する相談・情報の提供・講習等を行う	情報状況(今年度の効 中里つどいの広場の 1、中里つどいの広場の 場が開発します。 別の開催は 大のが、遠藤 月1回 でのび、遠藤 月1回 でかび、遠藤 月1回 になた広場 湘南大庭 藤沢 月1回 月2回 第2の表はが 東京 月1回 月2日の 第30世を表すが	割) (の延へ年 回 できる場を 等を行う	・「日頃の」 (本の1年20年27年20年27年20年27年20年27年20年27年20年27年20年27年20年27年20年27年27年20年27年27年27年27年27年27年27年27年27年27年27年27年27年	圏のおり後ろ 関のよりを受けませる。 「対する」に親子 が軽減された は域における。 第9年後を	平価の理由 同きな膨構も受 でゆったりとして でなりできる ているため。 き後の方向 学育で支援の 生かした子育で	評価の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
課題・問題点 ・子育て支援センダーとの連携を図り、栄養士・保健師・保 育士などによる巡回相談を充実させる。	深趣・問題点 ヴ運携を図り、栄養 淡を充実させる。		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28 ・子育で親子の交流が ・相談・地域の情報提 ・地域の二一人にあっ 4か所の事業内容の ・職員の研修の充実 ・職員の研修の充実	年度事業計画 75週の指供 75週の指供が 75月で大学の実施 た子育で女援 充実を図るため 後会の実施	H28年度事業計画 ・子育で親子の交流の場の提供 ・相談・地域の情報提供等の実施 ・地域の二一ズにあった子育で支援講習等の実施 ・4か所の事業内容の充実を図るため、実施状況の 職員の研修の充実

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 事業コード 事業名 学校·家庭·地域連携推進事業 担当部 教育部

234(215-724-831) 事業名		学校·家庭·地域連携推進事業	継	相引課		学校教	学校教育企画課
事業目的	事業目的				変更	変更(ある場合)	(Л П
子どもを軸とした連携に	こより、地域づくり及	び学校支援を図る	°S				
事業内容 ・中学校区を基本に設置された地域協力者会議において、子どもたちの健やかな成長を支援するために、地域の課題について討議し、地域の実情に応じた学校支援や地域づくりに関わる事業等を実施する。	事業内容 置された地域協力: 援するために、地は 学校支援や地域	者会議において、 ずの課題について づくりに関わる事	子どもた 討議 業等を実				
	H27年度 ●学校·家庭·地	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 ●学校・家庭・地域連携事業の実施(会長会、業務委託の実施)	H294 5(会長会)	≠度 業務委計	H304 Eの実施	年度)	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	参加者総数 33, 100人	33, 200人	33, 300人	<u></u>	33, 40	400人	33, 500人
予算額(千円)	5,574	5,574					
決算額(干円) 執行率(%)	5,460 98.0						
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果	・「地域協力者会議」の参加者総数	の参加者総数 33	33,390人	H27年度の 総合評価	С E	計 B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・学校・家庭・地域連携推進会議「会長会」に業務を委託し、子どもたちの健やかな成長を支援する事業を各地域で実施した。 *会長会の開催 年4回(5/12 8/25 11/17 2/2) *会長会の開催 年4回(5/12 8/25 11/17 2/2)	は、近く年度の効性進会議「会長会」 でが成長を支援する でのである。12 8/25	果・成果) C業務を委託 事業を各地域で 11/17 2/2)		評価の理由・計画どおりの事業を行うことができた。	評価の を行うこ	理由 とができ,	ر ن
*各地域事業総数 119事業 *各地域事業、会議等参加者数 33.390人 *地域における子どもたちの課題を会議の中で出し合	・ L S N S N S N S N S N S N S N S N S N S	390人 の中で出し合	学校・家長を支援	今後の方向 ・学校・家庭・地域が連携・協力し 長を支援するため、会長会で十分	今後の バ連携・ 会長会・	カ向 偽力して- で十分な	、て子どもたちの成かな情報交換・意見
し、 実施事業に活かした。 *「家庭科ミシン補助」「畑作り支援」「学校別ふれあい事業」「アジサイまつり」「郷土の散策」等、学校支援や、地域住民と子どもたちが世代を超えてふれあう事業を実施した。	。 「畑作リ支援」「学 [‡] 」「郷土の散策」等 が世代を超えてふ	交別ふれあい事 、学校支援や、地 れあう事業を実		交換をしていべ。 ・様々な地域の事業に各地域協 ていることを広報紙、ホームペー 等で発信していく。	に各地 、ホーム	が が た ーツ、 か	交換をしていく。 ・様々な地域の事業に各地域協力者会議が関わっ ていることを広報紙、ホームページ、教育フォーラム 等で発信していく。
・より多くの方に三者連をエ夫する。	課題・問題点 こ三者運携を知ってもらうために周知の方法	・めに周知の方法	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	HZ E ・	28年度 重携推進 の健やな 5。	事業計画 金藤 金 いな成長で	H28年度事業計画・学校・家庭・地域連携推進会議・会長会」に業務を受託し、子どもたちの健やかな成長を支援する事業を各地域で実施する。

事業コード 241	2 要保護準要保護児童	保護児童·生徒援助事業	助事業	相当部相	1	教育部 学務保健課
引 ・保護者の経済的負担の軽減 ・義務教育の円滑な推進	事業目的 D軽減 É				変更(ある場合)	(早)
事業内容 経済的理由により説学困難と認められる児童生徒の保護者に対 し、学用品費、修学旅行費、社会見学費、医療費、学校給食費、メ ガネ購入費、卒業アルバム購入費などを援助する。	事業内容 N難と認められる 費、社会見学費、 、 、 、 、 、 、 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、	児童生徒の保護者 医療費、学校給1 援助する。	12 を費べ 大 選			
	H27年度	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	無	↑	↑		1	↑ ·
予算額(千円) 決算額(千円) 劫行率(%)	235,023 189,826	242,050				
#X11年(70) 年次ごとの取組計 ・計画(年次ごとの日標 値)に対するH27年 度末の成果	・市立小中学校全校を対象に実施・市立小中学校全校を対象に実施	を対象に実施		 H27年度の 総合評価	型型 B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・経済的理由により就学因難と認められる児童生徒の保・ 護者に対し、学用品養、修学旅行費、社会見学費、医療 費、学校給食費、めがわ講入費、卒業アルバム購入費等 身 を援助し、保護者の経済的負担の軽減が図られた。 ・認定者数 小学生 3,363人 中学生 2,013人 計 5,376人	進捗状況(今年度の効果・所 航学困難と認められる児童 記費、修学旅行費、社会見学 がおは購入費、卒業アルバル の経済的負担の軽減が図ら4 中学生 2,013人 計 5,376人	集・成果) 7児童生徒の保 7児童生徒の保 ルバム講入豊等 図られた。 376人	・経済的理由に の保護者に対 費、医療費、学 が、ム購入費等? 減が図られた。 ・今後とも、保證 の円滑な推進え	IIII により点になりた。	評価の理由 学因難定認め 計画費、修学協 を学協 に、保護者の総 等級の方向 経済的負担の ために就学援	評価の理由 ・経済的理由により就学的困難と認められる児童生徒 ・ の保護者に対し、学用品費、修学旅行費、社会見学 費、医療費、学校給食費、めがお購入費、本業アル パ人購入費等を援助し、保護者の経済的負担の軽 減が図られた。 今後の方向 ・今後とも、保護者の経済的負担の軽減や義務教育 ・今後とも、保護者の経済的負担の軽減や義務教育 ・今後とも、保護者の経済的負担の軽減や義務教育 ・今後とも、保護者の経済的負担の軽減や義務教育 ・
· 神になし	開題 開題		· 說字選明 「方外19月 本學亦一表 講入費等(H28年度事 - 就学援助の申請受付を「「」 に対し9月、1月、3月と年3回 学旅行費、社会見学費、学校 卒業アルバム購入費等をな 購入費等は随時、支給する。	3年度事業計画 行者に"認定審 と在3回に分け 発々女給食費 等を支給する。 給する。	H28年度事業計画 ・就学援助の申請受付をじ、認定審査を経て、認定者 に対し男、1月、3月と年3回に分けて学用品費・修 学旅行費、社会見学費、学校給食費(中学校のみ)、 学繁アルバム購入費等を支給する。医療費、めがわ 購入費等は随時、支給する。

事業目的 生活保護受給世帯及び生活困窮世帯の子どもに対する学習支援 等を通じて、子どもの社会的自立を促し、貧困の連鎖を防止する。

(年次ごとの取組計画 実施 (中文ごとの取組計画 実施 (年次ごとの取組計画 実施 (年次ごとの取組計画 実施 (年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計 (11.113 (年次ごとの取組計 (11.113 (年次ごとの取組計 (11.113 (年次ごとの取組計 (11.113 (年 (11.113 (11.1			H3.0年度 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	H3.14年度 ※ 次年度
年次ごとの取組計画 実施 11,113 16,670 16,670 16,670 11,113 16,670 11,103 16,670 11,103 16,670 11,103 16,670 11,103 16,670 11,103 16,670 11,103 12,500 12,		→ H27年度 ・ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	を	
予算額(千円) 11,113 16,670 決算額(千円) 11,108 16,670 執行率(%) 99.9 11,108 年次ことの取組計 値に対するH27年 億に対するH27年 利用者数(北部:26人、南部:83人) 度末の成果 H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) NPO法人書少年サポー協会、NPO法人和南河77ポート・ぎずなに業務を委託し、北部と南部で事業を実施。 (月曜日、第2、第4金曜日16時30分~20時) 11,108 (月曜日と第2・第4金曜日16時30分~20時) 24、年本、24、在、12、24、24、24、24、24、24、24、24、24、24、24、24、24		H27年度 総合詞 計画どおりの事3	をの 事価の選曲 学を実施することが、	次 株 機
決算額(干円) 11,108 動行率(%) 99.9 年次ごとの取組計 値 に対するN2を 利用者数(北部: 2 値 に対するN2を 利用者数(北部: 2 (重) に対するN2を 利用者数(北部: 2 (上) に対するN2を 1 においる 1 においる 1 に対する 1		H27年度 総合評 計画どおりの事3	計画の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	次年度継続
朝行本(%) 99.9 年次ごとの取組計 子もの学習支技 値)に対するH27年 利用者数(北部:2 産来の成果 H27年度 進捗状況(今年度の H27年度 進捗状況(今年度の H27年度 進捗状況(今年度の (上部) (1年日と第2・第4金曜日16時30分~20 (月曜日2第2・第4金曜日16時30分~20 (月曜日2第2・第4金曜日16時30分~20 (月曜日2第2・第4金曜日16時30分~20 (今年度の (大部) (大部) (全年度の (大部) (全年度の (大部) (大部) (大部) (大部) (大部) (大部) (大部) (大部)		H27年月 総合評 総合計 計画ビおりの事事 ・ 高校雄学率も100	を記した。 を記します。 を記します。 を記します。 を記します。 を記します。 を記します。 を記します。 を記します。 を記しまする。 をこしまする。 を記しまする。 を記しまする。 を記しまする。 を記しまする。 を記しまする。 を記しまする。 を記しまする。 をこしまる。 をこしる。 をこしる。	次年度 継続
面(本文、COの地域 7 上でもの学習支持 値)に対するH27年 利用者数(北部: 度末の成果 利用者数(北部: 展末の成果 H27年度 進捗状況(今年度の H27年度 進捗状況(今年度の 127年度 128年度		H27年月 総合評 総合評 ・計画どおりの事づ ・ 高校進学率も100 ・ 101 - たげ・オーセル	(4) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	※ 無続
NPO法人青少年計(上)協会、NPO法人; 「業務を委託し、北部と南部で事業を実施 (北部) ※開催日数 延べ76回 (月曜日と輝2・第4金曜日6時30分~206 (月曜日と報2・第4金曜日6時30分~206 (4日曜日と報2・第4金曜日6時30分~206 (4日曜日24)。 (4日年日6月20~206 (4日曜日24)。 (4日年日6月20~206 (4日曜日24)。 (4日年日6月20~206 (4日年日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日7日		・計画どおりの事う ・高校進学率も100	評価の理由 能を実施することが ⁻	
(月曜日と第2・第4金曜日16時30分~206 ※参加超く人数*527名(平均参加海数・73 ※参加超く人数*527名(平均参加海数・73 ※中中卒業後通路状況、道学車 (全日制:2名、近時制:5名、通信制:1名 (全日制:2名、近時制:5名、通信制:1名)		光一心して大塚で)%であり、対象とな 提供することができ	できた。 :る子どもの* ている。
7-4-7-7、0・11-8 miletoも1、mil.Cr.90x7・0×1・8 mileto 80、科学実験の2.4パーツ大会:11/28(参加省4名)、もちつき 7/10、参加者7名 ※食育の日(全6回)10月より月1回開催 「商郵1」「商郵1」		・事業を周知するため、明を行い、学校との連打 関を行い、学校との連打 意見交換を行っていべ。 ・委託事業所のキャパジの状況を確認し、必要目	今後の方向 ・事業を周知するため、校長会等に参加し事業の説明を行い、学校との連携のあり方も含め情報交換・ 要を行い、学校との連携のあり方も含め情報交換・ 委託事業所のキャパシティーのことや参加人数等 の状況を確認し、必要に応じて事業の拡充についても検討していく。	加し事業の言め情報交換で参加人数等のである。 かんしゅん かんりょう かんりょう ひがん かんりん かんがったいい
※開催日数 延べ153回※開催日数 延べ153回※衛加至人数・18時)※参加延人数・3.274名(平均参加直数・21名)※中華の70%(対象者16名)※中華卒業後進路状況。 海平率100%(対象者16名)	-18時) 5名)			
(全日制:11名、定時制:4名、通信制:1名) ※課外事業(全3回) ※課外事業(全3回) ※最かま:8/21(参加者25名)、お楽しみ会:12/23(参加者40 名)、お楽しみ会:3/12(参加者33名) ※子ども食堂(全12回)9月より毎月1回開催		H ・子どもの学習支子 サポ ^ー ト協会、NPO) 委託し、北部・南音 を実施する。	H28年度事業計画 ・子どもの学習支援事業を引き続等NPO法人青少年 サポート協会、NPO法人湘南テイワサポート・きずなに業務 委託し、北部・南部に加え、湘南大庭地区でも事業 を実施する。	50法人青少・きずなに業地区でも事業
課題・問題点 ・事業についてのさらなる周知。 ・子ともの学習支援事業のあり方についての検討。	いての検討。			

一一 一一 一一 一 一 一 一 一 一		事業目的 生活保護受給世帯の子ども・若者の健全育成と将来に向けた自立、平成27年度から生活的調子自立支援法施 別長 門に基づき、対象者を生活保護受給世帯だ けでなく生活因調世帯に拡大し支援を実施	事業内容 で歳から概ね20歳の子ども、若者のいる生活保護受給世帯に対し、、 子ども女操員を配置し、ケースワーカーと共に関係機関と連携しな がら日常生活支援、養育支援、教育支援、就労支援等、個別の寄 り添い型の支援を行う。	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 H31年度 ■支援を要する受給世帯への個別支援	取組計画 実施		0.0	NA計 Prim 次年度 の目標 2月 H27年度の 総合評価 B 継続 1474年 第合評価 B 継続 1果 1果 1ま	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) - 支援件数 生活保護受給世帯 49世帯 - アウトリーチ型支援の実施により不登校・ひきこもり 生活困窮世帯 3世帯 (再掲) 児童生徒を学校や学習支援事業所への定期通所に つなげた。	.60	51回 ・引き続き、関係機関と連携し、切れ目のない寄り添し 6回 い型の支援を実施していく。 129回 38回 28回 25回 25回 25回 25回 25回	学校・学校教育相談センターSSW・SC・学習支援事業所 等との連携による不登校児童生徒の縮減。また、学習支 援事業所通所支援した生徒については昨年度に引き続き 高校建学率100%を達成。機続支援中の高校生に対し高 校と連携し中途追撃加止を図っている。 課題 問題。 ・事業の周知徹底。(特に県域 県立高校等) ・支援件数増加に伴う、支援員の勤務時間増。
+	243(165)	生活保護受給世帯の 助長	の歳から概ね20歳の子子ども女援員を配置し イビも女援員を配置し がら日常生活支援、 リ添い型の支援を行う		年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	予算額(千円)	次昇徴(イロ) 執行率(%)	年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果	H27年度 進 ・支援件数 生活保護 生活保護 生活困窮・ ・教育支援(子どもの)	人※1人に対し、事業コ	家庭訪問 51回 電話相談 129回 米所面談 38日 河行女児ンス 28日 関係者調整 25回 研修	学校・学校教育相談4等との連携による不登援による不登援を事業所通所支援に 温校建学率100%を追校と連携し中途退学的 技と連携し中途退学的 ・事業の周知徹底。(()

9 る元里生佐の特性に #5::エ語が 左(十二	する児童生徒の特性に応じた教育の場の整備			を記載した。平成28年度以降は設置の可を記載した。中成28年度以降は設置の可	以降は設置の可
·特別な援教育の充実 特別な教育的支援を必 な支援など、本市の特) 備を行う。	・特別支援教育の充実 事業内容 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への教育の充実や適切 な支援など、本市の特別支援教育を推進するため、教育環境の整備を行う。	育の充実や適切 5、教育環境の整	1 :	めた目補設定。	, (H28)
	H27年度 H28年度 ●通級指導教室		H29年度	H30年度	H31年度
	中里小すまいる開設準備中里小すまいる開級 ●特別支援学級	まいる開級		通級指導教室開設準備	通級指導教室開級
年次ことの取組計画 (年次ごとの目標値)	大庭中に増設準備 大庭中に増設	П	秋葉台小開設準備 大越小開設準備	秋葉台小に開級大越小開設準備	大越小に開級
	秋葉台小特学検討 秋葉台小通級指導	秋葉台小特学検討 大越小通級指導教室検討 通級指	大越小特学検討 通級指導教室検討通線	特学検討通級指導教室検討	特学検討 通級指導教室検討
予算額(千円)		0			
決算額(千円) 執行率(%)	15,946				
年次ごとの取組計・中国(年次ごとの取組計・中国(年次ごとの目標)大値(上対するH27年 学)を表表の成果 に	年次ごとの取組計 中里小学校に通級指導教室「すまいる」の開設や画(年次ごとの取組計 大庭中学校の特別支援学級の増設、及び、保野小値)に対するH27年 学校の通級指導教室「こよ行の教室」1クラス増加度 末の成果 に伴う教室環境の整備を行った。	 すまいる」の開設や 増設、及び、保野・ 教室」 クラス増加	b N H27年度の 総合評価	型 B	次年度継続
H27年度 進抄 ・中里小学校に通級指 に教室等の工事や準備 ・大庭中学校の特別支	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・中里小学校に通線指導教室「すまいる」を開設するため に教室等の工事や準備を行った。 ・大庭中学校の特別支援学級の増設工事を行った。		小学校に通級 い工事や準備、 事を行うことが	評価の理由 指導教室「すま 大庭中学校の! ぐできた。	評価の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		(中本) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	今後の方・特別支援学級については、こ して、特別支援学級に有いては、 する児童生徒の人数、転用す 達えて検討していく。 ・通級指導教室については、 きめて、開設を検討していく。	今後の方向 ハでは、早期の 土様スタンダー ・ 転用可能数。 ハでは、ニーズ	今後の方向・特別支援学級については、早期の全校設置を目指して、特別支援学級仕様スタンダードを見直し、通学する児童生徒の人数、転用可能教室の有無等を踏まえて検討していく。 ・通級指導教室については、ニーズやその形態等も含めて、開設を検討していく。
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28 ・特別支援学級の開 ・通級指導教室の児 ついて検討する。	3年度事業計画 設を検討する。 童数の推移を 見	H28年度事業計画 ・特別支援学級の開設を検討する。 ・通級指導教室の児童数の推移を見ながら、開設に ついて検討する。
課題・問・特別支援学級については、早特別支援学級は様スタンダート 他の人数、転用可能教室の有: 、通級指導教室については、二・一門のおおり	課題・問題点・特別支援学級については、早期の全校設置を目指して、特別支援学級仕様スタンダードを見直し、通学する児童生徒の人数、転用可能教室の有無等を踏まえて検討していく。 一通船指導教室については、ニーズやその形態等も含め ア 問記を始計 アン				

# 第 条	サポート事業 上立びに集団生活へ けさせ、教育効果の向 17させ、教育効果の向 17させ、教育効果の向 172番を3 1728年度 H29年度	本語 日 日 日 日 日 日 日 日 日	が 学務保健課 変更(ある場合)	数月 IIP 務保健課 易合)
学習の基礎・基本の定着及び学習意欲の向上並 上を図る。 1年図る。 1年図る。 1年20名。 1年20名。	10万に集団生活へ 5.世、教育効果の向 19.3。 8会1回を実施する。 る。		(ある場合)	
1上を図る。 ・市立小学校1年生を対象にして市費講師を配置 ・3の研修を各講師に対して年間21時間実施す ・2の研修を各講師に対して年間21時間実施す ・25.369	『する。 修会1回を実施する。 る。 8年度 H29			
新生活師対象の研修会1回、全講師対象の研修名 5。 (本次ごとの取組計画	5会1回を実施する。 る。 8年度 H29			
- 校内研修を各講師に対して年間21時間実施す	極			
(年次ごとの取組計画 実施 まが (17年度 142) (174) (1				
(年次ごとの取組計画 実施 実施 (年次ごとの取組計画 実施 (年次ごとの取組計 25.535 25.339 (4.2) 39.3 (4.2) 39.3 (4.3) 3		年度 H30年度	年度	H31年度
予算額	<u> </u>	1		1
決算額(千円) 25,369 執行率(%) 99.3 面(本次ごとの取組) 金小学校の第1学年に対し度大乙との目標。全小学校の第1学年に対し度大刀とがする化力 自じた対する化力 学級以上となる学校へはな人度未の表の成果、成計画とおり小学校1年生に市資講師を適性に記してより、基本教科を中心に生活習慣を含めティーイングによるきめ細かな指導を行うことがてカ果の向上が図られた。 研修を実施したことにより、担任とサポート講師、現まるなど事業が円滑に行われた。 課題・問題点 課題・問題点 事故防止研修の時間の確保が課題となっている事業が開めたの時間の確保が課題となっている。	25,786			
報子である。 1913 日本文 ことの取組計画(本文 ことの取組計画(本文 ことの 日編)・全小学校の第1学年に対し [東末の政果] 日子工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工				
国(年次ごとの目標 ・全小学校の第1学年に対し 直)に対する化7年 学級以上となる学校へは2人 度まの成果 H27年度 進捗状況(今年度の効果・成身 H27年度 進捗状況(今年度の効果・成身 H27年度 進齢状況(今年度の効果・成身 により、基本教科を中心に生活習慣を含めティ ディーテングによるめ細かな指導を行うことがて 研修を実施したことにより、担任とサポート講師 研修を実施したことにより、担任とサポート講師 研修を実施したことにより、担任とサポート講師 事業が円滑に行われた。 課題・問題点			計価	次年度
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成月 計画とおりい学校1年生に市雲講師を適性に記 ににより、基本教科を中心に生活習慣を含めティ イーナングによるきめ細かな指導を行うことがで 別果の向上が図られた。 研修を実施したことにより、担任とサポート講師 採まるなど事業が円滑に行われた。 課題・問題点	ATT	H27年度の 総合評価	Ф	維続
計画どおり小学校1年生に市費講師を適性に記 により、基本教科を中心に生活習慣を含めティ により、基本教科を中心に生活習慣を含めティ が果の向上が図られた。 研修を実施したことにより、担任とサポート講師 現実るなど事業が円滑に行われた。 課題・問題点 無数防止研修の時間の確保が課題となっている	_	計価の理由	田亜(
*までなる事業が円滑に打われがこ。 事故防止研修の時間の確保が課題となっている。		おりの事業を行うこ	.とができた。	0
講題・問題点 事故防止研修の時間の確保が課題となっている		今後の方向 ・全小学校の第1学年に対して市費講師1人(5学級以上となる学校へは2人)配置の継続。 ・事故防止研修の実施。	カ向 ノイ市費講問 置の継続。	ず1人(5学級
		+ 17.80上の19.70人にの -全小学校の第1学年に対して市費講師1人(5学級以上となる学校へは2人)配置。 ・校内研修各講師21時間。 ・新仕講師対象の研修会1回実施。 ・全講節対象の研修会1回実施。	事業計画 (二十世間) (1年 1年 1	- 1.人(5学級 - 1.人(5学級

 事業コード 事業名
 学校図書館管理運営事業
 担当部 報育部 教育指導課

	中米田子			ī	V III 4 7 / 포크	,
日本子在人士事工具	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	2 图 4 4 4 共) 设		》。 《北京日事会》	で更(ある場の電池手に手に	か) こうかかい
・ルェエルのが青ヶ辺のルスにナベと目指のプロエルでとる。 ・地域公立図書館との連携を図ることにより、児童生徒がより多くの本と出会う機会を増やす。	Dンル来にナヤス凶音が連携を図ることによりす。	aoyalticとは。 り、児童生徒がよ		※ナ校凶書毎年54丁・プロドンプロドンプリーを受けるといるといるといるできます。 学校図書館ガイドブックという名前に変更。 ※平成27年、28年の24年計画で、学校図書絵は、グボールケルボポーを、	年五十21章Cイドブックといる年の2年計画2年計画2年計画2年計画2年計画2年計画2年計画2年計画2年計画2年計画	3.74世が5.70名割に数単。 つ名割に数単ので、学校図書ので、14枚図書ののままります。
事業内容 ・学校図書館運営指針に基づき、学校図書館機能の充実を図る。 ・市立小中学校の学校図書館に、「学校図書館専門員」を置き、学校図書館業務の円滑な運営を支援する。	事業内容に基づき、学校図書に、「学校図書館に、「学校図は運営を支援する。	 諸機能の充実を 書館専門員」を置		題カイトノヅンを11年126)	r 作	(8 1 1
単一部を出るこれがある。	H27年度 H28年度 ●学校図書館専門員の配置 ●学校図書館専門員連絡会	H28年度]員の配置]員連絡会	H29年度		H30年度	H31年度
十次にこの状形部 回(年次ごとの目標値)	事権を関連を表現しています。 ●学校図書館ガイドブック策定事施	ドブック策定	Ľ		1	1
予算額(千円)	38,964	38,964				
決算額(千円) 執行率(%)	38,712					
年次ごとの取組計	t::00				計量	次年度
画(年次ごとの目標 学校図書館専門員を市立小・中全54校に配置値)に対するH27年 し、学校図書館を運営した。 度末の成果	⁵ 校図書館専門員を 、学校図書館を運営	市立小・中全54杉 stした。	交に配置	H27年度の 総合評価	Ф	維続
H27年度 進料	歩状況(今年度の効	果•成果)] 型化	2日本の理中	
・平成27年、28年の2年計画で、学校図書館ガイドブッグを 作成している。司書教諭を中心とした学校の図書館と学校 図書館専門員と図書ポランティアの役割分担や、学校図 書館運営に関する活動内容や業務について、ガイドブッケ 作成部会を中心に検討した。	s計画で、学校図書 衛を中心とした学校 パランティアの役割分 か内容や業務につい げた。	<u>電ガイドブックを</u> の図書部と学校 い担や、学校図 て、ガイドブック		·学校図書館専門員の配置により、学校図書館業務が円滑に行われ、環境整備や読書活動の推進が図られた。	記置により、学 整備や読書活	5校図書館業務5動の推進が図
学校図書館専門員連絡会を年5回開催し、公立図書館と の連携による情報の提供や研修や、ガイドブックの内容検	툍絡会を年5回開催し ≧供や研修や、ガイト	ン、公立図書館と ジブックの内容検		今後の方向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	後の方向 堂指針 IC其	づいたガイド
計を実施した。 ・ハ中合同の連絡会では、学校図書館の見学や各校の情 和 ・小中合同の連絡会では、学校図書館の見学や各校の情 相 ・ 本度末に活動報告書をまとめてカラーの冊子を作り、学 校に配布し、情報や実践例の共有化を図った。 ・ 本の整理整備や細作り、季節ことの飾り付け、特集コー ・ 本の整理を備や細胞により、学校図書館の整備が進められた。 また、学校図書館の整備が進められた。 また、学校図書館の書館の整備が進められた。	は、学校図書館の身当者会と共権で研修をまとめてカラーの践例の共有化を図・り、場別の共有化を図・り、学校図書館の整備、学校図書館の整備、単位の書店の表現の書館の整備を図書館の音様化を図書館の活性化を図書館の活性化を図書	記学や各校の情 	ブックを引起している。 地についている。 ・可書教記 う発信し、	ブックを完成させ、学校図書館運運の活動や業務分担について明確にする。 担について明確にする。 ・司書教諭を中心に、学校図書館がより機能するよう発信し、学校図書館専門員との連携を図る。	日 18 3 1 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	がままれた。 とり機能するよ 馬を図る。
			連絡会上を図るて情報提	H28年度事業計画 ・連絡会を年4回開催し、図書館専門員の技術の向 上を図るとともに、市民図書館と連携し、学校に対し て情報提供を行う。	度事業計画 図書館専門 図書館と連携	員の技術の向 し、学校に対し
辞題・問題点 ・学校図書館専門員と司書教諭を中心とする学校の図書 部との連携が、まだ十分に図れていない学校がある。 ・学校図書館専門員と司書教諭との役割分担が、明確にされていない。	課題・問題点 司書教諭を中心とす 分に図れていない与 司書教諭との役割/	- る学校の図書 - 校がある。 - 3 - 4担が、明確にさ	書の 書の を を の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	「藤沢市学校図書館運営指針」に基づいた学校図書館運営ガイドブックを完成させ、可書教諭や図書館運営ガイドブックを完成させ、可書教諭や図書館専門員等の活動や業務分担について明確にする。 る。 う書教諭連絡会を開催し、学校図書館運営ガイドブックの内容と、可書教諭の役割について共通理解を図る。	営指針」に基 売成させ、可 務分担につし 能し、学校図書 輸の役割にて	びいた学校図書教諭や図書教諭や図書教諭や図書での明確にすいて明確にすいて明確にすいて明確にすいて明確にすいて明確にすいて出種理解して共通理解
			・年度末 配付し、	・年度末に活動報告書をまとめて冊子にし、 配付し、実践例の共有化を図る。	rまとめて事力 Cを図る。	ドにし、学校に

事業コート 314(113) 事業名 字校ICI 機器整備事業 第14(113) 事業目的 ・教育情報機器の活用による情報教育(情報モラル教育、パソコン 技能の習得等)の推進 ・効率的な技務処理とその結果生み出される教育活動の質の改善 ・教育用情報機器の整備 事業内容 ・教育用情報機器の整備 環境及どりと機器の整備 環境及どはおける情報モラル教育やパソコン技能の習得が求められて いることに伴い、藤沢市教育情報化推進計画に基づき、教育情報 ス場が機器の整備を図り、1質生徒の学習の多くの場面におけ ス場が機器の整備を図り、1質生徒の学習の多くの場面におけ	字校ICT機 (教育用・朴	字校ICT機器整備事業 (教育用·校務用PC)		田川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川川	者 学校 変更(ある場	教育部学校教育企画課
事・教育情報機器の活用による情・ ・ 教育情報機器の活用による情・ ・ 効率的な校務処理とその結果 ・ 教育用情報機器の整備 学校における情報モラル教育体 は、ることに伴い、藤沢市教育情 は、ることに伴い、藤沢市教育情 は、表示を結婚組織を注し、					変更(ある場	
事・教育用情報機器の整備・・教育用情報機器の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・業目的 情報教育(情報モ !生み出される教	ラル教育、パ で育活動の質の	(ソコン 藤) め、 の改善 年次	マ市教育情 仮称を訂コ マごとの取約	報化推進計 Eした。 祖計画を、教 哲二	変異(める場合) 藤沢市教育情報化推進計画を策定したた め、仮称を訂正した。 年次ごとの取組計画を、教育情報化推進計
人物 右		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	画に られて 写情報 におけ	で 合 中 ト	引 上 した。(H	(128)
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	習の充実を図る。 備 ・基づき、校務支・ ユリティの高い・核	援システムを 接 と務処理を行う	整備することを			
HZ ● 小学	H27年度 H28年度 小学校校内LANの整備		H29年度		H30年度	H31年度
世界のアプスサー				-		
-	●小学校校務支援システムの整備 	(テムの整備	先行設置	-	全校整備	全校整備済
	105台追加 14 (累計210台) (累	143台追加 (累計353台)	302台追加105台更新 (累計655台)		407台追加 (累計1062台)	1人1台体制で 運用
		541,962				
	98.3					
年次ごとの取組計 面(年次ごとの目標 小学校校務用パンコンの整備率5.0%(県平 値)に対するH27年 原末的116.4%)	内LANの整備率 務用パソコンの登 16.4%)	5.2%(県平均88.9%) 整備率20.0%		H27年度の 総合評価	思 B	次 体 機 機 線
H27年度 進捗状況(今	今年度の効果・成			基	囲の理由	
・校内LANを整備した小学校2校のパイロット校において、タブレットパンコ等の教育情報機器を活用した学習等を行ったいコン等の教育情報機器を活用した学習等を行った。コッキュコッキロエッコッキロニュニュコッキ	交のパイロット校设機器を活用したのでのできる (単一) はまま (単一) はまま (単一) はまま (単一) はままま (単一) はままま (単一) はまままままままままままままままままままままままままままままままままままま		県平均と比東 定した目標に	☆した 対しては、	率は極めて1概ね違成し	県平均と比較した整備率は極めて低い状況だが、設定した目標に対しては、概ね達成したとする。
・争んと十日に人の十つ、カガメンの両を主めると同時でより、より学習で安定して活用できるように機器の調整を行った・ナ	zoJがでを述え きるように機器の				- -	
・	5用がよりスムー おける校内LAN	·ズに行える :: :::::::::::::::::::::::::::::::::	台数不足・整 に、ICTを活 <i>t</i> 研究を進め、	今; 6備不足の; かした教育 ICTが実現	後の方向 是正を計画6 の質の向上 する新たな:	今後の方向 台数不足・整備不足の是正を計画的に進めるととも に、ICTを活かした教育の質の向上に資する取組の 研究を進め、ICIが実現する新とな学じ済本市でも
新的ノフハワを奢積することができた。 ・小学校校務用データセンターを設置するとともに、各校3 台計105台の校務用タブレットPCを追加した。 (10人に1台→5人に1台)	できた。 を設置するととも ocを追加した。	に、各校3	展開できるよ	う、様々な	(大・大工 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	こ努める。
		1 12 11 0	小学校校内予算要求してように授業で	H284 JLAN全校 じ、くととも の活用例・	三度事業計画 展開に向けた に、展開後す や教材の蓄利	H28年度事業計画 ・小学校校内LAN全校展開に向けた計画を立案し、 ・予算要求していくとともに、展開後すぐに活用できる ように授業での活用例や教材の蓄積に努める。
課題・問・小学校、ペイロット校での検証に映像を提示するテレビが小さずまれ、また、 ニーム・ギュ・カー	題点 こおける課題とし ぎて、タブレッド だった	ノて、教室で PCの良さを	・小子校校務 画し、円滑に 度以降の目4 法等の検討?	SHFCの銀 導入できる 標を達成で を行う。	im Cし C、14 5ように努め、 きるよう、 整	tsinの返加をfiT るとともに、H29st 備機器・整備方
・ルンでんがって、このがカンパーなって、イロット校2校を・ハギ校・特別支援学校の校内LANは、イロット校2校を除き未設置であるが、県内の約9割の教室がLAN設置済であることを考慮すると、本市の状況は大変酸しい状況にてあることを考慮すると、本市の状況は大変酸しい状況になることを考慮すると、本市の状況は大変酸しい状況に	なりた。 ILANはパイロット 59割の教室がL/ り状況は大変厳l	ト校2校を AN設置済 Lい状況に				
ので。 ・ハ学校の校務用PCの整備率は、他市町と比較しても極めて低い状況であり、計画的かつ早急に整備を進める必要がある。	は、他市町と比算 いつ早急に整備を	較しても極 を進める必				

	(境を確保する。) 47.15.28 (境を確保する。	₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.₩.	
	5.7.、各種機械設備改修 (5.7.、各種機械設備改修 (67.228		
	67,228	H29年度 H30年度 、更新	年度 H31年度
<u> </u>	67,228	<u>†</u>	<u> </u>
一 			
本が120 年次ごとの取組計 画年次ごとの取組計 同年次ごとの田編 中学校3校の 値)に対するH27年 に対し、計画 度来の成果 H27年度 進捗状況(今年度 ・ 小学校3校、中学校3校の放送設値 * 小学校3校、中学校3校 本 年学校3校 第 4 年野小学校 新 4 年野小学校 新 4 年野小学校 新 4 年学校3校 新 5 年 7 年 7 年 8 年 8 年 9 年 9 年 9 年 9 年 9 年 9 年 9 年 9			
数 窓	/9.0 小学校1校の外壁等改修及び小学校3校、 中学校3校の放送設備の賃借の取組計画	3校、 計画 H27年度の	評価 次年度
H27年度 進捗状況今年度 ・小学校 校の外壁改修、屋上防水 * 亀井野小学校 ・小学校3校、中学校3校の放送設備 * 小学校3校 * 小学校3校 * 本・学校3校 第 前の沢小学校 * 中学校3校 * 中学校3校 * 市学校3校 * 市学校3校 * 市学校3校 * 市学校43校 * 市学校3校 * 市学校43校 * 市学校43校 * 市学校43校 * 市学校43校	に対し、計画どおりの事業を実施した。		m
* * * * * * * * * * * * * * * * * * *		評価の理由 ・取組計画の目標値を達成したため。)理由 成したため。
	#の賃借	今後の方向 本計画及び今年度策定した「学校施設再整備 第1期実施計画」に基づく事業を、計画に沿って 進めていく。	方向 した「学校施設 八事業を、計画
	1-	H28年度事業計画 ・中学校1校の外壁等改修工事 * 村岡中学校	事業計画 ※工事
課題・問題点・学校や保護者からの要望が強いトイレ政修、空調設備の設置事業やその他の改修工事をバランスよく実施していくことが必要な状況であり、本事業費予算を満額確保していくには難しい状況がある。	イフ攻修、空調設備 をパランスよく実施し 事業費予算を消額確	小学校2校、中学校1校の放送設備の賃借 * 小学校2校 高谷小学校 亀井野小学校 * 中学校1校 藤ヶ岡中学校	の放送設備の賃
	•	中学校2校のプ * 善行中学校	ーレ給水ポンプ改修工事 、鶴沼中学校

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業¬—; | | | 新部

事業コード 322		学校適正配置研究事業	#1#	担当部担当理		教育部学務保健課
ゆ目業量 コラウ	事業目的				変更(ある場合	
・市立小中学校の適正な学校規模を制 境整備を図る。 ・児童生徒の通学の安全を確保する。	な学校規模を維持 全を確保する。	することにより、学	びの環			
事業内容 児童・生徒数の推移に対応した学校の適正配置を検討するため、 学校の紡廃合を含め、通学区域の再編・見直しの研究を行う。	事業内容 対応した学校の適 通学区域の再編 「	正配置を検討する 見直しの研究を行	1εδ. 5°			
	H27年度 ●学校適正配置の	H27年度 H28年度 ●学校適正配置の研究	H29年度	_	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	東	1	1		1	<u></u> ↑
予算額(千円)	0	0				
決算額(千円) **/=	0					
執行率(%) 年かごとの形名計・特	0.0 2校の結構を合う通	学区域の再編・原	(0) 車	-	車	次年度
一种 (大)			H27 ************************************	H27年度の 総合評価	<u>I</u> m	継続
H27年度 准排	5状況(今年度の効	(番四)		計	の暦中	
・学校適正配置について、調査、研究を進めるため「藤沢・学校適正配置接討部会」を年3回開催した(5/28、9/10,12/24)。	アルル(ユエス・ウス) C、調査、研究を進 S会」を年3回開催し	** 1838 (めるため「藤沢 た(5/28、9/10、	・児童生徒数計課題について、学校施設の記いて個別の地ので個別の地のでのではある。	## ## # # # # # # # # # # # # # # # # #	1974年 学区の検討4 を行った。 に併せ、過大 0うえ、通学区 室を行った。	・児童生徒数権計を基に学の検討や通学区域の 、課題について調査・研究を行った。 ・学校施設の耐力度調査に併せ、過大規模校につ いて個別の地域を設定のうえ、通学区域の変更によ る適正規模の状況の把握を行った。
			今後の方向・通学区域等の課題について、引き続き、各学校、各地域にとなど詳細に現状分析を行うとともに児童生徒の動向や市民要望等を注視しながら、調査・研究を進める。	今後の課題につままれる。 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	の方向 いて、引き続 分析を行うと き注視しながに	き、各学校、名 ともに児童生 ら、調査・研究
議題・問題点	議・問題点 商庫配置を考える 高値配置を考える 一部の安全や地域 、総合的な配慮が、 8、総合的な配慮が、 5、過大規模の解消 9面の確保や教職 重要である。	5元で、選挙区域 地域住民の理 或コミュニティーな 必要であり、実現 は困難な状況で 員配置の充実な	・老杯化施設 ・ 設再整備計画 の解消に向け 通学区域の額	H28年[奏事業計画 一番を基に発送 1年に引き続き 1・ションによる 1調査・研究者	H28年度事業計画・老杯化施設の耐力度調査を基に策定される学校施設再整備計画に併せ、昨年に引き続き過大規模校の解消に向け、シミュレーションによる学区の検討や通学区域の課題について調査・研究を行う。

 事業目的 事業目的 事業月費 事業月費 事業月費 事業月費 所する。 (本すんしている学校施設 (検金・屋内運動) (本する。) (本する。) (本方化している学校施設 (検金・屋内運動) (本方化している学校施設 (検金・屋内運動) (本方化している学校施設 (検金・屋内運動) (本方化している学校施設 (検金・屋内運動) (本方化している学校施設 (検金・屋内運動) (本校施設再整備第1期実施計画を変定した。) (本校施設再整備第1期実施計画を変定した。) (本校施設再整備第1期実施計画を変定した。) (本校施設再整備第1期実施計画を変定した。) (本校施設再整備第1期実施計画を変定した。) (本方の大の大の一本を経済を検討) (本方によった、整備計画の順体を検討) (本方は、中学校は (本学校は (本学校 (本学校 (本学校 (本学校 (本学校 (本学校 (本学校 (本学校	323(821) 事業名	名	× + +	担当課	学校施設課
年度 H30年度 中度 H27年度の 128年度事業 128年度 128年6 1	学校施設(校舎・屋内運 教育環境を確保する。	事業目的 「動場等)の老朽化を解消し、安	全で良質な	loni	変更(ある場合)
中27年度 H28年度 H29年度 H30年度 H	・藤沢市学校施設再整備・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業内容 備基本方針に基づく学校施設理 老朽化している学校施設(校舎 実施並びに調査結果に基づくが する。	§整備計画を ・ 屋内運動 ご設の改築ま		
実施 一		H27年度 H28年度 ●学校施設再整備計画の策定 ●耐力度調査の実施 21校			
62.511 55.955	年次にとの取組計画(年次ごとの日標値)	乗	● 公 ※	*	
55,955 50,112 50,955 50,112			設計・工 ^通	#	↑ ↑
80.112 80.112 19.0112 19.0124枚、中学校2校の校舎等について耐 総合評価 B 総技調査を実施となっての対象・成果) 計画通り実施した。 計画通り実施した。	予算額(千円)				
学校施設再整備第1期実施計画を策定した。	次昇徴(十円) 執行率(%)	50,112			
##状況(今年度の効果・成果) 1期実施計画を策定した。	年次ごとの取組計 学画(年次ごとの目標・学画(年次ごとの目標・小値)に対するH27年 カB度末の成果	*校施設再整備第1期実施計画 ヘ学校4校、中学校2校の校舎等 度調査を実施した。	を策定した。 について耐	H27年度の 総合評価	
	H27年度 進捗 ・学校施設再整備第1	状況(今年度の効果・成果) 期実施計画を策定した。		評価 動り実施した。	田の理由
<u> - - - - - - - - - - - - -</u>	・小学校4校、中学校2 した。 * 小学校4校(校舎# 豊富小学校	'校について耐力度調査を実施 棟及び屋内運動場)		4	% ት ሙ
	比斯七十 比離七十 計離七十 職業十一 本 本 大 大 本 大 大 本 大 本 大 被 大 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校		・ 本計 第1期 進めて	71 国及び今年度第 実施計画」にま	ダンカド 記した「学校施設再整備記した」 まづく事業を、計画に沿っ
<u> • </u>		棟) 連動場)			
*				H28年 校4校、中学校1 学校4校 台小学校	度事業計画 校の耐力度調査
	野で、実施した調査の結果 する中で、財源確保人 備をどう進めていくの 検討、整理していく状	果題・問題点 に基づき、整備計画の具体を柱 が困難な状況下で実効性のあ、 が、市全体の再整備ブランのF 沢がある。	*	首小华校 沿小华校 张小华校 坪校1栋 哈中华校	

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業¬—; | | | 新沿市教育振興基本計画進捗状況報告書

9、安全・安心な環 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	担当課 教育指導課 変更(ある場合)
H28年度 1.23校	スクールガードリーダーの配置校数の目標を設定した。(平成31年度に全小学校区に配置予定のため)(H28)
(a) 実施 → スクールガード・リーダーの配置 20枚 23校 11,855 12,609 11,732 98.9 98.9 12,609 11,732 12,609 11,732 12,609 11,732 12,609 11,732 12,609 12,70ールガード・リーダーを6地域20小パード・リーダーを6地域20小パード・リーダーを配置 12,609 12,70ールガード・リーダーを配置 12,600 12,70ールガード・リーダーを配置 12,600 12,70ールガード・リーダーを配置 12,600 12,10ーダーを配置 12,000 12,10ーダーを回置 12,000 12,10ーダーを回置 12,000 12,10ーダーを 12,000 12,10ーダーを 12,000 12,10ーダーの 12,000 12,10ーダーの 12,000 12,10ーダーを 12,000 12,000 12,10ーダーを 12,000 12,000 12,10ーダーを 12,000 12,000 12,100	H30年度 H31年度
2.3校 12.609 12.609 7ムは全55校で運デムは全55校で運デダーを6地域20小ボ・ボ番者侵入に備ド・リーダーを配置をに寄与すること	1
テムは全55校で運 ・	31校 35校
が果・成果) 、不審者侵入に備 ド・リーダーを配置 とに寄与すること	計画 次年度 15.7年度の 2.7年度 2.7年度 3.7年度 3.7年度 3.7年度 3.7年度 3.7年度 3.7年度 3.74年度 3.74年度
	評価の理由 ・不審者侵入による非常通報になく、児童生徒は守られていた。 られていた。 ・不審者出決時のスクールガード・リーダーの緊急対応や、日々の見守り活動は、犯罪の未然防止に大きく役立っている。 ・ 今後の方向 ・ 引き続き、2つの事業を継続し、児童生徒の安全安心の確保に努めていく。
	H28年度事業計画 ・学校非常通報システムの整備・運用 ・スクールガード・リーダーの配置(7地域23小学校 区に7名)

選換整備工事を計画的に進め、頂置・程徒の教育環境の向上を図 るとともに、学校間格差の解消を図る。 事業内容 解消するため、大便器の洋式化、床改修等を実施する。ともに、便 器を筋水型に交換するなどのトイレ改修を実施する。 大学報(干円) 441.440	十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
 単い・暗い、汚いのトイレの3Kの問題や家庭トイレとの環境格差を 解消するため、大便器の洋式化、床改修等を実施する。 解名前水型に交換するなどのトイレ改修を実施する。 ・ 中学校トイレ政修を実施する。 ・ 大原器の洋式化、床改修等を実施する。 ・ 大京 (年次ごとの取組計画 7枚 3枚 3440 884 3析束(8) 884 3枚 2012 81,465 34024 (24次ごとの取組計画 7枚 441,440 884 3枚 2012 81,465 34024 (24次ごとの即組計画 7枚 441,440 884 3枚 2012 81,465 34024 (24次ごとの即組計画 7枚 441,440 884 3枚 2012 81,465 34024 (24次ごとの即組計画 7枚 441,440 884 34024 (24次ごとの即組計画 7枚 240月1440 884 340円124 (24次ごとの即組計画 7枚 240円1440 884 340円124 (24次ごとの即組計画 7枚 240円1440 884 4枚 240円24 (24次ごとの即組計画 7枚 240円24 (24次ごとの即組計画 7枚 240円24 (24次ごとの即組計画 24次ごとの即組計画 24次に対し、14のを正式 24次によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに	Z.Y.(O'O'O'B) II)
#	
Y 165 Y	H3
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
ト (
	H27年度の 総合評価 B 継続
	評価の理由 計画通り実施した。 改修工事実施対象校:小学校28校改修完了
	今後の方向 改修工事実施対象校:甲学校12校のうち、残り 10校について、特定財源の確保に努めながら、 継続して年次計画に基づき実施していく。
	H28年度事業計画・中学校1校のトイレ改修工事を実施 * 大庭中学校

+ 成. 事業コード 事業名	世 / 7	月饭哭杏今司 整備事業 整件、	: 滕次巾教 育 恢 典 奉 4.計画 座 珍 7. 沈 報 古 書 学校版毀壞境整備事業 日当部 素 (教育部社共产品。
333 環境整備工事を計画的るとともに、学校間格差	3.3.3.1 (字詞政備整備) 事業目的 環境整備工事を計画的に進め、児童・生徒の教育環境の向上を図るとともに、学校間格差の解消を図る。	発順) 環境の向上を図	担当課 子校/ 変更(ある場合	子校施設課5場合)
学校生活、学習環境の 備設置及び小・中学校「 する。	事業内容 学校生活、学習環境の向上を図るため、小学校普通教室の空調設 備設置及び小・中学校管理諸室、特別教室の空調設備更新を実施 する。	通教室の空調設 調設備更新を実施		
	H27年度 H28年度 ●小学校空調設備設置·更新	年度 H29年度 更新 H29年度	年度 H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	普通教室3校 普通教	普通教室6校 普通教室8校	室8校 普通教室6校 管理 ●中学校空調設備更新 ●無辞令4体 ●	管理諸室5校
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)		216,260		
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果	小学校3校の設置を完了	-	評価 H27年度の 総合評価 B	次年度継続
H27年度 進移 ・小学校3校の空調設 ・ 小学校3校の空調設 ・ 中里小学校、八杉	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・小学校3校の空調設備設置工事を実施 * 中里小学校、八松小学校、羽鳥小学校		評価の理由 ・計画通り実施した。	
		・ 設置・ につし 年次書	今後の方向・野鷹、更新実施対象校:小学校25校、中学校8校について、特定財源の確保に努めながら継続して 年次計画に基づき実施していく。	5校、中学校8校 わながら継続して
・事業期間の短縮をする。	課題・問題点 事業期間の短縮を求める声もあるが、財源の平準化 の親点から非常に困難な状況である。		H28年度事業計画 ・ 小学校2校の空調設備設置工事を実施 * 小学校2校 新林小学校(給食調理室含む) 天神小学校(給食調理室含む)	を実施))

 <th rowspan="2" color="1" color="1" style="2" color="2" c

100	``	ノー・トドボー		면비재	4	イルビロスロ子
事業目的 環接救機工事を計画的「淮外」目等,生拜の教育環境の向上を図	事業目的11-24人 旧等14公	10 多型型基份中	17	lani.	変更(ある場合	(Ап
※※近隅ユギで11回13るとともに、学校間格差	の解消を図る。	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u> </u>			
教育環境の向上を図るため、一部芝生化を含めたグラウンド等整備工事を実施する。	ため、一部芝生化3	を含めたグラウン	帯 翻			
	H27年度 H28年度 ●小学校グラウンド等整備	H28年度 ド等整備	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	茶	→ ● 中学校グラウンド等整備 - tx	*************************************		1	<u>†</u>
予算額(千円)	146,156	0				
決算額(千円) 執行率(%)	127,164					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの用標・小学校1校のグラウンド整備工事及び中学校1値)に対するH27年 校のサブグラウンド整備工事を実施した。 度末の成果	学校1校のグラウン のサブグラウンド整	バ整備工事及び を備工事を実施しび	中学校1た。	H27年度の 総合評価	評価 A	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・ 小学校 校、中学校1校のグラウンド整備工事を実施 * 湘南台小学校 * 浦の台小学校	b状況(今年度の効) 校のグラウンド整備	果·成果) 備工事を実施	-	野価の理由 計画どおり小学校1校のグラウンド整備及び 中学校1校でサブグラウンドの整備を図った。	面の理由 なのグラウン 5ウンドの整(、整備及び 葡を図った。
			本計画本が	今(及び「学校施 事業を進めて	後の方向 設軍整備第1 いく。	今後の方向 本計画及び「学校施設再整備第1期実施計画」に 基づき事業を進めていく。
課題・問題点・特定財源の確保	課題 問題		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	H28年度事業計画・実施予定なし	度事業計画	

事業目的 校庭等の一部芝生化及び校舎壁面線化を推進することで、線に囲まれた教育環境を確保するともに、自然環境に対する意識向上を にカーナ・4のに手手ででデルルサポナリがよりにサービーナー・	事業目的なび校舎壁面線化するとともに、自然することをに、 自然	を推進することで、 :環境に対する意語 : ***・*********************************		「芝生化」、回って実施に	ペニエに、全国体にがある。 位当株 サヤルの政体 かんしょう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 (大)
ル9。また時に加到で通して地域文派を叱進りる政治を文技する。 事業内容 校庭等の一部を芝生として整備するととに、校舎の壁面に縁の カーデンを設置する。またその継続的な取組を支援するため、資材 の提供や啓発活動を実施する。	田 D C おみ X 派 P C を 事業内容 C C 整備するとも たその 継続的 なぼたる る。	に乗りる収配を文. Inc. 校舎の壁面に X組を支援するため	1 :	·蛭=酸和C.5	・野国歌石については、主文で夫郎が、あるが今後も継続して取り組む。(H28)	王衣 C 未応分 C よんれる C えん組む。(H28)
	H27年度 ●校庭の芝生化	H28年度	H293	H29年度	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施 ●壁面緑化	↑	1	Н	1	1
	新規3校	全校継続	Î		1	1
予算額(千円) 法管額(千円)	148,910	2,754				
が未取(1-17) 120/12/ 報行率(96) 86.4 年次ごとの取組計 小学校、中学校各 1校の芝生化を実施(実施 画(年次ごとの目標,済計・24校) 値に対するH27年:壁面縁化は全55校実施済(H27年度は5校実 産夫の成果 施)	20,72, 86.4 12校、中学校各 計:24校) 24校) 5 5 5 5		施(実施 は5校実	H27年度の 総合評価	型型 A	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・小学校、中学校各1校の芝生化を実施 * 湘南台小学校	が状況(今年度の対 校の芝生化を実施 専に合わせて <u>芝生</u>		・	について、 化について 完了したた	評価の理由 計画を上回って :も、計画を上区 め。	評価の理由・芝生化について、計画を上回って実施したため。・・ 芝生化についても、計画を上回って実施し、・ ・ 壁面緑化についても、計画を上回って実施し、全校で完了したため。
* 滝の沢中学校 →サブグラウンド改修工事に合わせて芝生化。(315㎡) ・小学校4校、中学校1校の壁面線化を実施 *小学校4校 本町小学校、村岡小学校、大道小学校、小糸小学校 *中学校1校 明治中学校	滝の沢中学校 サブグラウンド改修工事に合わせて芝生化。(315㎡) 学校4校、中学校1校の壁面縁化を実施 小学校4校 小学校4校 本町小学校、村岡小学校、大道小学校、小糸小学校 中学校1校 明治中学校		· 既設移 · 靡固緣 配布の	・ 既設校の維持補 壁面縁化について 配布の継続。	今後の方向 §(管理)につい :は、苗、肥料、	今後の方向 ・既設校の維持補修(管理)についても実施する。 ・壁面緑化については、苗、肥料、ブランター等の 配布の継続。
課題・ ○ 校庭の芝生化 ・ 芝刈り、水まき、草取り、 ・ 壊生期間使用できない ・ 地域との協力関係 ・ 特になし	課題・問題点 さ、草取り等の維持管理 用できない 内関係	闡	· 本 型 · 本 型 · 本 型 · 本 型 · 本 型 · 和 · 和 · 和 · 和 · 和 · 和 · 和 · 和 · 和 ·	H28 小学校、中学校名 对象校未定 对象核未定 壁面線化は、苗、	H28年度事業計画 校各1校の芝生化を予定 苗、肥料、プランター等の配布。	H28年度事業計画 ・小学校、中学校名1校の芝生化を予定 対象校未定 ・壁面縁化は、苗、肥料、ブランター等の配布。

 平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書

 事業名
 学校給食食器改善事業
 担当部
 教育部

 3.36
 申出課
 学校給食食器

ナで航政課 変更(ある場合) *事業終了年度を平成29年度に変更 *食器の名称を「磁器代替食器」から「樹脂 食器」に変更

事業目的 学校給食用の食器を改善することで、児童に正しい食習慣を身に つけさせ、学校における食育の推進を図る。 事業内容 施設の構造上給食用ワゴンの使用ができない学校に対し、アルマイト食器に代わる軽量の樹脂食器への変更をする。

	12/平屋	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
	●樹脂食器への	●樹脂食器への変更				
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	鵠洋小学校	片瀬小学校	明治小学校 辻堂小学校	14% 45%		
予算額(千円)	20,076	16,101				
決算額(千円)	19,444					
執行率(%)	96.9					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果	器改善実施校 1校	4×	—————————————————————————————————————	H27年度の 総合評価	更 B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)	歩状況(今年度の効	果·成果)	世間の囲地	酟		
・鶴洋小学校において了改善した。	アルマイト食器をP	EN樹脂食器 17	·計画どおり	事業を 実 会	近た。第の方面	
			・アルマイト員を目指す。	器を使用しています。	・アルマイト登器を使用している残り3枚の早期改善を目指す。	校の早期改善
			・片瀬小学校に 器に改善する。	H28年 において7。 5。	H28年度事業計画 ・片瀬小学校においてアルマイト食器をPEN樹脂食器に改善する。	をPEN樹脂食
課題・問題点	(東京)					

事事 メート業事	X 	深》(11) 12 日 JA 天	i t	加当部	M 数	教育部
337(321) 事業中 事業目的 著朽化した校舎外壁等の改修や機械設備の更新工事を計画的に 毒筋オスニンだ。 学校施設の機を機械設備の更新工事を計画的に	中 十枚加 単業目的 のみ修や機械設備 1990 会権 400 を 1990 会権 400 を 1990 会長 400 を 1990 会員	5020年1712年事業 前の更新工事を計[2011年1月音・4	画的に		変更(ある場合)	b 設課
心して学習できる教育環境を確保する。 事業内容・校舎の外壁・屋上防水改修工事の実施・機械設備の改修、更新工事の実施(給排水設備、放送設備、エレベーター、プー	環境を確保する。 事業内容 大政修工事の実施 ボエ事の実施 ボエトペーター、プ	ナール)				
	H27年度 ●外壁屋上防水、	H27年度 H28年度 H29年度 ●外壁屋上防水、各種機械設備改修、更新	H29 ⁴ 修、更新		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	括	1	Î		1	↑
予算額(千円) 決算額(千円)	170,387	67,228				
サリ年(%) 年次ごとの取組計 ・ 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 作主のボ里	/ 9.0 小学校1校の外壁 中学校3校の放送 に対し、計画どお(小学校1校の外壁等改修及び小学校3校、 中学校3校の放送設備の賃借の取船計画 に対し、計画どおりの事業を実施した。	交3校、 組計画 た。	H27年度の 総合評価	上 日 B	次年度継続
17.7年度 建锆状況(今年度の効果,成果) - 小学校1校の外壁改修、屋上防水工事を実施 * 亀井野小学校	b状況(今年度の効 :修、屋上防水工事	果·成果) を実施	・取組計	評・画の目標値2	評価の理由 取組計画の目標値を達成したため。	۰
小学校3校、中学校3校の放送設備の賃借 * 小学校3校 * 小学校3校 新林小学校 新林小学校 通の沢小学校 * 中学校3校 輔沼の平小学校 # 音行中学校 湘南台中学校 湘南台中学校	8校の放送設備の1	担 解	・ 本計画及び 第1期実施計 進めていく。	今 1及び今年度3 実施計画」によ じべ。	今後の方向 ・本計画及び今年度策定した「学校施設再整備 第1期実施計画」に基づ〈事業を、計画に沿・ 進めていく。	5数再整備 一直に沿い
			+ + * * * * * * * * * * * * * * * * * *	H284 学校1校の外壁等 村岡中学校	H28年度事業計画 ・中学校1校の外壁等改修工事 * 村岡中学校	
課題・問題点	課題・問題点 5要望が強いトイレ 8の改修工事をバ・ だ況であり、本事業 パ状況がある。	改修、空調設備 ランスよく実施し 費予算を満額確	· · · · · · · · · · · · · ·	学校2校、中学校 小学校2校 高谷小学校 鲁谷小学校 鲁井野小学校 中学校1校 藤夕岡中学校	小学校2校、中学校1校の放送設備の賃借 * 小学校2校 高谷小学校 亀井野小学校 * 中学校1校 藤ヶ岡中学校	の賃借
			• 日 * 孙 栅	中学校2校のプール給水ポン * 善行中学校、鵠沼中学校	中学校2校のプール給水ポンプ改修工事 * 善行中学校、鵠沼中学校	师 日

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書

	事業4 338(822) 事業名		防災対策事業(津波対策)	(担当課	小	教員即 校施設課
14年度 1430年度 1430年度 154年度の 154年度の 154年度の 154年度 154年度		事業目的			Jon.	変更(ある場	(全 (金
147年度の 1430年度 1540年度 1540年度 1540年度の 1540年度 1540年度	津波浸水予測エリア内実施し、生徒・教職員・	に位置する湘洋中近隣住民等の安全	1字校の津波避難が 5確保を図る。	だ 紙 か			
H29年度	滋洋中学校は、津波浸露住民等を含めた遊離 設として4階建ての校全	事業内容 水深から3階への 想定者を収容する き棟を増築する。	避難が可能である 5ため、新たな津波	が、近避難施			
H27年度の 野価 B B B B B B B B B	年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 ●校舎棟 (津波部 実施設計		H29年		30年度	H31年度
H27年度の 評価 評価 日27年度の 計画通り実 日28年度 計画通り実 128年度事業計画 128年度 128年6 12	予算額(千円)	595.	445				
H27年度の	決算額(千円)						
H27年度の	執行率(%)	100.0					
計価の理由	年次ごとの取組計画(年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)に対するH27年度を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	:施設計を実施し、1	増築工事に着手し		427年度の 総合評価	計 田	次年度 継続
設計委託 H26-H27年度の2ヶ年継続事業の2年目として 増築工事 H27-H28年度の2ヶ年継続事業の1年目として 増築工事に着手した。 講題「問題点 特になし #128年度事業計画 ・ 27年継続事業の最終年度として する。 第21期限:2017年(H29年) する。	H27年度 進抄	歩状況(今年度の効]果·成果)		址	田の油田	
特になし 特になし 特になし 1年目として 1年日として 1年間		年継続事業の2年目	目として	・ H27年度	については	、計画通り実	酒した。
9 る。 竣工期限:2017年(H29年) H28年度事業計画 ・227年継続事業の最終年度として する。		年継続事業の1年[目として	· 定期的/	今に工事の進	後の方向 b管理を行い	、工期内に竣
H28年度事業計画 ・25年継続事業の最終年度として する。	出来上争「角子の子」	ů		6 6 数	工期限:201	7年(H29年);	2月28日
		課題 問題 计		・ 27年継 する。	H28年 統事業の設	重量 本本 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	、工事を実施、工事を実施

		中字校稻度施設整備事業	ı			
丈長期にある生徒の 優			Ł	担当課	学校	学校給食課
	事業目的 建康保持増進及び1	き育の推進を図る	0	*事業終了年 こ今とも正成	変更(ある場合 度を今回策定 31年度に変す	変更(ある場合) *事業終了年度を今回策定した実施計画 会わせ平成31年度に恋雨
# 素 5 必	事業内容			{ - J ` !	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	ı
・家庭からの弁当持参。 る。	とデリバリー方式の)給食の選択制を3	実施す			
・栄養バランスの摂れた食事を提供し、望ましい食習慣を養う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	:食事を提供し、望	ましい食習慣を養	ζ,			
	H27年度 ●給食施設の整備	H28年度 備	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	試行3校 (計5校)	実施4校 (計9校)	実施3校 (計12校)		実施7校(計1	119校)
予算額(千円)	16,337	37,652				
A 并 识 ()	98.1					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度表の成果	学校給食実施校	5核		H27年度の 総合評価	更 E E B B B B B B B B B B B B B B B B B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 第一中学技 明込中学技なパニクロ学技にセパアシタ	歩状況(今年度の対 学技巧パキを出学)果・成果) ゼニセハケか合	で、国は、	評価の単田 計画の主義を主義 オーター	価の理由	
の試行を開始。 の試行を開始。 ・平成28年度以降の実施計画を策定、 告	でなることは、一体計画を策定、市	・ボストのシントでは 市議会定例会に報	J I	K + +		
			実施計画大し、平原する。	今 に基づき平成 次31年度には	後の方向 228年度から順 全19校におい [・]	今後の方向 実施計画に基づき平成28年度から順次実施校を批 大し、平成31年度には全19校において給食を実施 する。
・特になし	課題·問題点		· 會別 不中中特	H2.84 中学校、高倉 で中学校給信	F度事業計画 中学校、大庭中 をを実施 をを実施	H28年度事業計画 ・御所見中学校、高倉中学校、大庭中学校及び大清 水中学校で中学校給食を実施

事業コード事業名		生涯学習推進事業		担当部		生涯学習部	学習部
4	+			旧川器	- 13	生涯子官	当栉郊新
・市民活動団体や関係機関とのマルチパートナーシップ等の活用を図り、多様な学習機会や学習情報の提供を行うことにより、市民の生涯学習を推進する。 ・各種講座で習得した知識や技術・技能を生かして地域で主体的に活動することができる人材を育成・支援する。	事来目的 機関とのマルチパ や学習情報の提供 1職や技術・技能を 、材を育成・支援す	ートナーシップ等の活用を を行うことにより、市民の を生かして地域で主体的に る。	の活用を 市民の E体的に		※ 対	(日本) (日本) (日本)	
事業内容 ・生涯学習大学事業の実施 ・大学市民講座等各種講座の実施 ・大学市民講座等各種講座の実施 ・生涯学習出表講座の実施 ・生涯学習情報の収集・提供と学習相談の実施 ・生涯学習情報の収集・提供と学習和談の実施 ・生涯学習もの表彰の実施	事業内容 実施 (事業的 事業 (事業) (事業) (事業) (事業) (事業) (事業) (事業) (事	の実施					
	H27年度 ●各種講座·事業	H27年度 H28年度 ●各種講座・事業の実施	H29年度	₩X	H30年度		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施 ●人材の育成・3	↑ → Ž援	<u> </u>	Н	1	Н	1
	実施	1	<u> </u>	H	1		1
予算額(千円) 決算額(千円)	5,385 5,180	5,615					
教行率 (%) 96.2 4次ごとの取組計 ・生涯学習大学事業実施数24講座 画 (年次ごとの目標・うち市民講師養成コース新規事業「市民講師 [世]に対するH27年 企画講座 16講座 左天の成果 企画講座 16講座	96.2 E涯学習大学事業 55市民講師養成: 画講座」6講座	実施数24講座 コース新規事業「市	- 医講師	H27年度の 総合評価		評価 B	次年度継続
H27年度 進抄	歩状況(今年度の変	小果·成果)			評価の理	#	
・年間をとおして、生涯学習情報収集・発信及び学習相談・ 情報提供を実施し、市民の学習を支援した。 ************************************	学習情報収集・発えの学習を支援し	信及び学習相談・ た。		3大学事業 市民人村の 「キニンセ	や、人材 り育成 活 7 + 4	バンクの 用に密め	・生涯学習大学事業や、人材パンクの運営をとおして地域の市民人材の育成・活用に努め、一定の成 またはよしまま、カマナル
- 大字市 氏講座参加者数 (4大字)	数(4大字) (学 医職義塾大学 多摩大:	(人) (学 年度計 1,477 -ス および「ゲミ	・「一、大学で、国の主は、関の無い、関の無い、関の無い、関係を関係を対し、関係を対し、関係を対し、関係を対し、関係を対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対	こったった 習ふごさわ 及び進捗信 杯糸代をす	の/5℃。 パラン201	16」につい ったことに ことができ	ではでは7とないのであった。 「生涯学習ぶじさカプラン2016」について、後期計画の策定及び進捗管理を行ったことにより、生涯学習的策策の体系化を推進することができたため。
ナールコース」については、市民活動のコーディネートを担っている団体に事業委託することにより、団体の有する専門性を生かした事業内容となった。 ・ 在産学団大学事業の「市民議師・・ 成コース」では、人材・・ イエデット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(は、市民活動の三巻託することにより内容となった。) 「市民講師養成コール」		・生涯学習 推進する 者が自由	部大学事業 市民人材を に集い、交	今後の方 をとおして 育成する 流し、研3	r向 C、地域の ために、 究を行うた	今後の方向・生涯学習大学事業をとおして、地域の生涯学習を推進する市民人材を育成するために、事業の参加者が自由に集い、交流し、研究を行うための拠点を
ハンプルフリスの映を加入して表記しい。 おに、刺たして市民講師の回講座」を開催し、人材バンク登録者の積極的な活用を推進した。 ・人材バンクの運営も順調に進み、市民の学習活動の支 ・根ケバンタの運営も順調に進み、市民の学習活動の支 構足、学習の専の中本会演示を推進することができた。 ・出張講座実施・利用状況	FXXxeなんして 整」を開催し、人材 た。 i調に進み、市民の 讀示を推准するこ。 i:Xx		端 (17.0年)	え 受 受 で	° &		
実施状況 利用状況 登録件数 ************************************	34次元 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	利用状況 数 講座数 83人 29講座 1直しを行い策定し 第140事業につい					
て平成26年度の進捗管理を行った。 ・生涯学習特別貢献表彰式を6回実施し、個人37人、団体 5組に対して表彰を行った。 課題・問題点	警理を行った。 彰式を6回実施し、 た。 課題・問題点	個人37人、団体	·生涯学智 ·大学市月	H2 3大学事業 時報等等	8年度事 の実施 種講座の	業計画)実施	
・生涯学習ネットワークをさらに広げるために、生涯学習大学事業については、より多くの機関や団体と連携し、多様な学びの場合を提供することが必要である。 ・人材バング制度のさらなる活用を促進するために、登録者が活躍することができる場や機会を創出する。	をさらに広げるため J多くの機関や団ん ことが必要である。 なる活用を促進す なる場や機会を創し	カに、生涯学習大 本と連携し、多様 - るために、登録 出する。	· · · · · · · · · · · · · ·	当人をストリーの 日子・ というでは といった。 といった。 といった。	700 連 (の実施 集・提供 プランの 法表彰の実	7.华智相 [恭會理 [新	大・生涯学習出張講座の実施 ・生涯学習出張講座の実施 ・生涯学習情報の収集・提供と学習相談の実施 ・生涯学習ふじさわブランの進捗管理 ・生涯学習特別貢献表彰の実施

	メー・イグ	これに対け		1/// tix ii ii	
事業⊐一ド 412 事業名	名 地球温暖	地球温暖化対策普及啓発事業		担当部 担当課 <u>電</u>	境境部 環境総務課
事業目的 市民、事業者、行政等が一体となってすべての主体が省エネ行動 に取り組むことにより、温室効果ガスの削減を図る。 (温室効果ガスを2022年度までに40%削減する)	事業目的 が一体となってすべ 温室効果ガスの削が F度までに40%削減	、ての主体が省エ 蔵を図る。 載する)		変更(ある場合) 「年次ごとの取組計画」を「ふじさわ環境フェアの開催」に変更し、入場者数と出展団体 を目標値として設定した。(H28)	引 「ふじさわ環境フェ 者数と出展団体 (H28)
事業内容 地球温暖化防止のため、ふじさわ環境フェアの開催、環境ボータル サイトの運営、エコライフハンドフック概要版の配布など啓発施策を 実施する。	事業内容 、ふじさわ環境フェ フハンドブック概要	:アの開催、環境: 版の配布など啓身	ドータル き施策を		
	H27年度 ●ふじさわ環境フュ	H28年度 ェアの開催	H29年度	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	入場者数4,000人	4,000人	4,000人	4,000人	4,000 <i>\</i>
	出展団体 50団体	50団体	50団体	50団体	50団体
予算額(千円) 決質額(千円)	8,335	280			
執行率(%)	80.9		=	-	
年次ごとの取組計 ふじさわ環境フェア 画(年次ごとの目標・入場者数 3,888 / 値)に対するH27年 ・	じさわ環境フェア (場者数 3,888人 出展団体 46団体		H27 総4	評価 H27年度の 総合評価 B	次年度 維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 【ふじさわ環境フェアの開催】 市民、環境団体、NPO法人、環境関連企業が一- し、環境イベントを実施。 ・開催 B: 2015年11月21日(土)	s状況(今年度の効 開催] O法人、環境関連公 21日(土)	今年度の効果,成果) 環境関連企業が一堂に会土)	・計画どおりの ・環境ポータル については、領 ・シごさわ環境 の利用者ともに	評価の理由 ・計画どおりの事業を行うことができた。 ・環境ボータルサイトやエコライフハンドブック概要版 ・については、節電意識を高める一助となった。 ・ふじさわ環境フェアの入場者、環境ボータルサイト の利用者ともにH26年度以上である。	きた。 ハンドブック概要版 カとなった。 境ポータルサイト 5。
·入場者数:3,888人 ·出展団体:46団体			・これまでの施	今後の方向 ・これまでの施策を継続していくものの、新規要素を	りの、新規要素を
【環境ポータルサイトの運営】 環境関連の情報提供のため、環境団体の活動状況等を 掲載したポータルサイトを運営。 ・トッフページ・アウセス数:19.434アウセス ・環境のリック募金のリック数:286.448クリック	運営】 のため、環境団体(を運営。 9,434アかス 数:286,448クリック	の活動状況等を	取り入れるなととともに、啓発	取り入れるなど、創憲工夫により入とともに、啓発効果を高める。	, 場者等を増やす
【エコライフハンドブック概要版の配布】 家庭でできる省エネ行動を紹介したエコライフハンドブック概要版を広報ふじさわと併せて配布した。 ・配布田:2015年7月25日	概要版の配布】 F動を紹介したエコ: oと併せて配布した 5日	ライフハンドブッ。	・シンでも環境	H28年度事業計画 ・ふじさわ環境フェアの開催	国
- 配布 先: 156,000部			開催日:2016年11月 場所:藤沢市民会館	(年11月 民会館	
課題・問題点・・啓発事業は、環境意識を高めることができるものの、追撃を別りることができるものの、追撃の男力ス削減量にどの程度貢献しているのか数値化することが難しい。	課題・問題点 我を高めることがで の程度貢献してい	きるものの、温 るのか数値化す	・環境ポータル コンテンツの 報提供のため	・環境ボータルサイトの運営 コンテンツの見直しを行い、さらなる環境関連の情報提供のため、環境団体の活動状況等を掲載。	:る環境関連の情 :況等を掲載。
・環境ポータルサイトについて、定期的にコンテンツの見直しを行っているが、さらなるアクセス数の増に向け、これまで以上にコンテンツの充実を図っていくことが求められている。	ついて、定期的に5なるアクセス数の増 24をアクセス数の増 8実を図っていくこと	ロンナンシの見直 に向け、これま が求められてい	エコライフ/い 家庭でできる ドブック概要版 の節電対策の 配配 配和 E 2016	・エコライフハンドブック概要版の配布家庭でさる省エネ行動を紹介するエコライフハン家庭でできる省エネ行動を紹介するエコライフハンドブック概要版を広報ふじさかと併せて配布し、夏期の節電対策の一助とする。配布目:2016年7月25日	3布 Fるエコライフハン せて配布し、夏期
			配布先:156,000部	000部	

事業目的 市民が「学ぶ楽しさ」「知る喜び」「役立つ情報」「深い思素」「やすらぎ、ふれあい」を得られるよう、資料・情報・施設の提供を行う。 事業内容	事業目的 16喜びJT役立つf 7 こ ※対 佳却		H		変更(ある場合	5る場合)
	のより、貝科・哨報	・施設の提供を行	ر ئ ک			
市民の多様な学びを支 情報・施設を提供する。	事業内容 市民の多様な学びを支援するために、4館・11市民図書室で資料・ 情報・施設を提供する。	B·11市民図書室	で資料・			
	H27年度	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	貸出件数390万件/年	391万件/年	392万件/年		393万件/年	394万件/年
予算額(千円)	308,928	310,412				
決算額(千円) 劫行率(0%)	305,364					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 貸出件数 値)に対するH27年 378万件/年	出件数 8万件/年		### HZ ### ### ### ####################	H27年度の 総合評価	型型 国 B	次年度継続
HZ7年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 4市民図書館・11市民図書室を開館・開室し、資料の閲覧・貸出、レファレンス等のサービス事業を実施した。 た期的に、おけなし会、映画会等を開催した。 4現職賃機材の貸出を実施するとともに、165リ映写機操作講習会を実施した。	5状況(今年度の効図書室を開館・開覧 図書室を開館・開覧 等のサービス事業? 、映画会等を開催 実施するとともに、		- 4市民図書創 貸出、レファL 活動の推進、 利用者に提供	評 3-11市民 パンス等の 啓発に努 できた。	 	評価の理由・4市民図書館・11市民図書室において資料の閲覧・ 貸出、レファレンス等のサービス事業を実施し、誘書活動の推進、啓発に努め、安全・快適な利用環境を利用環境を利用者に提供できた。
・講座等を実施し、読書活動の推進、啓発に努めた。 ・展示コーナーを設置し、読書活動の推進、啓発に努め た。 - 本語会・ホー= 単の登出を示し、 古日平断の推准・	活動の推進、啓発、活動の推進、読書活動の推進、発表を行い、非単語	に努めた。 、啓発に努め ====================================	・市民や時代 民図書館・11	今 のニーズ 市民図書	後の方向 こ対応しなが 室において貧	今後の方向 ・市民や時代のニーズに対応しながら、引き続き4市 民図書館・11市民図書室において資料・情報・施設
・ 大部里・バール サジョ 山を 110、 ロスムョッの 元年 によった がいません 、	に加て11で、ロルで4条を協力を得て、「「 を深め、リサイクル」 (6月・10月・1月・3条・ 維持管理に努め、いた。	Moortielに分の でプックフェア等 ・月ックフェア等 8月)開催した。 安全・快適な利	を提供してい・総合市民図・総合市民図の施設の維持を維持する。	く。 書館の運 拝管理に勢	営を行うため 3め、安全で1	を提供していく。 ・総合市民図書館の運営を行うため、清掃、警備等 の施設の維持管理に努め、安全で快適な利用環境 を維持する。
課題・問題点 ・利用者に安心・安全な施設を提供するため維持管理に努めているが、施設の老朽化に伴い故障や破損、不具合が発生しており、計画的に対応していく必要がある。	課題・問題点 施設を提供するた られに伴い故障や こ対応していく必要	必維特管理に努 破損、不具合が がある。		H284 ・貸出、レ ・受出、レ ・受賞 出及。 の貸 出及。 ・一の設 管 ・ル・等の貸 ・シリ」の開係。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	反事業計画 ファレンス等 の開催 び16ミリ映写 推座等の実施 性	H28年度事業計画 ・資料の閲覧・貸出、レファレンス等のサービス事業 の実施 ・規聴貨機材の貸出及び16ミリ映写機操作講習会の 実施 週間等における講座等の実施 ・競売週間等における講座等の実施 ・会議室・ホール等の貸出 「図書館まつり」の開催 ・図書館協議会の開催 ・図書館協議会の開催 ・一部の推構をの

事業も 報告 報告 報告 報告 報告 報告 報告 報	
事業目的	担当課 総合市民図書館
	変更(
事業内容	
年次ごとの取組計画 貸出件数 137.756 138.652 138.552 寿貨額(干円) 137.756 138.652 申 寿介華(%) 99.1 138.652 申 寿介華(%) 99.1 138.652 申 東方華(2との取組計画 138.566 138.652 申 中の法人に立連市民図書館・28万件人年度の効果・成果) 138.652 申 ・除合市民図書館の図報 ・28.5年民図書館の選営状況 中間に運営の図書、28.5年民の国電営状況 申 ・除合市民図書館の図報 ・ 29.4年に ・ 20.4年民の ・ 20.4年民の ・経合市民図書館及び網南大産市民図書館が引き続き質 ・ 2.4年民の書館の運営状況 ・ 2.4年民の の支援等を行った。 ・ 2.4日民の書館が受けを表記した。 ・ 2.4日に ・ 2.4日に 11 日間 施品 ・ 2.4日に ・ 2.4日に 11 日間 ・ 2.4日に ・ 2.4日に ・ 2.4日に 11 日間 ・ 2.4日に 2.	
年次ごとの取組計画 貸出件数 H28年度 H29年度 年次ごとの取組計画 貸出件数 390万件/年 391万件/年 392万件/年 東算額(干円) 137,756 138,652 日本の応果 東大章の成果 年次ごとの別標 (登出件数 (電台) (金) (金) (金) (金) (金) (金) (金) (金) (金) (金	
年次ごとの取組計画 貸出件数 390万件/年 391万件/年 392万件/年 予算額(干円) 137,756 138,652 138,652 138,652 136,566 136,566 138,652 136,566 138,652 136,566 136,566 138,652 136,566 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 138,652 148,652	E H30年度 H31年度 H
予算額(干円) 137,756 138,652 執行章(千円) 136,566 138,652 もれてとの取組計 (自)に対するH27年 (自)に対するH27年 (自)に対するH27年 (自)に対するH27年 (自)に対するL42年 (自)に対するL4に、連邦自入底市民図書館の図・辻堂市民図書館がおはなL会等の事業を実施し、順調 (本)の大人に江堂市民図書館、湘南大庭市民図書館の図・辻堂市民図のサービス業務及びおはなし会等の事業を実施し、順調 (本)を検証とでより、 (本)を検証とととして、施設管理、予算執行、サービス業務 の支援等を行った。 (本)を検証とともに指して、大きの通常状況 の支援等を行った。 (本)を検証ともに指して、大きのの運営状況 の支援等を行った。 (本)を検証ともに指して、大きを作うともに指して、今後との運営との関係会議を開催し、情報交換を行うとともに指して、今後との運営に努めた。 (1、生堂市民図書館及び湘南大庭市民図書館が引き続き質 の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営状況 の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営状況 の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営状況 の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営状況	/年 393万件/年 394万件/年
# 執行率(%) 99.1	
中 な	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) -NPO法人に辻堂市民図書館・湘南大庭市民図書館の図・辻堂市民図のサービス業務を美務委託した。資料買出・レファレンス等 円滑に運営のサービス業務及びおはなし会等の事業を実施し、順調 維持できている技術を力をした。 施設管理、予算執行、サービス業務の できてい 一般合市民図書館は、業務委託された図書館の運営状況 を検証するとともに、施設管理、予算執行、サービス業務のに、一に社堂市長の支援等を可用民図書館を譲き開催し、情報交換を行うとともに指示・総合市民図書館の運営・総合市民図書館及び湘南大陸市民図書館が引き続き質の の支援等を の方とを の支援等を の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営状況 及び総合市民図書館の支援機能を検証していく。	評価 次年度 H27年度の B 総合評価 B
・NPO法人に辻堂市民図書館・湘南大庭市民図書館の図・辻堂市民版のサービン業務を業務委託した。資料質出・レフレンス等 円滑に運営のサービス業務を記して、資料質出・レフレンス等 円滑に運営のサービス業務を記すたりません。 一般を一年図書館の運営状況を検討するとともに、施設管理、予算執行、サービス業務を検討するとともに、施設管理、予算執行、サービス業務を検討するとともに、施設管理、予算執行、サービス業務を検討するとともに、施設管理、予算執行、サービス業務を持てきている支援を持つた。	評価の理由
な運営が行われた。 ・総合市民図書館は、業務委託された図書館の運営状況 を接近するととは、施設管理、予算執行、サービス業務 の支援等を行った。 ・総合市民図書館管理職、NPO法人管理職及び事務局に した、今後と よるNPO連絡会議を開催し、情報交換を行うとともに指 して、今後と 示・監督に努めた。 (WPO送人) ・で、今後との選問の選問の選問の選問の選問の選問の選問の選問の選問を表していての検 いまれての検 いまれての検 いいての検 いいての検 いいての検 なび総合市民図書館の支援機能を検証していく。	・辻堂市民図書館・湘南大庭市民図書館の2館とも、 円滑に運営され、従来の図書館サービスの水準を維持できている。
の支援等を行った。 ・総合市民図書館管理職、NPO法人管理職及び事務局に「お土堂市長上上土堂市上上土場合市民図書館を開催し、情報交換を行うとともに指して、今後との手を督に努めた。 「NPO法人に 今後との長い四書館及び湘南大庭市民図書館が引き続き質ったでの域 の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営大いの政党を市民図書館の支援機能を検証していく。	1+6%
	ラ彼のカトリー ・総合市民図書館は、NPO法人に運営業務を委託 した土堂市民図書館及び納南大庭市民図書館に対して、今後とも施設管理、予算執行、サービス業務の及場等を引き続き行う。
•	
課題・問題点 ・辻堂市民図書館及び湘南大陸市民図書館が引き続き質 の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営状況 及び総合市民図書館の支援機能を検証していく。	H28年度事業計画 NPO法人による辻堂市民図書館と湘南大庭市民図書館の運営状況及び総合市民図書館の支援機能についての検証を継続する。

事業内容 市民が安心して利用できる図書館施設を維持していくために4市民 図書館の施設修繕と改修工事を行う。				修工事」を決	修工事」を追記(H28)	
	事業内容 できる図書館施設を 改修工事を行う。	を維持していくため	C4 市民			
	H27年度 ●施設修繕及び	H27年度 H28年度 M影影機構及化砂修工事	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)		####################################	施調設備改	- L 田 田 シ		
以 日 日	000	養	一体型外調機	***		
ア昇観(十円) 決算額(千円)	16,610	4,731				
執行率(%)	81.0					1
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 総合市民図書館2階視聴覚ホール空調設備 値)に対するH27年 改修工事及び排水設備改修工事実施 度末の成果	総合市民図書館2F 改修工事及び排水	皆視聴覚ホール空記 設備改修工事実施	周設備	H27年度の 総合評価	計画	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・総合市民図書館2階視聴覚ホール空調設備及び排水設備の改修工事を行った。	[捗状況(今年度の対 皆視聴覚ホール空調 た。	カ果・成果) 設備及び排水設	·安心でむたたたんだんがったったんだんがく しょくしょく しょくしょく しょく かんがく しょく かんがく しゅうしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	夹適な環境	評価の理由 ・安心で快適な環境を利用者に提供することができ た。	きょることがで
			・老朽化し設修繕と	, た施設の 改修工事を	今後の方向 ・老将化した施設の維持・管理のため、計画的に施 設修積と改修工事を実施していく。	め、計画的に
課題・問題点・各施設の状況を把握し、利用者への影響がないように、 引き続き、老朽化した施設設備の修繕計画を立て、施設 修繕と改修工事を行っていく必要がある。	課題・問題点 程で、利用者への影 施設の構り修繕すっていく必要がある		·総合市5 工事を行	大区 書館 子 区 書館 子 ご。	H28年度事業計画 ・終合市民図書館全熟交換機一体型外調機の改修 工事を行う。	型外調機の改

·	×	\	-	, i ; i	1 1	4 111 711 711
事業ユート 424		図書館情報ネットワーク事業	**	加用品品	H W	土涯子自即総合市民図書館
事業目的	事業目的			H H	ででである場合 変更(ある場合	
資料・情報の迅速・的磁	Eな提供により市 月	ミサービスの向上を	が 図 ゆ			
事業内容 図書館情報ネットワークンステムの維持管理及び県内公立図書 館・市内大学図書館との連携を推進する。	事業内容 アンステムの維持 の連携を推進する	管理及び県内公立 。	丰			
				L		
	H27年度 ●図書館情報ネ	H27年度 H28年度 H29年度 ●図書館情報ネットワークシステムの維持管理等	H294 の維持管		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	図書館ホームペ- 48万件	-ジからの予約件数 49万件	数 50万件	<u> </u>	51万件	52万件
予算額(千円)	39,245	38,667				
決算額(千円)	39,236					
執行率(%)	100.0				#/ ##	*
年次ことの取割計 国(年次ごとの目標 国)に対するH27年 (最)に対するH27年 (表の成果)	書館ホームページ 万件	からの予約件数		H27年度の 総合評価	L E E E E E E E E E E E E E E E E E E E	次年度 継続
H27年度 進抄	5状況(今年度の対)果·成果)	1	iliila *	年間の理由	評価の理由
・4館コンピュータンステム及ひ機器の維持管理並びに11 室のコンピュータ機器の維持管理を実施した。 ・図書館ホームページを随の事的、最新情報の提供に努め、利用者の利便性を図った。 ・県内公立図書館及び市内大学図書館と連携を図り市民	ム及び機器の維持 3維特管理を実施1 2個時更新し、最親 20つた。 市内大学図書館と	等管理並びに11 った。 作権の提供に努 連携を図り市民	・図書館コ 用者の利・ ・4館11室: 図書館や:	・図書館コンピュータンステムの別 相者の利便性の向上が図れた。 4館11室ネットワークシステムの 図書館や市内大学図書館の連携	/ステムの維 } が図れた。 システムの充 書館の連携か	・図書館コンドュータンステムの維持管理を行い、利害をの利便性の向上が図れた。 4路11室ネットワークシステムの充実及び県内公立図書館12室ネットフークシステムの充実及び県内公立図書館の連携が図れた。
サービスの向上を図った。湘南地区図書館連絡会を開催 し、近隣市図書館と情報交換を行った。市内4大学図書館 "" と相互協力関係者勉強全を開催し、情報交換を行った。 ・市民図書室のオンライン化に向けて、事務の見直しなど。 検討を行った。	た。湘南地区図書の改換を行った。井谷な様を行った。 井舎を開催し、情報でんに向けて、事べんに向けて、事べんに向けて、事	館運絡会を開催 5内4大学図書館 交換を行った。 ・務の見直しなど	-4館11室 るとともに 層の連携 事なる向	カネットワー () () () () () () () () () () () () () (がある方向 カシステムの 図書館や市内 ことにより、図	今後の方向 ・4館11室のネットワークジステムの更なる充実を図るとともに、県内公立図書館や市内大学図書館の一層の連携強化を図ることにより、図書館サービスの再なる向上にあり組みでいく。
課題・問題点 市民ニーズの多様化や高度情報化社会に対応するため、 平成30年度の図書館コンピュータシステムのリプレイスに 向け、新たな機能の追加として市民図書室の蔵書登録と オンラインシステム化を計画している。	課題・問題点 高度情報化社会 アピュータンスティンピュータンスティー 計画している。	こ対応するため、 とのリプレイスに 室の蔵書 登録と	東なる同小・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28 (50) ステント (50) ステント (20) ステント (20) ステント (20) フトレント (20) 日本 (20)	イ 佐 事 業計画 (カリンイメ) (カリンイメンイメ) (1. 4館 11 室を ろために、平 5 インたを実施	関係の向上に取り組んでいく。 HZ8年度事業計画 ・平成30年のシステムのリプレイスに同けて、平成29年度に実施予定のプロポーザルの準備を行う。 ・市民図書室について、4館11室を一元管理し、市民の利便性の向上を図るために、平成30年10月のリプレイスと同時にオンライン化を実施することの検討をさらに進める。

の図書館利用を可能に	米冊9の「Cが日	図書館・図書室に来館・来室することが困難な障がい者や高齢者の図書館利用を可能に1		事館に来館 - 歩画(H28	を図書館・図)	図書館に来館を図書館・図書室に来館・来 安に
の凶音品がJACJUBILC、TAV LAVIJALENS。 事業内容 図書館「図書室に来館・来室することが困難な障がい者や高齢者に 対し、ポランティアにより図書館資料を宅配する。	- 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	<u>プロエを図る。</u> <u> 難な障がい者や</u> 配する。	U	2 X X		
	H27年度 ●宅配サービス事	H27年度 H28年度 ●宅配サービス事業の実施	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	宇配による貸出件数 7,450件	-数 7,600件	7,750件	-	7,900件	8,050件
予算額(千円) 決管額(千円)	673	673				
が非職(117) 執行率(%) 年次ごとの取組計	94.7				計量	次年度
画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果	配による貸出件数	: 7,753件/年		H27年度の 総合評価	ω	継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・延べ利用者数 2096人 ・貸出資料件数 7.7834 ・関助車でのポランティア活動に対応するポランティア保険 つい 加入手続きを行った。保険対象者 50人 ・広報ふじさわに宅配サービスの利用者及びポランティア	5状況(今年度の効 6人 3件 ア活動に対応する: 保険対象者 50人 Hビスの利用者及	果・成果) ボランティア保険 をびボランティア	・ボランティン アの活動範 つながった。 ・利用者ーノ	評 ア保険を活 囲が広がり (あたりの)	面の理由 申することに 、待機ボラン 貸出件数が増	評価の理由・ボランティア保険を活用することにより、ボランティアの活動範囲が広がり、待機ボランティアの解消につながった。
の募集記事掲載を行った。 ポランティア交流会を開催した。11月19日(木) 参加者 17名 ・職員とポランティアが協力して宅配利用者に資料の紹介 をするための方法について検討した。	た。 期催した。11月19日 為力して宅配利用ラ いて検討した。	3(木)参加者 音に資料の紹介	・	0	後の方向 者に対応でき もにボランテ いる利用者に 8くの資料に	今後の方向 ・市内全域の利用希望者に対応できるよう、ボラン・ ティアの確保を図るとともにボランティアの養成をしていく。 ・今サービスを利用している利用者に対し、資料の紹介を行うことによりより多くの資料にふれられるよう
課題・問題点	課題・問題点者について受入及 者について受入及 確保とマッチングオ イイ希望者によ スプ法を検討する。 利用者に対し、本の ら、実施できるよう	び対応可能とす が課題である。 ショカかりやすく事 の紹介をしたいと の紹介をしたいと	H28年度事 ・ボランディアによる宅配サ ・広報ふじさか、館内ボスタ ・広報などされ、電内ボスタ ・ボランティア交流会の開催 ・ボランティア交流会の開催	H284 か、館内ボ たな事業の ア交流会の ア交流会の	:度事業計画 274	H28年度事業計画 ・ボランティアによる宅配サービスの実施・広義らにされ、館内ボスター掲示、図書館ホーム・仏教らによる事業のPR及びボランティアの募集・ボランティア交流会の開催

事業コード 事業名 426	事業名 子ども	と ボボハー 3×1日 ガベモ・モディングも読書活動推進事業		田当部総	####################################	生涯学習部 総合市民図書館
(言葉を学び、) 、人生をより深 3書環境を整備	事業目的 感性を磨き、表現ご に生きる力を身に に、読書機会の充	事業目的 子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かな ものにし、人生をより深く生きる力を身に付けることができるよう、子 どもの読書環境を整備し、読書機会の充実を図る。	豊かなよう、子	lon	変更(ある場合	(量
事 藤沢市子ども読書活動推進計 整備と読書機会の充実を図る。 - ブックスタート事業など子ども	事業内容 動推進計画川に基- 宅を図る。 ビ子どもの発達段的	事業内容 藤沢市子ども誘書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境の整備と誘書機会の充実を図る。 マックスタート事業など子どもの発達段階にあわせた事業等の充	環境の 等の充			
[出など学校及]	び子どもに関わる	夫 ・団体貸出など学校及び子どもに関わる施設・団体等との連携事業 の充実	議事業			
・子どもと読書に関わるボランテ・学校図書館の運営等への支援	5ボランティアの育成・への支援・への支援	成				
	H27年度 ●学校及び子ど:	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 ●学校及び子どもに関わる施設団体等との連携事業の実施	H29年度 本等との連携	事業の実施	30年度 布	H31年度
年次ごとの取組計画(年かごこの日書店)	団体貸出回数 750回 ●子どもの発達[体質出回数	850回 業等の実施		回006	950回
	ブックスタート事業の実施 ●ボランティアの育成	業の実施 →)育成	1	Н	1	1
	交流会·研修会等	等の実施 →	1	H	1	<u></u>
予算額(千円)	5,542	5,208				
洪昇徴(十円) 執行率(%)	5,235 94.5					
画劃末	・学校及び子どもに関わる施設団・ 回数 (953回) ・ブックタート事業の実施 (48回) ・ボランティアを消金 (5回) 研修4	・学校及び子どもに関わる施設団体への団体貸出 回数(953回) ・プシクスタート事業の実施(48回) ・ポランティアや活金(5回) 価格会(3回)の事権		H27年度の 総合評価	単4	次年度継続
H27年度 准数	米米语(今年度0岁	_		小正三	中暦の単	
「ふしさわ子ども精書ブラン2 画」を策定した。 ・ブックスタート事業を48回実 ・アラで支援情報・図書館 パックを3574人に手渡し、終 なるよう努めた。	・「ふしさわ子ども振撃プランスのでいる。 10 を乗送するとも 10 かえなート事業を毎回実施いる。第3次職が日本名の誘き指動が推進計 17 かえなート事業を40回実施・幼児と保護者に呑本の誘き指動がせを行い、子育て支援情報・図書館業内・絵本リスト等の入ったブックスタート・ パックを6.3元人に手渡し、絵本をかしたしふへあう時間を持つきっかけと なるよう8の7c。	Ť	・計画どおり事業を行うことが・ ・団体貸出等、学校及び子とが、 ・団体貸出等、学校及び子とが、 連携事業について周知を図・ クスタート事業前後のフォロー・ 子健康手帳交付時に啓発リー・	業を行うこと 学校及び子 いて周知を目前後のフォー	moviting	・計画とおり事業を行うことができた。 ・団体貸出等、学校及び子どもに関わる施設団体等との 連携事業について周地を図り、多く利用された。また、ブッ クスタート事業前後のフォローアップ事業として、新たこ年 子健康手帳交付時に啓発リーフレットの配付がはじまっ
『手帳交付時・「こん」 『に啓発リーフレット 『子どもに関わる施 努めた。 リブックフェアを2回 ドデー、名権設等の	、母子健康手帳交付時、「乙人に乞は不多心事業」・3歳64月用鑑診時で、保護者に啓発リーフレッケ配付し、熱害に関心な特与機会的拡充に、学校及びな子もに関わる施設・団体等に団体貸出を95回実施し、資料の元実に努めた。 1.サケクリアプケフェイを宣興策し、学校及び幼稚園、疾育園等に対して、資料は出来を同人、プランテルーを表現しまる。	3歳6か月児健診時 各特3歳金の拡充に を958回実施し、資料	た。 ・学校及び子と いては、市内 st たため、目標(L よっては貸出[今(ざもに関わる を体の増加数 直を大きく超。	後の方向 が施設団体等/ 数が見込み以 えることとなっ も見られること	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・図書館、図書室おはないよい。 ・図書館、図書室おはなし会別 同士の意見交流や情報共有 ・ロックスタードランティア交 参考とすることができた。 ・図書館・図書室おはなし会が ・アイザ修会を1回実施し、今 ・キャー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・ 図書作版では、まれないサイバのでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、こと	WATARECTIVE、ALEASON TO AT	目標値については据え置きとい、経過を観察すに、毒業の質な高期に努める。 ・ポランティア交流会及び研修会等の実施にこれでファイアを流会及び研修会等の実施にこれでかった。 ・ポランティアを流会及び研修会等の実施にこいで検討する。 ・プックスタート事業前後のフォローアップ事業は、関係各課と調整しつつ引き続き実施する。	ては据え置き なる周知に勢 交流会及び4 の充実につ 事業前後の よ調整しつつ	きとし、経過を ろめる。 研修会等の実 いて検討する フォローアッ	目標値については据え置きとい、経過を観察するととも に、事業の質な高周和に努め会・ ・ポランティア交流会及び研修会等の実施については、日 程や研修内容の元実について体討する。 ・プックスタート事業前後のフォローアップ事業について は、関係各群と調整しつつ引き続き実施する。
曽館専門員連絡会に Fども読書活動推進を行い、今後の取 紛を行い、今後の取紛	こ参加し、学校図書館と st 蓋を開催し、事業報 Bの参考とした。	•	H28年度事業計画 ・学校及び子どもに関わる施設・団体等に 料の団体貸出・配本等、連携事業の実施・学校図書館専門員連絡会への参加等与	H28年 どもに関わ 出・配本等、 専門員連約	:度事業計画の名称:30を表現のである。 : とのでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のできる。これでは、日本のできる。これでは、日本のできる。これでは、日本のでは、日本のできる。これでは、日本のでは 日本のでは、日本のでは	H28年度事業計画 ・学校及び子どもに関わる施設・団体等に対する資 料の団体貸出・配本等、連携事業の実施 ・学校図書館専門員連絡会への参加等学校図書館
(ランティア交流) (プチビャイア交流) (プチビもに関す等について検診等について検診はカチビも読書: カチビも語書 (カチビを計画」の検	課題・問題点・各種ボランティア交流会及び研修会等の充実を図る。・・学校及び子ともに関わる施設・団体等との連携事業の周切方法として検討の必要がある。・・「ふじさわ子ども読書ブラン2020 第3次藤沢市子ども誌書活動推進計画」の検証方法について検討する。	-	運営に関わる支援の実施 ・ブックスタート事業及びフ ・グックスタート事業及び ・藤沢市子とも誘き活動会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5支援の実 ト事業及ひ デイア交流3 も読書活動 も読書活動 ども読書 ばま計画」に	施 パフォローアッ 会及び研修3 が世進会議の パラン2020 第 に基づき、関	運営に関わる支援の実施 ・ブックスタート事業及びフォローアップ事業の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業コード | 事金々 | 古字図書給事業 | 担当部 | 生涯学習部

# ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## #		担当課	4 数	·H 대 첫 부 60
程度障がい着の生活向上を図る。 現度障がい者の点字・録者図書の製作・ りエーンョン活動への点字・録者図書の製作・ サエーンョン活動への支援、点字指導及び、 等類領(干円)				하다마시스트파
視覚障がい者の生活向上を図る。 視覚障がい者への点字・録音図書の製作・ リエーション活動への支援、点字指導及び・ キャズことの取組計画 (年次ごとの即組計画 (年次ごとの取組計画 (年次ごとの即組計画 (東書数) 34394/h (東京東京 (本次ごとの取組計画 (東部東京) 11.164 (東京) 10.575 (東京 (東京) 1			変更(ある場合)	第合)
(年次ことの取組計画		点字力ナ (H28)	タイプ指導を点写	芹指導に変更
(年次ごとの取組計画 藤書数 (年次ごとの取組計画 藤書数 (年次ごとの取組計画 第340分化)	貸出サービス、文イポランティアの育成	イング		
(年次ごとの取組計画	H28年度		H30年度	H31年度
(年次ごとの即組計画	1. 京子:聚日区市0.	7限 車数		
等算額(干円) 11.164 海質額(干円) 10.575 報行率(%) 94.7 年次ごとの取組計 値)に対するH27年 28.52タイトル・講習会制 度素の成果 14.57年 28.7元イブの協力 にがするH27年 28.7元ライブの協力 に対するH27年 28.7元ライブの協力 に対するH27年 28.7元ライブの協力 に対するH27年 28.7元ライブの協力 に対するH27年 28.7元ライブの協力 に対するティアを高するであり、 ボランディブを養成するための講座を実施し、利 は高がボランティア講習会 修了10人(延く人数37 音配ボランティア部図会 39人 は同様がいき料理数室協力ボランティア研 ・ボランティア等の協力により、視覚障がい。 講座等を実施した。(人数14ボランティア等 大ランティア等の協力により、視覚障がいを対 は高がいる料理数室協力ボランティア等 大ランティア等の協力により、視覚障がいを対 は高がし、ことが、自然はボランティア等 本 がのバスハイク 18.86人 パブランティアを を 約60人) 17.8 加着67人、(ボランティア合立) ・辞を第1、1、参加者67人、(ボランティア合立) ・辞を第1、1、参加者67人、(ボランティアの) ・辞を等にしており、家族のが記 ・ボランディアが高齢化しており、家族のが記 ・ボランディアが高齢化しており、家族のが記 ・ボランディアが高齢化しており、家族のが記 ・諸座等については若年視覚障がい者の利 め、開催時期・内容・広報活動などについて ある。 が、開催時期・内容・広報活動などについて	9,4009イトル 養成の基本講習会	9,460タイトル	9,520タイトル	9,580941/1
李算額(干円) 11,164 決算額(干円) 10,575 執行率(%) 94,7 年次ごとの取組計 一面(年次ごとの目標・視覚障がい者向け点 正成形式シテイア・音形ボランディアの協力 とい数(新規) *点字図書 14タイトル・業部 ドル数(新規) *点字図書 14タイトル・業 ボランディア・整本課型会 修了10人(延入人数 高部ボランティア・書部ボランディア研 ボランティアを表本講習会 修了10人(延入人数 計画がイランティア語書会 修了10人(延入人数 音部ボランティア書書会 修了10人(延入人数 音がフティアを取出した。人数はボランティア研 ボランティアを取出した。人数はボランティア研 本・デンティアを関係を表し は、デンティアが高層を表した。人数はボランティア等 本・ボランティアを表本講習会 修了10人(近へ人数3 は、デンティアが高層を表した。人数はボランティア等 本・ボランティアが高層がにており、環境障がい。 でのがスハイク 計86人 パランティアをか 本・デンティアが高層がにており、家族の介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	1	1	1
(本) (10.575 (19.575	11,331			
年次ごとの取組計画(投資庫がい者向け点値)に対する出77年 9,352タイトル・講習金値に対する出77年 9,352タイトル・講習金値に対する出77年 9,352タイトル・講習金値に対する出77年 9,352タイトル・講習金値を表のまるが表では、利力で展産を表して、利力でを表して、一般である。 1,10人位人人数31年 1,27人で発売した。(人数1ボランティア研究会の対象を関係がい、対象では、大ランティアをの協力により、視覚障がい、対象が表が対象会を表した。(人数1ボランティア研究会が対象を表して、人数1ボランティア研究を表して、人数1ボランティア研究を表して、人数1ボランティア研究を表して、人数1ボランティア研究を表して、人数1ボランティア研究を表して、人数1ボランティア等のが、1、1参加者57人(ボランティア合む)、素種の人、1、1、参加者57人(ボランティア合む)、素種の人、1、1、参加者57人(ボランティア合む)、素種の人、カラ・1、1、参加者57人(ボランティア合む)、素様の人、カカイが高齢化しており、家様のが高いで、ありまたが、一部を発表が、1、1、参加者57人(ボランティアの平均年齢もあがで、開産等については若年視覚障がい。者の利の、開催時期・内容・広報活動などについてある。				
画(年次ごとの目標・視覚障がい者向け点 (量)に対するAF7年 9.352タイトル・講習会(AF2の成果 H27年度 造株状況(今年度の効果 H27年度 造株状況(今年度の効果 F12、デンディア、音訳ボランディアの協力 に記述ランティア、音訳ボランディアの協力 に記述ランティアを設定が高速を実施 ボランティア基本講習会 修了10人(延へ人数33 電影ボランティア建プを協力が高速を実施 ボランティア基本講習会 修了10人(延へ人数33 視覚障がい。者料理数を協力ボランティア研 ・ボランティアをの協力により、視覚障がい。 講座等を実施した。(人数はボランティア等) 着、秋のバスパイク 計86人 文学 本・大ランティア等の協力により、視覚障がい。 講座等を実施した。(人数はボランティア等) 書を表施した。(人数はボランティア等) 香、秋のバスパイク 計86人 文学 本ランティア等の協会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会			計	次年度
H27年度、維捗状況(今年度の効場 ・点別ボランテイア・留訳ボランテイアの協力 たる。 トル数(新規)* 未完字図書 14タイトル * 総 ドル数(新規)* 未完字図書 14タイトル * 総 ボランテイを養成するための講座を実施 ボランティアを本講習会 16人(延へ人数3 高別ボランテイの強奏。14人(延へ人数3 高別ボランテイの強奏。10人(延へ人数3 音別がいる料理教室協力ボランティア研 ボランティアを加加した。(人数はボランティア研 者、秋のバスハイク 計86人 本、カリンティア等の協力により、視覚障がい、 清塵等を実施した。(人数はボランティア等 本、サンティア研究を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(字・録音図書の蔵) 修了者 10名	書数 H27年度の 総合評価	の B B	維続
・点別ボランティア、音訳ボランティアの協力 図書及び録音(デイジー)図書を製作し、利 ドル数(新規) * 点字図書 14タイトル * 総 ・ボランディブを養成するための講座を実施 ボランティア基本講習会 修了10人位で人数3 点部ボランティア語会会 39人 視覚障がい者料理教室協力ボランティア研 ・ボランティア等の協力により、視覚障がい、 講座等を実施した。人数はボランティア研 ・ボランティア 等の協力により、視覚障がい、 請座等を実施した。人数はボランティア研 ・ボランティア 等の協力により、視覚障がい、 請案を発変施した。人数はボランティア等 を、	果·成果)		評価の理由	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	協力により、点字 一蔵、利用者に提供し 大野用者に提供し 大野人タイ 応報 (デイジー) むいか	書製作についてきく数字は伸び、えることができたことができたことができたことができたことができたことができ	は完成までに時ないが、利用者ないが、利用者ないが、利用者ないまた新たな啓	藤書製作については完成までに時間がかかるため 、 大きく数字は伸びないが、利用者からのリクエストに げ 応えることができた。また新たな啓発事業に取り組 ・) たことができた。
ボランティア基本講習会 修了10人(延々人 高記ポランティア語会会 39人 祖覚障がい者料理教室協力ボランティア研 ・ボランティア等の協力により、視覚障がい 講座等を実施した。(人数はボランティア等) 着、秋のバスハイタ 計86人 文学 本・秋のバスハイタ 計86人 文学 高・秋のバスハイタ 計86人 文学 高・秋のバスハイタ 計86人 文学 一年で触れて見る彫刻展来場者 1,327人(者 約60人) ・啓発事業「みて!きいて!さわって!いろ もう!!」参加者67人(ボランティア含む) ・啓発事業「みて!きいて!さわって!いろ もう!!」参加者67人(ボランティア含む) ・下デンディア活画能化しており、家族の介質 でいる。新規ボランティアの平均年齢もあが でいる。新規ボランティアの平均年齢もあが では、多・開催時期・内容・広報活動など!こついて もる。				
・ボランティア等の協力により、視覚障がし、 講座等を実施した。(人数はボランティア等、 春、秋のバスハイク 計86人	人) 12人	ランティア講習会 めるとともに、蔵書館と連携して	今後の方向 :等を開催し、ボ 書の充実をはか 啓発を図る。	今後の方向 ボランティア講習会等を開催し、ボランティア養成に 努めるとともに、蔵書の充実をはかる。また引き続き 図書館と連携して啓発を図る。
・手で触れて見る彫刻展来場者 1,327人(3者 約60人) ・啓発事業「みて! きいて! さわって! いろもう!!」参加者57人(ボランティア含む)もう!!」参加者57人(ボランティア含む)でアンティアが高齢化しており。家族の介育シアイア活動への参加が難しくなってきてしている。新規ボランティアのサロ年齢もあが、講座等については苦年視覚障がい。者の第一様の音の音のは音音がは一番を第一様を第一位では一番をあが、開催時期・内容・広報活動などについてもある。	がい者を対象とした ア等を含む) 文学歴史散歩 25 1コン教室 8人 養講座 65人			
・啓発事業「みて!きいて!さわって!いろ もう!!」参加者57人(ボランティア合む) 課題・問題点 ・ボランティアが高齢にしており、家様の介 ランティア活動への参加が難しなってまている。新規ボランティアの平均年齢もあか ・講座等については若年視覚障がい者の利 め、開催時期・内容・広報活動などについて ある。	1,327人(うち視覚障がい		28年度事業計區	
課題・問題点・ボランティアが高齢化しており、家族の介養してより、家族の介養してある。 フレイ・ア活動への参加が難しくなってきてしている。 新規ボランティアの平均年齢もあが、講座等については苦年視覚障が、者の利め、開催時期・内容・広報活動などについてある。		・ボランティア基本講習会・誘導介助ボランティア講習会・ボランティア講習会・ボランティア	・ボランティア基本講習会 ・誘導介助ボランティア講習会 ・ボランティア向け講習会、勉強会	
ランティア活動への参加が難しくなってきて、 ている。新規ボランティアの平均年齢もあが・ ・講座等については若年視覚障がい者の利め、開催時期・内容・広報活動などについて あ、開催時期・内容・広報活動などについてある。		・春、秋のバスハイク ・文学歴史散歩	4	
82、用用時期・1名名・1名報が到るとし、1つで、1名名。		・パカコン教室・パンコン教室・原字競技会・発達を		
		・教後調座(Z回) ・手で触れて見る彫刻展・ ・啓発事業(2回) ・副音声仕映画体験会・	·教练開降 (2回) · 手で触れて見る彫刻展 · 子の発事業 (2回) · 副音声付映画体驗会 · 八川77川—映画体驗会	——映画体翳令
	E #3	野ョイコ 次回 年過・歴史的普源コンサ	7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	A KALLAN

事業コード事	事業名 新い時代に即し	新しい時代に即した「これからの図書館」推進事業	推進事業	相当部	生涯与	生涯学習部 人士 E 図事会
28 	428 事業目的	について考え、方金図書館サービスの3	、方針・計画スの充実を		終合中氏凶書館 変更(ある場合)	1 日本
い時代に即した、今後の図書1 、今後の図書1 民図書館再整	・新しい時代に即した「これからの図書館」のあり万について研究・検討し、今後の図書館の運営方針及び計画を策定する。「南市民図書館再整備にあたり、必要な機能・設備等について検討する。	Jのあり万について 画を策定する。 機能・設備等につい	年光・ 大検討			
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)	H27年[●方針·計 実施 ●南市民図	変 H28年度 B等の策定 日等の策定 日	H29年度 →		H30年度	H31年度
	検討	1	Î	\parallel	1	↑ ↑
予算額(千円) 決算額(千円)	853 764	930				
数11年(%) ごとの取組計 E次ごとの目標 E対するH27年 E末の成果	W11年/80/ 年次ごとの取組計 :新上な時代に即した「これからの図書館」の 画(年次ごとの目標。あり方、及び、文化ゾーン再整備の基本構想 値)に対するNP7年 : 接定に向けた南市民図書館再整備の検討を 産来の成果 :進める。	 	館」の k構想 食討を	H27年度の 総合評価	- 単 B	次年度継続
H27年度 道 新しい時代に即した 接換を表 市民等 後野祭員会 1を設置し たな機能、②南市民 を設設備・機能の6・3・3 でいて検討した。 文化ゾーン再整備の でいて検討した。 文化ゾーン再整備の に立いて検討した。 ・文化ゾーン再整備の はごないて、南市 関②にないて、南市 関②にないて、南市 ・検討委員会において、南市 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・新しい時代に即した「エルからの図書館 左考えるため、・学識経験者 員会1を設置した。また、検討委員会を6回開催し、存む機成する「エルからの図書館 在持機、②の事態で、公債・公司・民の事態の用整備、③の書館サービス、負債・利力の収集・保存・整理、③の団体との連携、⑥施設・設備・機能ののつを等け、平成71年度には主に①と②・ス・ベナン・再整備の基本構想に反映するため、検討課題②において、南市民図書館の建て替えに際して新たに、水からかる施設・設備・機能等について検討した。・検討委員会において先進図書館の建て替えに際して新たに、水からかる施設・設備・機能等について検討した。・検討委員会において先進図書館の建て替えに際して新たに、東本のされる施設・設備・機能等について、中間報告を行った。・・平成27年度の検討状況について、中間報告を行った。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	海・成果) 「左考えるため、 一般を6回開催し、 との連携、⑥施 にはまに们と②。 るため、検討課 「一際して新たに、 「一郎し、新した。 を行った。	- にわかい と を は を は かい に かい に かい に かい に かい に かい に に かい で に た かい に に に に に に に に に に に に に に に に がい に に は に が は に は に が に に は に が に に は に が に に は に が に に は に が に に は に が に に は に は	野伯	1の選出 1委員会 1にお 役割と新たな社 ついての検討・ 北がらの図書 北がらの図書館等 を行う南市民 でして。 まをまとめる。	評価の理由 「これからの図書館検討委員会」において、4市民 の書館11市民図書室の役割と新たな機能、及び、南 市民図書館の再整備についての検討が進み、中間 報告を行った。 ・新しい時代に別した「これがらの図書館」を考える ため、引き続き、「これからの図書館」を考える ため、引き続き、「これからの図書館は対象 たいて、図書館の役割や機能・設備等について検討 していく。また、建て替えを行う南市民図書館につい ても、併せて検討を行っていく。
のこれからのについて検討・多必要がある	課題・問題点 ・本市の「これからの図書館」に望まれる施設・設備やサービス等について検討するために、多様化する市民ニーズを 把握する必要がある。		・引き続き 後計を行う のをかわい とめる。 ・検計を ・検計を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年 「ニオカラの図 5。 平成28年度 で検討し、平成 ・5の図書館」に 4会において先 -ズを把握する	H28年度事業計画 (も言続き「これから図園書館検討委員会」において (検討を行う。平成28年度には主に検討課題③④⑤ (⑥を中心に検討し、平成27年度に検討した事項も の「これからの図書館」のあり方を最終報告としてま とめる。 ・検討委員会において先進図書館の視察を行う。 ・市民ニーズを把握するために、利用者アンケートを 実施する。	会川において 課題③(6) W 上手項も含 報告としてま 際を行う。 ラアンケートを

 <th rowspan="2" color="black color="black

				¥ II II		1
	事業目的				変更(ある場合)	(A
・13地区の公民館において、地域が有する教育資源(人材、文化、 学習成果等)を積極的に活用することで、市民の学習ニーズや地域 群題を捉えるとともに、地域特性を生かした事業の展開を図る。 ・地域住民の生活の質を高めるともに、学習を通じて人間関係を 深め、豊かな地域づくりを進める。 ・快適な学習環境の中で、市民の主体的学習活動の推進を図る。	いて、地域が有するに活用することで、地域特性を生かしてを高めるともに、がを進める。 で、市民の主体的が、下に、市民の主体的が、	5教育貨源(人材、 市民の学習ニース た事業の展開を図 学習を通じて人間 学習活動の推進を	X 代、			
事業内容 ・他機関との連携や地域が着する教育資源の活用及び市民の学 ・公民館ナークル等の育成、生涯学習活動への支援 ・公民館・サークル等の育成、生涯学習活動への支援 ・公民館連営審議会による公民館事業の調査・審議 ・藤沢市公民館あり方検討委員会による公民館のあり方の検討 ・公民館施設の維持管理・改善による学習環境の整備	事業内容 域が有する教育資 な事業の実施 育成、生涯学習活 よる公民館事業の 検討委員会による/ 理・改善による学習	源の活用及び市目 かへの支援 調査・審議 3と民館のあり方の: 3環境の整備	民の学権討検討			
年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計画)	H27年度 H28年度 ●各種公民館事業の実施 ●審議会等による公民館運営の調 ●公民館施設維持・管理	H27年度 H28年度 H28 ●各種公民館事業の実施 ●審議会等による公民館運営の調査・検討 ●公民館施設維持・管理	H29年度 查·検討		H30年度	H31年度
	実施	1	↑		1	<u>†</u>
予算額(千円)	262,943	267,411				
决算額(十円) 執行率(%)	246,036 93.6				and a second	;
年次にどの取組計:審議会の意見を取り入れた公民館の改善 画(年次ごとの日報 他)に対するい日報:地域特性を生かした事業や様々な連携事業 しに対するのなりで、特色のある事業を多数実施 度末の成果	審議会の意見を取り 地域特性を生かした ど、特色のある事	リスれた公民館の ニ事業や様々な連 業を多数実施	被 事 事 業	H27年度の 総合評価		火 中 及 米 後
H27年度、進捗状況(今年度の効果・成果)・乳幼児家庭教育学級・高齢者学級等の学級、地域の特性を生かした各種講座や公民館まつり等を実施した。一、公民館サークル等の育成や、地域住民の生涯学習活動に対して支援を図った。	歩状況(今年度の効・高齢者学級等のまや公民館まつり等 や公民館まつり等 育成や、地域住民(- 公民館 議会等か をつくるこ	計でます。 での意見を引 での意見を できた。	評価の理由 ・公民館に関する諸群題について、改善のために選議会等からの意見を実行に移したことや、きっかけ をつくることができた。	評価の理由 ・公民館に関する諸課題について、改善のために審議会等からの意見を実行に移したことや、きっかけ をつくることができた。
・公民館運営審議会を開催し、全市的な視野で公民館事業について審議し、公民館自己評価や各公民館評議員会との連携など、より良い公民館の体制づくりを図った。 ・「公民館あり方検討委員会」による議論が末とまり、提言書「地域とともに歩む公民館を目指して」を市長に提出した。	開催し、全市的な材民館自己評価や各公民館の本制づく公民館の体制づく。民館の本制づく資金による議論が民意を開催して、民館を目指して」が、民館を目指して」が		・各公民 ・各公民 特色のあ や、連携 ・公民館 ・公民館 でいく。		「後の方向 地域に寄り添い 売していけるよう。 取り組み、その だされるような事	今後の方向・各公民館について、地域に寄り添い、それぞれが特色のある活動を継続していけるよう、課題の解決や、連携を深めていく。・公民館が地域課題に取り組み、その中から地域に貢献し得る人材が育成されるような事業を展開していく。
課題・問題点 ・公民館が市民の学びの場であるとともに、地域課題への アプローチや、人材育成につながるような事業を展開して いく必要性が高まっている。	課題・問題点 の場であるとともに 攻につながるような いる。		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28 関係教育学報 用した各種調 ナークル等の して支援を図 重営審議会を て審議する。 の職員の関	H28年度事業計画 ・乳幼児家庭教育学級、高齢者学級等の学級、地域 特性を活用した各種講座や公民館まつり等を実施する。 ・公民館サークル等の育成や地域住民の生涯学習・公民館運営審議会を開催し、全市的な視野で公民間について書議する。 「商」こかて書議する。 簡について書議する。 簡素への職員の関わりについて調査・検証を行う。	H28年度事業計画 ・乳幼児家庭教育学級、高齢者学級等の学級、地域特性を活用した各種講座や公民館まつり等を実施する。 ・公民館サークル等の育成や地域住民の生涯学習・公民館サロス支援を図る。 ・公民館世帯議会を開催し、全市的な視野で公民館「こしいて審議する。 「あり方検討委員会」からの提言書に基づき、公民館事業への職員の関わりについて調査・検証を行

が、	7	7十7 秦	蔡八二女正汉书外中国	+ +				1 中 (1)
432	事業名	藤沢公民館·	藤沢公民館·村岡公民館再整備事業	備事業	相三二組	一	工作工涯学習	工 <u>作</u> 于目即 生涯学習総務課
事業目的・老朽化し手狭な状況の公民館の再整備を行い、パリアフリー化や・ 施設の拡充などを行うことにより、市民がより一層学習活動や地域 コミューナ活動に参加しやすい施設とする。 まじの安全性を確保するともに、地区防災拠点としての機能向上を図る。	状況の公 行うこと! 参加した確保する	事業目的 民館の再整備 こより、市民が、 すい施設とす、 とともに、地区	を行い、バリアフリ より一層学習活動 る。 防災拠点としての:	7-7-6 7-4-5-4-5-4-5-4-5-4-5-4-5-4-5-4-5-4-5-4-		変更(ある場合)	過	ries con one
事業内容 ・藤沢…労働会館等との複合化による再整備を行う。 ・村岡…地区のまちづくりの状況等を踏まえ、再整備を検討する。	等との複 ちづくりの	事業内容(合化による再3)状況等を踏ま	整備を行う。 え、再整備を検討	- 4 8.°				
	•	H27年度 ●藤沢公民館	H28年度	H29年度		H30年度		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)		基本設計	実施設計	建設工事		1	\mathbb{H}	供用開始
		検討	1			1		<u>†</u>
予算額(千円)		0	0					
決算額(千円) 執行率(%)		0					_	
年次ごとの取組記画(年次ごとの目が回(年次ごとの目が値)に対するH274度を表現を開業を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	#	公民館・労働をお策で、のでのでは、場合のでは、場合では、場合では、場合では、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	年次ごとの取組計 ・ 藤沢公民館・労働会館等複合施設建設基本 画(年次ごとの目標 設計を策定。 値)に対するH27年・村岡郷土づくり推進会議から提出された要望度まの成果 書に対し回答を提出。	設基本	H27年度の 総合評価	型 田 田 田		次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果,成果) [藤沢公民館再整備事業] - 「方内検討プロジエクト会議を4回実施(H27まで計14回)。 - 藤沢公民館建設検討委員会を2回開催(藤沢公民館主催:H27まで計6回) - 地域団体及び施設利用者等への説明会を対象別に計2	進歩状でなったのでは、一世の大学では、一大学の一大学の一大学の一大学の一大学の一大学の一大学の一大学の一大学の一大学の	況(今年度の效 24回実施(H2 3会を2回開催(3等への説明会	果・成果 7まで計14回)。 藤沢公民館主 発対象別に計2	・藤沢公民館 内プロジェク 明会を経て、 できたため。	表館・労働会 エクトや藤沢 て、計画ど。 カ。	評価の理由 st館等再整備 !公民館建設 おり基本設計		評価の理由 ・藤沢公民館・労働会館等再整備事業において、庁 内プロジェクトや藤沢公民館建設検討委員会、各説 明会を経て、計画どおり基本設計を策定することが できたため。
山岡催・藤バン氏路土催:HZ/まぐ計Z/まで計Z4・基本設計の第定・家屋調査(事前)の実施(産業労働課)・敷地測量の実施(産業労働課)	路土催:1 の実施() (産業労)	12/まで訂24년 産業労働課) 動課)		【藤沢公] ・平成314 に庁内各	式館の再整 年度の供用 課等と連携	今後の方向 【藤沢公民館の再整備について】 ・平成31年度の供用開始に向け、産業労働課を に庁内各課等と連携して、基本構想にあるスケ	産業業権制にも	今後の方向 【藤沢公民館の再整備について】 ・平成31年度の供用開始に向け、産業労働課を中心 に庁内各課等と連携して、基本構想にあるスケ
【村岡公民館再整備事業】 ・村岡郷土づくり推進会議から提出された「村岡公民館建 で替えに関する要望書」に対し回答を提出した。	備事業】 性性会議/ 望書」に	いら提出された対し回答を提出	「村岡公民館建出た。	ジュート 【	どおりに再整 民館の再整 5の要望書 前の実現に	ジュールどおりに再整備事業を進めていく。 【村岡公民館の再整備について】 ・地域からの要望書に対し回答書を提出したことから、再整備の実現に向け、検討を進めていく。	mをした ■を提出 で確める	いく。 出したことか ていく。
議題・問題点 ・平成31年度の供用開始に向け、複合化後の管理運営方法等について引き続き検討が必要である。(現行、管理運営方法は体設によって、市直営、委託、指定管理者制度、民営と異なっている)、(仮称)生涯学習活動推進室の具体的な使用方法等について検討が必要である。	課題 ・ 田間ない ・ ロース・オース・オース・カース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オ	- 問題点 - 向け、複合化・ が必要である 直営、委託、排 室の具体的な	合化後の管理運営方 さある。(現行、管理運 託、指定管理者制度、	「藤沢公」 ・ 市内後 ・ 藤沢公」 ・ 説明や報 ・ 策定され	H28 芸館の再整 付プロジェク 民館建設検 (告、意見聴 いた基本設計 H策定、労働	3年度事業記載について活動である。 大会議を適宜対委員会、対数員会、対数と適宜行けに関する業材に関する業がの会館解体の	十画 自行う。 う。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年度事業計画 「藤沢公民館の再整備について] 5・庁内検討プロジェクト会議を適宜行う。 配・藤沢公民館建設検討委員会、市民、利用者等への 説明や報告、意見聴取を適宜行う。 ・策定された基本設計に関する業務を行う。 ・実定設計策定、労働会館解体工事施工。
【村岡公民館再整備事業】 ・建設予定地周辺におけるインフラ等を始めとした課題整理等を行う必要がある。	備事業 における (ある。	インフラ等を始	めとした課題整	【村岡公民館・藤沢市公子・藤沢市公子検討を行う。	天館の再整 公共施設再 う。	蕭にしいた] 整備プランの	7 9改定	【村岡公民館の再整備について】 ・藤沢市公共施設再整備プランの改定に向けた庁内 様討を行う。

図る。	事業内容 推進及び美術作品鑑賞のための主催・共 年)・藤沢市展・芸術文化展など) ●公民館サークル美術写真展・高等学校美術展・藤沢市展・芸術文化展 事施	監賞のための主権・共 高質のための主権・共 所展・カナガワビエン 文化展など) H28年度 H29年度 芸術写真展・高等学校美術展・藤 一レ国際児童画展 (隔年で実施) 実施	(度 勝) (度 勝) (度 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	00年度	H314麻
#2 (年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計画) ● カナー (年次ごとの目標値) ● カナー 教行率(%) 数行率(%) 4 年次ごとの取組計 画(年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 出品作品・増)に対するH27年 出品作品・増しに対するH27年 出品作品・サーフ77年 推株状況(4	7年度 H28年度 1館サークル美術写真展: 実施 → ガワビエンナーレ国際児引 実施 130 140 127 97.7 140 2.240点 入場者数11,101	高等字校業 日29年 10月 日29年 10月 日20日 10月 日20日 10日 日20日		30年度 芸術文化展	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) ●カナー 予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%) 年次ごとの取組計 画(年次ごとの取組計 値)に対するH27年 値)に対するH27年 は)に対するH27年 は)に対するH27年 地品作品・H27年 世品作品・H27年 世品作品・H27年 世品作品・H27年 世品作品・H27年 世品作品・H27年 世品作品・H27年 産業機・株子が1名	美施 ガワビエンナーレ国際児 実施 130 140 127 87.7 140 2.240点 入場者数11,101	童画展(隔年7	(実施)		
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%) 年次ごとの取組計 画(年次ごとの取稿計 値)に対するH27年 値)に対するH27年 H2末の第	実施 130 140 127 97.7 87.7 2.240点 入場者数11,101		le)	1	1
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%) 年次ごとの取組計 画(年次ごとの日標 値)に対するH27年 値)に対するH27年 地7在店 出77在店 推址沿2	130 140 127 97.7 87.7 2.240点 入場者数11,101			Г	実施
大字銀(14日) 大字銀(14日) (4日) (4H) (4H)	97.7				
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度未の成果 H27在度 雑株坪河/4	2,240点 入場者数11,101				
H27年度 准株状児(4		,	H27年度の 総合評価	計 B B	次年度 継続
·第65回藤沢市展 2015年5月19日(火)~6月7日(日) 出品作品681点 入場者数6,880人 ・第18回カナガウビエンナーレ国際児童画展 2015年9	今年度の効果・成果) 19日(火)~6月7日(日) 10人 国際児童画展 2015年9月		評価の理由 ・入場者数は、昨年度に比べで概ね増えており、実 行委員会で検討した内容が、よりよい方向に向かっ ていると考えられるため。	Eの理由 .比べて概ね塩 容が, よりよい	 えており, 実 方向に向かっ
く)~9月20日(日) 品250点 入場者教 で化展 2015年11月 品113点 入場者教 官サークル美術展	5522人 13日(火)~11月8日(日) 11,129人 2015年11月24日(火)~11月29		今後の方向 ・さらに内容の充実を図っていくため、各事業の実行 委員会において、今後も検討を進めていきたい。	後の方向 っていくため, が検討を進めて	各事業の実行 いきたい。
ロパロ/ 出品作品237点 入場者数1,024人 ・公民館サークル写真展 2014年 [・]	½1,024人 2014年12月1日(火)~12月6日				
作品188点 等学校美術原 作品771点	入場者数709人 夏 2016年1月12日(火)~1月17日(日) 入場者数837人				
日·爾維 田·爾維	題点: """" """ """ """ """ """ """ """ "" ""	・第66回藩・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年度事業計画 ・第66回藤沢市展 ・芸術文化展 ・公民館サークル美術展 ・公民館サークル写真展 ・公民館サークル写真展	度事業計画	
・ウキ来の実行安員気において、即年及の攻者にで踏みえた内容の検討を行い、入場者数等の増加に努めている。	C. 削井屋の灰骨点を踏ま 皆数等の増加に努めてい	Σ 7 1 			

2一下兼冊	3		W		古に対け	1 X X V T X T	ı H	1年12年
512	事業名		文化芸術振興事業	•	出開用		文化3	工 <u>作</u> 于目即 文化芸術課
		事業目的			i I		変更(ある場合	
本市が長年培って 能力を生かし、市」 開することにより、 創造・発展と、文化	:きた文 民を主! 文化芸 との薫り	化基盤と、市 本とした文化3 術創造都市と 1あふれるまち	本市が長年培ってきた文化基盤と、市民が持つ熟成された芸術的能力を生かし、市民を主体とした文化芸術活動などを総合的に展開することにより、文化芸術創造都市として、市民が誇れる文化の創造・発展と、文化の薫りあふれるまちづくりを推進する。	た芸徳的 いちに服 る女代の				
・ゆとりと潤いの実 芸術鑑賞事業(音 術の鑑賞機会やデ のパートナーシップ のパートナートップ の発信に向けた総 の発信に向けた総 ・の発音に関連表	(限のできる) 海場の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域を見なる。 業を免む	事業内容るころ患かれるころ患かは別りな体験発見割りな体験を受けるを受けるなるないないないないないないないないないないないないないないないないないない	事業内容・かとりと調いの実際できるころ豊かな市民生活の実現のため、芸術鑑賞事業(音楽・演劇)や体験発表事業などを実施し、文化芸術の鑑賞機会や活動の機会のさらなる形実を図るとともに、市民とのパートナーシップによる文化芸術の振興や、魅力ある文化創造の発信に向けた総合的な文化芸術の振興や、魅力ある文化創造・市民文化芸術の振興を、魅力ある文化創造・市民文化振興業会の展開を図る。	のため、 、文化芸 こ、市民と で化創造 藤沢市文				
(市民オペラなどの百成のためのアウトリー振興基金積立事業)	の音楽 リーチ ()	盲業・観劇なと 事業・文化芸4	ざの演劇事業・若い 析団体による文化引	世代の育 『業・文化				
		H27年度 ●音楽事業・演	H27年度 H28年度 H29年度 H29年度 H H29年度 H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	H29 -チ事業・文	年度 化事業等	H30年度	色	H31年度
年次ごとの取組計画		#	- - - -					
(年次にとの日禄		31,000人 31,000人	公演人場右致、事業参加者数 31,000人 31,500人	32,000人	<u></u> ≺	32,500人		33,000人
予算額(千円)		119,537	116,274					
決算額(千円)	(119,537						
執行率(%)	_	100.0				-		
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH27年度末 の成果	画の末記の	・計画どおりの事業 術の発信ができた	・計画どおりの事業を行うことができ、文化芸術の発信ができた。	、文化芸	H27年度の 総合評価		能 個	次年度継続
H27年度	進捗北	犬況(今年度σ	り効果・成果)	_		評価の理	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	
·音楽事業の実施 5,163 ・演劇事業の実施 3,256 ・アウトリーチ(学校訪問) ・文作事業の実施 13,52	5,163人 3,256人 交訪問)事 13,522人	人 人 事業の実施 2人	·音楽事業の実施 5,163人 ·演劇事業の実施 3,256人 ·アウドリーチ(学校訪問)事業の実施 1,956人 ·文化事業の実施 2,22人		おりの事業 ていると考	を行うこと !えられる <i>!</i>	ができ、こめ。	・計画どおりの事業を行うことができ、文化芸術の発 信ができていると考えられるため。
·大化板架垫银柜 个型17件 193	74 909日	近恒工事系 1 324 008田の実研が抜した				今後の方	5向	
	, , , , ,	- 00-17 (1-1 1-10-0 -1-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-1	370	・引き続き 的に展開 る充実を について	・引き締き、市民を主体とした的に展開し、文化芸術の鑑賞る充実を図る。また、今後の7について、協議・検討を行う。	t 体とした : 術の鑑賞 : 小後の3 計を行う。 計を行う。	文化崇徒でおりて、大の、大人の、大人の、大人の、大人の、大人の、大人の、大人の、大人の、大人の、	・引き続き、市民を主体とした文化芸術活動を総合的に展開し、文化芸術の鑑賞や活動の機会のさらなる充実を図る。また、今後の文化芸術事業のあり方について、協議・検討を行う。
						H28年度事業計画	業計画	
・文化振興基金の う必要がある。 ・今後の文化芸術 要がある。	会 会 学 会 小 に 対 に 対 に 対 に 対 に 対 に 対 に 対 に 対 に 対 に	題・問題点 ついての呼び あり方につい	課題・問題点・文化振興基金の寄付についての呼びかけを、より一層行う必要がある。 ・今後の文化芸術事業のあり方について、見直しを行う必要がある。	i ii b	子 基 学) 会	チ(学校訪問)事業 基金積立事業	- Vuk	

文化芸術団体を始め、「 ら連携・協働して、文化 う書少年をも含めた将う で、一人ひとりの個性や 市の表見と発展につ好。 こころの劇場小学生招	# F				
回開催)・市民力・地域)	事業内容 文化芸術団体を始め、市民・NPO・ボランティアや企業などと行政 が連携・協働して、文化芸術の人づくりや場づくりを進め、子どもか ら青少年をも含めた将来の藤沢の文化芸術を担う人材の育成な ど、一人ひとりの個性や目分らしを引き出し、多種多様な文化芸 術の発見と寮展につなげる。 (ここの劇場小学生招待事業・市民シアター第九演奏会(3年に1 回開催・市民力・地域カ向上のための事業の検討・実施)	だと行政 子どもか 子どもか 育成な 文化芸 (3年に1			
	H27年度 H28年度 ●こころの劇場小学生招待事業	H29年度	度	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	招待者数(小学6学年等) 4,000人 3,900人 ●第九演奏会実施	3,700人		3,800人 第九演奏会実施	3,900人
	合唱参加人数250人		4	合唱参加人数250人	 .≾
予算額(千円) 決算額(千円)	6,970 5,215 6,970				
執行率(%)	100.0			# E1	ì
年次ごとの取組計 国(年次ごとの目標 値)に対するH27年 会 度末の成果	年次ごとの取組計、関係団体と連携し、文化芸術の創造、鑑賞機画(年次ごとの目標、会の提供や文化芸術を担う人材の育成に資値)に対する4127年 するきっかけづくりができた。 度末の成果	鑑賞機成に適	H27年度の 総合評価	計画面	次年度 継続
H27年度 進捗	お状況(今年度の効果・成果)			評価の理由	
「こころの劇場」小学生会 場 藤沢市民会館公演日 2015年6月25演 日 ミュージカル「参加 市内37校(私)参加 市内37校(私)	·「こころの劇場」小学生招待事業 会 場 藤沢市民会館大ホール 公演日 2015年6月25日(木)、26日(金) 4公演 演 目 ミュージカル「むかしむかしゾウがきた」 参 加 市内37校(私立2校含む)4,198人	計画どお 関係団体 えられるた	5 リの事業を との連携・ cめ。	F行うことがで; 調整がスムー;	・計画どおりの事業を行うことができ、小学校長会、、 関係団体との連携・調整がスムーズに行われたと考えられるため。
	8全 電大ホール 27日(日) 7/林綾ひろば 追	·事業の身調整を図り	ミ施につい. J、連携・協	今後の方向・事業の実施について、小学校校封調整を図り、連携・協働していく。	今後の方向 ・事業の実施について、小学校校長会・関係団体と 調整を図り、連携・協働していく。
開催日 2016年2月13	(E)E				
課題 で平成27年度から「こころの については、例年より几章 今後も増加傾向が続くため、 奉と調整を図る必要がある。	問題点 1場JVF学生招待事業の実施 2が増え、4公演での実施とし、 4公演での実施に向け劇団の	・ できる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・ で。 ・ でる。 ・ でる。 ・ でる。 ・	H22)動場J/V ⁴ 藤沢市民: 2016年6月 ミュージカ ひらくワケ: 藤沢市民: 藤沢市民:	H28年度事業計画 ・「こころの劇場」バ学生招待事業会場 藤沢市民会館大ホール ・	回 (金) 4公演 析り」 E

文化芸術団体の自主はすることにより、文化芸	中華口名			超示时	くに心刻と抜手来 お当課 女	女化芸術課
組によって本市の芸あぶれるまちづくりを	事業目的 文化芸術団体の自主的な活動や次世代を育成する事業等に支援 することにより、文化芸術団体の多様な活動を促進する。これらの 歌組によって本市の芸術文化の水準の向上を図るとともに、郷土 愛あふれるまちろくりを推進する。	を育成する事業等 「動を促進する。こ、 コエを図るとともに、	に支援 れらの 、郷土	£ 1	変更(ある場合	
事業内容 ・市民の主体的な文化活動を促進するため、団体助成制度の充実 や、側面的支援として行政の後援等の活用や、活動場所の優先的 な提供等、多彩な手法による支援を行う。(芸術文化助成事業) ・藤沢市文化団体連合会及びその加盟文化団体が実施する、将来 成力化を担う次世代育成事業等に対しての支援を行う。(次世代育	事業内容 活動を促進するたく 活動を促獲等の法と による支援を行う。 会及びその加盟文 所事業等に対して	め、団体助成制度 用や、活動場所の 用や、活動場所の (芸術文化助成事 化団体が実施する の支援を行う。(次	の充実 優先的 3、お米 (世代音			
	H27年度 ●芸術文化助成 ^₃	H27年度 H28年度 ●芸術文化助成事業	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施 ●次世代育成事業	1	1	Н	1	1
	実施	↑	ı	H	ı	
予算額(千円) 決算額(千円)	1,000	1,000				
製化車(%の 第3.0 年次ごとの取組計 ・音楽、演劇等籍台芸術を対象とした活動を 画(年次ごとの目標 行っている個人または団体に対し、その事業 値)に対する4477年 の完遂のために必要な経費の一部を助成し、 度来の成果 キャクネホのダルの発展に落ち」非って本市のダルの発展に落ち」	80.0 音楽、演劇等舞台引 Foている個人また 5次のために必要	芸術を対象とした記は団体に対し、そのは団体に対し、そのまで経費の一部を開発を開います。	5動を 7事業 H 7成し、	ーH27年度の 総合評価	計 B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・音楽、演劇等舞台芸術を対象とした活動を行っている個人または団体に対し、必要な経費の一部を助成し、本市の文化発展に寄与した。・助成団体のは、「か成団体のは、「か成団体のは、「か成団体のは、「かれている」(カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	歩状況(今年度の効 術を対象とした活動 必要な経費の一部 -ン	果・成果) 1を行っている個 を助成し、本市の	・助成決定(の他の5団(支援を行う)	野 後、2団体大 本は計画と 事ができた	-(価の理由 バ事業取りや(おりの事業を 。	評価の理由 ・助成決定後、2団体が事業取りやめとなったが、そ の他の5団体は計画とおりの事業を行い、側面から 支援を行う事ができた。
創工65周年記念第65回定期演奏会 ②湘南ゆうの会 人形劇「よわむし騎士とすってんころりんの王女様」 ③藤沢男声合唱団 創立35周年記念第26回定期演奏会 ()藤沢シュニアオーケストラ 第33回定期演奏会 ⑤朗読の会海の音 第24回海の音定期朗読会	□定期演奏会とすってんころりんの□定期演奏会ストラ高会		· 今後も、又 支援し、多様	ん芸術団・ 様な活動を 様な活動を	後の方向 本の自主的な 促進していく	今後の方向・今後も、文化芸術団体の首主的な活動を側面から 支援し、多様な活動を促進していく。
課題・問題点・初めて申請する実績のない。 地をの取り扱いなど・審査に難しい面もあるなかで、文化芸術団体の多様な活動を促進しなければならない。	課題・問題点 のない団体の取り引 、文化芸術団体の3。	XVなど、審査に 多様な活動を促	・助成団体でのでは、一切では、一切では、一切では、一つをできる。 35 を表して、 35 を表し、 35 を	H288 中国体 海養会 同 同 三コンサート の周年記3 第15回演	H28年度事業計画 ・助成団体4団体 ①藤沢男声合唱団 20万米126唱団 20万米126唱団 30万十26元プリート 30遊行舎 201年記念コンサート 30遊行舎 201年第15回演奏会 30世行舎 30世行舎 30世行舎	H28年度事業計画 ・助成団体4団体 ①藤沢男声合唱団 (1)藤沢男声合唱団 (2)藤沢合唱団 (2)藤沢合唱団 (3)藤代合唱団 (3)遊行舎 (4)稲南女声合唱団 (4)湘南女声合唱団 (4)湘南女声合唱団

本市の文化芸術に新たな分野を創り上げていくために、他市との文化芸術に新たな分野を創り上げていくために、他市との文本市の優れた文化芸術の地域資源を再設課・再発掘に、今後も一(藤沢、茅ヶ崎、寒川による広域文化交流会事業・他市の市民文化会館等で活動している団体との交流等) (藤沢、茅ヶ崎、寒川による広域文化交流会事業・他市の市民文化会館等で活動している団体との交流等) (本次ごとの取組計画 実施 一 235 235 235 235 235 235 235 235 235 235	事業目的 事業内容 の地域資源を再認識・再発掘し、今 70一分支割の。 70一分支割の。 72 大会割り上げていくために、今 72 大会割の 73 大会記令事業・他市の市 14 との交流等) 14 との交流等) 第7 市	5との文 後も一 民文化 H29年度 本川田 寒川町	in KN	数 (本)	(4
本市の優れた文化芸術の地域資源を 層広域・機断的なネットワークを創る。 層広域・機断的なネットワークを創る。 藤沢、茅ヶ崎、寒川による広域文化2 全館等で活動している団体との交流等かで 東京 (年次ごとの取組計画 (東応) (235 東京 (本文ごとの取組計画 (東応) (100.00 本文ごとの取組計画 (東応) (100.00 本文ごとの取組計画 (東応) (100.00 本文ごとの取組計画 (東京) (100.00 本文ごとの取組計画 (東京) (100.00 本文ごとの取組計画 (東京) (100.00 (年次ごとの 日標 (まな) (25.2を第2 (100.00 (年次ごとの 日標 (25.2を第2 (100.00 (年次ごとの 日標 (25.2を第2 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 東京 (100.00 東京 (100.00 (100.00 東京 (100.00 (100.0	内容 5.0 5.0 6.0 7.0 7.0 7.0 7.0 7.0 7.0 7.0 7.0 7.0 7	後七一 R			
(年次ごとの取組計画 会場担当市 (年次ごとの取組計画 会場担当市 (年次ごとの目標値) 会場担当市 (本次ごとの目標値) 235 (本次ごとの目標値) 235 (本次ごとの目標値) 235 (本次ごとの目標値) 235 (本次ごとの目標値) 235 (本次ごとの目標値) 235 (本次ごとの目標が多数を加きの中、 (本ので記事業にいいお別両に対する (本がごを) (本が記事を) (いいお別両大に交流事業にいいお別両に、 (本が記事を) (いいお別両大に交流事業にいいお別両に、 (本が正の本に表し、 (本が正の本に表し、 (本が正の本に表し、 (本の本に上の本に上ので、 (本の本に上の本に上の、 (本の本に上の、 (本の本に上の、 (本のように) (本の		H29年頃 ★			
		↑ 質		H30年度	H31年度
			**************************************	→ 送送 ・	★ 大崎市
年次ごとの取組計 編広い世代が参加で 画 (年次ごとの日標 デンス発送しいい対 値)に対するH27年 美への参加者の中、 度末の成果 様が気(今年度 ・湘南文化交流事業「いい対和南!! 日時:平成28年1月24日(日) 会場:藤沢市5四体、茅ヶ崎市5回 会場:藤沢市5四体、藤沢市5四体、茅ヶ崎市5回 会加者数:出演者360人 来場者850人 参加者数:出演者360人 来場者850人 参加者数:出演者360人 来場者850人 参加者数:出演者360人 来場者850人 参加者数:出演者360人 来場者850人					
H27年度 連捗状況(今年度 ・湘南文化次海事業「いいわ湖南!! 日時 平成28年1月24日(日) 会場: 藤沢市民会館大木一」 13時1 出演団体: 藤沢市5団体, 茅ヶ崎市5回 合計 15団体 360人 参加者数: 出演者360人 来場者850人 参加者数: 出演者360人 来場者850人 参加者数: 出演者360人 来場者850人	nでき、近年様々なジャンルの沿テーマとし、公募及びゲスト団体でおとい、公募及びゲスト団体も湘南!! ダンス・ペラダイス」をいままでで、・パラエティに富んだ充実した多い、パラエティに富んだ充実した多い。	5動が活 KICよりダ H2 開催し、	H27年度の 総合評価	計 B B	次年度 継続
課題・問題・開題・日間を -241回で組織する広域で成場を かかった。	度の効果・成果) 「ダンスパラダイス」 寺15分~16時20分 5団体、寒川町5団体 50人 合計1,210人	藤沢市、茅 事業の交流7 ・平成28年度 に文化芸術6 に文化芸術6 に文化芸術6 まなの事業を目 を対の事業を目	評価で ・	7 回車 1002市1町 1002市1町 11、次世イ (絵画・写真 割作するフ 10の湘南地	
Bまたし、ダがみ大ものメルロシを連業を企画・検討し、実施していかな!		・次世代青成ワークショップ	H28年度事業計1 7世代青成をデーマに映像作品 一クショップ形式の事業を展開。	事業計画・一様では、一様では、一様では、一様では、一様では、一様では、一様では、一様では、	H28年度事業計画・次世代育成をデーマに映像作品を共同で制作するワークショップ形式の事業を展開。

事業コード 事業タ	¥ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	除人!! 好月饭兴多不!! 闫烂岁小儿状口	(全人口) 山 山 山 山 山	当部	ш	■ 生涯学習部
516		一へい定開・定呂	事* 担	担当課		文化芸術課
事業目的 若手芸術家等の創作活動の支援、美術鑑賞の機会の提供、美術 作品の展示・発表、及び美術学習の場の提供等を主な目的に、本 市の美術振興の拠点施設として整備する。 事業的の 事業情の振興を図る新たな機能を持つ施設として、アートスペースを 整備する。 ・レンデンスルーム(アトリエ)、展示ルーム等の整備 ・個展やグループ度など、幅広い分野の美術作品の展示 ・お用手結常要の創作活動なび展示・発条等の支援等	事業目的 活動の支援、美術館 び装術学習の場の を設定して整備する 事業内容 ・な機能を持つ施設 ドリエ)、展示ルーム ドリエ)、展示ルーム	に関の機会の提供 には で で にして、アートスへ 、等の整備 等析 品の展示			変更(ある場合)	(4)
	H27年度 ●施設の運用	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画(年次ごとの取組計画)	開設・供用開始	供用	1	_	1	1
	15,000人	30,000人	31,000人	32,0	32,000人	33,000人
予算額(千円) 決算額(千円)	64,360	68,098				
執行率(%)	93.5					
年次ごとの取組計 年間来館・来場者数約 24,000人 画(年次ごとの目標・来館者数5,953人, 値)に対するH27年・神台公園会場観覧者約17,000人 度末の成果	:間来館・来場者数 来館者数5,953人, 神台公園会場観覧	約 24,000人 者約17,000人	H274 総合	H27年度の 総合評価	計 B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・アートスペース開館直前シンポジウムの開催 2015/8/30 *講演会: 美術館に内含はじめたのか 講師・神奈川県立近代美術館長 水沢 勉 まパネルデノスカッション: アートが導く「文化都市・藤 沢」の新たな展開に向けて パネリスト: 神奈川芸術文化 財団学芸員中野仁詞 他2人、司会:美術評論家 岡部あ	歩状況(今年度の効 1前シンポジウムの 1をはじめたのか 1をはじめたのか 代美術館長 水沢 1ン: アートが導く! けて パネリスト: 対 他2人、司会: 美術	果·成果) 開催 2015/8/30 勉 「文化都市·藤 9奈川芸術文化 評論家 岡部あ	評価の理由 ・新たな美術を中心とする文化芸術を発信する施設として 供用開始い、様々なディアを利用し周知を行うたが一般 市民の知名度はまだ低いと考えられる。神台公園会場の 観覧者数を合わせると当初の目標を上回る人数となり、若 手芸術家を支援するという基本方針に沿って、当初の予 定通りの事業がすべて実施することができたため。	評価 ななメディア オなメディア まだ角いと せると当ち するという するという かんて無菌	<u>価の</u> 理由 文化芸術を発 大き利用し周知 大きれらの 大きたられる。 初の目標を上 5基本方針にご 施することがで 第の方向	言する施設として を行ったが一般 を行ったが一般 神台公園会場の 1る人数となり、若 つて、当初の予
おみ *参加者114人 ・開館記念特別展覧会「From now on!!」の開催 第1期:10/3-11/3 参加作家:4人 第2期:11/7-12/6 参加作家:3人 第3期:12/12-1/17 参加作家:2人 *来館者数 3,277人	会「From now on!!」の開催参加作家:4人参加作家:4人参加作家:3人/参加作家:2人/シえる一記憶のドキュメント」の開催らえる一記憶のドキュメント」の開催	の開催 ************************************	·引き続き若手芸術家等の創作活動の支援、美術鑑賞の機会の提供、美術作品の展示・発表、及び美術学習の場の提供等を行うため、様々な事業を実施していく。	芸術家等、 共、美術作 共等を行う	の創作活動 :品の展示・ ため、様々?	の支援、業術銀発表、及び業術の発表、及び事業を実施にな事業を実施に
7.53 2/23 グルドネ・1/3 4 *来館者数1,173人 ・企画展町「みつけること/73 3/5-4/10 参加作家:4人	5.1人 :と/またみつけること」の開催 :4人		・公募による公	H28年月 開制作展(度事業計画 の開催:多彩	次創作活動に
*来館者数 1,389人 神台公園会場観覧者数 約17,000 人 課題・問題点 ・アートスペースがある湘南C-XC2街区は、特別景観形 の	神台公園会場観覧者数 約17,000 課題・問題点 S湖南C-XC2街区は、特別景観形 を効等の高出について、きめ部や を由株演出 イ、英の部等について、	信者数 約17,000 [古数 約17,000 [は、特別景観形] いて、きか細や も記事・し、い	オンボンシュアが高いたが、高格には、 オンタアーティストから制作したい作品と展示についてのプランを全国から広く募集し開催する。 ・療沢(油南)ゆかりの作家展・藤沢を中心として湘南地域で活動する若手作家を紹介する展覧会を3回開催する。 日本域で活動する若手作家を紹介する展覧会を3回開催する。	ストから制 国から広ぐ かりの作 する若手作 - ム、展示	作したい作 体したい作 対象に開催 家を紹介す アームの一	Record
ユチカルであったの、末7500キッコノナの政ニトンで、エナガル要となる。 ・施設の周知等について、他の公共的な施設や辻堂地域の商店街、及び民間施設と連携をしていく必要がある。	ギュジキッ・1 / サンパン (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	が歌音について 施設や辻堂地域 必要がある。	し。 ・展覧会に関連したイベントの開催及び、子どもや各 世代で楽しめるワークショップ、美術講座を定期的に 開催する。	!したイベン !ワークショ	トの開催及ョップ、美術記	び、子どもや名 講座を定期的に

市民会館・南市民図書館については、文化芸術を発信する文化ジ、 に老朽化や機能劣化が著しい状況であるため、再整備を基本に、 周辺公共施設の機能集約も検討する。	ハでは、文化芸術を発 状況であるため、再整	信する文化ゾーンに位置し、とも	置し. とも		
	討する。	備を基本に,当該敷地	を活用した		
事業内容 老朽化や機能劣化が著し、市民会館と南市民図書館について、夏 て替えに向けた検討を進め、その規模や機能を検証するとともに、 周辺公共施設の機能集約も検討する。	事業内容 にい市民会館と雇 進め, その規模や 約も検討する。	有市民図書館につ!機能を検証すると	いて, 建ともに,		
	H27年度 ●在り方の検討	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	广内検討	基本構想策定	事業手法等の可 能性について委 託・検討	四 事業手法の可能性検 計結果を受けた事業 計構果を受けた事業 に期間を要する場合 は必要な範囲で現施 設の改修)	梅 事業手法の可能性検 業 討結果を受けた事業 ・ 準備(事業実施まで ・ に期間を要する場合 施(は必要な範囲で現施 ・ 設の改修)
予算額(千円) 油質額(千円)	0	930			
大昇鶴(十日) 執行率(%)	0.0				
年次ごとの取組計 企画政策課主体の庁内検討はなされなかった 画(年次ごとの目標 が、文化芸術課 総合市民図書館において、 値)に対するH27年 再整備に向けた検討等を行った。	画政策課主体のF 文化芸術課,総 整備に向けた検診	庁内検討はなされが 合市民図書館によ げ等を行った。	た,	H27年度の 総合評価 D	- 次年度 継続
H27年度 進移 (文化芸術課)基本構え 査及び利用団体ヒアリン とまっている。この中で、 規模とするのか、どのよ ゾーンのなかで、どのよ	状況(今年度の效 関策定にむけた市 グを行い、結果 市民会館として、 うな機能を備える うな機能を備える	果・成果 民アンケート調 パレポートとしてま どの程度の施設 のか、また文化 た複合施設とす	・文化芸術課、 向けた検討等3 動きには至って	評価の理由 ・文化芸術課、総合市民図書館において、再整備に 向けた後討等を行ったが基本権想策定につながる 動きには至っていない。	こおいて, 再整備1 18策定につながる
るのかについて提案がなされている。 ・(総合市民図書館)・平27年度は、学識経験者、市民等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	なされている。 枚27年度は、学識 5.0の図書館積計 5.4の図書館積計 割と新たな機能、 れる施設・設備・ れる施設・設備・ 対を行い、検討委	経験者, 市民等委員会」を設置を行い、4市民図書館の南市民図書館の開作の書館の機能や図書館	・文化ゾーンの ・女化ゾーンの 性について検言 る場合は必要が	今後の方向・文化ゾーンの再整備に同じ、その事業手法の可能・ 性について検討を進め、事業実施までに期間を要する場合は必要な範囲で現施設の改修を行ってい、。	の事業手法の可 もまでに期間を要 改修を行っていく
課題・問題点 老朽化や機能劣化が進んでいる。 また、当該地区が文化ゾーンとして位置づけられているこ 権から、文化競技や中心とした新たな文化活動等の拠点整 権が設定なっている。 ・市民会館として、どの程度の施設、機能としていくのか、 また。文化ゾーンのなかで、どのような機能を持たせた複 合施設としていくのか引き続き検討が必要である。	果題・問題点 衛ともに旧耐震す かでいる。 ブーンとして位置で とした新たな文化 とした新たな文化 で、どのような機	5準で建設され、 314られているこ が活動等の拠点整 としていくのか、 能を特たせた複 更である。	- 図書館につい いの図書館を してまとめると 行う。 ・ 公共施設再整 め、文化パーン となるよう。その きめて企画政党	H28年度事業計画 ・図書館については、平成28年度号書続き「これか との図書館検討委員会」で検討を行い、最終報告と 行う。 ・公共施設再整備プランの見直し年度となっているた が、文化ゾーンの再整備についてしっかりとした計画 となるよう。その事業主法や具体的なスケジュールも 含めて企画政策部と協議し、計画に位置づけることする。	回 も引き続き「七れ」 をデにい、最終報告 をだにい、最終報告 年度となっている につかりとした計 的なスケジュール 別に位置づけること

	7 1 1 1	藤八 旧 牧 目 板 职 本	νı	4 計画運物 由当第	П	神風仙里	
521 事業名		歷史遺産保存整備活用事業	**	祖宗祖	規制	ムによるのは、一般の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	
	事業目的				変更(ある場合	河	
歴史・文化の継承や地域の特性を生かした文化の発展を図る	域の特性を生かし;	た文化の発展を図		年次取組計	画を変更(H28	œ	
事業内容 市内に遺存する歴史的資産を適正に保存・活用することで、歴史的 資産の文化財的価値の維持・向上を図り、活用が図れるように整 備する。	事業内容 資産を適正に保存)維持・向上を図り	・活用することで、 、活用が図れるよ	歴史的の定整				
	H27年度 H28年度 ●市指定文化財の指定	H28年度 D指定	H29年度		H30年度		H31年度
年次ごとの取組計画	1件 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	1件 0 登録	<u>+</u>		4		# (
(年次ごとの目標値)	1箇所 ●指定·登録候補	1箇所 1箇所 1 ●指定・登録候補文化財の調査・検討	1箇所計計調整	上	1億所		簡所
	実施	1	ľ		1	Ľ	1
予算額(千円)	280	290					
決算額(千円)	280						
年次ごとの取組計・計画を表現しています。	100.0 100.0 10.0	標値を超えて3件第	新たに	一 世	計	*	次年度
回 (中人人人の人) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	た。 国登録文化財は目: 新たに登録。	kraza.	所17件	12/平度の 総合評価	∢		維統
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・市指定文化財 遊行寺境内の中雀門、青銅製灯籠、常光寺の木造地蔵 菩薩立像の3件の指定をした。	5状況(今年度の効 、青銅製灯籠、常 をした。		計画を上ことができ	回る件数の た。	評価の理由 計画を上回る件数の物件について指定、登録をする ことができた。	指定、登	録をする
・国登録有形文化財 ・国登録有形文化財 ・ 日の3件、遊行寺境内の本堂、御番方、小書院、百間廊 下、回向堂、宇賀神社、鐘楼、手水舎、惣門、石垣及び築 地塀の10件、旧藤沢宿内の関次商店穀物蔵、肥料蔵の2 件、旧稲元屋呉服店内蔵、一番蔵の2件、合わせて4箇所 17件の登録ができた。 ・候補物件の調査 ・候補物件の調査	5月山堂満水庵の 3本堂、御番方、小 2本堂、御番方、小 内の関次商店穀牧 内の関次商店穀牧 蔵、一番蔵の2件、 成、旧雨谷商店1	主屋、待合、大書師、古間廊門、右垣の 門、右垣及び築 の蔵、肥料蔵の2 合わせて4箇所 5舗兼主屋を登	・市指定文化財 その他の指定 ・回登録文化財 街なみ継承地 課と連携しなが 江の島道沿い	今後の ・市指定文化財 ・一年の他の指定候補物件の ・国参録文化財 (毎なみ継承地区について 群と連携しながら優先的に エの島道沿いの建造物に オの島道治は、の建造物に オの島道物に	今後の方向 ・市指定文化財 ・市指定文化財 をの他の指定候補物件の調査のための予算要求 ・国会級文化財 街なみ継承地区については、引き続き街なみ景観 課と連携しながら優先的に進める。 エの鳥道治いの建造物については、片瀬市民センターと連携を図って進める。	7ための子 き続き街な (は、片瀬	算要求、み景観
・江の島道沿いの歴史的建造物の所在調査を実施。	対建造物の所在調		ー ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ענ' דן	H28年度事業計画 	国 天井 総に、	ついて指
課題・問題点・国登録文化財・国登録される建造物の多くは、現在も使用、居住されてため公開・活用が難しい。	課題・問題点 き物の多くは、現在も使用 難しい。	、居住されてた	・国登録文化財 片瀬市民センタ-	なた財 ませンターと		Š	

9)		H31年度			次年度継続	きた。設予定を終了し	י בריל.	に刻まれた藤沢 新指定の文化財 5等 本造地蔵 76世車(原町)と 78世車(原町)と 20付する。 3製燈籠に設置
変更(ある場合)		H304度			D 計価	計画の発出 業を行うことがで については、移	今後の方向 C、継続的に行行	8年度事業計画 ついては、大地 引催する。 金については、第 金については、第 いては、鵠沼人 いては、鵠沼人 たに遊行寺青崎
	1:	1129年度			H27年度の 総合評価	計画の発出 ・江の島道標の移設については、移設予定を終 た。	今後の方向・文化財保護に関して、継続的に行っていく。	H28年度事業計画 ・遺跡調査速報展については、大地に刻まれた藤沢 の歴史展と同時に開催する。 ・保存管理奨励交付金については、新指定の文化財 (遊行寺 中 倫門・青銅製燈籠、常光寺 木造地蔵 ・海電本像、の管理者に追加で交付する。 ・修理等補助金については、鵠沼人形山車(原町)と 常光寺木造地蔵菩薩立像の修理に交付する。 ・文化財説明板は新たに遊行寺青銅製燈籠に設置 する。
	文化財の活用を推ら開放では耐なな代間を指数では、	84	3,613			14%		
事業目的	世への継承と地域 Fでる。 事業内容 #存・管理、普及・消 #存・管理、普及・消	H27年度 H28年度 ●遺跡調査選報展の開催 ●保存管理奨励交付金の交付 ●広の島道標の移設 ●文化財説明板の設置	2,370	2,304	跡調査速報展の開催 行管理奨励交付金の3 理等補助金の交付 59 の島道標の移設 2箇所 化財説明板の設置 2箇所	虚砂状が、今年度の効素・攻素) 展」として11/17~1/24(53日間 乾展示室にて開催した。入場を 付金の交付	(化財に対し、1,52位 「修理(中町・清水町 れていた江の島道 ((186,840円) 江の島道標(低上)	開題・問題点 では、破ら水下等 かっても、 乗ぐに対 い、 必要が生じても するのが難しい。
事業目的	・歴史的文化遺産の後世への継承と地域文化財の活用を推進する。 ・郷土愛と豊かな心を育てる。 ・郷土愛と豊かな心を育てる。 ・事業内容 ・文化財の調査・研究、保存・管理、普及・活用及び埋蔵文化財の調査等を実施する。	年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	予算額(千円)	次昇徴(十円) 執行率(%)	年次ごとの取組計・遺跡調査連線展の開催 3201名 画(年次ごとの目標: 保存管理課節文付金の交付 1520000円 値)に対するH27年 - 江の島道標の移設 2箇所 度末の成果 - 文大的影響機の影響	12.7年度	40管理者69件の指定文化財に対し、1,520,000円交付した。 た。 鍋沼糧本補助金の交付 鍋沼里大神宮人形山車修理(中町・清水町)に対し、 597,060円交付した。 ●江の島道標の移設 市社役所本間に移設 と砥上公園に移設と在しいた江の島道標を、藤沢橋脇と低上公園に移設した。 ●文化財説明板の設置(186,840円) 旧後藤医院鵠沼分院、江の島道標(低上公園内)の文化 に加工が正元。	財政的依定設直した。 課題・問題点 が新指定文化財があっても、すぐに対心できない。 ・修理等補助金について、必要が生じても事前に予算化できない。 ・修理等補助金について、必要が生じても事前に予算化できないため、すぐに対応するのが難しい。

		国	次口 宣生涯学習部	
523 事条4 应级建烷胺小	尹未	租当課	郷土歴史課	
事業目的 広域連携により事業を実施することで、相互の資源の有効活用に よる幅広い公開活用事業の展開を図り、それにより市民へ多様な 公開を行う。)有効活用に 5民へ多様な	変更(ある場合) *参加者総数を変更(H28)	更(ある場合) 変更(H28)	
事業内容 茅ヶ崎市美術館を利用した共同作業による展示会を、広域文化活動部会事業に位置づけ開催する。	、広域文化活			
H27年度 H28年度 H28年度 H28年度 ●合同美術展実施 A2でとの取組計画 入場者数 廃止 (年次ごとの目標値) 3,000人		H29年度 H30年度	(年度 H31年度 H	年度
予算額(千円) 1,124 0 決算額(千円) 0 執行率(%) 0.0				
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 広域連携展示事業 値)に対するH27年 参加者総数(3,606人) 度末の成果		H27年度の 総合評価		次年度廃止
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・ ・湘南地域の文化振興を図るために、藤沢市、茅ケ崎市、 寒川町にゆかりのある作品を展示する展覧会を開催した。 る 称:総はがきになった湘南の風景」 開催期間:平成27年12月6日(日)~平成28年1月31日		評価の理由 ・平成27年度目標値の達成が確実であり 度参加者総数より812人増となったため。	- o	、平成26年
(日) 観覧料: 無料 関連事業: 展示関連講演会「総葉書に見る南湖院」 関連事業: 展示関連講演会「総葉書に見る南湖院」 平成27年12月13日(日) 平成28年1月19日(土) 平成28年1月16日(土) 平成28年1月23日(土)	•	今後 域都市行政協議 連携展示事業を 見市町村振興協会 1する。	今後の方向 ・湘南広域都市行政協議会の湘南広域文化交流事業と広域連携展示事業を一つに統合し、新規に(財)神奈川県市町村振興協会市町村広域行政助成事業を実施する。	交流事 別に(財) が成事
観覧者数:3.606人(1日平均観覧者数:88人)	・広域文	H28年度 化活動事業として	H28年度事業計画 ・広域文化活動事業として担当が文化芸術課に変更	乳に変更
課題・問題点・事業を開始して一定の期間が過ぎたため、2市1町ゆかりの作品というコンセブトに合致する資料を集めるのが困難になってきたことから、新たな事業展開を検討する。	困難			

本来目的 文化財収蔵施設の集約化と適正な文化財の収集・整理・保管 用	事来日的 约化と適正な文化)	340元年,数组,位	ţ		ダボへのる	Ξ
		30.女米,压伍,不	tt.	F次取組計] §業名を変]	年次取組計画を変更 事業名を変更(H28)	
事業内容 市内各所に分散、老朽化した収蔵施設の集約化と文化財の適正な 収集・整理・保管・活用ができる施設について検討を進める。	事業内容 化した収蔵施設の ができる施設につ)集約化と文化財のいて検討を進める)適正な。			
	H27年度 ●文化財等資料整	H27年度 H28年度 ●文化財等資料整理・保管方法の検討	H294 →収蔵資	=度	H30年度 文化財収集方	H29年度 H30年度 H31年度 一収蔵資料の整理と文化財収集方針の検討
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)		保管施設整備方。 針検討 実施	^{保養治の意思文} を財政集予約の第案 保管施設整備方針策定 →		現有収蔵品の整理保管施設整備基本構想策定 →	現有収蔵品の整理 保管施設整備基本計画策定 →
予算額(千円) 決算額(千円) 執会率(92)	0 0 6	0				
本次に全の取組計 ・収蔵施設を整備するにあたっての基本的な 年次ごとの取組計 ・収蔵施設を整備するにあたっての基本的な 画(年次ごとの用標 方針について検討した。 値)に対するH27年 度末の成果) V蔵施設を整備す 針について検討し	るにあたっての基 た。	本的な	 H27年度の 総合評価	里 8	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 前年度に引き続き、公共施設の再利用を前提として、収不 成庫の集約に向けた文化財の整理方針と、新た54収蔵庫の に必要な機能等について検討した。また、近々使わなべな る公共施設を洗い出し、利用可能性を検討したが、公共施 設の再利用については、収蔵庫として使うための施設の 改築や老村化にともなうメンテナンス経費の負担増など多 への課題があることがわかった。そのため、公共施設の再 利用はせず、文化財収蔵専用の新たな施設を整備するこり。 とを目指して検討を進めることとした。	<u>等状況(今年度の変</u> 共施設の再利用 化財の整理力針 化財の整理力針 て検討した。また (利用可能性を持た。、利用可能性を持た。、 (、収蔵庫として使 ラメンテナンス経書 がった。そのため がった。そのため のあった。そのため	か果・成果) を前提として、収 と、新たな収蔵庫 が立て使わなくな がしたが、公共施 うための施設の での負担増など多 い、公共施設の再 を設定整備するこ	本用公共 の取り組 た。そのよ 成した。 成した。 将来的に 将来的に いーが移言 バックを か この#	施設建物のシック方向性シック方検討の ・シンク検討の ・シンク検討の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	#価の理由 再利用につい としては、採用 過程を一段階 消極・大学の方向 再整備・地区が があるため、 ががあるため、 まがあたりで、 まがあたりで、 まがあたりで、	下用公共施設建物の再利用について検討し、今後 の取り組みの方向性としては、採用しないこととし す た。そのような検討の過程を一段階進み、目標を達 成した。 ・将来的に文化ジーン再整備地区内に市民ギャラ リーが移設される計画があるため、常設展示室の バッケヤドとして現在分散している収蔵施設をまと か、つか地区内に整備することも規範に対して検討
課題・問題点・問題点・現在の収蔵庫が飽和状態にあるため、現存する収蔵品を整理するためには新たなスペースが必要となる。新たな存職的整備までの間、公共施設を再利用にスペースを確保することが必要。 また、膨大な量の収蔵品があるため、現在の執行体制では、整理作業に係る人員の確保が難しい。外部委託等の検討が必要。	課題・問題点 大塚にあるため、 たなスペースが必 7、公共施設を再来 売品があるため、現	現存する収蔵品 要となる。新たな J用してスペース 現在の執行体制で	の、このでは下げている。 ・前年度までの後の整理と、今後のとめる。 ・新たな収蔵庫の・一部に設整値方針に保護・一部を設整値を表する。	H28 今後の女司 今後の女司 職事力針を実 画に保管施 けする。	# 7 シーC 6 73 7 シーC 6 73 7 対 の 12 乗 1	の、この地に1915年順手のことで現れて代表でいた。 1前年度までの検討内容を示まえ、現存する収蔵品 2008年と今後の文化財の収集に関する考え方をま とめる。 ・新たな収蔵庫の規模、必要な機能等を整理し、保 管施設整備方針をまとめるととに、文化ゾーンの 再整備計画に保管施設の整備を組み込むことの可 能性を検討する。

 本年国の日本の 本年国の日本の 本年の 本日の ま日の 本日の も日の 本日の も日の 本日の も日の も日 も日の も日の も日の も日の も日の も日 も日 も日 も日 も日 も日 も日 も日	事業目的		XII.	_	オード
1. 一种	市民との協働によって映像記録の収集・公開を行い、市民の生涯 学習の向上と歴史や民俗・文化の継承を図る。	い、市民の生涯		変更(ある場合	(型)
・幼仏米は9の吹ば戻り 存するなど整備を進め、 フィルムの高後・清掃。 ・フィルムの最でに ・一万尺との協働で上映会・ ・記録映画等を制作して	事業内容 ・現在保有する映像資料を劣化から守るため、新たなメディアに保存するなど整備を進め、将来の市民に映像資産を引き継ぐ。 ・フィルムの点接・清掃・修繕 ・フィルム(保存用)・DVD(公開用)作成 ・市民との協働で上映会開催及び映像資料の調査・収集 ・記録映画等を制作して地域文化を継承	たなメディアに得られる。 ・引き継ぐ。 ・・収集			
	H27年度 H28年度 H29年度 ●フィルム資料のDVD化・上映会開催	3年度 H. 上映会開催	_	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	- 実施 ●記録明	→記録映画制作	1	1	1
	<u></u>	##	来上十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	====================================
予算額(千円) 決算額(千円)		20	事品で	大学と	2 × × × ×
数行案(%) 100.0 年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 所蔵フィルムのDVD化 値)に対するH27年 上映会開催 1回 度表の成果	100.0		H27年度の 総合評価	明明の日	次年度継続
H27年度 進捗 ・所蔵フイルム(ライフタ をDVD化した。	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・所蔵フィルム (ライフタウン開発の記録映画シリーズの1) をDVD化した。		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	評価の理由 ・フィルムのDVD化、映像上映会を予定どおり実施 した。	予定どおり実施
・まちづくりパートナーシ 民メディアネットワークと 土民俗・文化映像を制化	・まちづくリパートナーシップ事業として、NPO法人湘南市 民メディアネットワークとの協働により、11本のふじさわ郷 土民俗・文化映像を制作し、映像の上映会を開催した。		(フィルムをDV (出や上映会)	今後の方向 ・所蔵フィルムをDVO化を推進しで保存を図るととも に、貸出や上映会に対応できるようにする。	- 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
・ ・フィルムのDVD代にあ の品質が十分ではない	課題・問題点 ・フィルムのDVD・化にあたり、将来に残すものとして、映像 の品質が十分ではない。		17 77ルム1本(作成対象の)	H28年度事業計画 ・現存フィルム1本のDVD化を実施。 ・記録作成対象の選定を行い、実施計画を立	

事業内容 ·旧三觜八郎右衛門家住宅等、歷史的建造物の維持、保存" ·古民家を活用した事業の実施

●間間 (年次ごとの取組計画 ● 古 (年次ごとの取組計画 ● 本 (年次ごとの目標値) (東	112/十次 1120十次 ■日三紫罗○〈盟	¥.				
(年次ごとの目標値) [実] ・	ロー角なのとに 古民家を利用した事業 新たな古民家の活用検討	朝 した事業)活用検討				
予算額(千円) 執行率(%) 年次ごとの取組計 同年次ごとの目標 古民等 直) に対する紀2年 (日本の成果 住来の公開表、明治地 旧三觜邸の公開表、明治地 田三觜邸の公開表、明治地 田三觜野の公開表、明治地 田三精野の公開表、明治地 田三精野の公開表、明治地 田三精野の公開表、明治地 田三精野の公開表、明治地 田三精野の公開表、明治地 田三精野の公開表、明治地 田田清野の公開表、明治地 田田清野の公開表、明治地 田田清野の公開表、明治地 田田清野の公開表、明治地 田田清野の公開表、明治地 田田清正をの成の国登録有別 田和元屋の蔵の国登録有別 田和元屋の蔵の国登録有別	福	†	1		1	1
教育額(千円) 教行率(%) 年次ごとの取割計 旧三端 面) 年次ごとの目標 古民等 直) 「有次でとの目標 古民等 直) に対する紀2年 通様状況 H27年度 進捗状況 旧三端節の公開を、明治地 回(10時~15時)実施した。 日日家を打用した事業とし、 ほこの「講演会を1回、旧小説 にとの「講演会を1回、旧小説 にとの「諸宗会を1回、旧小説 にといるの一部の国会会有 日間、活用の検討をした。	4,482	4,482				
執行率(%) 年次ごとの取組計・旧三編 同年次ごとの日標・古民等 直)に対するH27年 度末の成果 H27年度 建捗状況 旧三觜邸の公開を、明治地 回(10時~15時)実施した。 三名家を活用した事業として。 12回、講演会を1回、旧小が 13開催した。 旧稲元屋の蔵の国登録有 18相、活用の検討をした。	4,191					
年次ごとの取組計 ・旧三觜家の公開 1153人 画(年次ごとの日標 - 古民家を利用した事業 6回 値)に対するH27年 ・旧稲元屋の蔵について利用を検討した。 元本の成果 - 旧稲元屋の蔵について利用を検討した。 H27年度 建株状況(今年度の効果・成果) ・旧三觜邸の公開を、明治地区郷土資料室に委託して、週・概 2回(10時~15時)実施した。来館者 1153人 2回(10時~15時)実施した。来館者 1153人 2回(10時~15時)実施した。来館者 1153人 2回(10時~15時)実施した。米館者 1153人 回開催した。 - 日三觜邸で和楽器演奏会 を2回、講演会を1回、旧小地邸で紙芝居を2回、昔話を1 回開催した。 - 日稲元屋の蔵の国登録有形文化財の登録にともない、 ・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1	93.5					
H27年度 進捗状況 旧三觜邸の公開を、明治地 回 (10時~15時) 実施した。 上民家を活用した事業とし、 2回、講演会を1回、旧小別催した。 旧稲元屋の蔵の国登録有 2開、活用の検討をした。	§家の公開 1 8を利用した事 6屋の蔵につい	153人 5業 6回 ハで利用を検討し		H27年度の 総合評価	野 B	次年度 継続
旧三濱邸の公開を、明治地回 (10時~15時) 実施した。 回 (10時~15時) 実施した。 王L東家左計田した事業とし、 2回、講演会を1回、旧小別間化した。 旧稲元屋の蔵の国登録有 12開、活用の検討をした。	((今年度の効	集·成果)		100	価の理由	
旧稲元屋の蔵の国登録有3 2開、活用の検討をした。	3区郷土資料 来館者 1,15. で、旧三觜邸 世野で紙芝居	室に委託して、週 3人 で和楽器演奏会 を2回、昔話を1	・義な計画	どおりの事	・概ね計画どおりの事業を実施できた。	ŷ
	杉文化財の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	録にともない、・・	·引き続き、旧三 持、活用を図る。	 	今後の方向・引き続き、旧三觜邸を中心に歴史的建造物の維持、活用を図る。	り建造物の維
			明祖祖 明正 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖 明祖	H28: の公開(週: の公開(週:	H28年度事業計画 ・旧三觜邸の公開(通2日、10時~15時) ・旧三觜邸 日小地邸を活用した事業の実施。 ・日稲元屋の蔵の活用方法の検討。	時)
課題・問題点・医史的建造物の公開、活用については、所有者の意向や修繕等にかかる経費などにより、円滑に進めることが困難である。	問題点 引こういては、 により、円滑に	所有者の意向 進めることが困				

527 すネロ エムミイムかにのサネ 事業目的 事業目的 事業目的 事業内容 事業内容 事業内容 事業内容 事業内容 事業内容 東佐・電子博物館の整備等、公開活用事業の充実を図る。 中27年度 日28年度 日29 日27年度 日28年度 日28年度	ルスリス 事業目的 10歴史・文化に対 事業内容 実施、学校等に 、公開活用事業	は大いないのでは、 的 文化に対する理解を深め	担当課入、第二	1 1	郷土歴変更(ある場合)	郷土歴史課 5場合〕
要の酵成を促す。 要の酵成を促す。 地域施設における展示事業等実施、電子博物館の整備等、 事権でとの取組計画 展示: (年次ごとの目標値)	事業目的)歴史·文化に対 事業内容 事業内容 実施、学校等に	対する理解を深め	5、鶴土	₩	更(ある場合	(An
地域施設における展示事業等 実施、電子博物館の整備等、 日本次ごとの取組計画 展示 (年次ごとの目標値)	事業内容 実施、学校等に 、公開活用事業					
		おける郷土資料の充実を図る。	講座の			
	H27年度 H28年度 ●歴史資料公開活用事業の実施		H29年度		H30年度	H31年度
	展示会開催延日数 300日	300日	300日	e e	300日	300日
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)	3,707 3,231 87,2	3,658				
年次ごとの取組計 画(年次ごとの別組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果		3目)	H27	H27年度の 総合評価	事 日 日 日	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・常設展示室展示会:「鳥瞰図(空から見た世界)展」等5 中。開催日数199日 ・地域(図書館等)開催展示会:「東海道藤沢宿パネル展 (藤沢公民館)」、国宝「一遍聖絵パネル展」等6件。開催日数68日 ・中也行事三二展元(新林公園):「こいのぼりと室内節り」 ・「おひなさま」開催日数58日 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	パ今年度の効果 図(空から見た1 会:「東海道藤汀 聖絵パネル展」 國):「こいのぼり 1	riul	・常設展示室以外が図られたため。	評価 か。 か。 今後 活用事業	の理由 館等での展 の方向 の方向	評価の理由 ・常設展示室以外の図書館等での展示活動の充実 が図られたため。 今後の方向 ・引き続き公開活用事業の充実に努める。
・電子博物館「みゆネットふじさわ」のリニューアル。スマートフォン版の開設。 ・平成28年度に開館するふじさわ酒交流館、藤澤浮世絵 館及びアートスペースの3施設が連携した公開活用事業の 実施。	:さわ」のリニュー 問題点 		・ 常設展示室頂 5年 5年 5年 6かにさわ宿交 7年の実施 ・ 1・地域 図書館 ・ 1・サール の開催 が 1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・	HZ8 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	度事業計画 よっとむかし 育料展示室 ・ 示会:「交流 ・ 料講座「考ご	H28年度事業計画 ・開設展示室展示会:「ちょっとむかしの道具展」ほか ・シにさわ宿交流館郷土資料展示室での宿場関連展示の実施 ・地域 図書館等)開催展示会:「交流館開館記念パ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

 <th rowspan="2" style="blook color: blook; color: blook;

事業目的 旧東海道藤沢宿に(仮称)ふじさわ宿交流館を整備し、他の様々な 取組と併せ地域の活性化に繋がる活用を図る。

地域の活性化のため	の事業実施	Tanlako元女の多文なでで、 ・地域の活性化のための事業実施					
	H27年度 ●ふじさわ宿交涼	H27年度 H28年度 ●ふじさわ宿交流館の整備・運営	H29年度		H30年度		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	新築工事	開館 利用者数 25,000人	26,000人	<u> </u>	26,000人	26	26,000人
予算額(千円)	214,457	31,049					
決算額(千円)	154,860						
報行率(%) 年かプレの形名計	72.2				声点	_	次年度
ーイベニンルが配置 国のインスの日標・新築工事について、年度末までに竣工できず 国)に対するH27年(繰り越した。 度末の成果	築工事について、 り越した。	年度末までに竣工	~~~	H27年度の 総合評価	O		維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・6月議会に条例案を上程、議決した。 ・議決後、指定管理者の選定を行った。 ・8月10日、新築工事を建築・電気・設備に分けて発注し、	5状況(今年度の数 程、議決した。 り選定を行った。 建築・電気・設備に	果・成果) - 分けて発注し	・新築工事	が完了し	評価の理由・新築工事が完了しなかったため。		
・12月議会に指定管理者の指定議案を上程し、議決した。 ・3つの工事のうち、建築工事について、年度未までに竣工 せず事故繰越となった。 ・1運営、活用についての地域・関係団体等との意見交換会 を2回実施した。 ・藤沢地区郷土づくり推進会議、藤沢東部・西部自治連総 会でそれぞれ交流館建設の進捗状況、運営・活用方法に ついて説明した。	議会に指定管理者の指定議案を上程し、議決した。 り工事のうち、建築工事について、年度末までに竣工 訴機越となった。 大田についての地域・関係団体等との意見交換会 光面した。 地区郷土ズくり推進会議、藤沢東部・西部自治連総 地区郷土ズくり推進会議、藤沢東部・西部自治連総 北でれ交流館建設の進捗状況、運営・活用方法に 説明した。		・ 中成284 者として選 示業務は 理者が行 し、地域に	4月1日か 124月1日か 124編を 144のでいい。 15。また、は 15をまた、は 15をまた、は	今後の方向 ・平成28年4月1日から藤沢市観光協会が指定管理 者として運営準備を行い、4月29日に開館予定。展 示業務は市が行い、各種イベント、PRは主に指定管 理者が行う。また、地域の市民活動団体等と連携 し、地域ににぎわいの創出を目指す。	:協会が 31に開館 * PRは計 動団体等	指定管理 予定。展 に指定 を連携
課題・問題点 ・文流館をいかに市内外にPRであるが、そして集客を地域の ・ 活性化とにぎわいの創出に繋げていくかを、指定管理者、 地域住民、商業関係者等と連携しながら検討・実践してい く。	機翻・問題点 HIPRは一部が、そ HIに繋げていべか。 等と連携しながらが	で集客を地域の を、指定管理者、 後計・実践してい	4月20日 · 通過的協議 · 赤形統計 · 市民団体	H2 開調 第金の開催 9等各種イ 7との協働	H28年度事業計画 -4月29日開館 -1重告協議会の開催 ・伝統芸能等各種イベントの実施 ・ 藤沢宿のPR - 市民団体との協働事業の実施	圃	

担当的 生涯学習的 担当課 郷土歴史課	変更(あ2	3年度 H30年度 H31年度	20,000人 20,500人 21,000人			計画 <u> </u>	評価の理由	おり工事が竣工し執行体制も整ったため。	今後の方向 ・平成28年7月の開館に向けて準備を進める。	H28年度事業計画 ・平成28年4月、浮世絵館専門員として、非常動職員 4名を採用する。 ・平成28年7月開館予定。 ・開館記念展示会及びワークショップ等の事業を開催。
(仮称)藤澤浮世絵館の整備・運営事業	事業目的 これまで市が収集してきた浮世総類を中心とした資料を市民を始め 多くの人に見ていただく場を提供することにより、郷土の歴史・文化 についての関心を喚起し、郷土愛あふれる藤沢の実現に資する。 事業内容 事業内容 用民が集い文化の継承に繋がる生建学習の場として、浮世総類の 展示を中心とした(仮称) 藤澤浮世総館を整備する。 ・東海道、藤沢宿、江の島など所蔵する浮世総の特色を活かした展示 ・市民等が気軽に訪れ、学び、憩えるスペースの設置 ・・市民等が気軽に訪れ、学び、憩えるスペースの設置	H27年度 H28年度 H29年度 ●(仮称)藤澤浮世絵館の整備・運営	開館 利用者数 10,000人 20,0	62,866		%0			,	
事業名 (仮称)藤澤淳	事業目的 きた浮世総類を中、 (、場を提供すること では、郷土愛あふれ、 事業が寄生涯年 承 「藤が名生涯年 の島など所蔵する評 の島など所蔵する呼	H27年度 ●(仮称)藤澤浮	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	168,000	92.6	投置工事達成率100	捗状況(今年度の対	1回活用検討会議を 行った。 学芸員として常勤嘱	/用検討会議を開催 した。 上程、議決した。	課題 問題点 いただくためのPR 携
事業コード 529	これまで市が収集して 多くの人に見ていた付 についての関心を喚其 市民が集い文化の継 展示を中心とした(仮科 東海道、藤沢宿、江 ・ 市 石等が気軽に訪れ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	予算額(千円) 決算額(千円)	執行率(%)	年次ことの取組計 画(年次ごとの目標 間)に対するH27年 度末の成果	H27年度 進	・8月19日に27年度第1回活用検討会議を開催した。 ・9月に工事の発注を行った。 ・10月1日付で、主任学芸員として常勤嘱託職員を採用し	た。 1月15日に、第2回活用検討会議を開催した ・2月末に工事が竣工した。 ・2月議会に条例案を上程、議決した。	課題・問題点・より多くの方に知っていただくためのPR・地域や学校等との連携

平成27年度 藤沢市教育振興基本計 画進捗状況報告書 || 事業コード || 東第名 || 景観音源推進事業 || 担当部 || 計型 || 第第名 || 景観音源推進事業 || 打当部 || 新たみ号報語

# 東日的 (11年) (11年) (1	変更(ある場合)
事業内容 ・旧東海道藤沢宿周辺を街なみの形成を図る。 ・良質な街なみの形成を図る。 ・良質な街なみの形成を図る。 ・良質な街なみの形成に向け、街なみ景観フォーラム等を ・大工との取組計画 ・本文ことの取組計画 ・本文ことの取組計画 ・本文ことの取組計画 ・本文ことの取組計画 ・本文ことの取組計 ・本、一方、一方、等の ・本、一方、一方、一方、一方、一方、一方、 ・、一方、一方、一方、一方、一方、一方、一方、一方、一方、一方、一方、一方、一方、	
H27年度 H28年度 H	文化を大開催し、
(4次ごとの取組計画 (新助事業実施 - 中 年次ごとの取組計画 (市 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 H31年度 ●歴史的建造物の維持・保全(旧東海道藤沢宿街なみ修景等に関する補助事業)
(————————————————————————————————————
	† †
決算額(千円) 2.295 執行率(%) 259 年次亡との租標 - 歴史的建造物の維持・保全(旧東海 画(本次亡との用標 - 歴史的建造物の維持・保全(旧東海 画(本次亡との日標 - 国有なみ修農等に関する補助事業) (重)に対するH27年 - 電荷なみ修農等に関する補助事業 - 正空的運動を構造物の維持・保全(旧東海道藤沢宿街なみ修選 ・ 一部工作の産産・ 一部では、 1、 1、 1、 1、 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
### 17-12-70	
ーム、このお名記目 歴史的建造物の維持・保全(旧東海 画 (本次ことの目標 電街なみ修量等に関する補助事業 1267,000円の補助 (補助率1/2、上度 東外の成果 1267,000円の補助 (補助率1/2、上度 連歩状況(今年度の効果・成果) 1267,000円の補助 (補助事業) 1267,000円の補助 (補助事業 1267,000円の補助 (補助事業 1267,000円の補助 (利助事業) 1267,000円の維持・保全(旧東海道藤沢宿街花み修開 (10月 120円 (10月 120円 (130円) 120円	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・歴史的建造物の維持・保全(旧東海道藤沢宿街なみ修選等に関する補助事業) ・簡別する補助事業) ・ (道藤沢 H27年度の RTI A A TA A TA A TA A TA A TA A TA A T
・歴史的建造物の維持・保全(旧東海道藤沢宿街なみ修寿等に関する補助事業) 衛に関する補助事業) (10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	時間の単語
- 市民主体の景観まちづくりへの意識啓発 (省なみ景観オナーラム等を開催 参加者合計1,512人 * 「第35回景観ルックイン2015」 42人 * 「藤沢今日まちなかアートめぐり2015 講演会」 69人 * 「景観ウオーク(130景を歩く!)」全12回 1,386人 * 「藤沢宿親子まちあるき」 15人 * 「藤沢宿親子まちあるき」 15人 まちの魅力を高めるためには、歴史的建造物の維持・保 全だけではなく、その後の利活用をすることが重要であり、 検討が必要となってきている。	景・補助事業については、歴史的建造物の維持・保全に対する所有者の理解を得ることが難しい、結果として、初年度でもある平成27年度の進捗は目標を下回ったものである。
*「景観ウオーク(130景を歩く!)」全12回 1,386人 *「藤沢宿親子まちあるき」15人 藤沢宿親子まちあるき」15人	・旧東海道藤沢宿街なみがらいては、歴史的建造 ・旧東海道藤沢宿街なみがこいでは、歴史的建造 物を維持・保全していべことが重要であり、所有者に 対して維持・保全の為の支援が必要である。
課題・問題点 ・まちの魅力を高めるためには、歴史的建造物の維持・保 全だけではなく、その後の利活用をすることが重要であり、 検討が必要となってきている。	
課題・問題点・まちの魅力を高めるためには、歴史的建造物の維持・保全だけではなく、その後の利活用をすることが重要であり、検討が必要となってきている。	H28年度事業計画・H27年度から引き続き補助事業を予定している。また、景観まちづくりへの意識啓発として、「まちあるき」や「フォーラム」等の開催を予定している。
また、5年間の補助事業が終了した彼も、歴史的建造物の維持・保全が続く仕組み作りが必要である。	

			_	相当部	保健	医梅部
611 事業名		健康づくり推進事業	<u> </u>	担当課	健康	健康増進課
事業目的 市民が生涯にわたり生活習慣病の予防・改善及び健康・体力の維持・増進を図り、日常生活で適切な生活習慣が身につくよう支援する。	事業目的 5習慣病の予防・ 5で適切な生活習	改善及び健康・体 慣が身につくよう	力の維 支援す		変更(ある場合	(42
事業内容 積極的な健康づくりを行うために、市民を対象に健康度・体力度 チェックを経て健康づくりトレーニングを実施する。	事業内容 うために、 市民を トレーニングを実	が象に健康度・体施する。	力度			
_ ; _	H27年度 ■健康度·体力度	H27年度 H28年度 ●健康度・体力度チェック及び健康	H29年度 づくリトレーニング		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	武	†	1		1	<u></u>
予算額(千円) 沖管額(千円)	3,458	3,458				
从并嵌入[1] 執行率(%)	65.4					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 ・体力度 (値)に対するH27年 ・トレーニン度末の成果	康度 27人 力度 550人 ハーニング 26,758人			H27年度の 総合評価	型 型 C	次年度 見直し
H27年度 進捗/ 四本年 14 十年 1	進捗状況(今年度の効果・成果)	果·成果)	が乗り	評価の理由 野田の田田 本本学 アンス・デル	50理由 1/2+	
・唯成度・中27点・ドレーー/・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ン・ト・リカ・ルルにらり) 実) 26,758人(延)	5)	中			°
			・本事業に 予防を目的 リ多くの人 ある。	今後 :ついては、生 りとする事業と が利用し易い	今後の方向 、生活習慣病予切業として、市内各 悪として、市内各別い方法を検討し	今後の方向 ・本事業については、生活習慣病予防および重症化 予防を目的とする事業として、市内各所で実施し、よ り多くの人が利用し易い方法を検討していく必要が ある。
課題・問題点・トレーニング事業については、H紹本度に生活習慣病等・トレーニング事業については、H紹本度に生活習慣病等のおよど重症化で変更したところではあるが、利用者増加には至っていない。関係機関等との連携を図りながら、必要な対象者が活用できるよう周知を図り、広く多くの市民の活用を促進する必要がある。	題・問題点 では、H2 H2 では サンビ連度 ではあるが、利 等との連携を図り、広く	-生活習慣病予 第プログラムの 開着増加には たがら、必要な 多くの市民の活	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年 については、 129年度に向い	度事業計画 記行の事業 内 アイ事業 内容	H28年度事業計画 ・H28年度については、現行の事業内容で実施する。 とともに、H29年度に向けて事業内容の検討を行う。

事業目的 小中学生の体力向上のための教育プログラムを研究・実践する。	事業目的 りための教育プロク	7 = 1. 左珥恋 事 壁	1		変更(ある場合	を更(ある場合)	
		が	م				
	事業内容						
(教育指導課) ・市立小学校5年生と中学校2年生を対象に「体力・運動能力テス・ ト」を実施し、その結果を基に、子どもの体力を分析して、子どもの体力にかっための方策を検討する。	P学校2年生を対象 を基に、子どもの体 きを検討する。	象に「体力・運動能力テス)体力を分析して、子どもの	カテス -どもの				
(スポーツ推進課) ・新体カテスト実施に向けた測定員の養成と派遣。	引けた測定員の養 原	龙と派遣。					
	H27年度 ●体力·運動能力	H27年度 H28年度 ●体力・運動能力テスト(54校)	H29年度		H30年度	H31年度	1年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施	1	<u> </u>		1		1
予算額(千円)	5,857	5,799					
決算額(千円) 執行率(%)	5,857						
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度まの成果	、力・運動能力テスト	- の実施校数54校	452	H27年度の 総合評価	計 B B	**	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・児童生徒の体力向上に向けた路発を図ることができた。・希望校には測定員を派遣し、市内54校で実施することができた。・市内小学校32校から測定員の派遣依頼があり、4月20日から6月29日の期間で実施した。	野状況(今年度の効 に向けた啓発を図 派遣し、市内54校 測定員の派遣依頼 引で実施した。	果・成果) ることができた。 で実施することが 真があり、4月20	・ ・ ・ 学校との 展開を実加	女で体力・近 日程調整を もできた。	評価の理由 ・市内54校で体力・運動能力テストを実施。 ・学校との日程調整を含め、事業目的に沿った事業 展開を実施できた。	トを実施。 目的に沿・	うた 事
・平成25年度より、全権・ ・測定員意見交換会に 度に向けた検討を行っ	交で8種目を測定し ついては、11月1년 た。			:校を対象: 動向を踏高	今後の方向 全種目、全校を対象として、継続実行する。 ・国や県の動向を踏まえながら検討していく。	実行する。 討していく	۰
課題・問題点・平成25年度から無比核がなびが、全種目を全核対象と・なったため、派遣人員を増やす必要が生じ、派遣員の確保なび予算上に苦慮した。 ・測定員を派遣するスケジュールの関係で、実施時期に差が出てしまう。	課題・問題点 	[目を全校対象と に、派遣員の確 で、実施時期に	· 市内544 ** 市内544 · 市内内7 · 市内内4 · 市内内4 · 市内4	H28 文で実施 大選は本カデー 一選に自登 校の派遣 の難命・文	H28年度事業計画 ・市内54校で実施 ・・市内54枚で実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	画系用業	

·	***	CAME I VE III	1	出る方式が、	中海	学習部
622 事業名	名 スポー	-ツ施設整備事業	_	担当課	スポー	スポーツ推進課
市民が生涯にわたって なスポーツライフを実現	事業目的 生涯にわたって多様なスポーツに親しみ、健康で明る<豊か -ツライフを実現する環境づくりを目指す。	乳しみ、健康で明み 指す。	5く豊か	iani.	変更(ある場合	()
事業内容 多様な市民ニーズに対応できる施設を整備する必要があり、安全でで安心して利用できる施設はもより、誰もが健康でいつでも楽しめる生涯スポーツ環境の充実を図る。また、市内野球場が不足しているため、少年野球場については早期に確保するよう努める。	事業内容 市できる施設を整備 施設はもとより、誰も 充実を図る。また、「 ついては早期に確保	まる必要があり が健康でいって。 お内野球場が不 Rするよう努める。	、安全 も楽しめ にしてい			
	H27年度 H28年度 ●(仮称)天神スポーツ広場の整備	H28年度 一ツ広場の整備	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施 ●葛原スポーツ広	-ツ広場野球場2面化整備	整備	Н	П	
	実施	1	↑	H	r	
予算額(千円)	69,793	157,968				
X昇徴(十円) 執行率(%)	100.0					
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値)に対するH27年 重表の成果	・天神スポーツ広場野球場土木工事等 ・葛原スポーツ広場野球場整備予定地現地測量等	球場土木工事等 球場整備予定地	現地測	H27年度の 総合評価	雷 田 田	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・天神スポーツ広場野球場整備工事(土木)を実施 契約日:2016年3月11日 エ 期:2016年3月11日から2016年7日21日	H27年度 進捗状況(今年度の効果・防神スポーツ広場野球場整備工事(土末)を予契約日:2016年3月11日エ 期:2016年3月11日から2016年7日21日エ 期:2016年3月11日から2016年7日21日	果·成果))を実施 21日	・大清水スポーツ が、天神スポーツ 事が進んでいる。	評価の理由・大清水スポーツ広場閉鎖に伴い施設数は減ったが、天神スポーツ広場野球場の整備に向け土木工事が進んでいる。	馬の理由 鎖に伴い施診 F球場の整備I	3数は減った こ向け土木工
・天神スポーツ広場整備に伴う実施設計委託を実施 契約日:2015年3月17日 エ 期:2015年3月17日から2015年9月30日 ・天神スポーツ広場整備に伴う土壌調査委託を実施 契約日:2015年8月25日 エ 期:2015年8月25日から2015年11月13日	神スポーツ広場整備に伴う実施設計委託を契約日:2015年3月17日 工 期:2015年3月17日から2015年9月30日 エ カスポーツ広場整備に伴う土壌調査委託を契約日:2015年8月25日 エ 期:2015年8月25日から2015年11月131	託を実施 30日 託を実施 113日	・ 野球、ソフスポーツル ・ 大清水ス けた取組。	今を フトボールがで な場及び 高原: パポーツ広場関	8の方向 ?きる環境整備 スポーツ広場の 鎖に伴う代替	今後の方向・野球、ソフトボールができる環境整備に向け、天神スポールができる環境整備に向け、天神スポーツ広場及び島原スポーツ広場の整備・・大清水スポーツ広場閉鎖に伴う代替施設確保に向けた取組。
·葛原スポーツ広場野球場2面化整備予定地現地測量委託を実施 記名実施 契約日:2015年12月8日 エ 期:2015年12月8日から2016年2月29日	原スポーツ広場野球場2面化整備予定地現 を実施 契約日:2015年12月8日 工 期:2015年12月8日から2016年2月29日	地現地測量委29日				
課題・問題点・スポーツ施設は、建物及び設備において老朽化が進んできているため、市民が安心して利用できるスポーツ施設として維持する計画的修繕が必要。	課題・問題点 が及び設備において 安心して利用できる/ 繕が必要。	老朽化が進んでスポーツ施設と	・	11-28年 パーツ万場響野が パーツ万場響等 パーツ万場野野野	度事業計画 ・地工事(上米 ・に作う土壌部 ・場と面化整備	H28年度事業計画・天神スポーツ広場野球場工事(土木・建築)の実施・天神スポーツ広場野球場工事(土木・建築)の実施・天神スポーツ広場野球場2面化整備に伴う用地測量の実施

 事業コード 事業名
 スポーツバリアフリー事業
 担当部 生涯学習部 生涯学習部 を23

# 東京 19 19 19 19 19 19 19 1	市民だれもが安全で安。 2 - 3 っぱ、い理性の	事業目的心してスポーツ・し	T (- 17			炎更(ある場	íα
	う単胆い ディ ハイス		ノンコートンコノ汨ョ	動ができ			
	のよう、人子一ノ東北の	充実を図る。					
	・障がい者・高齢者を含 ポージ・レクリエーション	事業内容 む多くの市民が受 施設を整備する。	5全・安心して利用	できるス			
		H27年度				30年度	H31年度
	年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施·検討	1	1		1	1
	予算額(千円)	0	0				
	洪昇額(十円) 執行率(%)	0.0					
	年次ごとの取組計画(年次ごとの日標 / (値)に対するH27年 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度 度	リアフリー化への	対応は実施済み		7年度の 合評価	計 A	次年度 継続
	H27年度 進物 ・平成21年度から平成2 リアフリー化を図り、現4 の対応は実施済み。	b状況(今年度のஜ 33年度までの3カ ² 状の施設における	か果・成果) F計画においてパ パリアフリー化へ	・平成21年度 いてバリアフ! アフリー化へ	 から 平成 7一化を図 0 対応は	価の理由 23年度まで 19、現状の別 出来ていると	03カ年計画にお 5設におけるバ・ 考える。
				・市民の誰も るよう修繕時 共建築ユニ・ 整備する。	か が公共 お な で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	後の方向 設を安全で安 事などの整備 *・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	がして利用でき 時に「藤沢市4 アル」に基づき
_	・スポーツ施設の老籽川 ・大規模改修工事及び公 を実施する中で、バリア ある。	舞響・問題点 とや番年劣化が道 (大施設再整備プ プリー化された整	さい。 でいって、今後は ランにおける事業 備を行う必要が		H284 から平成 リー化を図 の対応は	<u>度事業計画</u> 33年度までの 19、現状の前 実施済みの1	3カ年計画にお 5設におけるパ cめ予定無し。

+ ルス・ノ・ト・反 豚 ルハロ 教 月 飯 宍 本 今日 四 注 砂 かんが 和 口 音 形	事業目的 セルーン 幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権 まえ、障がいの有無にかかわらず、スポーツ活動 を確保する。 変更(ある場合) 有様にスポーツを楽しむ親点から、精極的なスイゼーションを推進する。又、活動の支えとなる指 の育成に取り組む。 イゼーションを推進する。又、活動の支えとなる指	実施・検討・	十円) 0 (千円) 0 (56) 0.0	民	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・スポーツのノーマライゼーション理念の実現のため、障が、ノーマライゼーション事業について、藤沢市スポーツ いの有無にかかわらず、すべての人が同じンイールドに身 推進計画に位置づけを行った。 を置きスポーツを親しめるためのソーマライゼーション事業	・福祉部などの関係部門及び関係者との連携を進め ながら、障がい者の方々のニーズに的確に対応す る。また組織化への気運が高まった際には、組織化 へ向けての支援・アドバイスを行う。	H28年度事業計画・障がい者スポーツ団体の現状やニーズを把握・分析するとともに、藤沢市障がい者スポーツ推進連絡会を通じて、組織化へ向けての支援・アドバイスを行馬の中の状況では、福祉部局が所管課となっているが、国の平成26年度予算において、日本障害者スポーツは会補助」及び全国障害者スポーツ大会開催事業が厚生労働省から文部科学省に移管されたので、今後、国並びに県の対応を注視したい。
事業コード	0 C 4 A A A A A A A A A A A A A A A A A A	年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) まなごとの目標値 (7 昇報(十円) 決算額(千円) 執行率(%)	年次ごとの目 画(年次ごと 値)に対する 度末の成	H27 ・スポーツの、 いの有無にか を置きスポー について、藤		摩がい者ズ 原内を市のが が、国の平成 が、国の平成 始会補助」及 生労働省かに びに県の対応

#業目的	変更(ある場合)	
(1.1.) (1.1.2 を 1.1.1.2 を 1.1.1.3		
(年次ごとの取組計画 実施・検討 - 1,120	H29年度 H30年度 H3	H31年度
予算額(干円) 0 1,120 執行率(%) 0.0 4 執行率(%) 0.0 4 年次亡との取組計 億)に対するH27年 度未の成果 (元) 1.27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 7.27年の人として、公民館と連携した用民・市民が利用しや有いシステムとして、公民館と連携した用民・市民・市民に供されている。 ・スポーツ事業や講座の開催内容について、広報ふじさわられます。 が期間に供されている。 ・スポーツ事業や講座の開催内容について、広報ふじさわら掲載し、広く市民へ周知した。 が期等・にいつませい。 ・スポーツ事業の講座の開催内容について、広報ふじさわられませた。 2.1、ついつま業とは、広々市民へ周知した。 ・スポーツ事業の講座の開催内容について、広報ふじさわられた。 1.1、ついつま業にあるによります。 ・スポーツ関係団体のホームペープの充実指導。 80名。 ・スポーツ関係団体のホームペープの充実指導。 図る。	1	1
(大)		
		1
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・スポーツ施設予約システムとして、公民館と連携した市民・市民 歴で工	評価 3 H27年度の 総合評価 B	次年度 継続
	評価の理由 ・市民がスポーツに親しむ機会をスポーツ事業や講 座でつくることにより、スポーツ活動の習慣化の効果 が期待できる。	事業や講化の効果
۰	今後の方向・いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも、気軽にスポーツを楽しめる情報提供や事業を実施。	国産
	H28年度事業計画・基盤となる運動施設等の指定管理者による管理運営とスポーツ施設予約システムの適正な維持管理を行うことにより、経費の節減と市民サービスの向上を図る。	る管理 注音管理 の向上

事業名

 事業コード 事業名 競技スポーツ推進事業
 担当部 生涯学習部 大ポーツ推進意

のスペー・イエルスのコ	並を図る。	ランゴギ Translation である。 競技スポーツ全般の推進を図る。	0,4C,			
事業内容 東京オリンビック・バラリンピックなどを好機と捉え、競技力の向上を 目指し、市内競技選手の支援を行うとともに、各団体との連携と版 働を進め、長期的な展望に立った競技スポーツ指導体制の確立に 取り組み、スポーツへの動機付けや関心を高める方策としてトップ アスリートの活用を検討、実施する。	事業内容 リンピックなどを好: の支援を行うととは 経に立った競技ス の動機付けや関心 計、実施する。	機と捉え、競技力の い、各団体との連 ポーツ指導体制の を高める方策として	0向上を 鎌と筋 離立に バップ			
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施・検討	1	1	1		1
子管嫍(千円)	0000	2 000				
決算額(千円)	1,035	500,12				
執行率(%)	51.8					
年次ごとの取組計 国の年次ごとの目標 値)に対するH27年 度表の成果	全国大会等への出	161人	H27年度の 総合評価	127年度の 総合評価	更 B B	次年度 継続
H27年度 進	渉状況(今年度の 数			評価の単	-	
・競技スポーツで活躍された選手達への賞賜金交付により、競技スポーツの発展を図る。 *社会体育の部(全国大会) 143人 *社会体育の部(国際大会) 18人	された選手達への) 展を図る。 国大会) 143人 等大会) 18人	<u> </u>	・競技スポーツで活躍された選手たちへの賞賜金交 付により、生涯スポーツの推進と競技スポーツの発 展につながった。	活躍された選び、活躍された過で、	ミチたちへ 単と競技ス	、 の にポーツの にポーツの は
			・資陽金制度について、ホームページに掲載して周知を図る。 ・2020東京オリンピッケ・パラリンピックに向けた取組として、各種目協会からの要望等を施策に反映させるよう、休育協会内に設置する特別委員会を通じて協議を進めていく。	今後のカ ついて、ホーエ ルピック・パラリ は会からの要言 ま内に設置する く。	で マーン ソーン アーシーン に の に に の に の に の に の に の に に の に の に の に の に の に に の に の に の に に の に の に に に の に に に に に に に に に に に に に	・掲載して) に向けた取らに反映されて映る 自会を通じ
			H28年度事業計画 ・競技スポーツで活躍された選手たちへの賞賜金交付により、競技スポーツの発展を図る。	H28年度事 活躍された選 スポーツの発	業計画 電手たちへ 袰を図る。	の賞賜金
課題・問題点 ・賞勝金制度を広ぐ市民が利用できるよう、ホームページに 掲載するなど周知方法を検討する必要がある。 ・2020東京オリンピック・・・、ラリンピックに向けた関係団体と の調整が必要である。	課題・問題点 民が利用できるよう たを検討する必要が ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、ホームページに (ある。 向けた関係団体と				

事業コード

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 事業コード 事業名 多文化共生推進事業 上担当部 企画政策部

事業目的 子どもたちを中心とした国際交流の場を提供し、外国人と日本人の 子どもたちの交流や多文化への理解を図る。 事業内容 地域で活動する日本語教室の先生や大学生等が、小中学生を対 象とした交流会を企画して、子どもたちを中心に多文化交流を行 う。	事業目的 国際交流の場を打 で化への理解を図 事業出家	提供し、外国人と目	6 4 7 8		変更(ある場合)	場(中)	
地域で活動する日本語巻 象とした交流会を企画し う。	車業中心	<u>°</u>					
	ずまらば 牧室の先生や大学 て、子どもたちを「	学生等が、小中学中心に多文化交通	生を対 fiを介				
:0	H27年度 H28年度 ●MINTOMO交流会の開催	H28年度 流会の開催	H29年度		H30年度		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	参加者数 100人	1	↑ 		1	⊢	1
予算額(千円)	100	100					
決算額(千円) 執行数(92)	100						
4x17年(78) 年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 値に対するH27年 参加者数 2 度来の成果	100.0			 H27年度の 総合評価	型 B B	<u> </u>	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・「第6回MINTOMO交流会」の開催 *12/5 10:00~15:00 湘南台公民館 ・参加者22人人・外国人市民67人、一般市民等174 テージ出演者33人) *従事者60人(日本語教室スタッフ、大学生、PTA *スペイン語の歌、南米の踊り、フォークダンス、E 昔遊び、工作、餅つき等を行った。	年達氏してて、	<u>Eの効果・成果</u>) 館 一般市民等174人、ス 、大学生、PT <i>A</i> など) オークダンス、日本の	・地域の国・地域の国・地域の国・地域の国・が増えている。・・か国人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		5、外国/ 5、外国/ 5文化を 5文化を (2を図る)	:着し、毎 たの参加 通して交 通して交 にめ、交派
課題・問題点・交流会全体を通じて、参加者どうしの交流や多文化への理解を図ることが目的なので、全てのプログラムに参加してもらえるよう、内容や周知方法を工夫をする。	<u>料題・問題点</u> 参加者どうしの交 ので、全てのプロ 別知方法を工夫を	流や多文化への ガラムに参加し する。	OTNIM· MINIMI MINIMI	H20 MOX淵 NTOMO;	H28年度事業計画 ·MINTOMO交流会実行委員会へ業務を委託し、 「第7回MINTOMO交流会」を開催する。	画 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	版 E

_	Ý		+ + +	/	I I	教育部
721 事業名		地産地消の充実事業		担当課	孙	学校給食課
	事業目的				変更(ある場合	(争)
・学校給食に安全・安心な給食食材を提供する。 ・児童・生徒と生産者との交流等を通し、生産者の苦労や努力を知ることで、食料の生産に関わる人々への感謝の心を育てる。	な給食食材を提())交流等を通し、 関わる人々への ^長	tする。 生産者の苦労や努 啓謝の心を育てる。	5力を知。			
事業内容 学校給食に安全・安心な地元野菜・水産物などの給食食材の使用 推進を図り地産地消を充実する。	事業内容 地元野菜・水産† 3実する。	かなどの給食食材	の使用			
:-1	H27年度 ●藤沢産使用品	H27年度 H28年度 H29年度 ●藤沢産使用品目及び使用量の拡大	H294		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	33品目	1	T		1	↑
予算額(千円)	0	0				
決算額(十円) 執行率(%)	0.0					
年次ごとの取組計画(年次ごとの取組計画(年次ごとの目標。 (種)に対するHZ7年(使用品目数 33品目度を表しの単	R市内産農水産物 日品目数 33品目	, w		H27年度の 総合評価	評価 B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・藤沢産使用品目の拡大 27年度 33品目	状況(今年度の効	果·成果)	・課題は きた。	評 5るものの、言	価の理由 画通りの事	評価の理由 ・課題はあるものの、計画通りの事業を行うことができた。
・藤沢産新米使用量の拡大 平成24年度以降、継続して年5回を使用している	5大 、て年5回を使用し	,ている。				
・地場産食材を使用した「かながわ産品学校給食デ実施 実施 年3回実施	「かながわ産品学	*校給食デー」の	・使用品 者、学校 滑な地場	今 ヨ数の継続に 給食関係者か 産物使用にF	後の方向 向けて、生 ^選 (十分に意見 altて検討す	今後の方向・使用品目数の継続に向けて、生産者、市場関係 者、学校給食関係者が十分に意見交換を行い、円滑な地場産物使用に向けて検討する必要がある。
・市内産食材を使用した「ふじさわランチ」の実施 平成26年度より、市内産農水産物を使用した給食を実施 している。平成27年度は年3回実施した。	「ふじさわランチ」 農水産物を使用 年3回実施した。	の実施 した給食を実施	・生産者の 類も変化 法の検討	り世代交代等 しつつある。 が必要である	により、収穫 近い献立の 5。	・生産者の世代交代等により、収穫できる野菜の種類も変化しつつある。新しい献立の研究や、調理方法の検討が必要である。
課題・問題点	題・問題点 重確	/難しい。 /候に左右され 予	·地場面:	H28年度事業計画 ・地場産物を取り入れた耐立の企画 ・市内産物の継続的な利用	野食事業計画 で献立の企画 利用	

| 事業コード | ***** | 本第27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業コード | ****** | 本画政策部

事業コード 799(147) 事業名	(大)	人権施策推進事業		相当時	企画人権軍力	企画政策部 人権里女共同参画理
/11/11/	事業目的			1 2	で更(ある場合	ゴーボ ベニンスペニッ 正栄 変更(ある場合)
「藤沢市人権施策推進 文化」を育むまちづくり 定着し、一人ひとりのF 実現を目指す。	指針」の基本理念- 」に向けて、人権尊 市民が尊重され、あ	「藤沢市人権施策推進指針」の基本理念である「人権を大切にし、「人権文化」を育むまちづくり」に向けて、人権尊重の精神が社会や生活の中に定着し、一人ひとりの市民が尊重され、あらゆる人が共に生きる社会の実現を目指す。	、「人権 舌の中に 社会の			
市民が、多岐にわたる 様々な機関と連携し講 リーフレットを作成し、 て配布するなど、市民	事業内容 5人権課題について (演会等の啓発事業 公共施設及び人権 に向けて人権意識	事業内容 市民が、多岐にわたる人権課題について理解を深めることができるよう、 様々な機関と連携し講演会等の啓発事業を実施するとともに、人権啓発 リーフレットを作成し、公共施設及び人権相談機関や啓発事業等を通じ て配布するなど、市民に向けて人権意識の普及・啓発を図る機会を提供	sるよう、 権略発 を通じ きを提供			
ずる。 また、子どものいじめ瓜 ともに、市立の小・中・ の市長部局による再訂 調査委員会を設置し道	坊止について、社会特別支援学校にお(特別支援学校におい調査を目的に、附属) 関盟を図る。	する。 また、子どものいじめ防止について、社会全体への意識啓発に努めると ともに、市立の小・中・特別支援学校において、重大事態が発生した場合 の市長部局による再調査を目的に、附属機関として藤沢市いじめ問題再 調査委員会を設置し運営を図る。	Sめると Lた場合 S問題再			
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 ●市人権啓発講演 ●子どものいじめ	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 H30	H291 施 8、及びい(年度	30年度 査委員会の運	H31年度 重営
予算額(千円) 決算額(千円)	6,883	7,468		H	Т	
執行率(%)	89.7					
年次ごとの取組計 四 (年次ごとの日標 回 (年次ごとの日標 値)に対するH27年 資 度来の成果	・市人権啓発講演会ほか、地域・企業等を発売業を表施した。 ・「藤沢市子どもをいじめから守る条例」 演会ほか、いじめ防止啓発リーフレッド 市した。	・市人権啓発講演会ほか、地域・企業等と連携した 年次ごとの取組計 啓発事業を実施した。 画(年次ごとの目標・「藤沢市子どもをいじめから守る条例」制定記念講 値)に対するH27年 消会ほか、いじめ防止啓発リーフレット等を作成・配 度末の成果 市した。	i携した 記念講作成・配	H27年度の 総合評価	事 田	※ 維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・人権の花運動 ・中学生人権作文コンテスト	進捗状況(今年度の テスト	効果・成果)	・藤沢市ノ多くの人を	評価の理由 ・藤沢市人権擁護委員会との連携により、例年より 多くの人権啓発出前講座を企業等で行うことができ	面の理由 会との連携に。 室を企業等で	より、例年より 行うことができ
·6月1日の「人権擁護 *特設人権相談を開 *客発用横断幕の設 5月1日~6月2日 ·人権啓発出前講座 *企業等の研修 ****	護委員の日」にあわせ開設 6月1日 湘南台)設置 藤沢駅北口ザン32日 摩沢駅北口ザン4半を座 座		た。 ・ 藤沢市 月に施行 多倒解説 の囲知・	た。 ・	りから守る条便 己念講演会を3 ・ポスター等を ・発を行った。	『Jを2015年4 実施した「まか、 作成し、条例
2.2.5.5.3.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1	スキルエロの体 の 保険会社 7月7日、 等学校職員 8月28日 編メーカー 10月8日 S民生児童委員 25 発活動・特設相談」 者講習会 12月5日	5日、約日職員 0 別養護老人ホーム職 保健医療セグー職 市内ガス会社 12 日 ロ ですらぎ荘 8月30日	- 2016年3 に基づき、 いて、地 等と連携 発の機会	今後 -2016年3月に改定した「 に基づき、多岐にわたる いて、地域や教育委員会 等と連携して啓発活動を 等の機会の充実を図る。	<u>後の方向</u> 藤沢市人権が 5人権に関する き、藤沢市人権 で行い、市民に	今後の方向・2016年3月に改定した「藤沢市人権施策推進指針」に基づき、多岐にわたる人権に関する個別課題について、地域や教育委員会、藤沢市人権擁護委員会等と連携して啓発活動を行い、市民に対する意識容発の機会の充実を図る。
・人権週間事業 12/4~12/10の人権週間に合わせ、人権擁護委員会、国や神奈川県等と連携し、街頭での人権啓発キャンペーン、人権メソセージ、人権メリカージ、ネル展及び特設相談等を実施するなど、啓発を図っ	権週間事業 4~12/10の人権週間に合わせ、人権擁護委員会、国や本 11県等と連携し、街頭での人権啓発キャンベーン、人権メ・ ジパネル展及び特設相談等を実施するなど、啓発を図っ		・「藤沢市ポスター・ 第29一・第31回	H28年度事業計画 ・「藤沢市子どもをいじめから守る条例」周知のため ボスター・リーフレットの作成、並びに掲示・配布 ・第31回藤沢市人権路発養清海	度事業計画 りから守る条例 作成、並びに引 終講演会	業計画 守る条例J周知のため 並びに掲示・配布 1会
/こ。 ・人権フェスタ2015inふじさわ 会一 12月5日 *モーデュ・ケ地球!- 牛キス:	いさわ - 第30回膨 エキスパイ・響館・	一第30回藤沢市人権啓発講演 よ」	·地域人和·他域人和·他到課題·爾別課題·職場体題	・地域人権啓発講演会・地域人権啓発講演会・個別課題をテーマとした講・職場体験型職員人権研修	講演会	
*/***********************************	エSSOC」 第四: 市民シアターにて是供することができたます: 1月30日 総合由	ガイナイル 開催。多くの市民に人 に。 民図書館	・人権の花道 ・中学生人権 携して実施)	t運動 (市立を 大権作文コンテ 衙)	3小学校と連携 スト(市内公系	・人権の花運動(市立8小学校と連携して実施) ・中学生人権作文コンテスト(市内公私立中学校と連携して実施)
- 最近で記述でいた。 - 東沢市子どもをいじめから - *条例制定記念講演会 6 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	、		・人権擁認 発用横断・人権啓多	・人権擁護委員の日事〕 発用横断幕の設置) ・人権啓発出前講座(人	業(特設人権科 権教室出前拐	・八権擁護委員の日事業(特設人権相談の開設、啓発用横断幕の設置) 発用横断幕の設置) ・人権啓発出前講座(人権教室出前授業、企業等の
*明治地区いびめ防止調査 1月23日*明治地区いびめ防止調整・1720日・いじめ所止啓発・1・ファ・・・・スター・スター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上講座 1月23日 フレット・ポスターの1		母修〕 ·高齡者办 権相談)	も設での啓発活	5動(人権啓角	研修) ·高齢者施設での啓発活動(人権啓発活動、特設人 権相談)
・ひい、聖号の後来 課題・問題点 ・人権定例・特設相談の周知 ・市民ニーズにあった講演会等の実施	課題・問題点 の周知 講演会等の実施		大権週間相談の開 相談の開 置等)	・人権週間事業(街頭での啓相談の開設、人権メッセージ相談の開設、人権メッセージ置等)・シズカ人権協議会の運営・シズカ人権協議会の運営	の啓発キャンニンパネル展画堂	・人権週間事業(街頭での啓発キャンペーン、特設相談の開設、人権メッセージパネル展、横断幕の設置等) ・メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			2000	入作品の表える	П	

事業コード	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	3 滕小山牧月城兴密45同四庄岁76九秋日百井韶《2 14 李后并第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	担当部	나 하다 트 구성된	三 子ども青少年部
723 ***	JIX EX	- C も欲至推進事	*	担当課	6皇	青少年課
事業目的 児童が地域社会の中で健全に育成される環境をつくるため、地域 の人材を活用し、放課後児童の安全・安心な居場所(遊び場)を提 性にて、遊び体験や異年齢児間の交流等により、児童の健全育成 を推進する。	事業目的 で健全に育成される 後児童の安全・安心 年齢児間の交流等	環境をつくるため、 いな居場所(遊び場 により、児童の健	、地域 3)を提 全育成		変更(ある場合)	(4
事業内容 小学校の余裕教室等を有効活用し、放課後の児童に地域のボラン ティアが見守る居場所(遊び場)を提供する。 ・日時 = 原則給食のある月 ~ 金曜日の放課後 ・場所:実施小学校の余裕教室・体育館・校庭 ・対象 = 実施小学校区在住の児童	事業内容 行物活用し、放課 (遊び場)を提供する ある月~金曜日の 介格教室・体育館 を在住の児童	後の児童に地域の 5。 枚課後 校庭	のボラン			
	H27年度	H28年度	H29年度	-	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	2小学校区で実施	1	1	\vdash	1	1
予算額(千円) 決算額(千円)	2,946	2,932				
執行率(%) 年がブンの取組書 1.4	- 93.5 - 億 土野小学校区 协理後子どま 粉室 推准事業	一番の子が主教の本	井 井		車車	次年度
画(年次ごとの目標 1 値)に対するH27年・J 度末の成果	参加児童総数 6135人 ・ハ糸小学校区放課後子ども教室推進事業参加児童総数 2:56人		 	H27年度の 総合評価	a	維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)・ ・傷井野小学校区、小糸小学校区の2小学校区で事業を 実施するとともに、子ども子育て支援事業計画に基づき、 当事業の拡充について検討を進めた。 *亀井野小学校 181日 6.134人 *小糸小学校 186日 2.566人	進捗状況(今年度の効 、小糸小学校区の2小学 子ども子育て支援事業 ひいて検討を進めた。 181日 6,135人 86日 2,566人		・事業を実加 の見守りに (遊び場)を	評した小学社より、放課後より、放課を提供できた	画の理由 S区においてに S児童に安心・ ため。	評価の理由・事業を実施した小学校区においては、地域の大人の見守りにより、放課後児童に安心・安全な居場所(遊び場)を提供できたため。
			・既設の記引・・国の「放謝・国の「放謝中心とした」権権を図る体権権を図る体験に任命のである。	今 「学校区で導 (後子ども総 大様後児童 大め、平成 ため、平成 (付け、教育 こととする。	後の方向 業を継続する 全プラン」に基 クラブと放課後 1年度までの 委員会等と協	今後の方向 ・既設の2小学校区で事業を継続する。 ・国の「財課後子とも総合ブラン」に基づく一体型を 中心とした放課後児童ケラブと放課後子ども教室の 権進を図るため、平成31年度までの整備目標等を 体的に位置付け、教育委員会等と協議をはかりなが ら取り組むこととする。
課題・問題点 ・地域子どもの家・児童館・放撲後子ども数室が来設置の 学区について放課後子ども教室を含めた子ともの居場所 づくりの検討が必要である。 ・当事業の拡充にあたっては、学校施設を活用するため、 ・当事業の拡充にあたっては、学校施設を活用するため、 ・ 等校の再集備計画や糸裕教室の将来的活用など、教育 委員会との十分な調整が必要である。 ・ 事業実施には学校・地域の協力が不可欠である。	課題・問題点 ・記・数様後子ども満 ・記・数をを含めた。 ある。 っては、学校施設を っては、学校施設を ・さんが要である。 はずの協力が不可く		· 引き続き ・ 引き続き ・ 子 広 む・ 子 ・ 子 び も・ 子	H284 14 野小学祥 を実施する 育て支援事 - 体型等のが 進める。	(疫事業計画 ※区、小糸小学 業計画に基づ な課後子ども表	H28年度事業計画 ・引き続き亀井野小学校区、小糸小学校区の2小学 校区で事業を実施する。 ・子ども・子育て支援事業計画に基づき、放課後児 ・アピも・子育て支援事業計画に基づき、放課後児 童クラブと一体型等の放課後子ども教室の整備につ いて検討を進める。

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業コード | ****パー コンナー コンナー コンナー おきお

		、地域づくり及び学校支援を図る	°		X 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	ì
事業内容 ・学校、家庭・地域連携推進会議「会長会」に業務委託を行い、中学 校区を基本に市内に設置された15の地域協力者会議において、 各地区の実情に応じた子どもたちの健やかな成長を支援する事業 を実施する。 ・PTA活動を支援するために藤沢市PTA連絡協議会への業務委託 及び研修会等を実施する。	事業内容 権権会議「会長会 置された15の地 子どもたちの健々 子どもたちの健々 必に藤沢市PTA) る。	川に業務委託を行い 域協力者会議にお かかな成長を支援す 連絡協議会への業	、、 ・			
	H27年度 ●学校·家庭·地	H27年度	H29年[実施(会長3	英 ※業務委		H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	参加者総数 33,100人	33,200人	33,300人	33	33,400人	33,500人
	●PTA育成事業	 ▶PTA育成事業の実施(業務委託、	研修会等の開催	開催)	٦	1
	実施	1	1	H	1	1
予算額(千円)	5,574	5,574				
決算額(千円)	5,460					
執行率(%) 年かごとの取組計	98.0				評価	次年度
+ 次 C C C X X X D D T T T T T T T T T T T T T T T	地域協力者会議_ TA育成事業で、Ĵ	·「地域協力者会議」の参加者総数 33,390人 ·PTA肯成事業で、業務委託、研修会を実施	_	H27年度の 総合評価	<u>a</u> o	継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・学校・家庭・地域連携推進会議「会長会」に業務を委託 し、子どもたちの健やかな成長を支援する事業を各地域で	s状況(今年度の交 推進会議「会長会 な成長を支援する	加果・成果) リに業務を委託 る事業を各地域で	・計画どおり	評 の事業を行	評価の理由・計画どおりの事業を行うことができた。	ل د
実した。 *「会長会」の開催 年4回(5/12 8/25 11/17 2 (情報交換・他団体との意見交換・実績報告等) *各地域事業総数 119事業	年4回(5/12 8/25kとの意見交換・実	8/25 11/17 2/2) 奠·実績報告等) 5業				
*各地域事業、会議等参加者数 33,390人 *地域における子どもたちの課題を会議の中で出し合	参加者数 33, たちの課題を会譲		·学校·家庭	今 ·地域が連	今後の方向 ・学校・家庭・地域が連携・協力して子どもたちの成	チどもたちの
い、 実施事業に活かした。 ・藤沢市PTA連絡協議会に業務を委託し、各校のPTAの 育成のための事業を実施。 *広報紙の発行 年3回(7月 11月 3月)	がた。 議会に業務を委託し 実施。 年3回(7月 11月 3		長を支援するため 交換をしていく。 様々な地域の事 ていることを広報 等で発信 アリバ	るため、余山 べ。 秋の事業に、 広報紙、ホ	長を支援するため、会長会で十分な情報交換・意見交換をしていく。 ・様々な地域の事業に各地域協力者会議が関わっていることを正知紙、ホームページ、教育フォーラム等で発信、エースページ、教育フォーラム等で発信「アニス	情報交換・環 1会議が関れ 教育フォー
*各校P/A/が副なぶ調金の実施 *講演会の実施 「PEP TALK! 子どものやる気を起こす魔法の言葉」 #ゴコエフェな。コエルをへの問題。	i)全の実施ごものやる気を起っ	こす魔法の言葉」	・ ・ 藤沢市PTA 周知を図る。	A連絡協議	・藤沢市PTA連絡協議会への委託事業について、 周知を図る。	事業について
・勝次ID I 1A投員が吟云の開催 至4回・地域の教育カ内上左図る事業を実施・ふじさわ教育フォーラムの開催「子どもたちの笑顔あふれる地域をめざして」3/5 13:30~ 16:20 湘南NDビル	まの用権 114に 図る事業を実施 5ムの開催 5ふれる地域をめ 雑南NDビル		·学校·家庭 委託し、子と	H28年 ・地域連携 ざもたちの優	H28年度事業計画・学校・家庭・地域連携推進会議会長長川に業務を表にして生たちの健やかな成長を支援する事業	長会川に業系を支援する事
課題・問題点・より多くの方に三者連携を知ってもらうために周知の方法をエ夫する。 ・藤沢市PTA連絡協議会への委託事業に、より多くのPTA	課題・問題点 携を知ってもらう 会への委託事業 I		c c c c c c c c c c c c c c c c c c c	未施9の。 /連絡協議: 4役員研修 - 地域の連 Fーラム」を	・藤沢市中域に去船りる。 ・藤沢市中17人連絡協議会への委託事業の実施。 ・藤沢市PTA役員研修会の実施(4コース) ・学校・家庭・地域の連携協働を推進するため「ふじさわ教育フォーラム」を開催する。	業の実施。 するため「
が参加できるようにエ夫する	° 645°					

, EC , E , E , E , E , E , E , E , E , E	1 1 1 1 1 1				くて出く	ン・コントくにアリア
スペンジョンへのほり女が平等に働くこと	事来日的 ・政策、方針決定過程への男女共同参画の推進・男女が平等に働くことができる労働環境の整備	の推進 の整備		変更(ある) ふじさわ男女共同参画フ 伴い、年次ごとの目標値	変更(ある場合 共同参画プラン カ目標値を3	変更(ある場合) ふじさわ男女共同参画プラン2020の改定に 伴い、年次ごとの目標値を変更。平成32年
・地域での男女共同参画の推進 事業内容 女性にとっても男性にとっても、性別にとられれることなく、社会の あらゆる分野の活動に参画できる機会の確保のため、すべての市 民に対し、意識啓発と情報提供を行う。	画の推進 事業内容 とっても、性別にという 参画できる機会の 情報提供を行う。	らわれることなく、・発展のため、すべ	t会の ての市	度までに女性	喚用比率 50% №	. ୯牙 る。(H28)
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 ● 男女共同参画の → 大生登用比率 42%	H27年度 H28年度 ■ H28年度 ■ 明文共同参画の推進	H29年度		H30年度	H31年度 H31年度 A K K K K K K K K K K K K K K K K K K
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)	8,592 7,269 84.6	4,642				
年次ごとの取組計 画(年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 平成27年4月1日時点で審議会等の女性登用 値)に対するH27年 率が42,0%となり目標を達成した。 度末の成果	- 成27年4月1日時点 5が42.0%となり目れ	点で審議会等の女 票を達成した。	田 愛 田	H27年度の 総合評価	評価 B	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・2015年4月1日現在の女性登用比率を調査し、その結果を情報紙「かがやけ地球」及びホームページに掲載し、市民周知を図った。また、多くの女性の登用を図るため、審議会等委員の選任時の事前協議の実施など徹底を図っ	歩状況(今年度の效)女性登用比率を調 以女性登用比率を調 球」及びホームペー、多くの女性の登用 ひ事前協議の実施	果・成果 査し、その結果 -ゾに掲載し、市 -ダのるため、審 など徹底を図っ	・計画どる共同参画きた。また。また	評 おりに事業を行 1プラン2020(改 こ女性登用率も	価の理由 rうことができ、 な定版)」を策り も目標を達成し	評価の理由・計画どおりに事業を行うことができ、「ふじさわ男女・計画どおりに事業を行うことができ、「ふじさわ男女共同参画ブラン2020(改定版)」を策定することができた。また女性登用率も目標を達成した。
た。 ・ たいの別女共同参画の推進を図るため、13地区の各 市民センター・公民館長から推薦された各地区3人からな る「ふじさわ男女共同参画ネットワーク協力員」会議・研修 の開催や、各公民館まつりで男女共同参画啓発活動を 行った。 ・ 意識啓発のため様々なテーマで講演会を行った。共に生 きるオーラムふじさわ(ワーケ・ライフ・パランス)79名 2 市の講演会(ロンカ・フーケ・バランス)79名 2 市の講演会(ローケ・イフ・パランス)79名 2 市の講演会(ローケ・イフ・パランス)79名 2 市の講演会(ローケ・イフ・パランス)79名 2 市の講演会(ローケ・イフ・パランス)79名 7 市の書音が表してイン・イライス・パランス)79名 2 市の書音が表してイン・イライス・パランス)79名 7 市の書音が表してイン・イライス・パランス)79名 7 市の書音が表してイン・イライス・パランス)79名 7 市の書音が成り4名が参加。	画の推進を図るた。 長から推薦された必 診画ネットワーケ協。 につりで男女共同参 なテーマで講演会: (ワーケ・ライフ・バ ウイン・バランス) 88	め、13地区の各 た地区3人からな 力員」会議・研修 国啓発活動を を行った。共に生 デランス 779名 2 名 人権男女共 が上) 113名 DV	・平成28 ランと2020 用比率に 昨の事前	今 年3月に策定し (改定版)」に3 こついては、3 ii 1協議を実施す	後の方向 た「ふじさわり まづいて事業: き続き、審議: る。	今後の方向・平成28年3月に策定したいとか男女共同参画プ・アン2020(な定版)に基づいて事業を行う。女性登用比率については、引き続き、審議会等委員の選任時の事前協議を実施する。
・DV相談窓口案内カード12,000枚の配布により、相談窓口の周扣を図った。 ・男女が共に生きる情報紙「かがやけ地球」の発行、男女・男女が共に生きる情報紙「かがやけ地球」の発行、男女生同参画週間でのパネル展開催で各種情報提供を行った。 - 競越・問題点 ・・市民意識調査によると、社会全体で男性が優遇されていると感じる市民が7割を超えており、5年前から改善されていない点。	ド12,000枚の配布 組織「かがやけ地) ドル展開催で各種性 課題・問題点 と、社会全体で男性 と、社会全体で男性	により、相談窓口 取り発行、男女 青報提供を行っ 主が優選されてい から改善されてい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	H28年度事業計画 ・	に度事業計画 発掘協議会の 報紙「かなや」 多化デナーの かどさか2016 にの配布 国ネットワーン 館まつりでの のパネル展開	H28年度事業計画 ・男女共同参画プラン推進協議会の開催 ・男女が打に生きる情報紙「かがやけ地球」の発行・人権男女共同参回客をセミナーの開催 ・共に生きるフォーラムふじさか2016の開催 ・・サージを引要な共同参画をネットワーケ協力員」会議・「ふにさり男女共同参画ネットワーケ協力員」会議・「「ふにさり男女共同参画をの開催や、各公民館まつりでの男女共同参画を発活助の実施・男女共同参画通問でのパネル展開催 ・2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・葉川町)による男女共同参画に向けた連携

事業目的 児童生徒及び教職員の防犯意識を高め、安全・安心な環境での学 習活動を図る。

	H27年度 ●講演会の実施	H28年度	H29年度	НЗО	H30年度	H31年度
 年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	3袋	************************************	1	<u> </u>	1	1
予算額(千円)	90	06				
決算額(千円) 劫行率(%)	90					
年次ごとの取組計画であずる		- 二四萬)		157年申	計価	次年度
■/十分につり回探されて大船のこと、同の4十次の場合にもからも同じなするH72年 売ったので、計7校の教職員に実施できた。 市実の成果	メハメ湯のバジ、高ったので、計2枚の	数職員に実施でき		総合評価	∢	維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・天崎良明氏(板橋及教育委員会 安全教育專門員)による防災講演会を年間3回行った。 ①11月17日 高浜中学校、展外学校合同 ②11月18日 鵠沼中学校、陽沼小学校、高洋小学校合同 ③12月22日 片瀬小学校、高洋小学校合同	:状況(今年度の効 (育委員会 安全著 回行った。 松、浜見小学校合 校、鵠沼小学校合 校、鵠沼小学校合		評価の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価6 交の教職員	が受講した	.0
・地震の際に、どこにいても安全な場所を自ら探して身を守ることができる子どもを育てるための防災教育や避難訓練の方法について研修を実施した。	ても安全な場所を を育てるための防 を実施した。		今後の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	今後6 域性に応じ でいく。)方向 と防災教育	を考えてい
	紫觀·問題点 日報調整が困難で	94 95 97	H28年度事業計画 ・防災講演会を行っていない学校のうち、海に近い 南部から行っていく。	H28年度 行っている。 じべ。	事業計画 (い学校のう)	5、海口泊

事業コード事業名	マラダー	塚 パニコング 日 3次 光 金/ナケンター研究研修事業	事業	相当部	/\\	教育部	П
812(122)	7 1 1 1 1 1 1	- 611600160	K F	担当課	学校	教育企画 課	
事業目的 防災教育と人と自然とのかかわりを多面的にとらえ、他の教科・領域等との連携を図りながら、防災教育の充実を図る。	事業目的 りかかわりを多面的 がら、防災教育の充	にとらえ、他の教 実を図る。	7科·領		変更(ある場合)	(号)	
事業内容 防災教育を多面的にとらえ、様々な教科・領域等との連携を図り、 専門的・技術的事項の調査研究並びに教育関係職員に対して研修 諸座等を心価・室施する	事業内容 らえ、様々な教科・6 調査研究並びに教育	負域等との連携を 育関係職員に対し	図り、して年参				
開任寺でエピースが9、(「防災と自然」研究部3 関する研修講座の開催	so So 開催・研究報告 : 防災教育情報の排	書の発刊、防災 ³ e供)	数 単 に				
	H27年度 H28年度 ●研究部会・研修講座の実施	H28年度 精座の実施	H29年度	<u> </u>	H30年度	H31年度	
一旦にお出って「チサー				-			
	月1回の部会開催 年1回の研修講座	1 1	1 1		1 1	→ 年1回以上の研	
			研究部会 報告書作成発刊	7. 克然刊		修講座	
予算額(千円)	39,259	576					
決算額(千円)	38,706						
執行率(%)	98.6		•				
年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計画) (年次ごとの日報値) (日)	% 新会10回			□97年 庫の	計価	次年度	
(中次CCの日条順) WI に対するH27年度末 研の成果	9.25 mm 12 回 研修講座1回			総合評価	ω	維続	
H27年度 進期	b状況(今年度の効)			ifiia	価の理由		
·研究部会12回		l	・ 防災と自	然に関する	アンケートを導	言施し、地域や年	ш
・研修講座1回 ・防災と自然に関するアンケート実施(抽出校) ・防災教育に関する公開授業及び講演会に参加(湘洋中学校)	・ンケート実施(抽出 開授業及び講演会に		動による低いとができ	がこよる傾向等、市内の子、 齢による傾向等、市内の子、 ことができ、研究に反映した	の子どもたち 映した。	齢による傾向等、市内の子どもたちの実態をつかむことができ、研究に反映した。	- (n
			・藤沢市ので、	を の防災と自然 これた結単の	が後の方向 に関する実態 の生計や分析	ミ調査(アンケー を行った エンを ³	, tsfi
			け、各研究 果を研究 を行う。	ででいた。 に員の取り組 報告書にまと	/ 大記 / グ記	け、各研究員の取り組みに活かず。また、研究の成 け、各研究製造書にまとめ、市内教職員へ情報発信 を行う。	1 12
		·	H2·研究部会12回 ·研修講座1回 ·研究報告書発刊	H28 [12回 [51回 [青書発刊	年度事業計画	H28年度事業計画 	
課題・問題点 ・2年間の研究経過を踏まえ、日常生活に基大な被害を及 にま災害に対して、子どもたちの防災意識を高める教育の 充実、及び、自然とのより良い関わりについての研究を継続させる。	課題・問題点 まえ、日常生活に表 ざもたちの防災意識 い良い関わりについ	も大な被害を及 を高める教育の ハての研究を継					

変更(ある場合)

、セウルに麻川) 事業目的 学校施設(校舎・屋内運動場等)の老朽化を解消し、安全で良質な 教育環境を確保する。

事業内容

・寮ベルニナな郎改井宮冨華本ノヨニ番ン、ナな郎改中設庫に回か、守藤ベルニナないのではなりであって、本が代している学校施設(校舎・屋内運動・再整備計画に基づき、老朽化している学校施設(校舎・屋内運動		、十枚加設在班票 校施設(校舎·屋D	計画を			
場等)の耐力度調査の実施並びに調査結果に基づく施設の改築または大規模改修を実施する。	実施並びに調査結5する。	果に基づく施設の	袋業			
年次ごとの取組計画	H27年度 H28年度 ●学校施設再整備計画の策定 ●学校施設再整備計画の策定 ●耐力度調査の実施 21校	H28年度	H29年度	H30年度		H31年度
(年次ことの目標値)	選	1	→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →			1
予算額(千円)	62.511	55.955	設計・工事	1		1
決算額(千円) 執行率(6/)	50,112					
年次ごとの取組計 ・学校施設再整備第1期実施計画を策定した。 画(年次ごとの目標・小学校4校、中学校2校の校舎等について耐 値)に対するH24年・力度調査を実施した。	」 の2.4 学校施設再整備第 - 小学校4校、中学校、 1度調査を実施した。	1期実施計画を策 2校の校舎等につ。			型 B B	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・学校施設再整備第1期実施計画を策定した。	歩状況(今年度の効 期実施計画を策定	果・成果) !した。	評価の理由・計画通り実施した。	評価の理 3した。		-
・小学校4校、中学校2校について耐力度調査を実施 した。 * 小学校4校(校舎棟及び屋内運動場) 鶴南小学校 辻堂小学校 片瀬小学校 島洋小学校 * 中学校2校 * 中学校2校 第37中学校(後舎棟) た会中学校(屋内運動場)	2校について耐力度 様及び屋内運動場 等様) 5種の場)	調査を実施	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	今後の方向 本計画及び今年度策定した「学校施設再整備 第1期実施計画」に基づ〈事業を、計画に沿って 進めていく。	向 『学校施 業を、計配	設用整備 町に沿って
課題・問題点・実施した調査の結果に基づき、整備計画の具体を検討する中で、財源権保が困難な状況下で実効性のある整備をどう進めていくのか、市全体の再整備ブランの中で検討、整理していく状況がある。	課題・問題点 門に基づき、整備計 が困難な状況下で のか、市全体の再整 代況がある。	画の具体を検討 実効性のある整 修備プランの中で	H28年度事業計画 ・小学校4校、中学校1校の耐力度調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1 2 8 4 年 1 2 8 4 年 1 2 8 4 年 1 2 8 4 年 1 2 8 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	17 度調	

定期的に工事の進捗管理を行い、工期内に竣工 する。 H28年度事業計画 2ヶ年継続事業の最終年度として、工事を実施 する。 次年度 H31年度 継続 教育部 学校施設課 竣工期限:2017年(H29年)2月28日 評価の理由 ・H27年度については、計画通り実施した。 変更(ある場合)
 平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書事業名
 1 単当部 日当部 日当部 日当部 日当部 日当課 日間 中華
 評価 Ш 今後の方向 H30年度 H27年度の 総合評価 H29年度 事業内容 湘洋中学校は、津波浸水深から3階への避難が可能であるが、近 隣住民等を含めた避難想定者を収容するため、新たな津波避難施 設として4階建ての校舎棟を増築する。 事業目的 波浸水予測エリア内に位置する湘洋中学校の津波避難対策を 施し、生徒・教職員・近隣住民等の安全確保を図る。 実施設計を実施し、増築工事に着手した。 H27年度 H28年度 ●校舎棟(津波避難施設) 建設 H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) H26-H27年度の2ヶ年継続事業の2年目として 実施設計を行った。 増築工事 H27-H28年度の2ヶ年継続事業の1年目として 増築工事に着手した。 595,445 38,965 100.0 実施設計 課題•問題点 事業コード 822(338) 事業名 年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) 年次ごとの取組計画(年次ごとの目標 国(年次ごとの目標 値)に対するH27年 度末の成果 予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%) 設計委託 特になし

 <th rowspan="2" color="black: "Pix Color: Black: The property of the prop

事業名

防災資機材の整備

事業内容 命を守る教育環境の整備のため、市立小・中・特別支援学校を南 部・中部・北部の三地区に分け、災害発生時における学校用飲料 水の備蓄を行う。	事業内容 備のため、市立小 SIC分け、災害発生	··中"特別支援学* E時における学校	交を南 田飲料		
	H27年度 ●飲料水の備蓄	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	市内中部地区に ある市立小・中 学校	市内北部地区に ある市立小・中 学校		市内南部地区に ある市立小・中・ 特別支援学校	市内中部地区に ある市立小・中学校
予算額(千円)	1,828	872			
決算額(千円) 執行率(%)	831				
年次ごとの取組計 画(年次ごとの目標 中部地区にある市立小・中学校用飲用水 値)に対するH27年 (11,328本)の備蓄 度末の成果	部地区にある市立 1,328本)の備蓄	[小·中学校用飲用	3次 H27年度の 総合評価	(成の) 特価 (おり) おりまま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) まままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) まままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) ままま (おり) まままま (おり) ままま (おり) まままま (おり) ままままままま (まままま (おり) ままままま (まままままままままままままままままままままままままままままま	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 中部地区にある小学校13校、中学校6校、合計19校に 災害時用の飲用水として、1人当たりベットボトル1本(50 0ml)×児童生徒分の備蓄を行った。	歩状況(今年度の数 :13校、中学校6杉 て、1人当たりペッ 備蓄を行った。	J果・成果) と、合計19校に トボトル1本(50	当初計画通り備	評価の理由 当初計画通り備蓄することが出来た。	ريد
			既に備蓄したもの ため、今後も計画 く。	今後の方向 既に備蓄したものについても保存期限(5年)がある ため、今後も計画的に飲用水の備蓄を実施してい く。	期限(5年)がある 蓄を実施してい
無題 問題 無無	議題 問題 沖		北部地区の市立る予定。	H28年度事業計画 北部地区の市立小・中学校に対し、飲用水を備蓄す る予定。	(飲用水を備蓄す

事業コード				担当部	教育部·市民自治部·土木部	自治部·土木部
824 事業名	名 通学路:	通学路安全対策推進事業	4111/	担当課	学務保健講 課·道路整備	学務保健課·防犯交通安全課·道路整備課·土木維持課
事業目的 小学校の選学路における交通安全の確保を図るため、学校・警察 等との連携のもと市立小学校の通学路の合同点検を行い、安全対 策を実施する。	事業目的 る交通安全の確保 い学校の通学路の	を図るため、学校 合同点検を行い、	+ = -	変更(ある場合)		
事業内容・学校による危険箇所の抽出・台同点後の実施・高向は後の実施・済権結果に基づく対策案の検討、策定・対策の実施・対策の実施	事業内容)抽出 (案の検討、策定	ш				
	H27年度	H28年度	H29年度		H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	東	1	1	\vdash	1	↑
予算額(千円) 決算額(千円) 計(二部(元)						
和11年(78) 年次ごとの取組計 - 藤沢市通学路交通安全プログラム」に基づ 画 年次ごとの別編書 き、年1回危険箇所の報告を受け、関係機関と 値)に対するH27年 連携して合同点検を行い、安全対策を実施 度末の成果	 	 安全プログラム 報告を受け、関係 行い、安全対策を3	に基づ :機関と 実施	 H27年度の 総合評価	型 国 国	次年度 継続
H27年度 連巻状況(今年度の効果、成果) 「藤沢市道学館交通安全フログラム』に基づき報告の 小りあった危険箇所について、関係機関と連携して合同点検を 大部 は 182億所・合同点検表	は大沢(今年度の20 (宝ブログラム)に記 で、関係機関と連掛 他した。 176箇所 726箇所 202件 (うち市の対対	来・双果) まづき報告の もして合同点様を 第分 114件)	がでななる と、合同点 実施して、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	いる報告され ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	岬の堆田 電影蘭所に 電影像 電影像 電影像 電影の検討を行 電影の変子 電影の変子 電影の変子	計画の進用 ・小学校から報告された危険箇所について、学校、 教育委員会、道路管理者・警察等関係機関が連携 し、合同点検と安全対策の検討を行い、安全対策を 実施して、通学路の安全確保が図られた。 一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・一・
課題・問題点・関係機関が実施する安全対策については、それぞれの機関の予算、事業計画によるため、進捗管理については各機関に委ねざるを得ない。	業題・問題点 2全対策について によるため、進捗 ない。		小小学校九点旅谷介	12.8 (N:5)通学路(N:5)通学路(N:5)通学路(M:5) 実施する。 実施する。	年度事業計画 活陵園所の難 門に基づく対策	H28年度事業計画・小学校から通学路の危険箇所の報告を受け、台高点検を行い、点検結果に基づく対策案を策定し、安全対策を実施する。

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 [事業コード] _{事業を} | 学校防犯対策強化事業 | 担当部 | 市民自治部・教育部

事業自的 子どもの安全安心を守るための環境整備を推進する ・子どもの安全安心を守るための環境整備を推進する ・子どもが犯罪などからの連移場所として、昼間在宅されているあ名をやお店にことも10番の看板の掲示を依頼する。 ・地域安全マップ作りの推進を図る。 ・地域安全マップ作りの推進を図る。 ・地域安全マップ作りの推進を図る。 ・ 地域安全マップ作りの推進を図る。 ・ 大変値に対するための議場を発展との過程を検安全	生する	1	My	E K
事業内容 ・子どもの安全安心を守るための環境整備を推進する ・子どもが犯罪などから助けを求めてきた際に、一時 場所として、また警察などへの通報場所として、昼間 るお宅やお店にことも10番番の精元を依頼する ・学校における安全マップ作りを支援し、児童・生徒か 所を読み取る力を養い、危機回避能力を向上させる 所を読み取る力を養い、危機回避能力を向上させる 所を読み取る力を養い、危機回避能力を向上させる 年次ごとの取組計画 実施 H28年 (年次ごとの取組計画 実施 H28年 東施延へ校数 17校 事行率(%) 856 本次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計 (年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計 (年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計 (年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計 (年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計 (年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計 (年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計 (年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計を大きが開催した。 ・一とは10番事業について ・一とも110番事業について ・一とも110番事業について ・一とも110番事業について ・一とも110番事業について ・一会校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・一学校における地域安全マップ作場1946 を一様に子どもたらが生活圏を歩き、「地域交全マップ ・12を目とが生活圏を歩き、「地域交全マップ ・12を目とが生活圏を歩き、「地域交子マップ指導員について、担保を見つける。 ・12を目とが表した。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	世 する			
事業内容 ・子どもが犯罪などから助けを求めてきた際に、一時的な緊急避難 場所として、また警察などへの通報場所として、昼間在宅されているお宅やお店にごともの番場の場示を依頼する。 ・地域安全マップ作ものを強し、児童・生徒が自ら危険な場所を誘うない。 ・学校における安全マップ作りの推進を図る。 ・学校における安全マップ作りの推進を図る。 ・学校における安全マップ作りの推進を図る。 ・学校における安全マップ作りの推進を図る。 ・学校における安全マップ作りの推進を図る。 東施亚へ校数 「5校 17校 1789 189 178 178 184 174 178 184 184 184 184 184 184 184 184 184 18				
(年次ごとの取組計画 実施 17校 7年度 17校 74項債 17校 74項債 17校 74項債 17校 74項額(千円) 822 889 889 840 840 840 840 840 840 840 840 840 840	、一時的な緊急避難 昼間在宅されてい 頼する。 会を定期的に開催 生徒が自ら危険な場			
年次ごとの即編計画 実施 - (年次ごとの目標値) ●学校における地域安全で、	28年度 H294 員養成講座の開催	_	H30年度	H31年度
実施証へ校数 15校 17校 1789	→ ∴ ∴ istack	H	1	1
 予算総(干円) 789 執洋額(干円) 789 執洋額(干円) 780 年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成計画(中文ごとの目標 担当者会を開催した。 重)に対するH27年 ●学校における地域安全マップ指導員表の成果 た。 172年 連歩状況(今年度の効果・成果) 172年度 進歩状況(今年度の効果・成果) 172年(110番 全体掲示件数5.043件 監問在宅されているお宅やお店に、子どもが犯罪ないでとだりにのお宅やお店に、子どもが犯罪ないでも、動けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察への通報場所として掲示いただいている。今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ作りの推進を図った。 今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ作りについて、今年度は大銀小学校、鵠沼小学校で行った。中村・グルをなくマップ作りの推進を図った。 中域で行った。 サボーダルを良ける地域安全マップ作りについて、今年度は大銀い学校、鵠沼小学校で行った。 サボーダップルを自ら作製した。子どもたちが生活圏を歩き「地域安全マップが自身を保護した。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17校	H	H	
※算額(干円) 789 解行率(96) 856 年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成制 画(年次ごとの用標 担当者会)を開催した。 種)に対するH27年 ●学校における地域安全マップ 展末の成果 1.c. H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ●ごども110番車業について こども110番 全体掲示件数5.043件 新規場示件数131件 昼間在宅されているお宅やお店に、子どもが犯罪な 即けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察 への通報場所として掲示いただいている。 ●地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者 について ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ 員養成講座(学校女全担当者会)を実施した。学校に の地域安全マップ作りの推進を図った。 ●学校における地域安全マップ作りについて ・今年度は大銀小学校、結3名小学校で行った。中杯・ タッセにおける地域安全マップ作りについて ・今年度は大銀小学校、結3名小学校で行った。中杯・ タッセにおける地域安全マップ作りについて ・今年度は大銀い学校、結3名小学校で行った。中杯・ タッセをは大銀い学校、結3名小学校で行った。中本・ タッセをは大銀い学校、結3名小学校で行った。中本・ ・地域安全マップ指導員について、指は安全 ・地域安全マップ指導員について、担い手を見つける。	688			
年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成講座(学校 画(年次ごとの取組計 ●地域安全マップ指導員養成講座(学校 度)に対するH27年 ●学校における地域安全マップ作りを2校 H27年度 建物状況(今年度の効果・成果) 取 T27年度 建物状況(今年度の効果・成果) 取 ・ごども110番 全体掲示件数5.043件 昼間在宅されているお宅やお店に、子どもが犯罪などから 助けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察など への通報場所として掲示いただいている。 副120,1 で ・単域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会) に 「こしいて ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ指導(会 う地域安全マップ作場に会りを実施した。学校におけ、学 る地域安全マップ作りの推進を図った。 ・学校における地域安全マップ作りについて ・今年度は大鍋小学校、増沼小学校で行った。サボートス ・今年度は大鍋小学校、増沼小学校で行った。サボートス ・今年度は大鍋小学校で活躍を歩き、『地域安全マップ ・できせる支援をした。 ・で、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
画(年次ごとの目標 担当者会を開催した。 値)に対するN27年 ●学校における地域安全マップ 度末の成果 庁。 H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ●ござも110番事業について ・ござも110番 事業について ・ござも110番 年体局示性数5.043件 動けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察 への通報場所として掲示いただいている。 ●地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者 について ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ ・今年度は大い・中学校教職員を対象に地域安全マップ ・今年度は大郎・学校教職員を対象に地域安全マップ ・今年度は大郎・学校教職員を対象に地域安全マップ ・今年度は大郎・学校教職員を対象に地域安全マップ ・学年度は大郎・学校、結別・学校していて、 ・今年度は表別・学校、結別・学校で行った。サポータンと一緒に子どもたちが生活圏を歩き、「地域安全 フリアともとも表が生活圏を歩き、「地域安全マップ権国題能力」を ・地域安全マップ指導員について、担い手を見つける。	養成講座(学校安全		計価	次年度
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ●こども110番事業について ・こども110番事業について ・こども110番 基格高本権数5,043件 新規掲示件数131件 昼間在宅されているお宅やお店に、子どもが犯罪な助けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察への通報場所として掲示いただいている。 ●地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者とでいて・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ・行りの推進を図った。 ●学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ●学校における地域安全マップ作りで表別い学校の行った。サポージを年度は大郎を担当会)を実施した。学校15ともならを提施した。中様・タッフと一緒に子どもたちが生活圏を歩き、『地域安全フップを目ら作製した。子どもたちが生活圏を歩き、『地域交音させる支援をした。 課題・問題点 ・・地域安全マップ指導員について、担い手を見つける	マップ作りを2校行っ	H27年度の 総合評価	ш	希迷希売
・ ことも110番 全体掲示件数5,043件 ・ 正とも110番 全体掲示件数5,043件 ・ 原間在完されているお宅やお店に、子どもが犯罪な、 助けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察 への通報場所として掲示いただいている。 ・ 地域安全マップ作りの推進を図った。 ・ 会年度は大路小中学校教職員を対象に地域安全担当者 ・ 会年度は大路小学校、職員を対象に地域安全でツラ ・ 会年度は大路小学校、場別小学校で行った。 学校に ・ 会年度は大路小学校、場別小学校で行った。 サポート ・ 今年度は大路小学校、場別小学校で行った。 サポート ・ 今年度は大路小学校、場別小学校で行った。 サポート ・ 今年度は大路小学校、場別小学校で行った。 サポート ・ 今年度は大路小学校、場別小学校で行った。 サポート ・ 今年度は大路小学校、場別・学校で行った。 サポート ・ 今年度は大路小学校、場別・学校で行った。 サポート ・ 一学をした。 子どもたちが生活圏を歩き、『地域安全 で 1 世域安全でツブ指導員について、担い手を見ついる。 ・ 地域安全でツブ指導員について、 担い手を見つける。 ・ 世域を買っていて、 担い手を見つける。 ・ 世域安全でツブ指導員について、 担い手を見つける。 ・ 世域安全でルブ指導員について、 担い手を見つける。 ・ 世域安全でルブ指導員について、 担い手を見つける。 ・ 1 世域安全でルブ指導員について、 担い手を見つける	(集) 胚级計画	田田の田村 田田の田村田 はかになって、	1の理由 につれたか	
への連載場所として掲示いいたいでいる。 ●地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者 について ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ 日養成講座(学校安全担当者会)を実施した。学校に る地域安全マップ作りの推進を図った。 ・学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 ・学校における地域安全マップ作りについて、 ・今年度は大線小学校。結沿小学校で行った。サポー ・タッフと一緒に子どもたちが生活圏を歩き、『地域安全 ブルを目ら体製した。子どもたちの「危機回避能力」を させる支援をした。 課題・問題点		C 63 50 541 18	005/5/01/5/5	
●地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者について ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ る地域安全マップ作りの推進を図った。 ・学校における地域安全マップ作りについて ・今年度は大線小学校、鵠沼小学校で行った。サポータッフと一緒に子どもたちが生活圏を歩き グッフと一緒に子どもたちが生活圏を歩き「地域安ゴルを目ら作製した。子どもたちの「危機回避能力長させる支援をした。		今	今後の方向	
員養成講座(学校安全担当者会)を実施した。学校にる地域安全マップ件りの推進を図った。 る地域安全マップ件りについて、 ・学校における地域交全マップ作りについて、 ・今年度は大鶴小学校、島沼小学校で行った。 サポータッフと一緒に子どもたちが生活圏を歩き 『地域安全 ブルを自ら作製した。子どもたちの「危機回避能力」を させる支援をした。 課題・問題点 ・地域安全マップ指導員について、担い手を見つける	日当者会) ・こども11 ・マップ指導 ・地域安全	0番の看板の排 シマップ指導員 #オス	引き続き ・ことも110番の看板の掲示を依頼する。 ・地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者 ・か問座ホテ	安全担当者
/』を目ら作殺した。 させる支援をした。	学校におけ <u>み,の開</u> ・学校にお ・学校によ サポートス 域女全マッ	# 9 ©。 3.ける地域安全	エバの開催する。 ・学校における地域安全マップ作りを2校ずつ行う。	交ず つ行う。
課題・問題点 ・地域安全マップ指導員について、担い手を見つける	/18'四上 ・ごども110猫 ・地域安全/ を) 全国体	H28年 0番の看板の排 全マップ指導員	H28年度事業計画 ・こども110番の看板の掲示を依頼する。 ・などもなるシップ指導員養成講座(学校安全担当者 ・ シャ間は	安全担当者
困難である。 ・年間指導計画を作成した後に、地域安全マップ作り	1 :	E。 Sける地域安全	37.0mm。 ・学校における地域安全マップ作りを2校行う。	交行う。
望校が決定するため、開催時期の調整等に困難が生じる。	難が生じ			

事業コード 831(915-934-794) 事業名		学校·家庭·地域連携推進事業(地域防災·防犯活動)	防犯活動)	担当部	14 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	教育部学校教育企画課
事業目的 子どもを軸とした連携により、地域づくり及び学校支援を図る	事業目的こより、地域づくり及	び学校支援を図る	°2	1	変更(ある場合)	
事業内容 中学校区を基本に設置された地域協力者会議において、子どもた ちの健やかな成長を支援するために、地域の課題について討議 し、防災・防犯活動(地域環境整備事業)や講演会・学習会等の地 域の実情に応じた事業を実施する。	事業内容 (された地域協力者 援するために、地 域環境整備事業)・ を実施する。	金騰において、子 域の課題について で講演会・学習会。	とどもた 討議 等の地			
	H27年度 ●学校·家庭·地	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 ●学校・家庭・地域連携推進事業の実施(会長会、業務委託の実施)	H295 実施(会	F度	130年度 託の実施)	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	参加者総数 33,100人	33,200人	33,300 A		33,400人	33,500人
予算額(千円) 決算額(千円) 執行率(%)	5,574 5,460 98.0	5,574				
年次ごとの取組計画 (年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH27年度末 の成果	・「地域協力者会議」の参加者総数	- の参加者総数 33	33,390人	H27年度の 総合評価	即 四	次年度継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・学校・家庭・地域連携権進会議「会長会」に業務を委託 し、子どむたちの健やかな成長を支援する事業を各地域で 実施した。 ・ (特報交換・世間体 年4回(5/12 8/25 11/17 2/2) (情報交換・地間体との意見交換・実績報告等)	H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) たっ家庭・地域連携権達会譜(会長会)に業務をとせったちの健やかな成長を支援する事業を各した。 (情報交換・恒団体との意見交換・実績報告等) (情報交換・恒団体との意見交換・実績報告等) (情報を集・他団体との意見交換・実績報告等) (情報を禁・地団体との意見交換・実績報告等) (情報を禁・機・地団体との意見を強・実績報告等) (情報を禁・機・地団体との意見を強・実績報告等) (情報を禁・機・地団体との意見を強・実績報告等) (情報を禁・機・地団体との意見を強・実績報告等)	開・成果) に業務を委託 事業を各地域で 11/17 2/2) 補報告等)	・計画だま	計の事業を	・価の理由 行うことができ	評価の理由 ・計画どおりの事業を行うことができた。
**台地域事業や最等参加者別 3330人 **合地域事業、会議等参加者別 33330人 *「一斉、「トロール」「子ども安全ネットワーク」「学校安全 ネットワーク会議」「子どもみまもリネットワーク会議」「地域、トロール」「安全・安心のほり旗」等の活動を実施した。 ・地域の教育力向上を図る事業を実施 *シじさわ教育フォーラムの開催 「子どもたちの実顔あふれる地域をめざして」 リーエリア「A発養」、地域の数字のために「信号機を!」	119事業 *参加者数 33.3 アども女全ャット 77 デビもみまもりネット 77 デビの同じ順1 図る事業を実施 あふれる地域をめた 32.3 地域の女生のため 33.3 地域の女生のたが 3.3 地域の女生のたが 3.3 地域の女生のたが 3.3 地域の女生のたが 3.3 地域の女生のたが 3.3	990人 ーク」「学校安全 トワーク会議」「地 ・の活動を実施し ドレて」	・学校・家 及後をしず 交換をし、 ・様々なは でいること 等で発信	今後の方向・学校・家庭・地域が連携・協力 長支支援するため、会長会で十 を対策をしていく。 ・様々な地域の事業に各地域協 ていることを広報紙、ホームペー等で発信していく。	後の方向 ・	今後の方向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
V 101	(開発を担ってもらうだ) (機を知ってもらうだ)	:めに周知の方法	・学校・家庭・ 委託し、子ど、 を各地域で第 ・学校・家庭・ さわ教育フォ	H28 歴・地域運貨 こどもたちのパ で実施する。 庭・地域の通	年度事業計画 排進会議! 決建ひな成長 建やかな成長 携協働を推送 開催する。	H28年度事業計画 ・学校・家庭・地域連携推進会議「会長会」に業務を委託し、子どもたちの健やかな成長を支援する事業を各地域で実施する。 ・学校・家庭・地域の連携協働を推進するため「ふじさわ教育フォーラム」を開催する。

平成27年度 藤沢市教育振興基本計画進捗状況報告書 | 事業コード | _{事業タ}| 学校的犯対策強化事業 | 担当部 | 市民自治部・教育部 |

事業コード 事業名		字校防犯対策強化事業		田川田	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	市民目治部·教育部
832(825)	ユ スコ)	110番・女全マッフ	(担当課	厉犯交通安	全課 教育指導
4年代年代日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	事業目的	· + * * + +			変更(ある場合)	(d□
十てもの女王女心を、	Fの/こめ)の) 塚児 強備	文作庫9の				
事業内容 ・子どもが犯罪などから助けを求めてきた際に、一時的な緊急避難 場所として、また警察などへの通報場所として、昼間在宅されてい るお宅やお店にこざも110番の看板の掲示を依頼する。 ・地域安全マップ指導員を養成するための講習会を定期的に開催	事業内容 5助けを求めてきた などへの通報場所 110番の看板の掲 員を養成するための	際に、一時的な緊 として、昼間在宅され 示を依頼する。 の講習会を定期的	急避難 たんご に開催			
し、字校における安全・学校における安全・学校における安全マ 所を読み取る力を養し	マッフ作りの推進を ップ作りを支援し、「 、危機回避能力を	r図る。 児童・生徒が自ら危 :向上させる。	険な場			
	H27年度 ●地域安全マップ	H27年度 H28年度 H29年度 ●地域安全マップ指導員養成講座の開催	H29年 5開催	₩	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	実施 ●学校における	実施 → → → → → → → → → →	の推進	Н	1	
	 実施延べ校数 15校			H		
予算額(千円)	922	888				
決算額(十円) 執行率(%)	789					
年次ごとの取組計	●地域安全マップ指	 			計価	次年度
画(年次ごとの目標 担当者会)を開催した。 値)に対するH27年 ●学校における地域安全マップ作りを2校行っ 度末の成果 た。	担当者会)を開催しる ●学校における地域た。	た。 戦安全マップ作りを2		H27年度の 総合評価	ш	維続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ●こども110番事業について ・こども110番 全体掲示件数5,043件 新規掲示件数131件	度 進捗状況(今年度の交事業について 章業について 全体掲示件数5,043件 新規掲示件数13.1件		取組計画と	許される教行	評価の理由 取組計画どおりの執行を行ったため。	00
昼間在宅されているお宅やお店に、子どもが犯罪などから 助けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察など への通報場所として掲示いただいている。	3年やお店に、子ど 1一時的な緊急避難 3示いただいている	もが犯罪などから t場所、警察など 。		今後の古向	※ ○左向	
●地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)	真養成講座(学校		引き続き・レンギ・110	※の看板の	ないない。 電影を存置す	T. Z.
について・今年度は小・中学校3 自巻成講座(学校安全	数職員を対象に地対部1年2月2日 対策を対象に地対	域安全マップ指導した。学校にだけ	・おして (外の)の (別の)の (別の)の (別の)の (別の)	マップ指導しする。	養成講座(=	・地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)の開催する。
る地域安全マップ作りの推進を図った。 ●学校における地域安全マップ作りについて ・今年度は大郷小学校、鵠沼小学校で行った。サポートス ・タッフと一緒に子どもたちが生活圏をおき、『地域安全マッ ブ』を自ら作製した。子どもたちの「危機回避能力」を向上	の推進を図った。 でまマップ作りについまる。 は、鵠沼小学校で行 でもが生活圏を歩き どもたちの「6機匠	いてつた。サポートス・アールス・アーンがある。 かんしょう かんしょう いんかん ひんしょう はいない かんしょう いんしょう かんしょう かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ	F (大) (元)	よる地域を	半マツノ作り	さ2校9 ン行つ
させる支援をした。			・こども110 ・地域安全 会)の開催	H284 番の看板の マップ指導」	∓度事業計画 掲示を依頼ず 員養成講座(≛	H28年度事業計画 ・ごども110番の看板の掲示を依頼する。 ・地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者 会)の開催。
課題・問題点 ・地域安全マップ指導員について、担い手を見つけるのが	課題・問題点 昌について、担い手		学校にお	ける地域安	学校における地域安全マップ作りを2校行う。	£2校行う。
困難である。 ・年間指導計画を作成した後に、地域安全マップ作りの希望校が決定するため、開催時期の調整等に困難が生じる。	いた後に、地域安全開催時期の調整等	全マップ作りの希等に困難が生じ				